

青森県埋蔵文化財調査報告書 第301集

岩ノ沢平遺跡Ⅱ

—東北縦貫自動車道八戸線（八戸～八戸）建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2001年3月

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第301集

岩ノ沢平遺跡Ⅱ

—東北縦貫自動車道八戸線（八戸～八戸）建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2001年3月

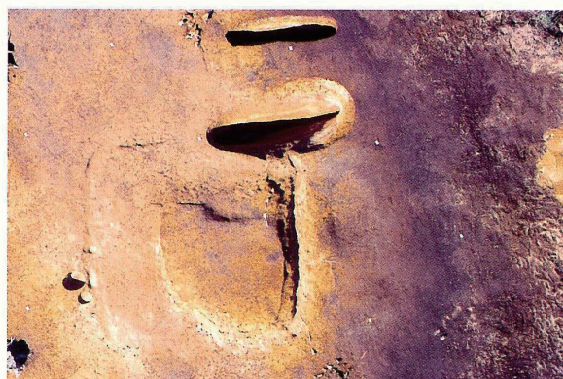
青森県教育委員会



岩ノ沢平遺跡遠景



調査区全景



第1号方形周溝



第3号竪穴住居跡一括遺物出土状況



第3号竪穴住居跡一括遺物

序

八戸市に所在する岩ノ沢平遺跡は、東北縦貫自動車八戸線（八戸～八戸）建設事業に伴い、平成10・11年度の二年度にわたり当センターが発掘調査を実施しました。

当遺跡は、馬淵川北岸の丘陵地にあり、馬淵川流域の遺跡群のなかでも規模の大きな集落跡として知られております。調査区からは、奈良時代の竪穴住居跡が7軒、平安時代の竪穴住居跡が8軒、縄文時代の落とし穴80基など多数の遺構・遺物が発見されました。奈良時代の住居跡は、平成10年度の調査では確認されておらず、今回の発見は、岩ノ沢平遺跡における奈良時代から平安時代への集落跡の変遷を考えるうえで、重要な発見となりました。この報告書はその調査成果をまとめたものです。

この報告書が考古学や歴史学の資料として利用されるとともに、学校教育・社会教育等の資料としても広く活用され、地域の歴史の解明や文化財の保護活動に役立てば幸いです。

この調査の実施及び報告書の作成にあたり、ご指導・ご協力を賜りました関係各位に対し、あつく感謝申し上げます。

平成13年3月

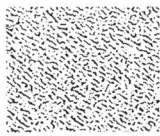
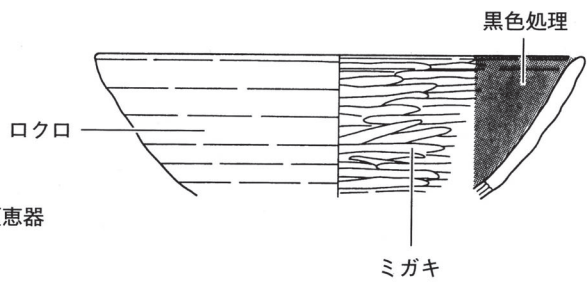
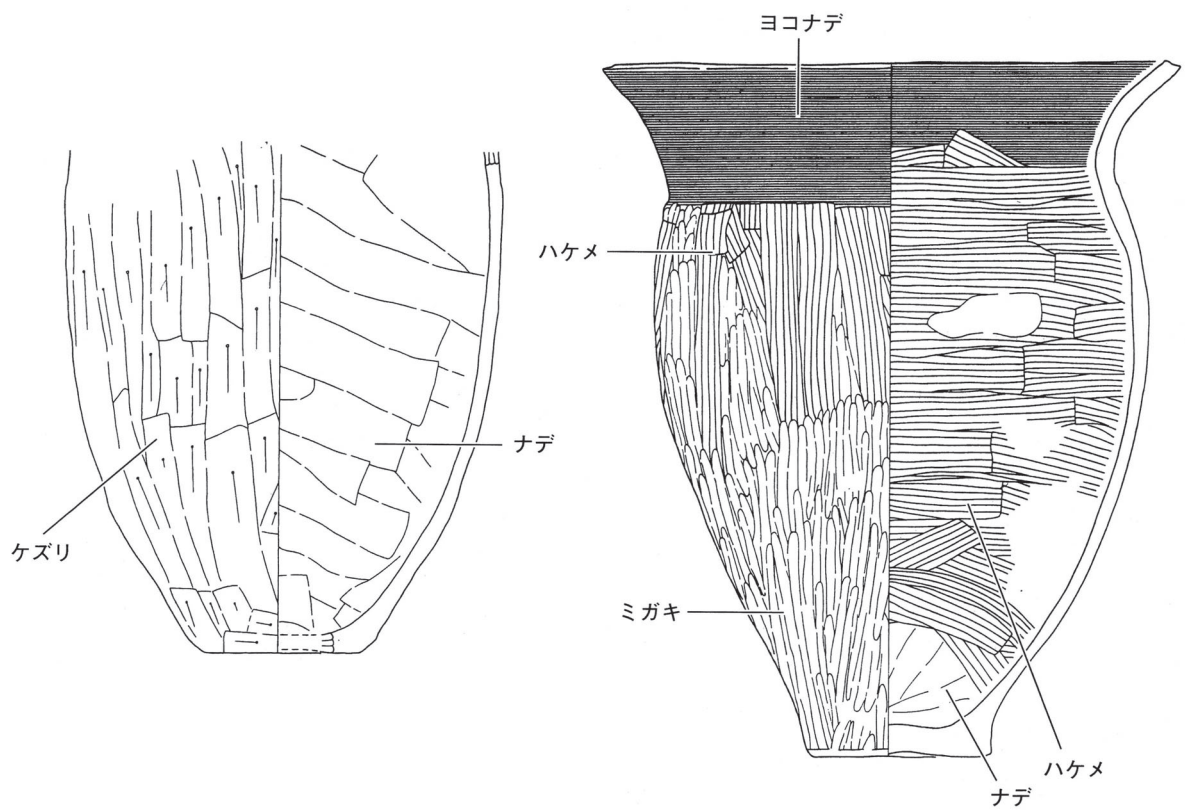
青森県埋蔵文化財調査センター

所長 中 島 邦 夫

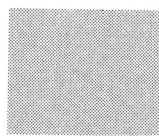
例 言 ・ 凡 例

- 1 本報告書は、東北縦貫自動車道八戸線（八戸～八戸）建設事業に伴い平成11年度に実施した八戸市岩ノ沢平遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の所在地は、八戸市大字櫛引字岩沢平、石ヶ沢、仙日平、穂良、ミタラセである。県遺跡番号は、03053として登録されている。
- 3 本報告書の作成は、野村信生・杉野森淳子が担当し、遺構と遺物の実測図と図版等の作成は、上記職員と調査補助員および室内作業員が行った。
調査区の空中写真撮影は、八州スペースコンサル株式会社に委託した。遺物の写真撮影は、シルバークォーツおよびフォトスタジオらに委託した。
- 4 資料の分析・鑑定については下記の方に依頼した。（順不同、敬称略）

放射性炭素年代測定	(株)地球科学研究所	
火山灰蛍光X線分析	奈良教育大学	三辻利一
石質鑑定	八戸市文化財審議委員	松山 力
鉄製品保存処理	岩手県立博物館	赤沼英男
リン・カルシウム分析、脂肪酸分析	パリノ・サーヴェイ株式会社	
- 5 本書に掲載した地形図（遺跡の位置）は、国土地理院発行の5万分の1地形図を複製したもので、縮尺は変更している。
- 6 挿図の縮尺は、図ごとにスケールを付した。
- 7 遺物写真の縮尺は、図中に表示した。
- 8 堆積土の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄 1993）を用いた。
- 9 本稿で使用した遺構の略号は、S Iは竪穴住居跡、P i tは柱穴、S Xは方形周溝、S Dは溝跡、S Nは焼土遺構、S Kは土坑、S Vは溝状土坑とした。
- 10 引用文献については、第5章の後に収めた。
- 11 発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 12 発掘調査及び本報告書の作成にあたり、次の方々から御教示・御指導を頂いた。（アイウエオ順、敬称略）
市川金丸 宇部則保 小笠原善範 新山隆男



焼土



カマド構築土(粘土)



炭化物



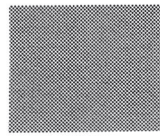
掘方



十和田 a 火山灰



白頭山火山灰



土師器黒色処理

凡 例

目次

序	
例言・凡例	
目次	
挿図目次	
写真目次	
第1章 調査概要	
第1節 調査要項	1
第2節 調査の方法	4
第3節 調査の経過	6
第2章 検出遺構と遺物	
第1節 竪穴住居跡	9
第2節 方形周溝	43
第3節 溝跡	43
第4節 土坑・焼土遺構	52
第5節 溝状土坑	66
第6節 遺構外出土遺物	85
第3章 考察	
第1節 土師器	87
第2節 遺構	94
1) 竪穴住居跡	94
2) 方形周溝	95
3) 陥し穴	98
4) 溝状土坑	102
第4章 自然科学分析の調査成果	
第1節 岩ノ沢平遺跡出土火山灰の蛍光X線分析	104
第2節 放射性炭素年代測定結果報告書	106
第3節 方形周溝に残存するリン・カルシウム、脂肪酸分析	114
第5章 まとめ	121
引用・参考文献	122
遺物観察表	123
写真図版	
報告書抄録	

挿 図 目 次

図1	遺跡位置	2	図37	溝跡出土遺物	51
図2	地形及び路線	3	図38	土坑検出状況	52
図3	調査区域	4	図39	土坑1(分類Ⅰ)	53
図4	基本層序	5	図40	土坑2(分類ⅡA)	54
図5	遺構配置	7	図41	土坑3(分類ⅡA)	55
図6	岩ノ沢平遺跡遺構配置	8	図42	土坑4(分類ⅡB)	56
図7	第1号竪穴住居跡	10	図43	土坑5(分類ⅡC)	57
図8	第2号竪穴住居跡	11	図44	土坑6(分類ⅡD)	58
図9	第3号竪穴住居跡(1)	13	図45	土坑7(分類ⅡD)	59
図10	第3号竪穴住居跡(2)	14	図46	土坑8(分類Ⅲ)	60
図11	第3号竪穴住居跡(3)	15	図47	土坑9(分類Ⅲ)	61
図12	第3号竪穴住居跡(4)	16	図48	土坑10(分類Ⅳ)・焼土遺構	62
図13	第4号竪穴住居跡	17	図49	土坑出土遺物	64
図14	第5号竪穴住居跡	19	図50	溝状土坑模式図	67
図15	第6号竪穴住居跡(1)	20	図51	溝状土坑の配置	71
図16	第6号竪穴住居跡(2)	21	図52	溝状土坑1	72
図17	第7号竪穴住居跡(1)	23	図53	溝状土坑2	73
図18	第7号竪穴住居跡(2)	24	図54	溝状土坑3	74
図19	第8号竪穴住居跡(1)	25	図55	溝状土坑4	75
図20	第8号竪穴住居跡(2)	26	図56	溝状土坑5	76
図21	第8号竪穴住居跡(3)	28	図57	溝状土坑6	77
図22	第9号竪穴住居跡(1)	29	図58	溝状土坑7	78
図23	第9号竪穴住居跡(2)	30	図59	溝状土坑8	79
図24	第10号竪穴住居跡(1)	31	図60	溝状土坑9	80
図25	第10号竪穴住居跡(2)	32	図61	溝状土坑10	81
図26	第12号竪穴住居跡	33	図62	溝状土坑11	82
図27	第13号竪穴住居跡(1)	35	図63	遺構外出土遺物	86
図28	第13号竪穴住居跡(2)	36	図64	土師器集成(1)坏・高坏・鉢・小型土器	88
図29	第14号竪穴住居跡	38	図65	土師器集成(2)	89
図30	第15号竪穴住居跡	39	図66	土師器集成(3)	91
図31	第16号竪穴住居跡(1)	41	図67	住居跡の変遷	93
図32	第16号竪穴住居跡(2)	42	図68	方形周溝分布	96
図33	第1号方形周溝	47	図69	青森県内方形周溝・方形周溝類似遺構	97
図34	第1号方形周溝、第1・5・6・7号溝跡	48	図70	陥し穴分類模式図	99
図35	溝跡1	49	図71	陥し穴の分布・位置	100
図36	溝跡2	50	図72	溝状土坑の分布・配置	103

写真目次

- 写真1 平成10・11年度調査区全景
- 写真2 調査状況
- 写真3 第1号・第2号・第3号竪穴住居跡(1)
- 写真4 第3号竪穴住居跡(2)
- 写真5 第4号・第5号竪穴住居跡
- 写真6 第6号竪穴住居跡
- 写真7 第7号竪穴住居跡
- 写真8 第8号竪穴住居跡(1)
- 写真9 第8号(2)・第9号竪穴住居跡(1)
- 写真10 第9号竪穴住居跡(2)
- 写真11 第10号竪穴住居跡
- 写真12 第12号・第13号竪穴住居跡(1)
- 写真13 第13号竪穴住居跡(2)
- 写真14 第14号・第15号竪穴住居跡
- 写真15 第16号竪穴住居跡(1)
- 写真16 第16号竪穴住居跡(2)、方形周溝
- 写真17 土坑(1)
- 写真18 土坑(2)
- 写真19 土坑(3)
- 写真20 溝状土坑(1)
- 写真21 溝状土坑(2)
- 写真22 溝状土坑(3)
- 写真23 竪穴住居跡出土遺物(1)
- 写真24 竪穴住居跡出土遺物(2)
- 写真25 竪穴住居跡(3)・土坑・遺構外出土遺物

第1章 調査概要

第1節 調査要項

1 調査目的

東北縦貫自動車道八戸線（八戸～八戸）建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する岩ノ沢平遺跡の埋蔵文化財発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財の活用に資する。

2 遺跡名および所在地

岩ノ沢平遺跡（青森県遺跡番号03053）
青森県八戸市大字櫛引字岩沢平、ミタラセ外

3 発掘調査期間

平成11年8月3日～同年10月29日

4 調査面積

8,800平方メートル

5 調査委託者

日本道路公団東北支社八戸工事事務所

6 調査受託者

青森県教育委員会

7 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査協力機関

八戸市教育委員会

9 調査体制

調査指導員	村越 潔	青森大学教授（考古学）
調査協力員	森林 康	八戸市教育委員会教育長
調査員	七崎 修	元青森県立八戸北高等学校教諭（地質学）
	赤沼 英男	岩手県立博物館主任専門学芸調査員（保存科学）
	工藤 竹久	八戸市教育委員会文化課主幹（考古学）
調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター	
	所 長	中島 邦夫
	次 長	成田 誠治
	総務課長	成田 孝夫（現、県工業振興課課長補佐）
	調査第二課長	福田 友之
	文化財保護主事	野村信生 杉野森淳子
	調査補助員	大水知帆 川村真史 工藤かおり 小島由記子 羽賀沙織



図1 遺跡位置

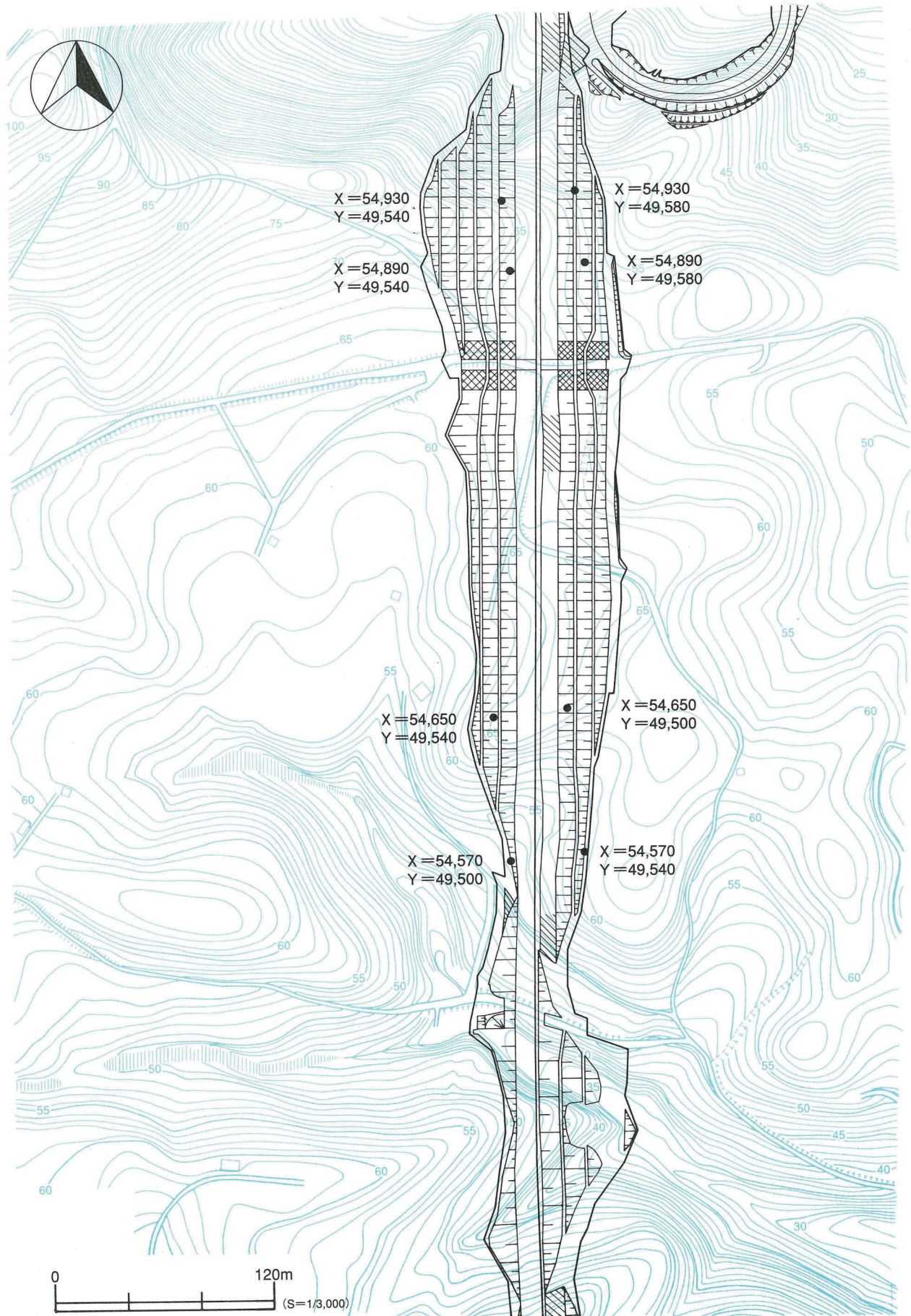


図2 地形及び路線

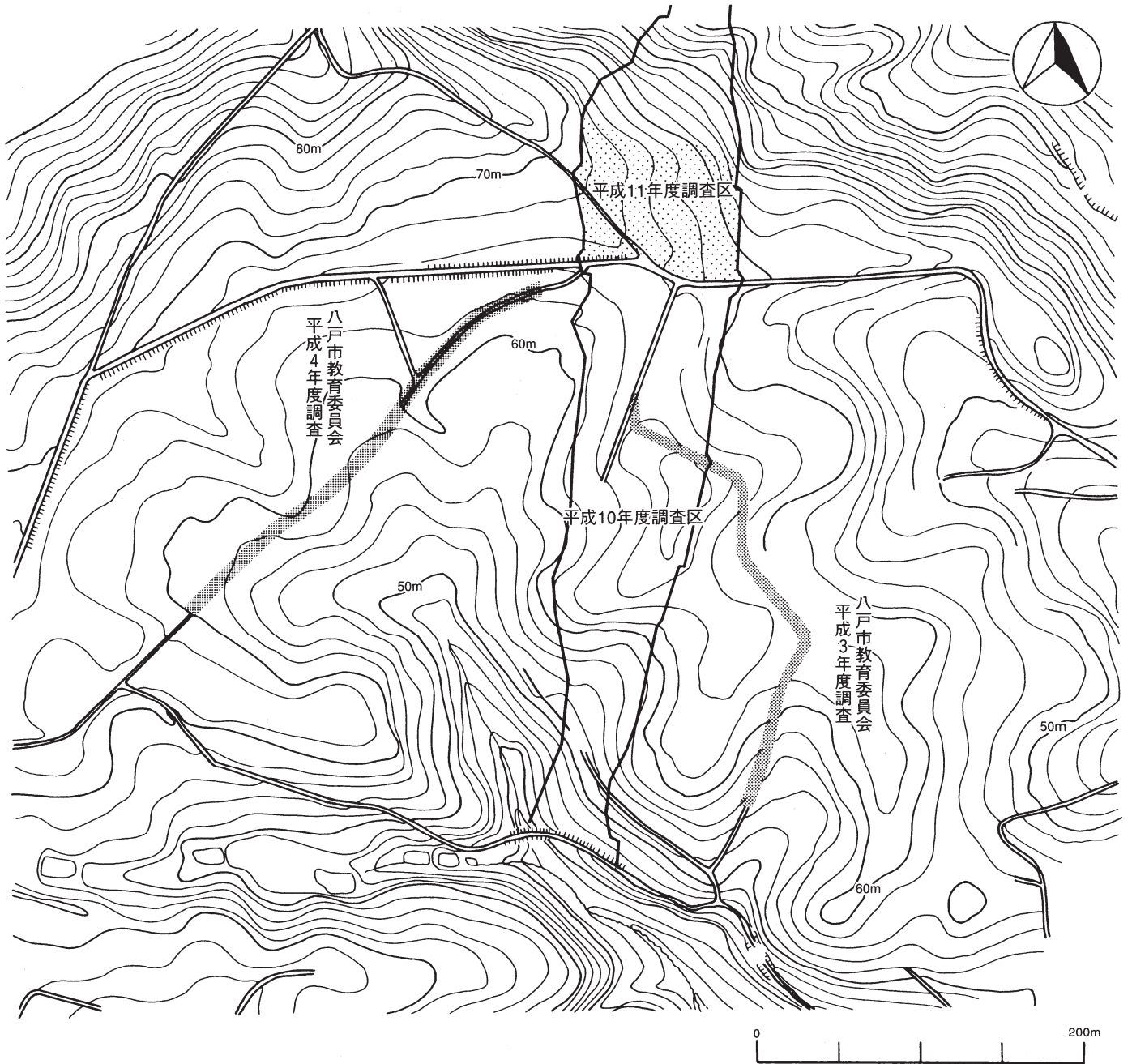


図3 調査区域

第2節 調査の方法

調査は平成10・11年度の二年度にわたり実施された。平成10年度の調査の際に調査区を便宜的にA～C区までの3区に分けた。A区は、調査区南端の市道一日市福地線からB区の基準点（X=54,650・^{ひといち}Y=49,500、X=54,650・Y=49,540）までとした。B区は、前記の基準点から一日市樹園地農道ま

での範囲とし、農道から北側範囲をC区とした。平成11年度では、C区とされた地点を調査した。

グリッドは平成10年度調査で設定したものを使用した。平成10年度調査区内全体の距離と高低差から、見通しのできる任意の間隔で、公共座標値に合わせた杭を業者委託により22点打設した。この座標値杭の内、A区のX=54,570・Y=49,540、X=54,570・Y=49,500とB区のX=54,650・Y=49,500、X=54,650・Y=49,540を基準として一辺20mの大グリッドに基づく4×4mの小グリッドを設定した。また、20m単位の大グリッドには木杭を、4m単位の小グリッドにはグリッドピンを打設した。

グリッドは西から東へ向かってアルファベットを、南から北に向かって算用数字を付し、これを組み合わせて呼称した。また、遺構の記録に際しては、1グリッドをさらに1m単位で分割した測点を用いることとした。測点は、調査区内に任意に設定した原点（EW-00・NS-00）から、東西南北の各方向（略号E・W・N・S）と、原点からの各距離を示す数字を組み合わせて表記した。E-20・N-20は、原点から東に20m、北に20mの地点を示す。原点は、A区とB区の境界ラインとした公共座標値杭間の midpoint とした。

標高値は、調査区北側近くにある2級基準点（標識番号八2K.13）から各座標値杭に移動した標高値を用いたほか、各遺構精査の必要に応じて移動して用いた。

表土除去作業にはバックホー、排土の運搬にはクローラードンプを使用した。表土の堆積が薄い場所については、人力で除去作業を行った。遺構検出は随時行い、発見順に遺構名を付し、原則として1/20で実測図を作成した。遺構以外の出土物の取り上げは、グリッド単位で行った。調査にあたっては、土層の堆積状況を観察するため適宜セクションベルトを設定し、土層注記は『標準土色帖』を用いた。土層の名称は、基本層序については上層から下位にローマ数字を、遺構内堆積土については上位から下位に算用数字を付した。なお基本層序は、地形的にも平成10年度調査区の延長であることから、同様な堆積状況であった。そのため本文中図4の基本層序は『岩ノ沢平遺跡』（青森県教育委員会2000）で提示したものを模式図にしたものである。

写真撮影は適宜行うこととし、カラーリバーサル、モノクローム、カラーネガの3種類のフィルムを使用した。 (野村)

I		a	b			
II						
III			a	b	c	
IV						
V						
VI						
VII						
VIII						
IX						
X						

基本層序			
第I a層	10YR1.7/1・2/1	黒色土	表土及び耕作土
第I b層	10YR4/1	褐灰色土	耕作土
第II層	10YR2/1	黒色土	粒径1~4mmの灰白色（10YR8/2） 浮石を混入する
第III層	10YR3/1	黒褐色土	第III層の漸移層
第III a層	10YR4/3	にぶい黄褐色砂質土	第III層の漸移層
第III b層	2.5YR5/6	黄褐色砂質土	ほぼ純粋な中振浮石層
第III c層	2.5Y7/8	黄色中振浮石層	黄橙色~明黄褐色（10YR7/8~6/8） の南部浮石粒が混入
第IV層	10YR2/1	浮石混合黒色土	八戸火山灰の第VI層に相当
第V層	10YR5/6	黄褐色粘質土	八戸火山灰の第V層に相当
第VI層	10YR6/6	明黄褐色粘質土	八戸火山灰の第IV層に相当
第VII層	10YR8/4	浅黄橙色砂礫層	八戸火山灰の第III層に相当
第VIII層	10YR7/4	にぶい黄橙色粘土層	八戸火山灰の第II層に相当
第IX層	10YR7/6	明黄褐色粘質土	八戸火山灰の第I層に相当
第X層	10YR7/1~7/3	灰白~にぶい黄橙色粘土層	

図4 基本層序

第3節 調査の経過

発掘調査は平成11年8月3日に調査器材等を搬入し開始した。調査区中央南側付近にはゴミが混入した排土があったため、重機により移動した。平成10年度の調査では、平安時代の大規模な集落跡が確認されたため、平成11年度調査区の南西側緩斜面地から優先的に調査した。南西側は遺構検出面までの堆積土が厚かったため、重機による表土除去を行った。調査区北西側は平成10年度の確認調査によって、遺構検出面までの堆積土が薄いことが確認されていたため、作業員により表土除去作業を行った。遺構確認は表土除去後に随時行っていった。南西側からは、奈良・平安時代の竪穴住居跡が集中して確認された。また北西側丘陵頂部からは方形周溝が確認されたため、早急に遺構精査を開始した。8月下旬には調査区西側の検出を終了した。調査区東側は表土の堆積土が厚く、重機による表土除去を行った。遺構確認は、黒色土が主体となる基本土層Ⅲ・Ⅳ層で行った。奈良時代の竪穴住居跡と縄文時代の土坑・溝状土坑が確認された。9月下旬には全ての遺構確認を終了した。調査区北側断崖に排土を捨てていたが、原因者側から崩落の危険性を指摘され、排土を事務所南側の沢地に移動した。9月9日に五戸小学校の生徒106名が現場見学を訪れ、10月1日に八戸市民講座の見学が行われた。10月22日に空中写真撮影を行った。10月29日には調査器材等を撤収し、二年度にわたる全ての調査を終了した。(野村)

関連遺跡一覧

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	時代・時期	種別	備考
1	岩ノ沢平遺跡	03063	柳引字岩沢平仙平、穂良、ミタラセ	縄文(早～晩)・弥生・奈良・平安	散布地・集落跡	平成11年度発掘調査(当センター) 平成12年度「岩ノ沢平遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第281集
2	柳引遺跡	03150	柳引字岡前、館神、上町、下矢倉、外	縄文(草～晩)・奈良・平安	散布地・集落跡	平成10年度「柳引遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第363集、平成11年度「柳引遺跡Ⅱ」青森県埋蔵文化財調査報告書第272集
3	昼場遺跡	03059	柳引字上明戸	縄文(前～晩)・弥生	散布地・集落跡	平成10年度「昼場遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第76集
4	上野遺跡	03216	上野字上野	縄文(後)・平安・中世～近世	散布地・墓跡	平成11年度発掘調査(当センター)
5	上野平(3)遺跡	03264	上野字昼場、上野平	縄文(早～晩)・奈良・平安	散布地・集落跡	平成11年度発掘調査(当センター)
6	人首沢遺跡	03267	柳引字人首沢	縄文(早～晩)・平安	散布地・集落跡	平成11年度「人首沢遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第84集
7	大仏遺跡	03054	尻内町字大仏	縄文・平安・中世～近世	散布地・館跡	平成11年度「大仏遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第84集
8	根岸山添遺跡	03203	尻内町字根岸山添、泉沢、熊ノ沢	縄文(後)・平安	散布地	平成10年度「根岸山添遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第78集
9	毛合清水(3)遺跡	03122	尻内町字毛合清水、北熊ノ沢	縄文(前・後)・平安	散布地	平成11年度「毛合清水(3)遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第84集
10	笹ノ沢(2)遺跡	03041	尻内町字笹ノ沢、下毛合清水、杉子沢	縄文(前・後)	散布地	平成11年度発掘調査(当センター)
11	笹ノ沢(3)遺跡	03042	尻内町字下毛合清水	縄文(早～後)	散布地・集落跡	平成11年度発掘調査(当センター)
12	鴨平(2)遺跡	03165	是川字鴨平	縄文(草～晩)・奈良・平安	散布地	昭和57年度「鴨平(2)遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第73集
13	日計遺跡	03027	河原木字小田平			
14	見立山(2)遺跡	03114	河原木字見立山	縄文(早・後)	散布地・集落	平成元年「見立山(2)遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第38集
15	鳥木沢遺跡	03106	田面木字鳥木沢、田面木平	縄文(早・後)	散布地	昭和60年「鳥木沢遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第71集
16	鶏窪遺跡	03081	田面木字鶏窪、松長根	縄文(早～晩)・近世	散布地	昭和57年「鶏窪遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第76集
17	長七谷地貝塚	03028	市川町字長七谷地、吹上	縄文(早・前・後)	貝塚	昭和54年度「長七谷地貝塚」青森県埋蔵文化財調査報告書第57集
18	和野前山遺跡	03055	市川町字和野前山、尻引堤沢	縄文(草・早)・弥生	散布地	昭和58年度「和野前山遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第82集
19	壳場遺跡	03057	河原木字・子渡、見立山	縄文(早・前)・平安	散布地・集落	昭和59年度「壳場遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第53集
20	是川遺跡群	03013他	是川字中居	縄文(早～晩)・弥生	包蔵地	平成10年度「是川中居遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第82集
21	葎窪遺跡	03106	田面木字葎窪	縄文(早～晩)	散布地・集落	昭和58年度「葎窪遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第84集
22	丹後谷地遺跡	03093他	根城字丹後谷地、字丹後平	縄文(前～後)・平安	散布地・集落	昭和60年度「丹後谷地遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集
23	弥次郎窪遺跡	03140	十日市字弥次郎窪、是川字橋館、外	縄文(中・後)・弥生	散布地・集落	平成10年度「弥次郎窪遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第238集
24	丹後平古墳群	03054	根城字丹後平	奈良	墳墓群	平成2年度「丹後平古墳」八戸市埋蔵文化財調査報告書第44集
25	八幡遺跡	03026	八幡字館ノ下、字八幡丁	縄文(晩)・平安	集落	昭和62年度「八幡遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第26集
26	殿見遺跡	03263	八幡字殿見、坂牛字上野平	平安	墳墓・土坑墓	平成4年度「殿見遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第49集
27	田面木平(1)遺跡	03103	田面木字田面木平	縄文(後)・平安	集落	昭和62年度「田面木平(1)遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集
28	風張(1)遺跡	03142	是川字・森	縄文(後～晩)・平安	集落	平成2年度「風張(1)遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第40集
29	史跡根城跡	03064	根城字根城、東横、下町、長坂、外	縄文・弥生・平安・中世	散布地・集落・館跡	昭和53年度「史跡根城跡発掘調査報告書Ⅰ」八戸市埋蔵文化財調査報告書第1集

図1 ●=本事業関連遺跡 ■=周辺の主な遺跡
表中の遺跡は、平成10年度青森県遺跡地図から抜粋および加筆した。

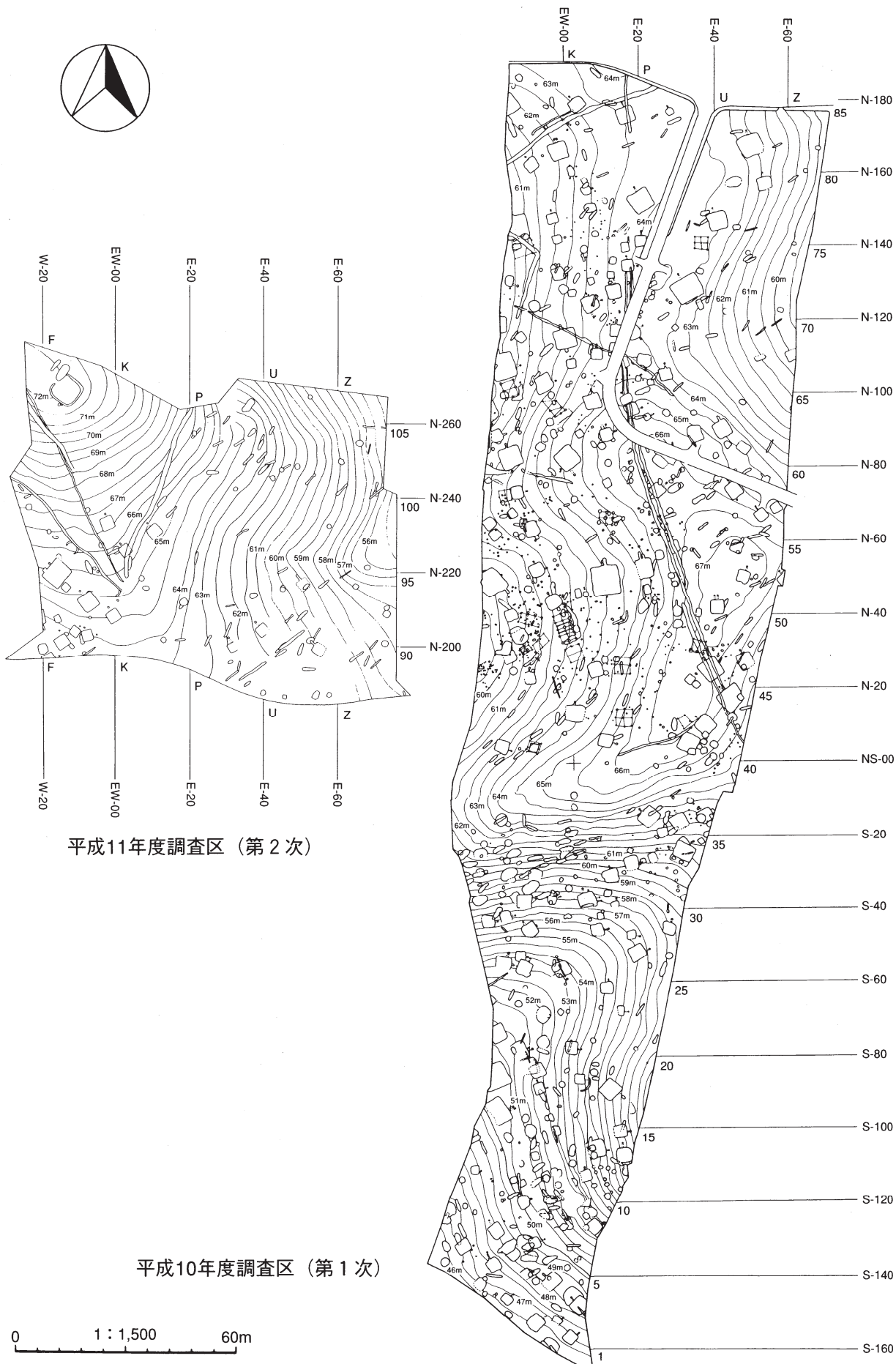


図6 岩ノ沢平遺跡遺構配置

第2章 検出遺構と遺物

第1節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は調査区南側の緩斜面から15軒検出された。調査時に竪穴住居跡として調査したのは16軒である。しかし、重複により形状が不明瞭で、明確にカマドと認定出来なかったことから、報告書作成段階で第11号竪穴住居跡を土坑に変更した。第11号は欠番となる。

第1号竪穴住居跡 <S I - 1> (図7)

[位置・確認] 南側調査区境界、標高64.72m前後のE・F-90グリッドに位置する。基本層序第VI層から白頭山火山灰混じりの暗褐色土の不整三角形プランとして確認した。調査区外に遺構が広がるため、全容は不明である。

[平面形・規模] 調査区外に及ぶため詳細は不明であるが、平面形は方形と考えられる。検出面から床面までの深さは北東壁74cm、北西壁64cmで、壁は床面からやや外傾して立ち上がる。残存床面積は3.85㎡である。

[堆積土] 暗褐色土主体で、4層に分けられ、全体に浮石が混入する。第1層には白頭山火山灰が少量、第2層には微量混入する。第3層には白頭山火山灰がブロック状に混入する。人為堆積である。

[床] 基本層序第VI層の掘方をそのまま床面とし、ほぼ平坦である。

[カマド] 調査区外に広がるため、詳細な位置、形状、規模等は不明である。北東壁に位置する。カマドの方向は真北から東に58.5度傾く。煙道、左側袖、火床面の一部、支脚が残存する。カマド左袖は煙道に平行し、長さ65cm・幅27cm・高さ40cmが残存する。にぶい黄橙色粘土と明褐色粘土で構築される。支脚には礫が使用される。煙道は地下式で、壁から長さ1.32m、幅36cm、煙出しは開口部44×38cm、深さ1.18mで、壁はやや外傾する。煙道底面は煙出しへ向かって急傾斜する。煙道の堆積土は褐色土を主体とし、ロームや粘土をブロック状に混入する。人為堆積である。

[柱穴] 1個のピットを検出した。44×36cm・深さ3cmの不整円形である。深さから柱穴に相当するかはどうかは不明である。

[出土遺物] 堆積土から2点、床面から1点、カマド火床面から1点土師器片が出土した。図示したのは完形の坏1点のみである。坏は口縁部に欠損があるが、ほぼ完形品である。器厚は7mmと厚く、口縁部は歪んで、波状のようになる。底面の立ち上がりが明瞭である。外面にはミガキを施す。内面は口縁部にヨコナデを施した後、胴部にミガキが施され、黒色処理されている。

[小結] 人為堆積土中に白頭山火山灰が混入することから、火山灰降下以後に埋め戻された10世紀前半以前に使用された平安時代の住居跡と考えられる。(野村)

第2号竪穴住居跡 <S I - 2> (図8)

[位置・確認] 調査区中央の東側斜面、標高62.2~62.6mのR・S-90・91グリッドに位置する。基本層序第IV層で粘土混じりの黒色土の落ち込みとして確認した。この時点でカマドの粘土部分が露出

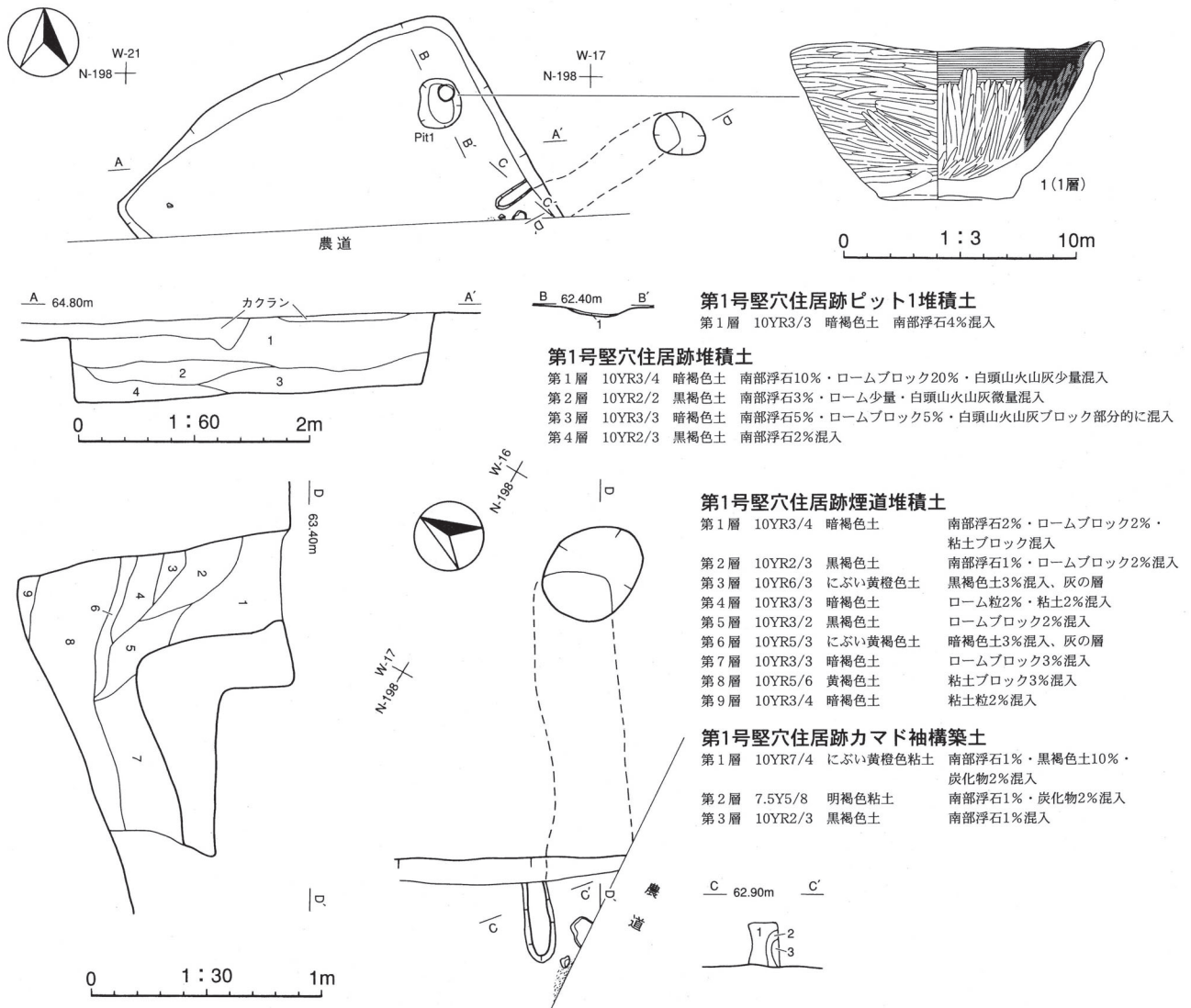


図7 第1号竪穴住居跡

していた。住居跡中央の攪乱は掘り込み面まで達している。

[平面形・規模] 北東壁は削平され、北西辺2.2m・南東辺1.95m、南西辺2.65mが残存する。平面形は方形と思われる。壁高は南西壁30cm・南東壁18cm・北西壁22cmで、東角で最大40cmとなる。壁は床面から開くように立ち上がる。検出された床面積は3.85㎡である。

[堆積土] 黒色土を主体とする自然堆積である。第1層は砂質で締まりのある黒色土である。第2層は床面に堆積し、南西壁際には混在した焼土と炭化物が帯状に堆積する。

[床] 北西側とカマド周辺は部分的に掘方埋土を床面とし、その他は基本層序第IV層面の掘方を床面としている。掘方底面は起伏が大きく、掘方には暗褐色土と黒色土が混在する。床面はやや起伏があり、締まりは均一である。

[カマド] 北西壁に位置し、カマドの方向は真北から西へ26.5度傾く。焼土混じりの粘土が87×110cmの範囲に広がる。カマド燃焼部が部分的に残っている地下式カマドである。燃焼部には両袖が残るが、火床面は確認されなかった。カマド袖は基本層序第IV層の地山を掘り残し、その周りに粘土を貼り付けた構造である。袖の規模は幅23cm・高さ10cm・左袖長45cm・右袖長37cmである。煙道は北西方向に直線状に延び、床面から煙出しに向かい大きく傾斜する。長さ1.1m・幅17~21cmである。

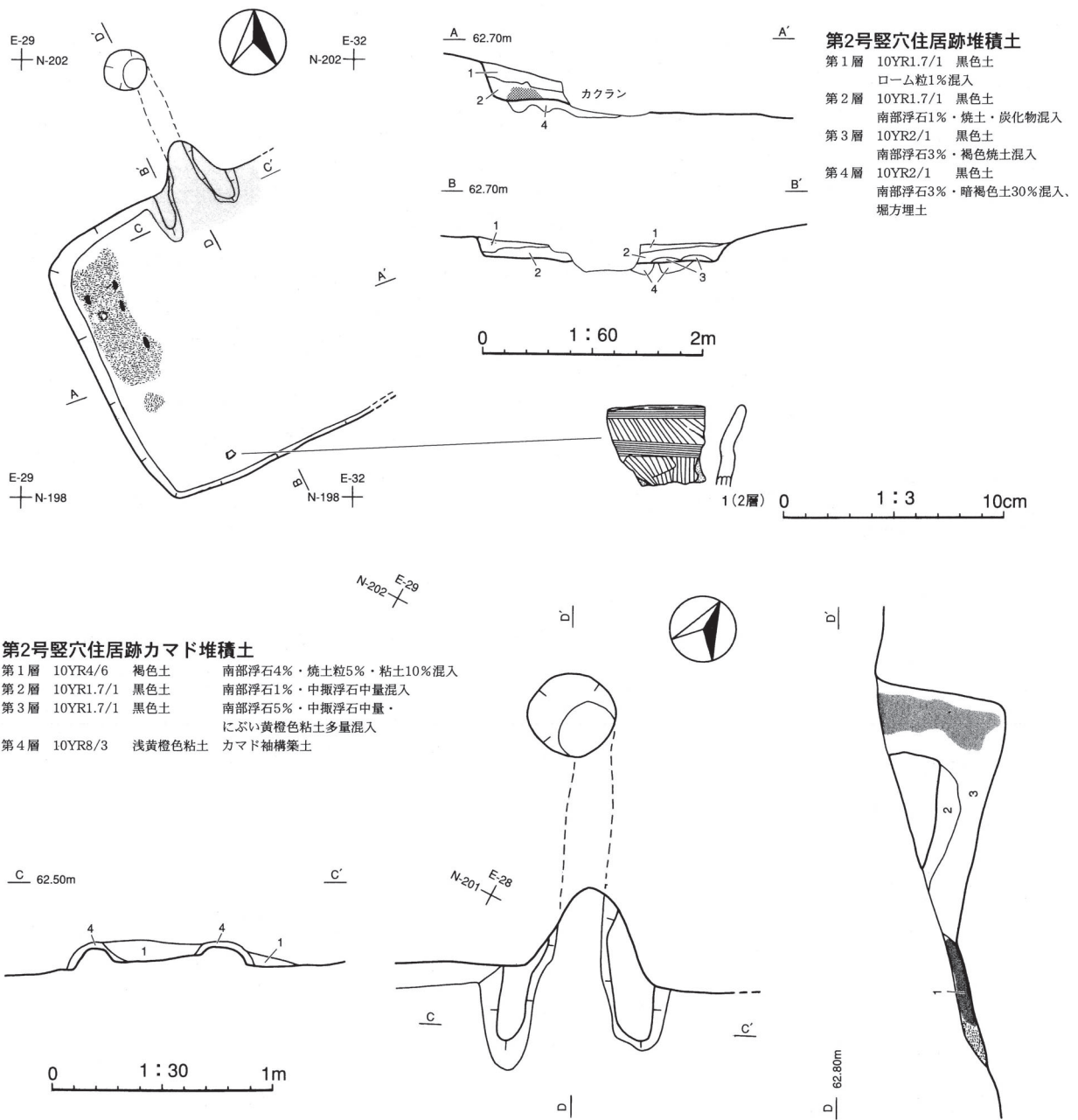


図8 第2号竪穴住居跡

煙道底面はほぼ平坦である。煙出しは直径約40cmの円形で、深さ60cmである。直径約25cmの底面から西側に傾斜しながら立ち上がる。煙道堆積土は中振浮石混じりの黒色土を主体とした自然堆積と思われる。煙出し底面から検出面にかけて粘土が多量に含まれている。

〔出土遺物〕床面から土師器片1点、礫1点が出土した。1は甕の口縁で外面にハケメ内面にナデ調整が施されている。

〔小結〕出土遺物から奈良時代、8世紀の住居跡と考えられる。(杉野森)

第3号竪穴住居跡 < S I - 3 > (図9~12)

[位置・確認] 調査区西側緩斜面、標高64.7~65.1mのQ・R-84・85グリッドに位置する。基本層序第Ⅵ層で、十和田a火山灰が混じる黒色土の隅丸方形の落ち込みとして確認した。耕作痕は掘り込み面まで達する。

[重複] 第48号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 長軸5m・短軸4.9mで、住居跡角が隅丸となりやや平行四辺形気味の方形である。南東辺が膨らみ、北東壁上部は部分的に円形に張り出している。これは堆積土による壁面の崩落と思われる。壁高は北西壁57cm・北東壁57cm・南東壁35cm・南西壁45cmである。床面積は19.62㎡である。

[堆積土] 堆積土上位には黒色土・黒褐色土、床面に暗褐色土、壁際に褐色土が堆積する。十和田a火山灰はブロック状で検出面東側に広く分布する。床面に堆積する第4層の暗褐色土には焼土・炭化材・粘土が多量に含まれている。焼土はカマドを中心とした北側に広く分布し、厚さは5cmほどである。焼土の下から炭化材を検出した。北側には板状の炭化材が多く、南側には細かい炭化物が散在している。北西壁寄りに分布する炭化材は形状と位置から、本来壁の腰板に使用されたものが火災により倒れたものと思われる。北東壁の張り出し部には褐色ローム土・黒褐色土が堆積する。堆積状況は自然堆積である。

[床] 全面掘方埋土を床面としている。掘方は南側が深く、黒褐色土とローム混じりの暗褐色土で埋められている。底面はほぼ平坦で、北東側から南西側に向かい緩やかに傾斜する。

[カマド] 北西壁中央に位置する。カマドの方向は真北から西に49度傾く。カマド中央は耕作痕により一部破壊されている。地下式カマドで燃焼部の遺存状況は良好である。燃焼部は両袖と火床面が検出された。燃焼部幅は1mである。カマドはにぶい黄橙色粘土を盛り上げ付き固めたものである。袖の規模は右袖が長さ80cm・幅35cm・高さ25cm、左袖が長さ45cm・幅32cm・高さ25cmである。右袖は壁から焚き口に向かいやや内湾し、左袖は手前が破壊している。火床面は直径45cmの円形で、深さ3cmほど被熱し赤変している。煙道は壁から直線状に延び、火床面奥からの長さは1.8m・幅は40cmである。煙道底面は床面とほぼ平行し、平坦である。煙出しは直径38cmの円形で、深さ70cmである。煙出し底面は煙道から緩やかに下降し、やや皿状となる。壁は大きく内傾し、途中から緩やかに立ち上がる。カマド手前には崩れたカマドの粘土が1.35×1.15mに広がり、カマドには炭化物・焼土・黒褐色土混じりの粘土が堆積する。周辺には遺物が散在している。煙道には粘土混じりの暗褐色土が堆積する。第5層の黄褐色ロームは下面が被熱し赤変していることから、崩落した天井部と思われる。煙出し上面には十和田a火山灰が堆積する。

[柱穴] 南東側中央に2個検出したが、柱穴には相当しないと思われる。規模はピット1が直径30cm・深さ16cm、ピット2が直径25cm・深さ23cmである。締まりの弱い暗褐色土と褐色土が堆積する。

[出土遺物] 堆積土から124点、床面から233点、カマドから15点と多量の土師器片が出土した。種類は甕が圧倒的に多く、坏・高台坏も出土した。遺物は南側に集中し、中にはほぼ完形のままで甕が3点、坏が2点出土した。カマドには甕と坏の破片が散在し、南側の遺物と接合するものもある。甕の形状は底面が小さく、口縁が大きく外反し、口縁に最大径をもつ長胴甕が多い。法量は底径が6~7cm台で、口径が15~21cm、器高が20~30cmである。調整は内面にナデとハケメ、外面にハケメと

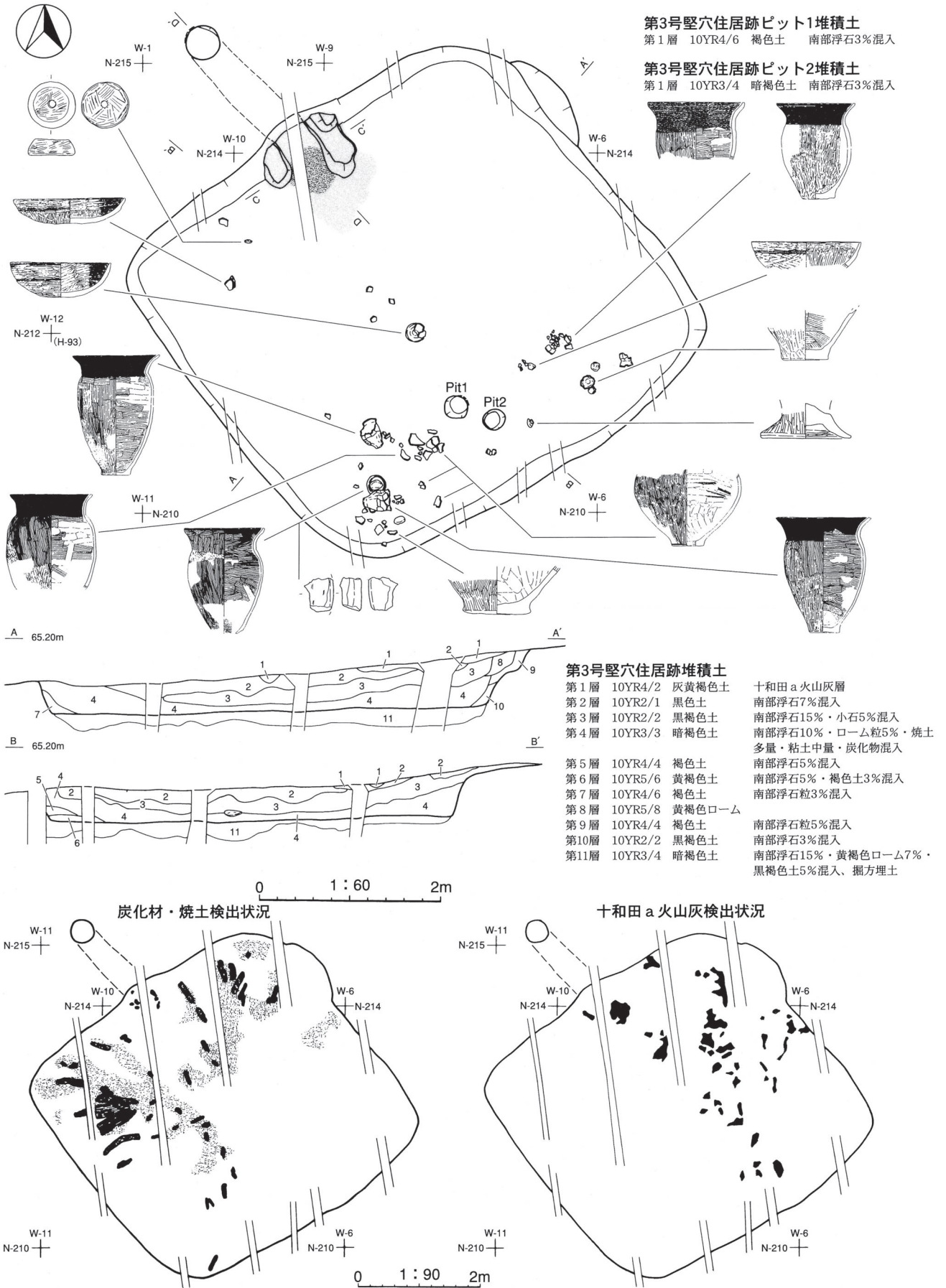


図9 第3号竪穴住居跡(1)

第3号竪穴住居跡カマド堆積土

- | | | | |
|-----|---------|----------|----------------------------|
| 第1層 | 10YR6/4 | にぶい黄褐色粘土 | 南部浮石2%混入、カマド構築土 |
| 第2層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 南部浮石3%・焼土・粘土混入 |
| 第3層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石2%・褐色土・焼化した粘土・白頭山火山灰混入 |
| 第4層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石5%・黒褐色土混入 |
| 第5層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 南部浮石15%混入 |
| 第6層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石3%・黒褐色土・粘土混入 |
| 第7層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石3%混入 |
| 第8層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石2%・にぶい黄褐色土・粘土混入 |
| 第9層 | | | 火床面 |

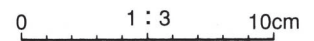
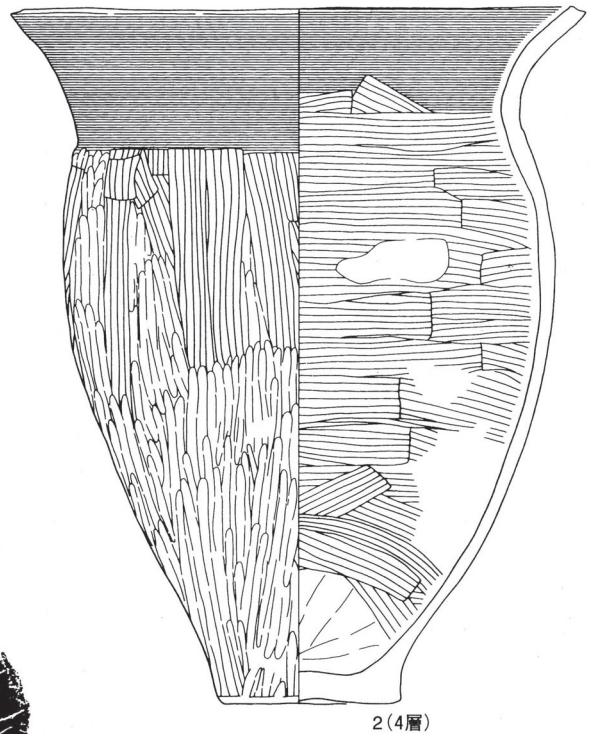
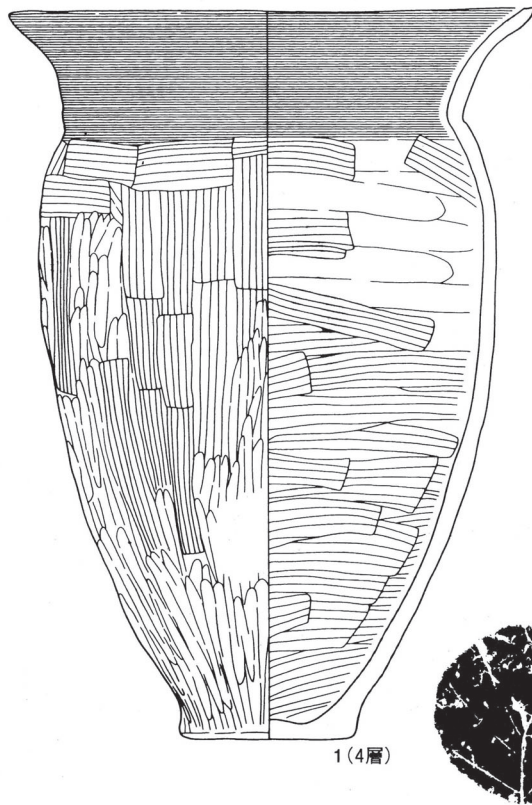
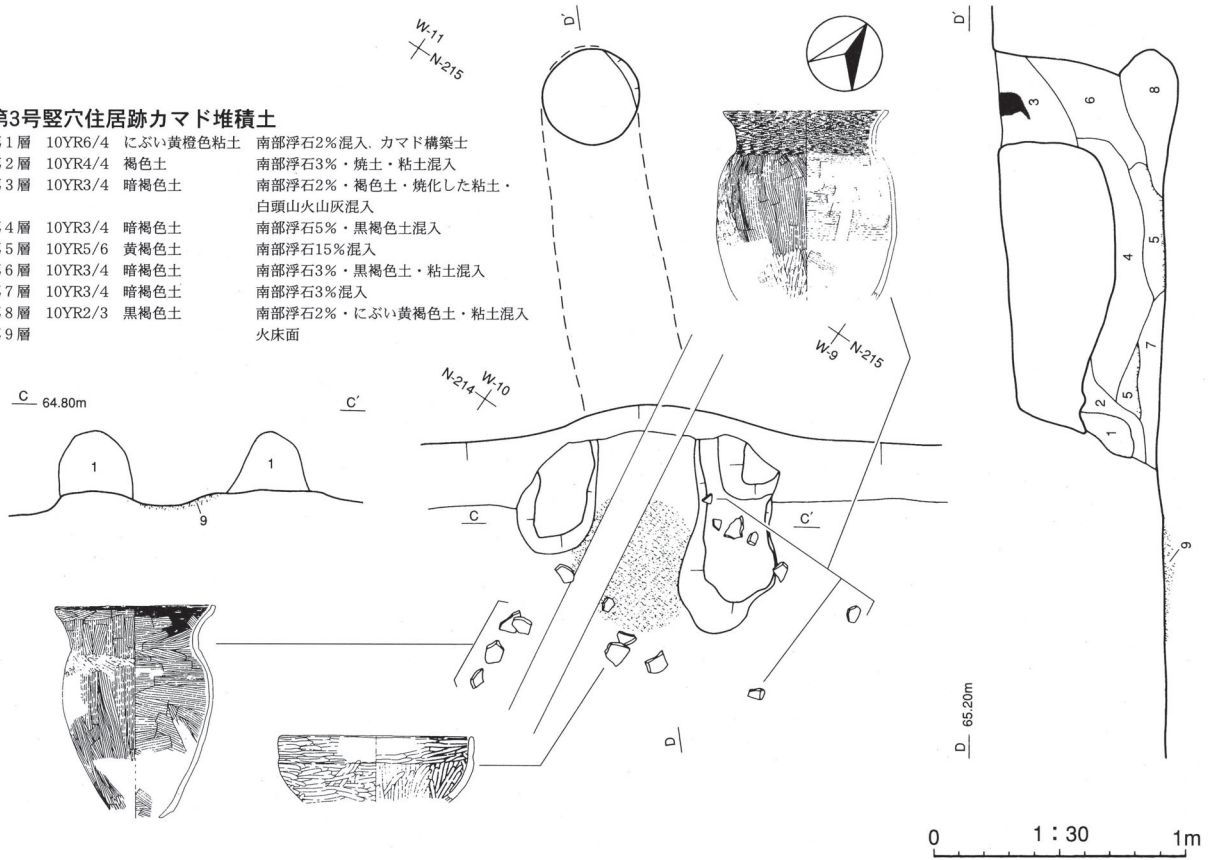


図10 第3号竪穴住居跡(2)

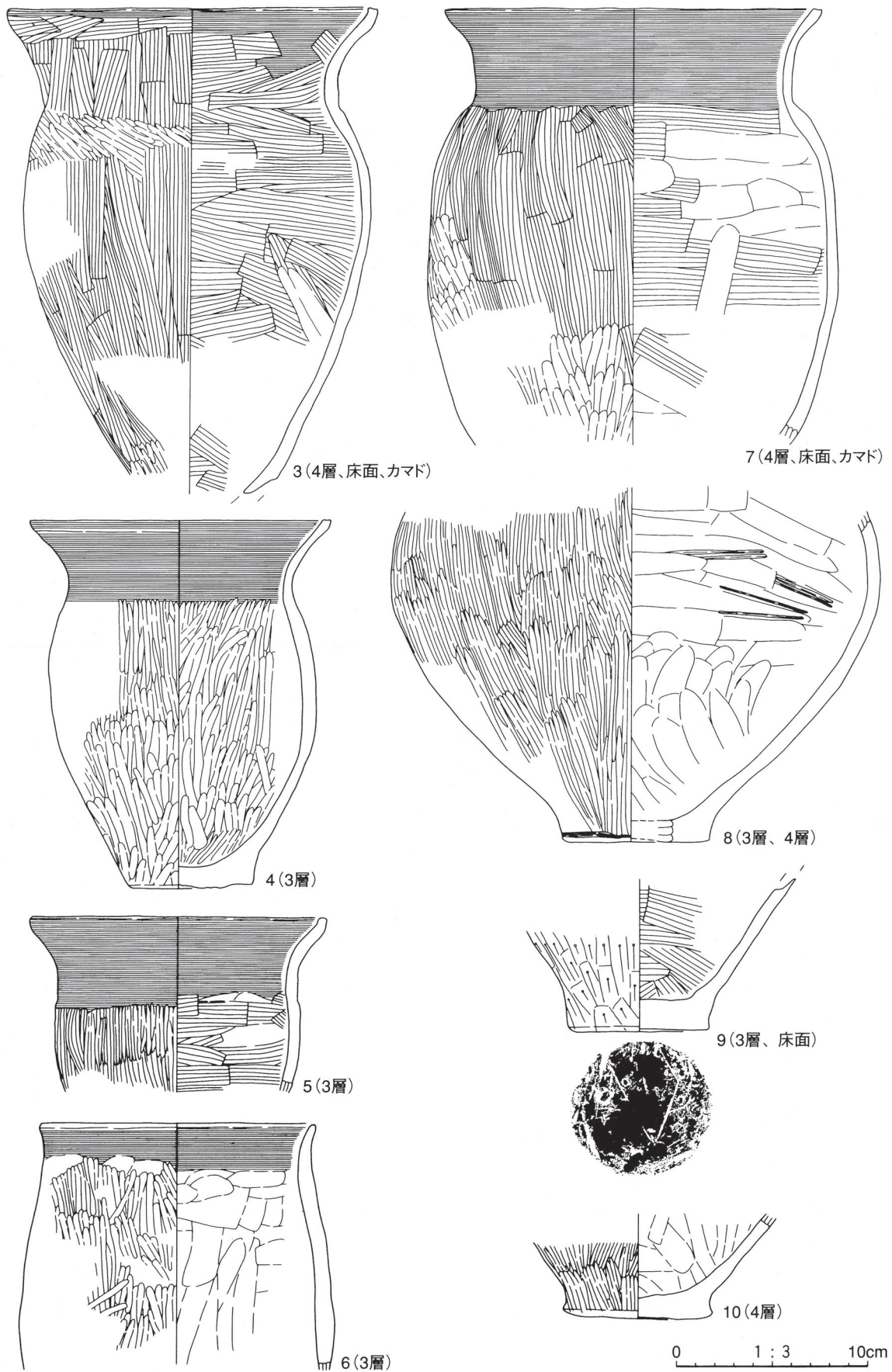


図11 第3号竪穴住居跡 (3)

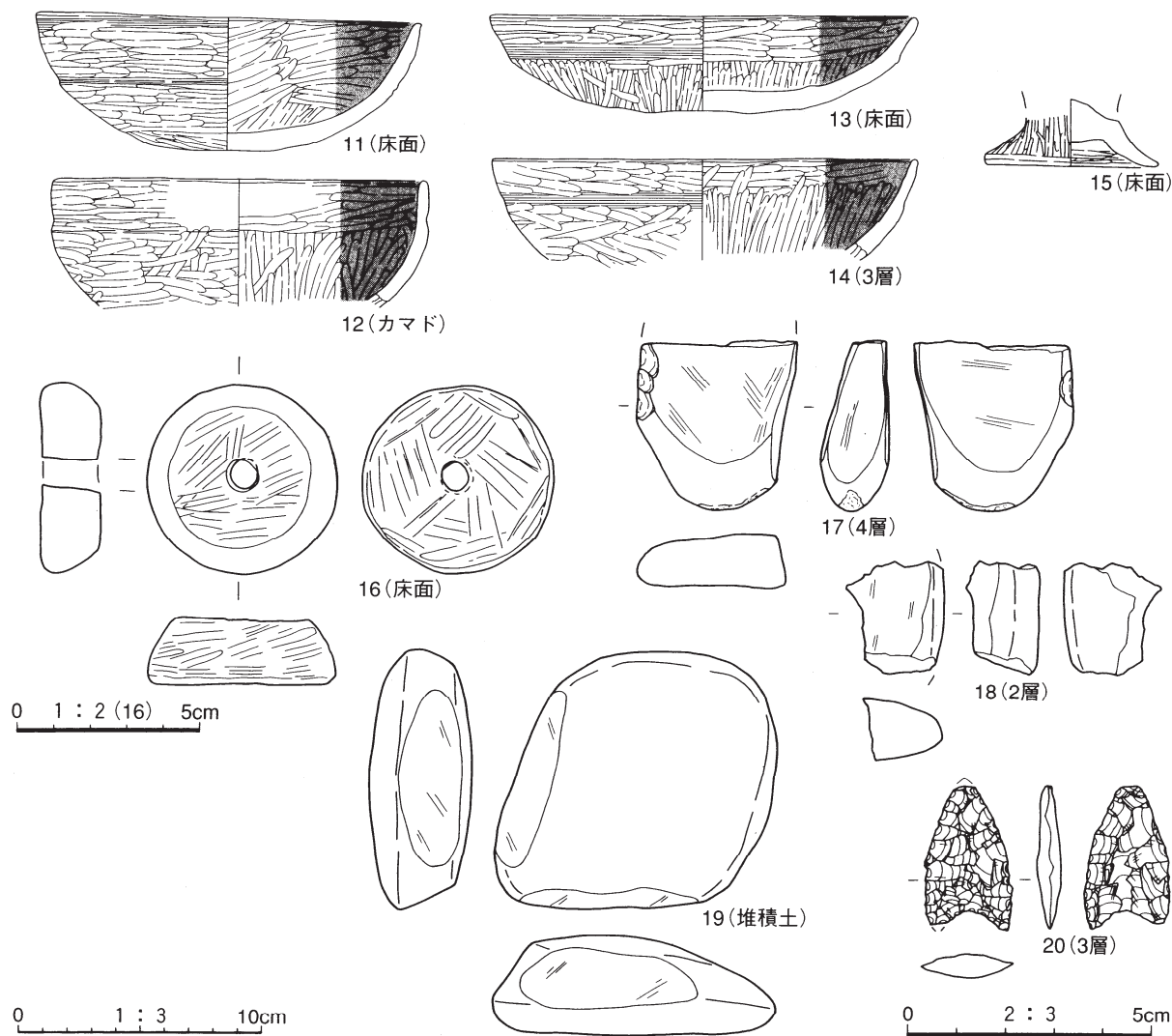


図12 第3号竪穴住居跡(4)

ミガキが施されている。8は胴部径が12.5cmで胴部が大きく張り出す球胴甕である。6は他の甕と異なり胴部が最大径となり、口縁部が狭く立ち上がる形状である。また、3の甕の内部から円礫が出土した。坏は丸底で外面に段または沈線を有し、内外面ともミガキ調整が施されている。内面は黒色処理されているものもある。15は高坏の台部である。内外面ミガキ調整が行われている。カマド周辺から完形の土製紡錘車が出土した(16)。ミガキ調整で全面黒色処理が施されている。また、堆積土から砥石(17)、磨り石(18・19)、縄文時代の石鏃(20)が出土した。

[小結] カマドの遺存状態が良好で、床面・カマドにほぼ完形の遺物が多数あること、炭化材・焼土の分布から住居跡使用中、または住居跡内を整理しないまま廃絶された焼失家屋と考えられる。十和田a火山灰降下以前に埋没した住居跡である。出土遺物と床面の炭化材の炭素年代から7世紀後半の住居跡と思われる。(杉野森)

第4号竪穴住居跡 <SI-4> (図13)

[位置・確認] 東側斜面、標高61.2~61.6mのT・U-91・92グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層で少量の炭化物と中掬浮石が比較目立つ部分であったが、プランが確認できなかったため、基本層

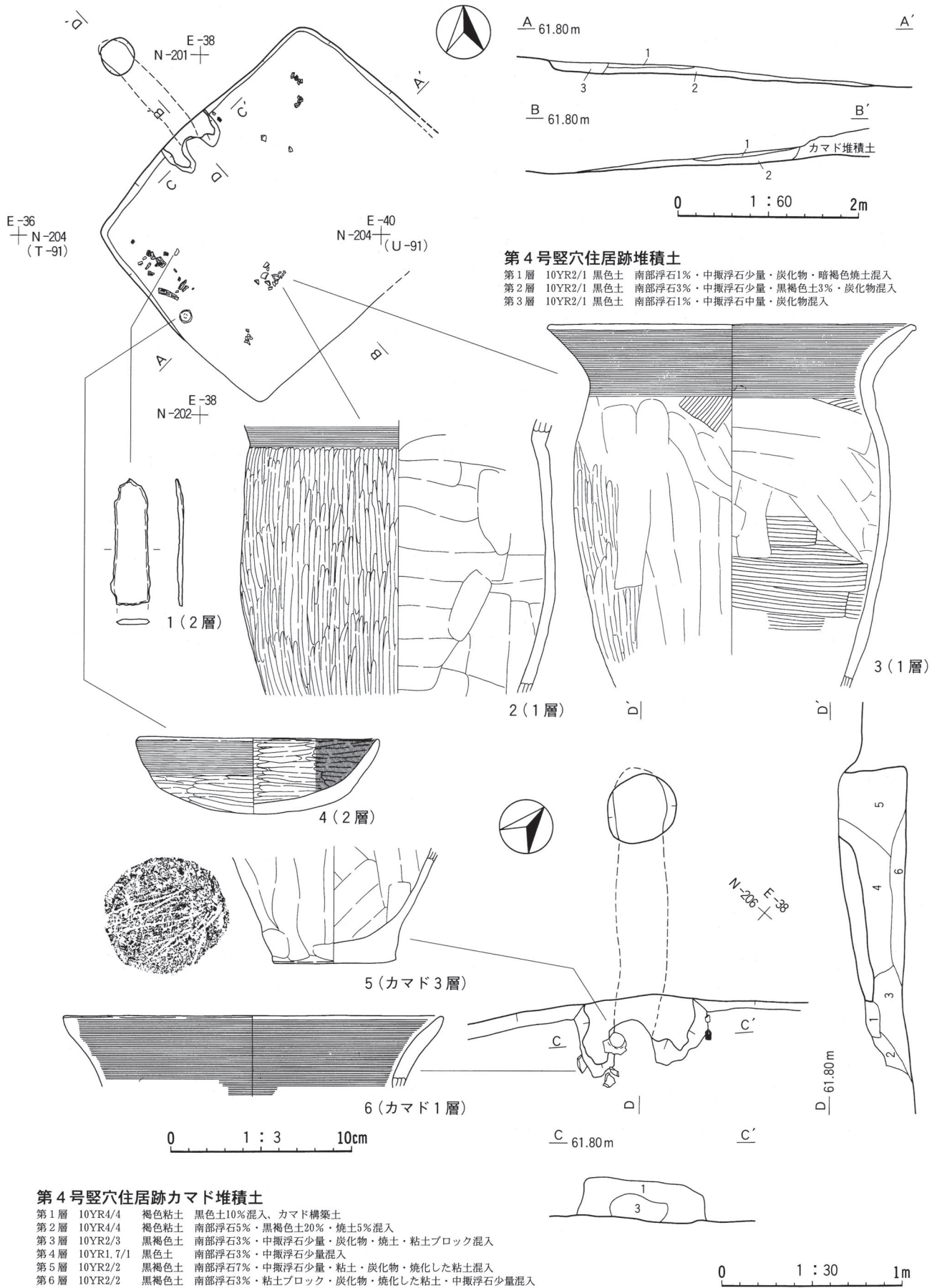


図13 第4号竖穴住居跡

序第Ⅳ層まで掘り下げた。この面でカマドと煙出しの粘土が検出され、黒色土が堆積する長方形の落ち込みを確認できた。

〔平面形・規模〕長軸3.6m・短軸2.87mの東西方向に広がる長方形である。東側は床面まで削平されている。南側は床面は残るが壁の立ち上がりを確認できなかった。壁は緩やかに立ち上がるものと思われる。残存する壁高は北西壁25cm・南西壁10cmである。推定床面積は9.35㎡である。

〔堆積土〕中礫浮石混じりの黒色土を主体とする自然堆積である。全体に細かい炭化物を含む。床面北側には細かい炭化物が散在し、南西壁際には焼土ブロックと炭化材がまとまっている。

〔床〕基本層序第Ⅳ層の掘方をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦である。

〔カマド〕カマドは北西壁中央からやや西寄りに位置する。地下式カマドで、カマドの遺存状況は良好である。両袖と天井部が残存するが、火床面は検出されなかった。カマドの方向は真北から西へ40度傾く。残存する燃焼部の幅は70cmである。カマドは褐色粘土を突き固め盛り上げたもので、長さ42cm・幅25cm・高さ22cmである。カマドの焚き口幅は25cmである。煙道はやや湾曲しながら北西に延びる。長さ1.3m・幅27cmである。煙道は床面とほぼ同様に水平に掘られ、底面は平坦である。煙道の高さは入り口で15cm、煙出しに向かい広くなり30cmとなる。煙出しは37×40cmのほぼ円形で、検出面からの深さは38cmである。壁は煙出し底面からやや内湾して立ち上がる。カマドには炭化物・焼土混じりの黒褐色土が、煙道には中礫浮石混じりの黒褐色土がそれぞれ堆積する。煙出しには粘土が多量に含まれる。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕土師器片は床面から54点、カマドから4点、鉄製品は床面から1点出土した。土師器は坏1点、甕4点を図化した。4は南西壁際の床面から出土した坏である。丸底で外面に稜を有し、内面が黒色処理された完形品である。床面中央から外面にミガキ調整が施された甕が2点（2、3）出土した。カマドから甕の底部（5）が逆さの状態出土している。このほか、床面から出土した鉄製品は厚さ3mmの薄い板状で用途は不明である。

〔小結〕出土遺物と炭素年代から7世紀後半から8世紀中葉の住居跡と思われる。カマドの遺存状態と炭化物の状況から焼失家屋の可能性も考えられる。（杉野森）

第5号竪穴住居跡 < S I - 5 > （図14）

〔位置・確認〕東側斜面、標高59.90～60.20mのX-90・91グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層で黒褐色土の長方形の落ち込みとして確認した。この時点でカマドの粘土と炭化物が露出していた。

〔重複〕第38号土坑と重複する。本遺構が古い。

〔平面形・規模〕東側は床面まで削平され、北東壁と南東壁がわずかに残存する。2.7×3.3mの長方形で、角はやや丸味を帯びる。壁は緩やかに立ち上がるものと思われる。残存する壁高は北西壁20cm、南西壁15cmである。推定床面積は8.39㎡である。

〔堆積土〕中礫浮石混じりの黒色土で、自然堆積と思われる。床面に堆積する第2層には炭化物と焼土が含まれる。南西壁際に焼土のまとまりが数ヶ所と炭化物が広がる。

〔床〕基本層序第Ⅳ層の掘方をそのまま床面としている。

〔カマド〕北西壁の北寄りに位置する。煙道上部は大きく削平されているため、煙道の構造は不明である。カマドの方向は真北から東に55.5度傾く。カマド手前には崩落した焼土ブロックや粘土ブロッ

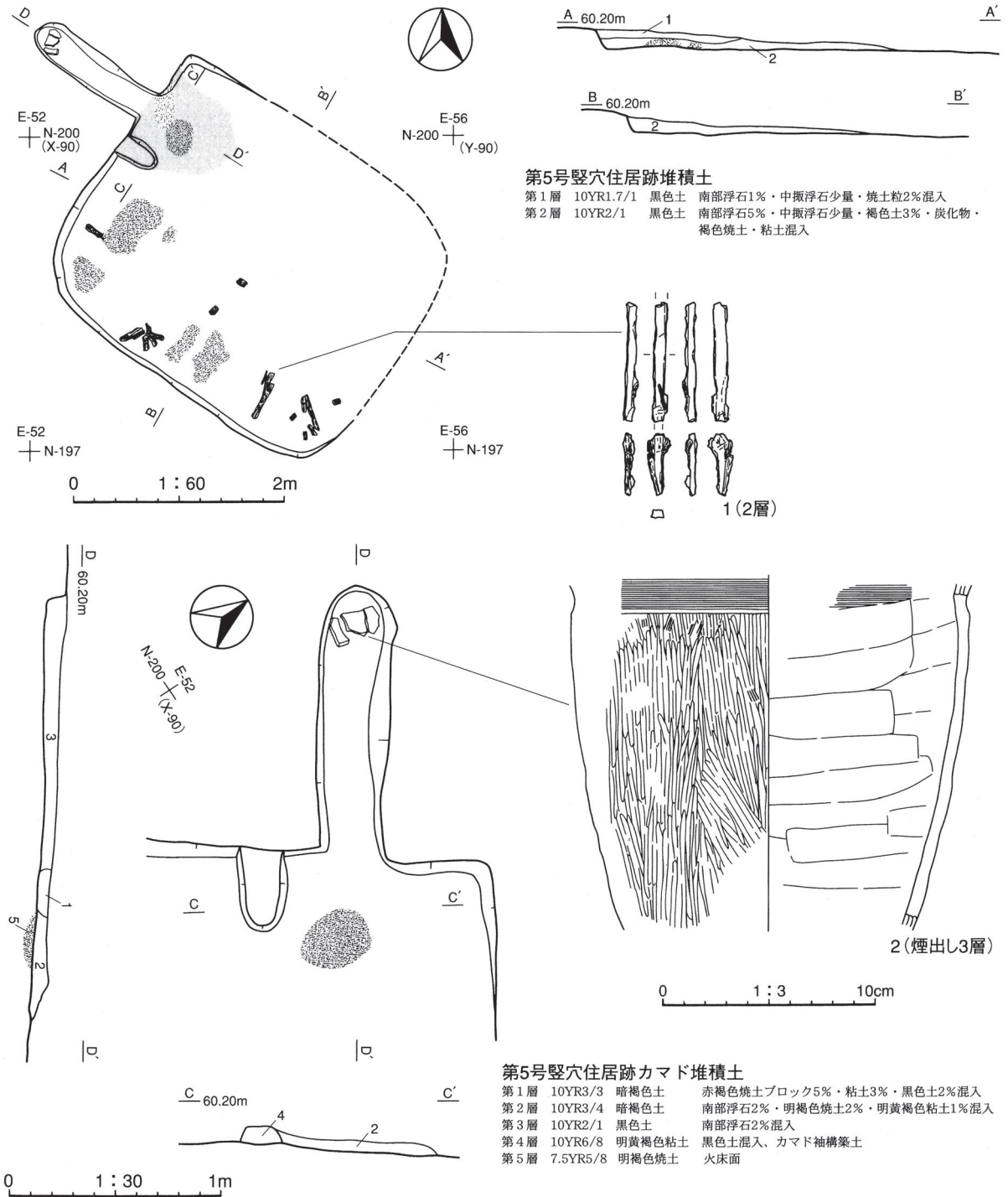


図14 第5号竪穴住居跡

ク混じりの黒褐色土が95×105cmの範囲に広がる。燃焼部は左袖の一部と火床面が残存する。左袖は煙道の入り口から西に20cm離れた位置にあり、黒色土混じりの粘土で構築され、長さ40cm・幅24cm・高さ9cmが残存する。火床面は煙道の手前約30cmに位置する。27×34cmの楕円形で床面から深さ5cmほど被熱し赤変している。煙道は直線状で北西に延び、床面と水平に掘られ、底面はほぼ平坦である。北西壁からの長さが1.3m、火床面奥からの長さが1.55m、検出面からの深さ10cm、幅は20cm前後と一定である。煙出し底面からは甕の口縁が出土した。煙道には浮石混じりの黒色土が堆積している。

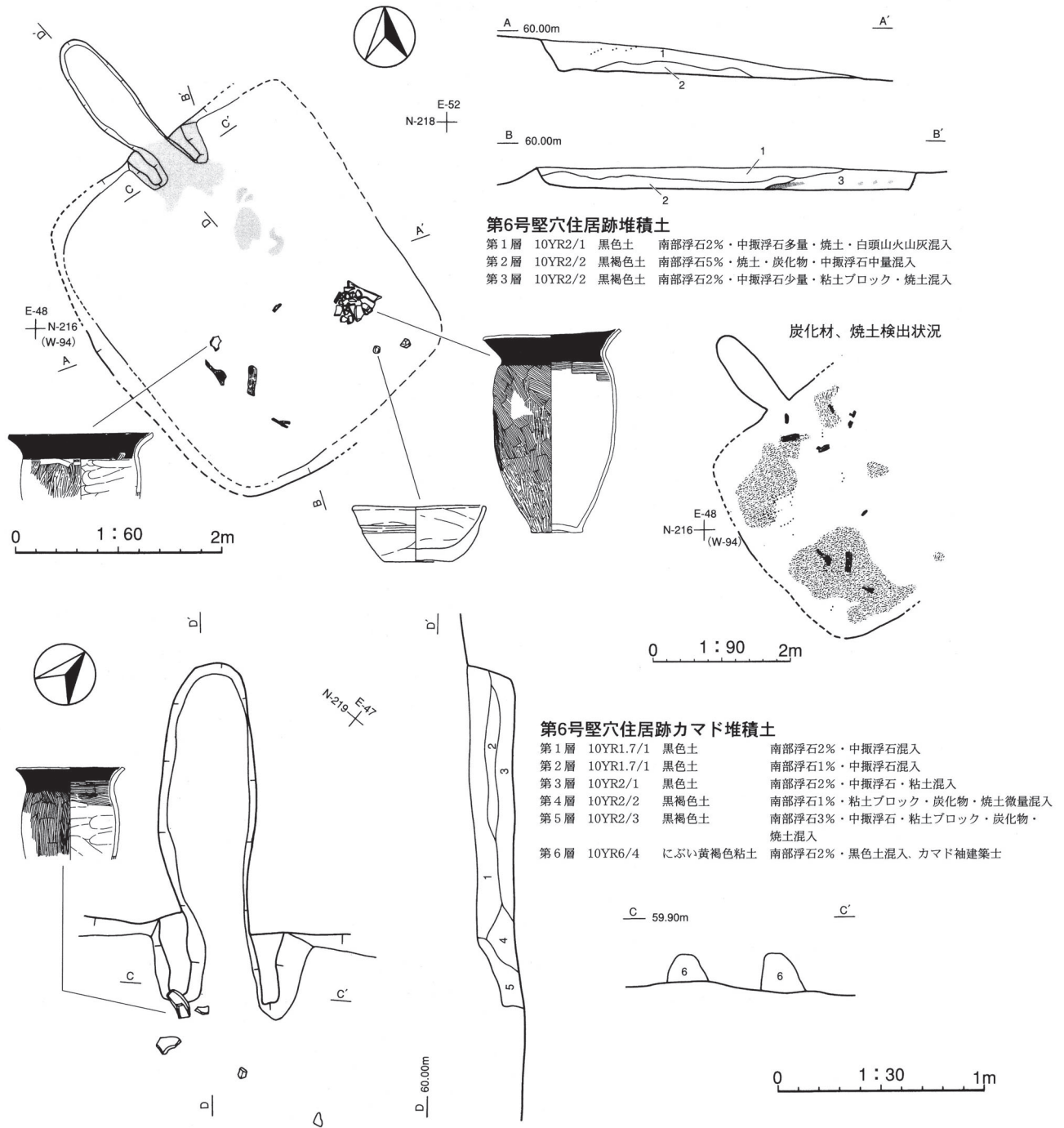


図15 第6号竪穴住居跡(1)

[出土遺物] 出土遺物は少なく、土師器片がカマドから1点、煙道から1点、煙出しから3点出土した。すべて甕の胴部片で、内面にナデ外面にミガキ調整が施された長胴甕と思われる。床面から出土した鉄製品は厚さ5mmの棒状で欠損部分が多く、形状・用途は不明である。

[小結] 出土遺物と炭素年代から7世紀後半から8世紀中葉の可能性が高い。また、炭化物の状況から焼失家屋の可能性もある。

(杉野森)

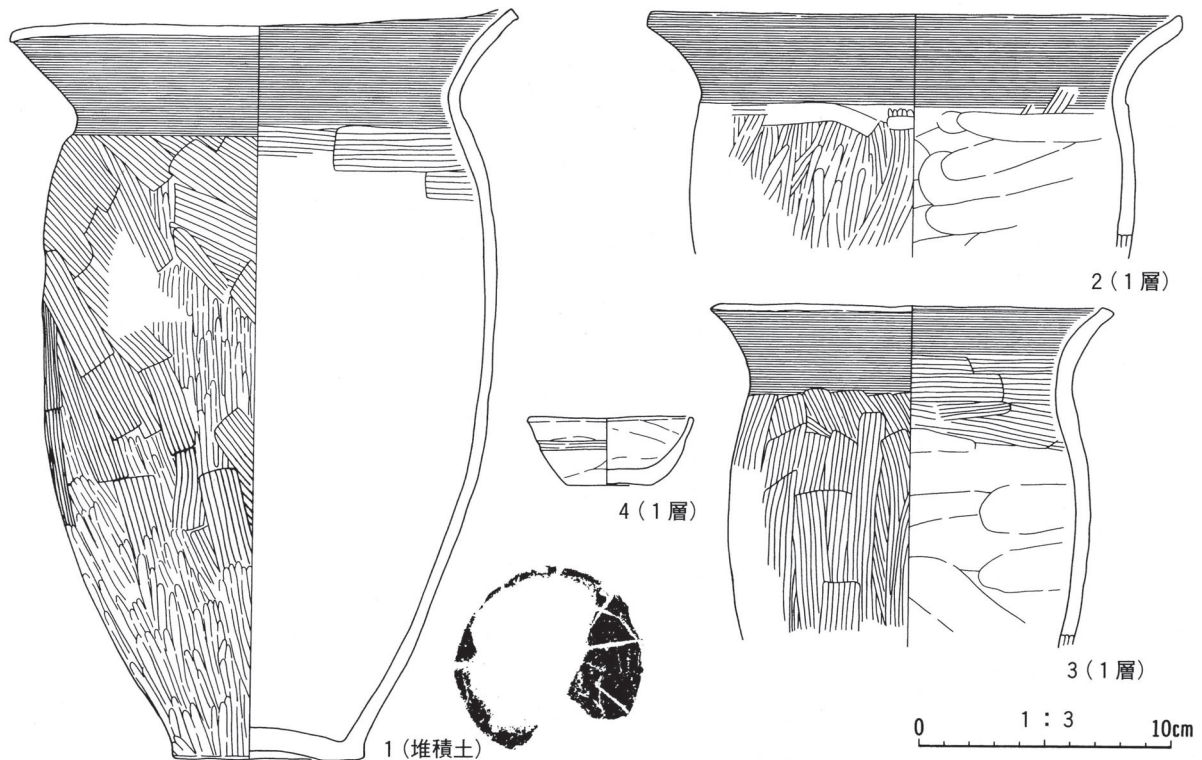


図16 第6号竪穴住居跡(2)

第6号竪穴住居跡 <SI-6> (図15・16)

[位置・確認] 東側斜面、標高59.5~60mのW-94・95グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層で白頭山火山灰混じりの黒色土の不整形プランで確認した。

[重複] 第50号土坑と重複する。本遺構が新しい。

[平面形・規模] 長軸3.5m・短軸2.97mの北西から南東側に広がる長方形と考えられる。壁は外傾し、壁高は北西壁24cm・南西壁30cm・南東壁12cmである。推定床面積は8.91㎡である。

[堆積土] 黒色土と黒褐色土を主体とする、自然堆積と思われる。第1層には白頭山火山灰がブロック状に少量含まれる。床面に堆積する第2層には多量の焼土と炭化物が含まれ、焼土は南西壁からカマド周辺まで面的に広がる。第3層はカマドの崩落した粘土を含む黒褐色土である。

[床] 掘り過ぎにより、確認した床面は少ない。床は基本層序第Ⅲ層面の掘方をそのまま床面とし、ほぼ平坦と思われる。締まりは均一である。

[カマド] 北西壁中央からやや西寄りに位置する。カマドの方向は真北から西に41.5度傾く。煙道上部が削平されているため煙道の構造は不明である。カマド手前には崩されたカマド構築土が80×150cmの範囲に広がる。燃焼部は両袖が残存し、幅は80cmである。火床面は検出されなかった。袖はにぶい黄褐色粘土を付き固めたもので、長さ44cm・幅30cm・高さ15~20cmが残存する。カマド焚き口幅は27cmである。煙道は北西壁からやや西寄りに延び、北側にわずかに湾曲する。床面と水平に掘られ、底面は平坦である。壁からの長さは1.35mで、底面幅は入り口の20cmから徐々に広がり中間で40cmに達し煙出し付近で30cmとなる。残存高は22cmである。カマドには粘土と焼土混じりの黒褐色土が、煙道には中振浮石混じりの黒色土が堆積し、堆積状況は自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土師器片は床面から30点、カマドから3点、礫は床面から1点出土した。4は床面から

出土した小型土器で、外面中位に段を有する。1は南東側床面から出土した完形の甕で、胴部下位にミガキ、上位にハケメ調整が施されている。このほか図化していないがカマドから頸部に沈線を巡らした甕の胴部破片が出土した。

[小結] 白頭山火山灰降下以前に廃絶・埋没した住居跡で、出土遺物と炭素年代の結果より7世紀後半から8世紀中葉の住居跡である。また、炭化物の分布状況から焼失家屋の可能性も考えられる。

(杉野森)

第7号竪穴住居跡 < S I - 7 > (図17・18)

[位置・確認] 調査区中央、標高65.2～65.6mのM-98・99グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層で中央に十和田a火山灰が混じる黒色土の方形プランとして確認した。

[平面形・規模] 東西方向3.95m・南北方向3.7mで、南東壁と北東壁がやや膨らむ隅丸方形である。壁高は南西壁30cm・南東壁28cm・北東壁45cm・北西壁35cmである。壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面積は10.83㎡である。

[堆積土] 黒色土を主体とした自然堆積である。第1層には1.6m×2mの範囲で十和田a火山灰がブロック状に混入する。第2層・第3層は浮石混じりの黒色土である。第4層・第5層は粘土混じりの黒褐色土である。第2層と第5層は締まりが強い。

[床] 北側半分は掘方埋土を、南側は基本層序第Ⅴ層の掘方を床面としている。掘方底面は起伏が少なく、ほぼ平坦に掘られ、ロームブロック混じりの黒褐色土で埋められている。床面はやや起伏があり、北西から南東に緩やかに傾斜している。カマド周辺は南側に比べ堅く締まる。

[カマド] 北西壁中央に設置されている。カマドの方向は真北から西へ46度傾く。地下式カマドで、燃焼部の遺存状況は比較的良好である。燃焼部は幅1.15mで粘土で構築された両袖と天井の一部と火床面が残存する。袖は地山を7cmほど掘り残し、その上ににぶい黄橙色粘土混じりの黒褐色土を盛り、その周囲を粘土で突き固めたものである。袖の規模は幅25～30cm・長さ40～50cm・高さ20cmで、焚き口幅は56cmである。火床面は直径36cmの円形で、深さ7cmほど被熱し赤変している。煙道は西側にやや湾曲する。底面はほぼ平坦で、床面からやや上昇し、途中から緩やかに下降する弧状である。火床面奥からの長さは1.53m、幅は入り口で40cmと広く煙出しに向かい30cmと狭くなる。煙道の高さは入り口で28cm、煙出しで40cmとなる。煙出しは直径35cmの円形で、深さ80cmである。底面は煙道より8cmほど深くなり、壁は底面から袋状に内傾し、途中から直線状に外傾する。カマドには炭化物・焼土・粘土混じりの暗褐色土が堆積する。煙道にはブロック状の粘土・焼化した粘土を含む黒褐色土が堆積し、煙出しは炭化物が加わる。煙出し底面には締まりのない黒褐色土が堆積する。自然堆積の可能性と考えられる。

[出土遺物] 土師器は堆積土5点、床面17点、カマド3点、煙道5点の計30点出土した。大部分が甕の破片で、内外面ともナデ調整のものが多い。1はカマド手前から出土した完形の小型土器である。器高8cm弱で内面にハケメ調整、外面にナデ調整が施され、口縁部と胴部の境に段を有する。2の長胴甕は外面にナデ・ミガキ調整を施したものである。また、煙出しから用途不明の棒状鉄製品が出土した。このほか縄文時代の石鏃が煙道から1点(4)、礫が床面から2点、煙道から1点出土した。

[小結] 十和田a火山灰降下以前に廃絶・埋没した住居跡である。カマドの状況と出土遺物の少なさ

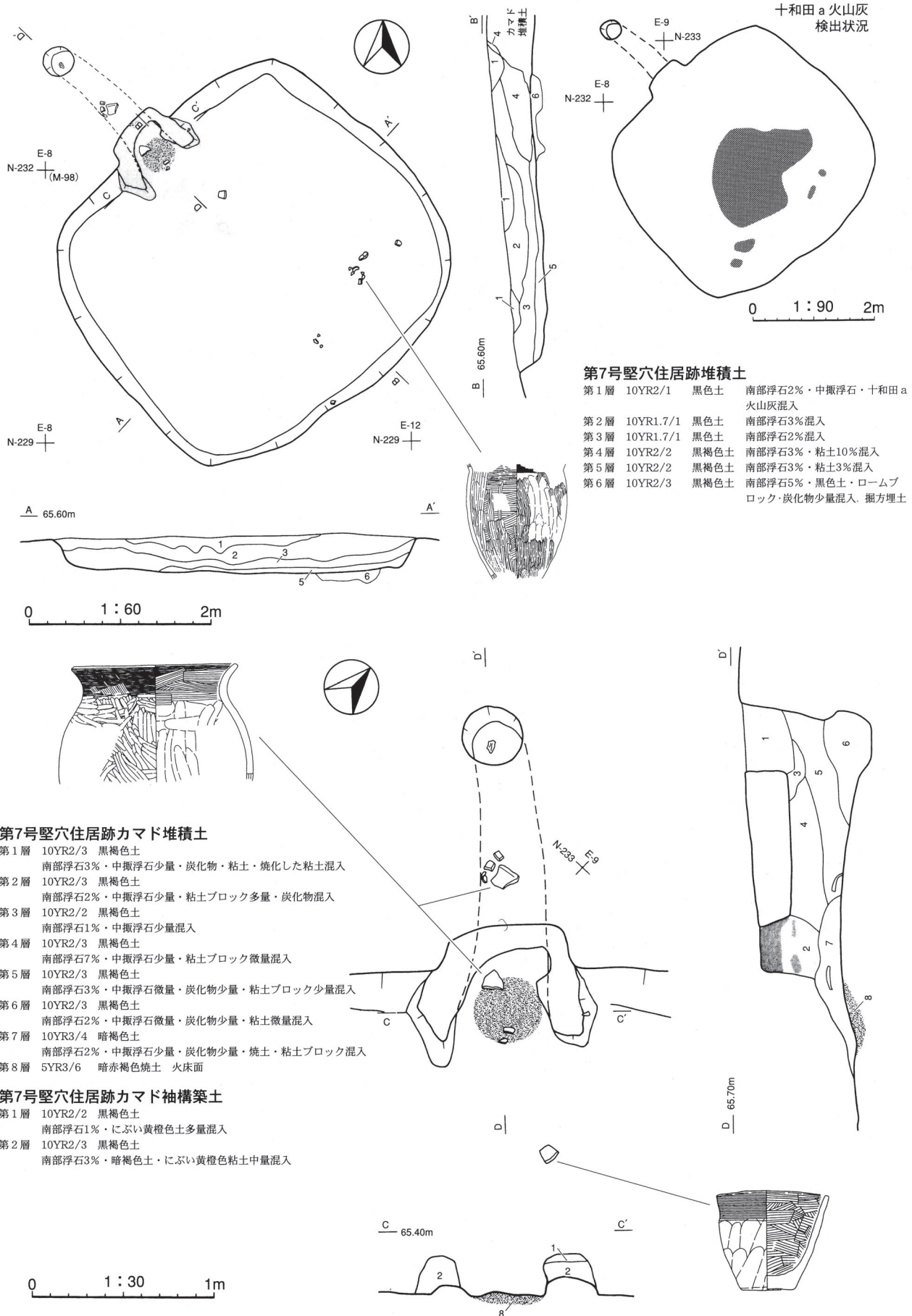


図17 第7号竪穴住居跡(1)

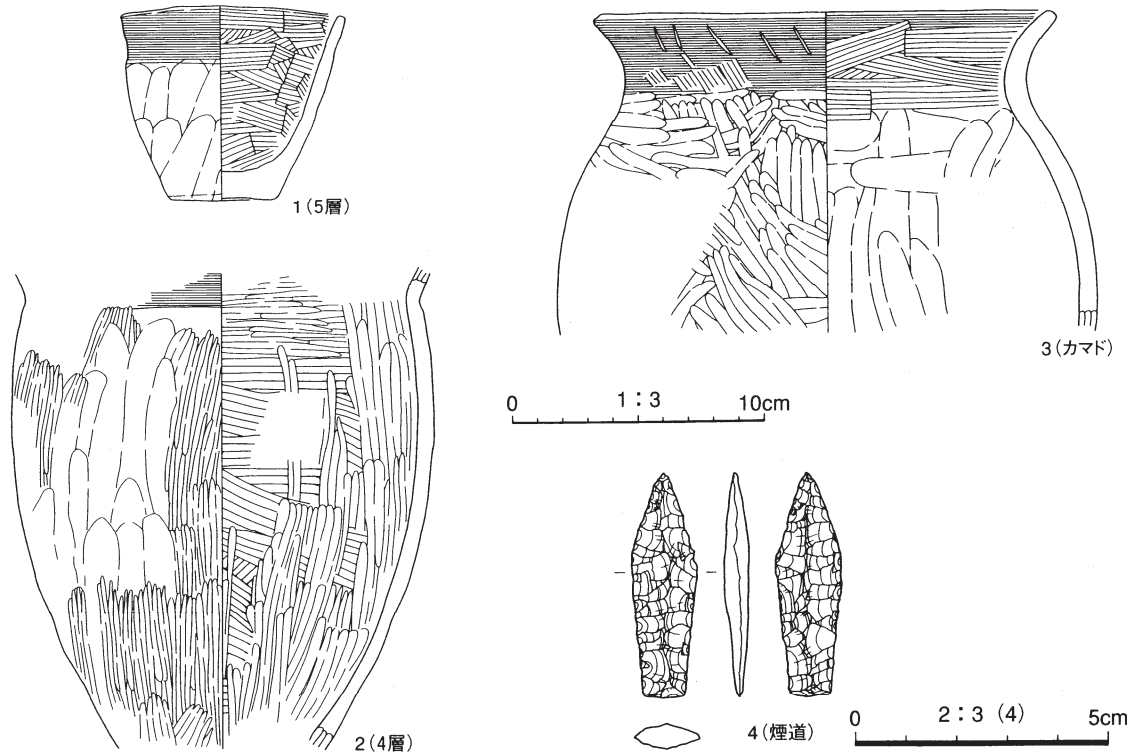


図18 第7号竪穴住居跡(2)

から廃絶時に住居内をある程度整理するが、カマドを故意に破壊せずまたは簡易に破壊したものと推測される。出土遺物から8世紀の住居跡である。(杉野森)

第8号竪穴住居跡 <SI-8> (図19~21)

[位置・確認] 調査区中央、標高66.4~66.8mのI-99、J-98・99グリッドに位置する。基本層序第V層で白頭山火山灰を含む黒褐色土の方形プランで確認した。

[平面形・規模] 一辺3.4mのほぼ正方形である。南辺はやや蛇行する。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は北壁60cm・東壁37cm・南壁35cm・西壁52cmである。床は一辺約2.8mの正方形で床面積は7.84㎡である。

[堆積土] 浮石・ロームブロック混じりの黒褐色土を主体とする。検出面中央には白頭山火山灰が2×2.7mの範囲に広がり、レンズ状に堆積し、厚さは最大10cmである。下位の第3層・第4層にはブロック状の粘土が散在する。壁際には浮石混じりの締まりの弱い暗褐色土が堆積する。

[床] 南側が部分的に掘方埋土を床面とし、大半は基本層序第VI層の掘方をそのまま床面としている。掘方は第VI層を10cmほど掘り込み、粘土混じりの黒褐色土と褐色土で埋めている。床はほぼ平坦で、中央部分が若干低くなる。床の締まりは均一である。

[カマド] 北壁東寄りに位置する。カマドの方向は真北から西に21度傾く。崩されたカマド構築粘土が60×115cmで東西方向に広がる。煙道が地下式のカマドである。燃焼部の遺存状態は良好で両袖と火床面が残存する。燃焼部幅は1mである。カマドの袖は黄橙色粘土を付き固めたもので、芯材に角礫や土師器片を使用している。右袖は壁からやや東寄りに直線状に作られ、左袖は壁から東にくの字に湾曲する。規模は右袖が幅30cm・長さ55cm・高さ13cm、左袖が幅28cm・長さ65cm・高さ15cm

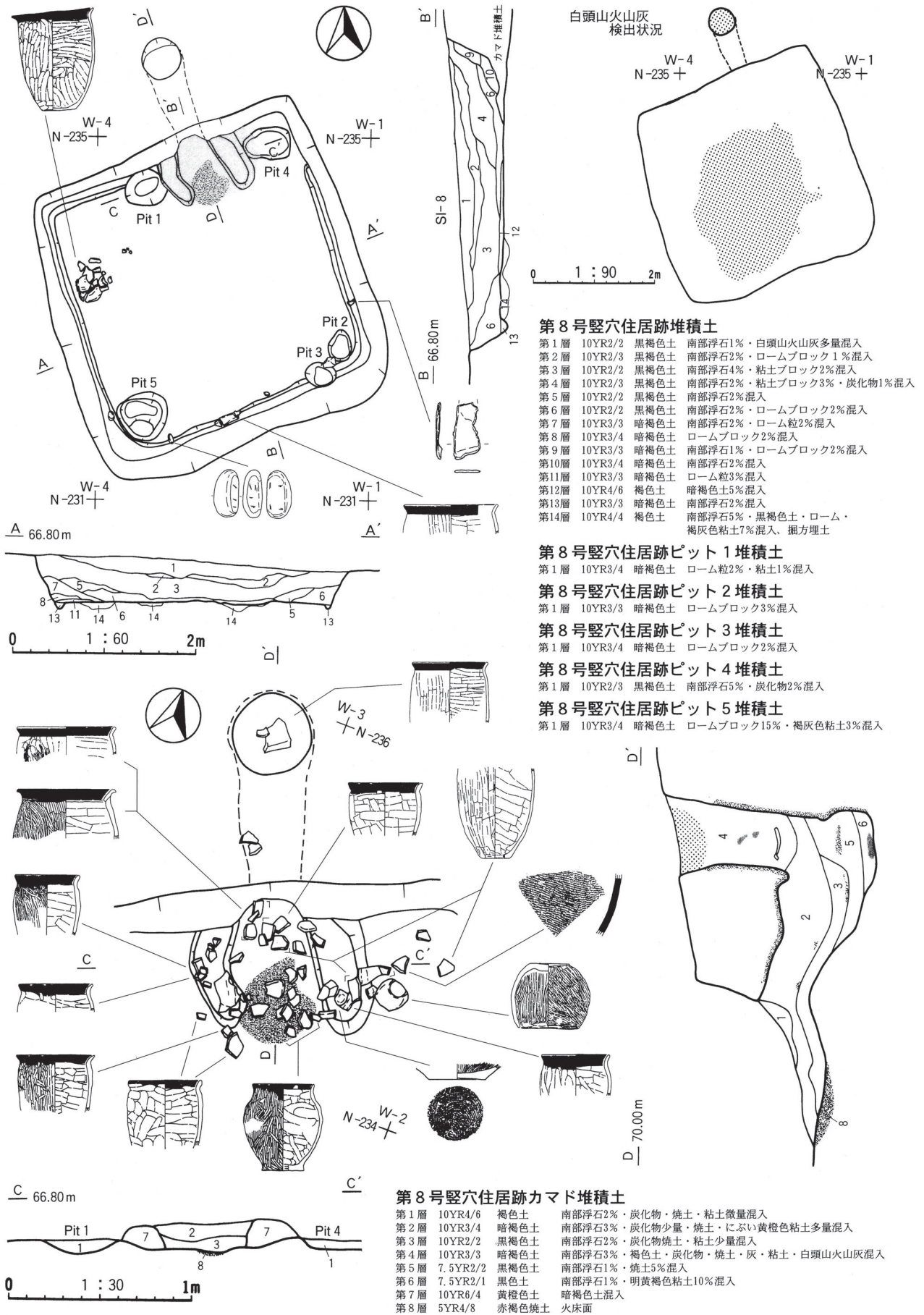


図19 第8号竖穴住居跡 (1)

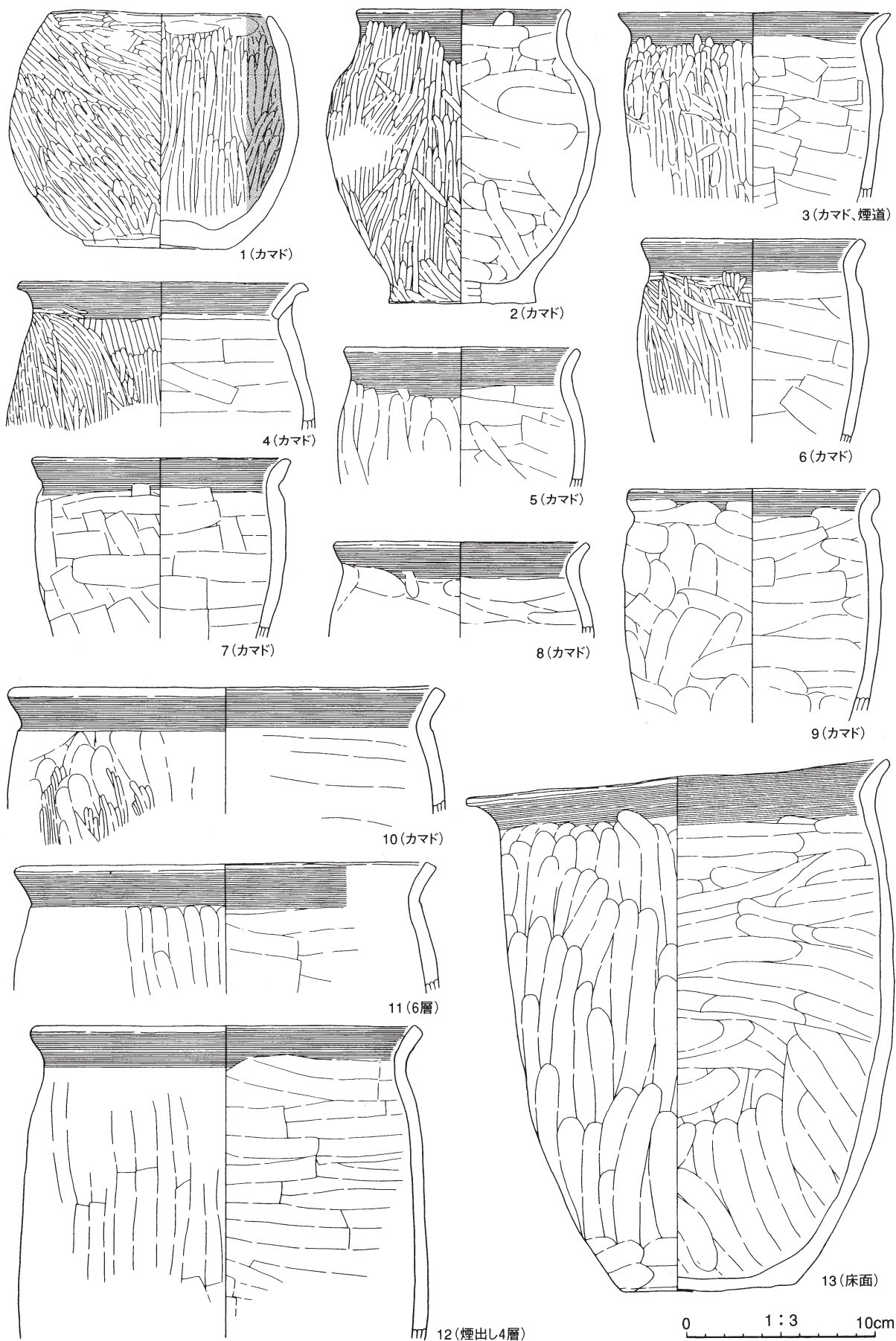


図20 第8号竪穴住居跡(2)

である。焚き口幅は45cmである。火床面は直径40cmの不整円形で、深さ7cmまで被熱している。煙道は北西方向にほぼ直線状に延び、火床面奥から壁面までは10cm上昇し、壁面から煙出しに向かい階段状に急下降する。底面は起伏がある。火床面奥からの長さは1.45m、壁からの長さは1.1m、傾斜角度は約28度である。幅は壁面入り口の28cmから徐々に広がり最大37cmとなる。煙道の高さは入り口で28cm、煙出し付近で最大48cmとなる。煙出しは直径45cmの円形で、深さ1.1mである。底面は平坦で、壁は底面から内湾し、途中からほぼ直線状に立ち上がる。煙道の天井と煙出し壁面は被熱し赤変している。カマドと煙道には炭化物・粘土・焼土混じりの暗褐色土・黒褐色土が堆積している。煙出し上面には厚さ15cmで白頭山火山灰が堆積する。遺物はカマドから多量の土師器片と須恵器片2点が出土し、煙出し中位と煙道からも土師器片が数点出土している。

〔柱穴〕ピットを5個検出した。カマドの両脇と南西角、南東角に2個位置する。5個とも平面形が楕円形で、深さ21cm以下とやや浅めである。ロームブロック混じりの暗褐色土が堆積する。規模はピット1が直径40cm・深さ11cm、ピット2が27×33cm・深さ9cm、ピット3が23×35cm・深さ21cm、ピット4が33×50cm・深さ7cm、ピット5が50×55cm・深さ11cmである。位置的にピット2・4・5は主柱穴とも考えられるが、ピットが狭く、底面に起伏があり、断面形状が皿状をなすことなどから用途については明言出来ない。

〔周溝〕周溝はほぼ住居跡全体に巡る。幅は南西角で23cmと広がり、ほかは10cm前後とほぼ一定である。深さはカマドのある北側で4cm、南側では10cm前後である。断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。締まりの弱い暗褐色土が堆積する。

〔出土遺物〕遺物はカマドに集中し、床面からは極めて少ない。カマドから土師器片62点・須恵器2点、床面から土師器片26点・鉄製品1点・磨り石1点、煙道から土師器片3点、煙出しから土師器片7点が出土した。土師器は甕が圧倒的で、坏も出土している。このうち図化したのは土師器甕14点、土師器坏1点である。甕は長胴甕が多い。形状は胴部があまり張り出さず、口縁部が狭く口縁が直線的に外傾し、最大径が胴部にくるものや、口縁と胴部の径が同一のものが多い。大きさは口径が20cmを越えるものと11～14cm台のものに分かれる。13は床面から出土した長胴甕である。内外面ともナデ調整で最大径が胴部にくる。床面出土の11も同様である。カマドから出土した甕は外面調整で2つに分けられる。ハケメ・ミガキ調整のもの（1・2・6・3・4・10）、ナデ・ケズリ調整のもの（14・12・5・8・7・9）である。1はカマド右袖隣から逆さの状態出土した甕である。形状は底部から口縁に向かい内湾し、共伴する土師器と比べやや分厚い。調整は内外面ともミガキで、内面の調整が丁寧である。坏は2個体あり、ロクロ成形で底面に回転糸切痕を有する。須恵器は甕の胴部片が出土し（16）、外面調整が格子目状タタキ調整である。蛍光X線分析の結果、産地は特定出来なかった。17の鉄製品は厚さ4mmの板状で、用途は不明である。床面から磨り石（18）が1点出土した。

〔小結〕白頭山火山灰降下以前に埋没した住居跡である。カマドの残存状況が良好で、カマド周辺に遺物が多いことから、住居跡廃絶時にカマドを整理せず、そのまま廃絶したことが考えられる。出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。（杉野森）

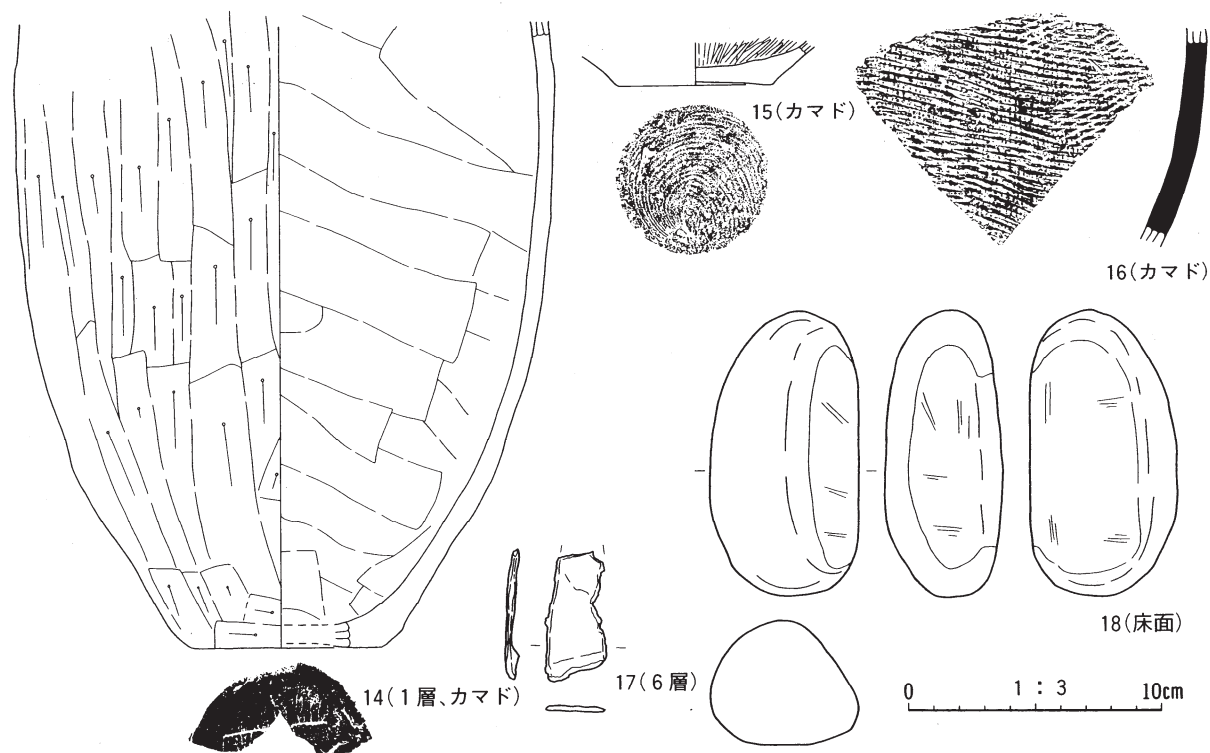


図21 第8号竪穴住居跡(3)

第9号竪穴住居跡 < S I - 9 > (図22・23)

[位置・確認] 調査区南西側、標高63.50~63.80m前後のF・G-90・91グリッドに位置する。基本層序第VI層から黒褐色土の方形プランとして検出した。

[重複] 第6・11号土坑と重複する。本遺構が新しい。

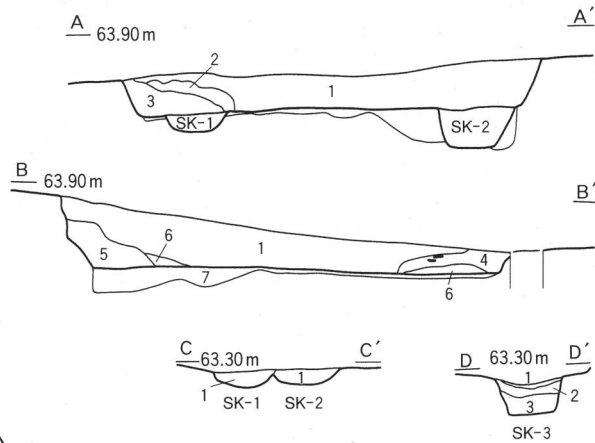
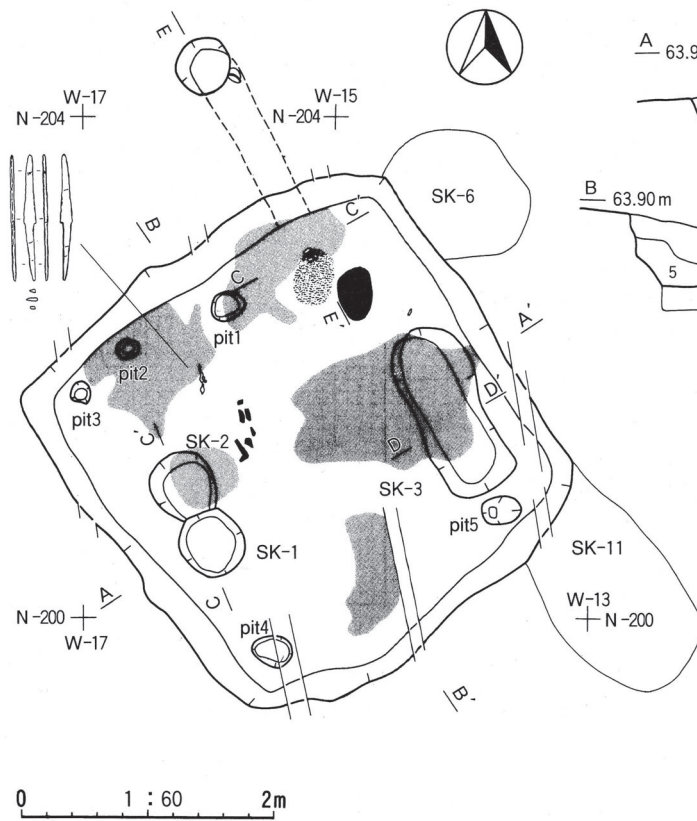
[平面形・規模] 平面形は方形で、長軸3.74×短軸3.48mである。検出面から床面までの深さは北東壁38cm、北西壁56cm、南東壁18cm、南西壁30cmで、壁は床面からやや外傾して立ち上がる。床面積は9.37㎡である。

[堆積土] 黒褐色土主体で、6層に分けられ、全体に浮石が混入する。人為堆積である。床面には粘土が大きなブロックを形成して薄く堆積する。床面の粘土は住居跡を廃棄した際に崩落した住居構築粘土と考えられる。

[床] ほぼ平坦である。北側角の一部を除き掘方埋土を床面とする。掘方底面は起伏が有り、部分的に深く掘り込まれる。

[カマド] 北西壁の北寄りに位置する。カマドの方向は真北から29度西に傾く。カマドの遺存状態は悪く、カマド構築粘土、火床面、支脚、煙道が残存する。カマド構築土と考えられる粘土が混入する土が前庭部に不整形に広がる。火床面は44×32cm、深さ4cmの楕円形で北西端に支脚が設置される。支脚には小型の甕が使用され、破損した状態で出土した。煙道は地下式で、火床面北西端から長さ1.84m、幅30cm、煙出しは開口部46×44cm、深さ1.16mで、壁はやや外傾する。煙道底面は火床面から34cm平坦で、煙出しに向かって起伏を有し緩やかに下降する。煙道の堆積土は黒褐色土を主体とし、全体に浮石が混入する。人為堆積である。

[柱穴] 住居跡内から5個のピットを検出した。ピット1は28×24cm・深さ13cmの円形、ピット2



第9号堅穴住居跡堆積土

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石7%・褐色土10%・黒色土5%・炭化物2%混入
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石3%・褐色土3%混入
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石3%・褐色土3%混入
- 第4層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石3%・炭化物2%混入
- 第5層 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石2%混入
- 第6層 10YR2/1 黒色土 炭化物2%混入
- 第7層 10YR4/4 褐色土 南部浮石5%混入、掘方埋土

第9号堅穴住居跡内第1号土抗堆積土

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石2%・黒色土混入

第9号堅穴住居跡内第2号土抗堆積土

- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石2%・黒褐色土混入

第9号堅穴住居跡内第3号土抗堆積土

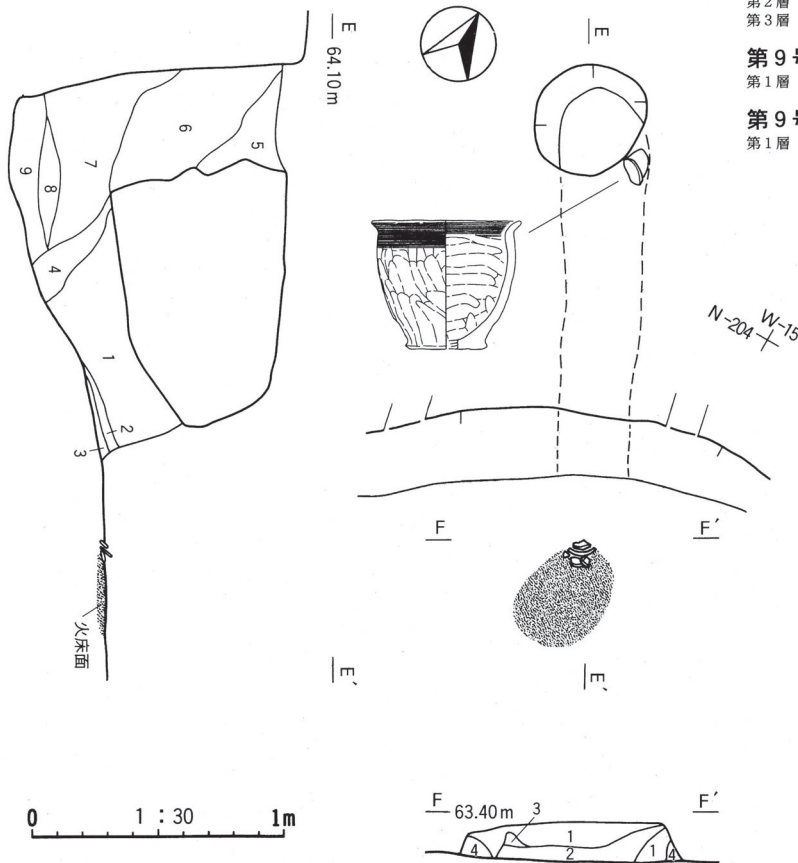
- 第1層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック3%混入
- 第2層 10YR5/6 黄褐色土 南部浮石3%混入
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック7%・黒色土2%混入

第9号堅穴住居跡ピット1、2堆積土

- 第1層 10YR4/6 褐色土 南部浮石2%・黒褐色土混入

第9号堅穴住居跡ピット3、4、5堆積土

- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石3%・褐色土・粘土混入



第9号堅穴住居跡カマド堆積土

- 第1層 10YR6/4 にぶい黄橙色粘土 南部浮石3%・黒褐色土・粘土ブロック5%混入
- 第2層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石2%・灰50%・焼土粒・粘土ブロック1%混入
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石2%混入
- 第4層 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石5%・焼土粒1%混入

第9号堅穴住居跡煙道堆積土

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石2%・暗褐色土・粘土混入
- 第2層 10YR4/4 褐色土 南部浮石2%・粘土混入
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 中振浮石混入
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石3%・粘土混入
- 第5層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石1%・褐色土混入
- 第6層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石2%・粘土混入
- 第7層 10YR4/2 灰黄褐色土 褐色土・粘土・灰混入
- 第8層 10YR4/6 褐色土 南部浮石2%混入
- 第9層 10YR2/2 黒褐色土 中振浮石・粘土混入

図22 第9号堅穴住居跡(1)

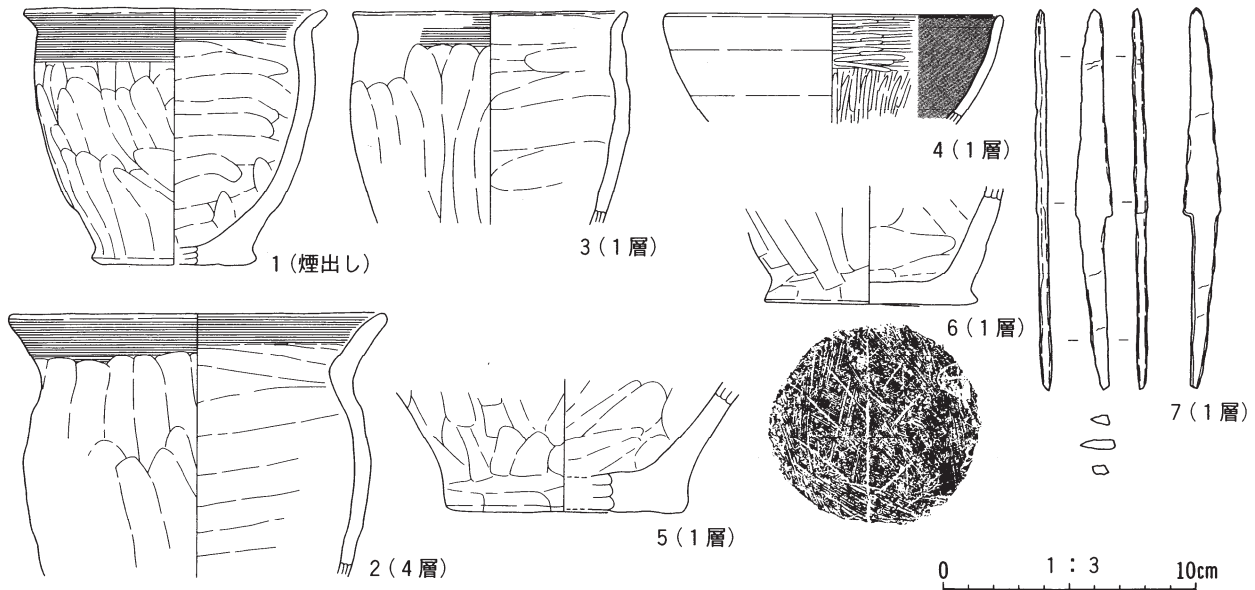


図23 第9号竪穴住居跡（2）

は径18cm・深さ10cmの円形、ピット3は径18cm・深さ9cmの円形、ピット4は32×24cm、深さ21cmの楕円形、ピット5は32×22cm、深さ21cmの楕円形である。壁際に配置し、規模がほぼ一致することから壁柱穴とも考えられる。

〔土坑〕南西壁際から2基、北東壁際から1基を検出した。南西壁際は重複しており、第1号土坑が新しく、第2号土坑が古い。第1号土坑は径52cmの円形で、第2号土坑は50×60cm(推定)の円形である。北東壁際土坑を第3号土坑とした。48×20cm、深さ30cmの楕円形である。用途は不明である。

〔出土遺物〕カマド火床面から1点、堆積土から8点の土師器片と鉄製品1点が出土した。図示した土師器は6点である。甕は内外面ともナデ調整を主体としている。1は火床面から支脚として出土した小型甕である。胴部内外にナデを施した後、口縁部内外にヨコナデを施す。4はロクロ成形の坏である。内面はミガキと黒色処理が施されている。7の刀子は床面上の第1層堆積土から出土したもので、長さ15.3cm、幅15mm、厚さ5mmである。

〔小結〕本住居跡に先行して構築された第6号土坑には白頭山火山灰が混入することから、本住居跡は10世紀前半以降の平安時代のものと考えられる。 (野村)

第10号竪穴住居跡 <SI-10> (図24・25)

〔位置・確認〕調査区南西側、標高64.44～64.62m前後のJ・K-92・93グリッドに位置する。基本層序第VI層から暗褐色土の方形プランとして検出した。

〔平面形・規模〕平面形は方形で、長軸3.04×短軸2.94mである。検出面から床面までの深さは北東壁36cm、北西壁38cm、南東壁32cm、南西壁26cmで、壁は床面からやや外傾して立ち上がる。床面積は8.02㎡である。

〔堆積土〕暗褐色土主体で、2層に分けられ、全体に浮石が混入する。人為堆積で、第2層はカマド堆積土である。

〔床〕北側角が少し深くなるが、ほぼ平坦である。南東側半分は掘方埋土を床面とする。掘方底面には凹凸が多数あり、乱雑な状態である。

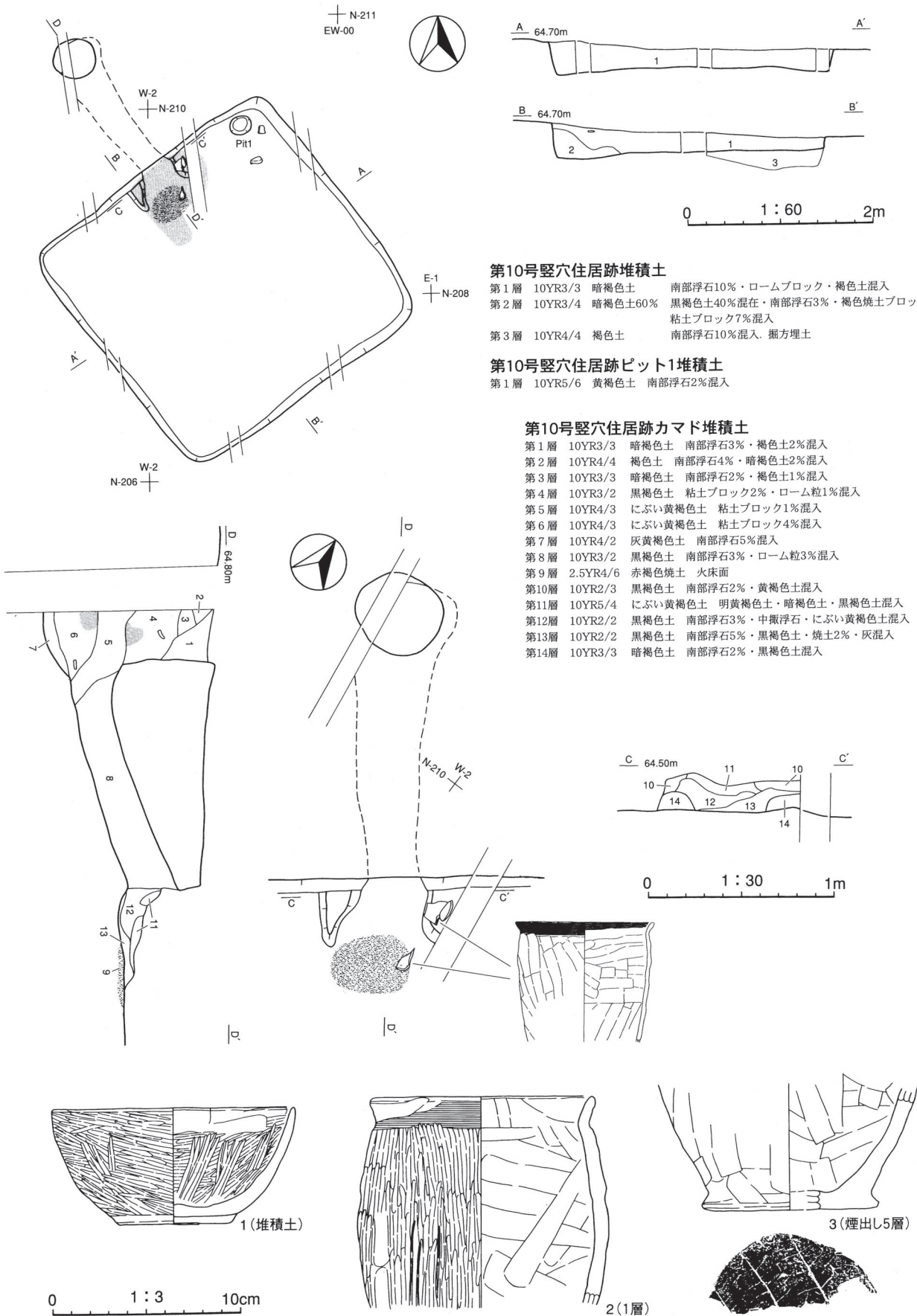


図24 第10号竪穴住居跡 (1)

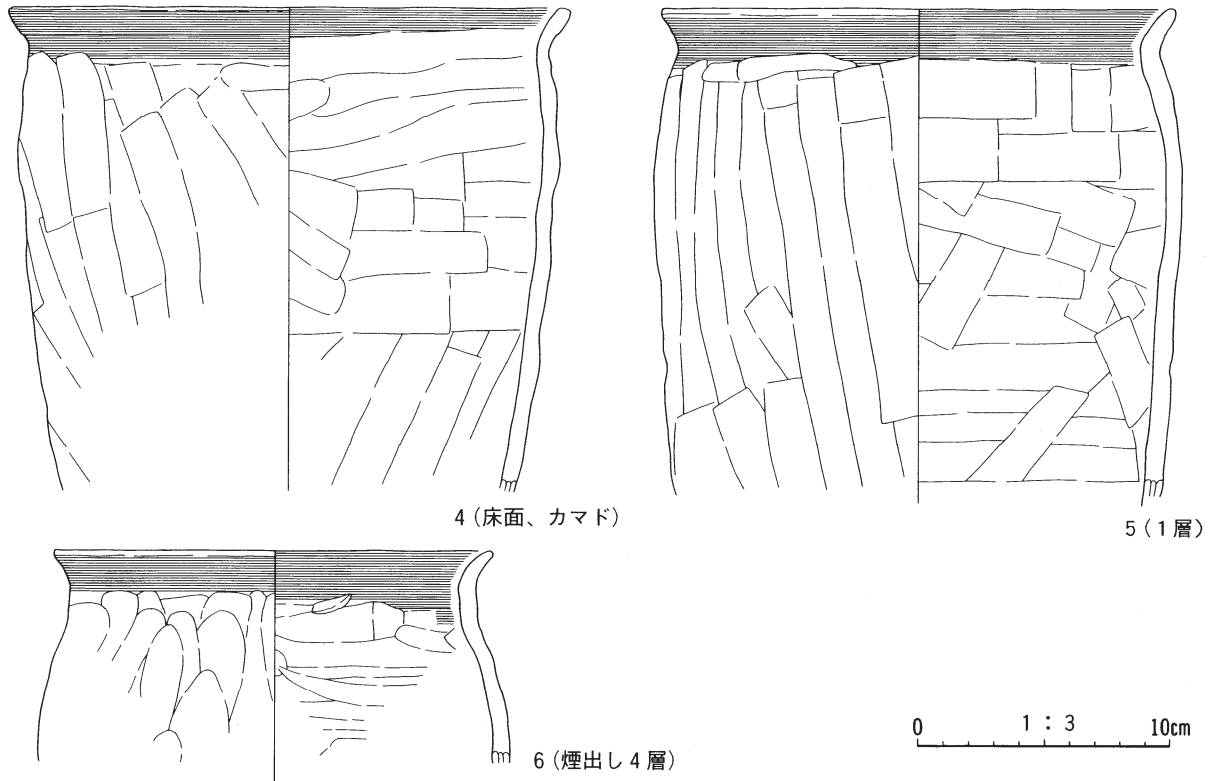


図25 第10号竪穴住居跡 (2)

[カマド] 北西壁の中央に位置する。カマドの方向は真北から25度西に傾く。カマドの遺存状態は悪く、煙道、両袖、火床面が残存する。右袖は現代の耕作により手前が削平されている。両袖は煙道に平行し、暗褐色土主体で構築される。火床面は42×32cm、深さ2cmの楕円形である。煙道は地下式で、火床面北端から長さ1.90m、幅36cmである。煙出しは開口部48×42cm、深さ94cmで、壁は現代の耕作により一部削平され不明であるが、ほぼ垂直に立ち上がるものと思われる。煙道は火床面奥から住居跡壁まで浅く落ち込み、住居跡壁から煙出しに向かって緩やかに下降する。煙出し底面は煙道より一段深くなり、底面は皿状となる。煙道の堆積土は褐色土を主体とし、全体に浮石が混入し、第4・6層には粘土がブロック状に混入する。第7層は自然堆積で、他は人為堆積である。

[柱穴] 住居跡内から1個のピットを検出した。ピットは22×20cm・深さ12cmの円形で、壁際に配置することから壁柱穴とも考えられる。

[出土遺物] 堆積土から7点、カマドから5点、煙出しから3点の計15点の土師器片が出土した。土師器はほぼ完形の坏1個と甕であり、図示したのは6点である。1は坏で内外面にミガキを施し、内面口縁部にはナデを施す。高台は体部を成形した後に付けたものである。他の5点は甕である。甕はナデ調整のものが多く、4と5は内面に輪積み痕が残る。口縁部が狭く、最大径が胴部にある長胴甕である。4は床面とカマドから出土した土師器片が接合したものである。

[小結] 出土遺物から、本住居跡の時期は平安時代と考えられる。

(野村)

第12号竪穴住居跡 < S I -12 > (図26)

[位置・確認] 調査区南西側、標高63.84~64.14m前後のG・H-91・92グリッドに位置する。基本層序第Ⅵ層から十和田a火山灰をブロック状に含む黒色土の方形プランとして検出した。

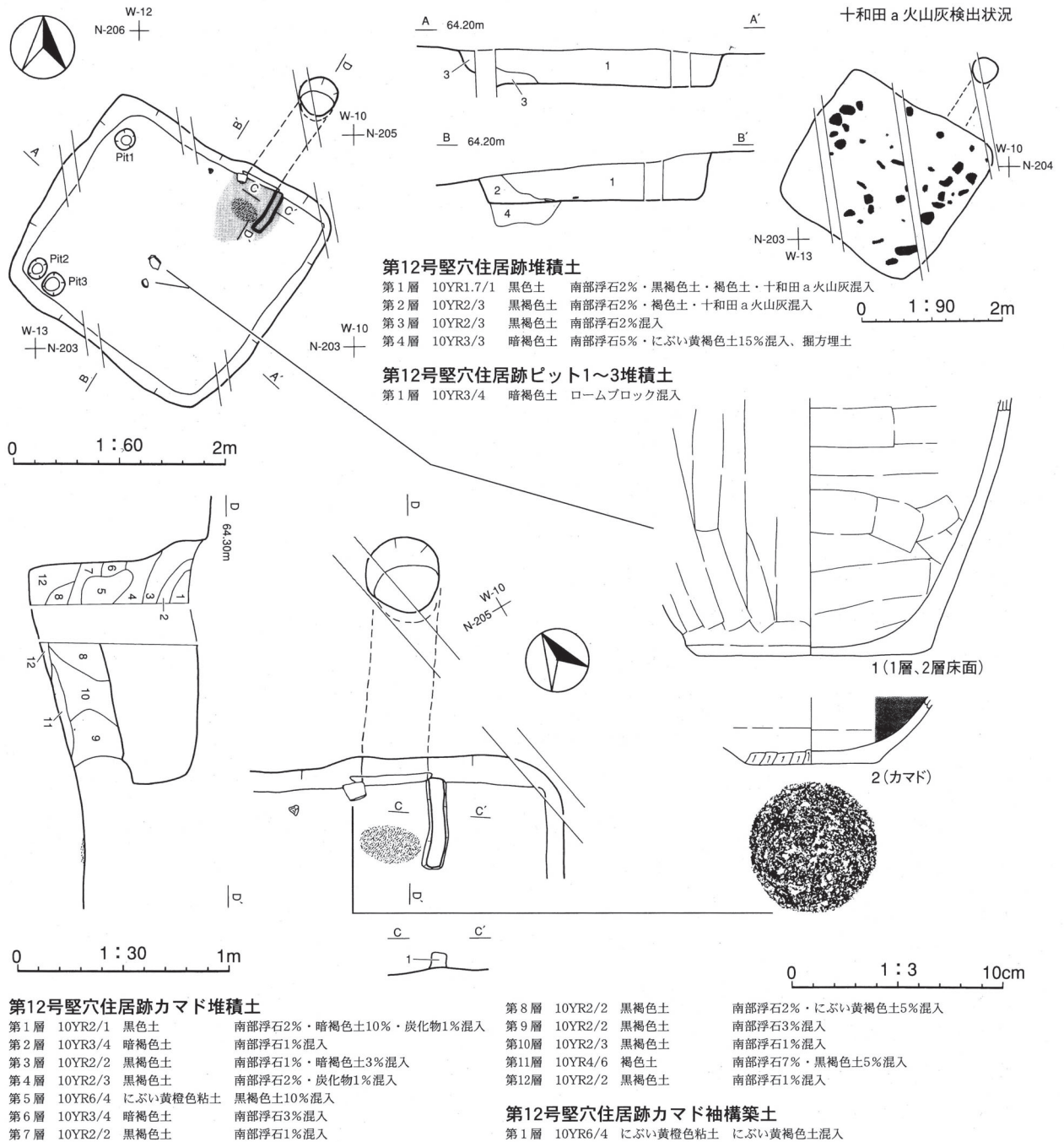


図26 第12号竪穴住居跡

〔平面形・規模〕平面形は方形で、長軸2.44×短軸2.18mである。検出面から床面までの深さは北東壁44cm、北西壁34cm、南東壁30cm、南西壁24cmで、壁は床面からやや外傾して立ち上がる。床面積は4.27㎡である。

〔堆積土〕黒色土主体で、4層に分けられ、全体に浮石が混入する。第1・2層には十和田 a 火山灰がブロック状に混入する。第1・2層は人為堆積で、第3層は自然堆積である。

〔床〕ほぼ平坦である。南西側は掘方埋土を床面とする。掘方は深さ20cm前後と深く、底面は若干起伏するが、ほぼ平坦である。

〔カマド〕北東壁の東寄りに位置する。カマドの方向は真北から35度東に傾く。カマドの遺存状態は

悪く、煙道、右袖、火床面が残存する。煙出しは現代の耕作により一部削平されている。袖は煙道に平行し、にぶい黄橙色粘土主体で構築される。火床面は28×18cm・深さ2cmの楕円形である。煙道は地下式で、火床面北東端から長さ1.24m、幅30cmである。煙出しは開口部径36cm、深さ84cmで、壁は開口部下に屈曲する段を持つがほぼ垂直に立ち上がる。煙道底面は火床面から緩やかに下降する。煙道の堆積土は褐色土を主体とし、全体に浮石が混入する人為堆積である。

〔柱穴〕住居跡内から3個のピットを検出した。ピット1は径20cm・深さ11cmの円形、ピット2は20×16cm・深さ10cmの円形、ピット3は径22cm・深さ10cmの円形である。壁際に配置することから壁柱穴とも考えられる。

〔出土遺物〕堆積土から1点、床面から2点、カマドから1点の土師器片とカマド北西側床面から鉄滓が1点出土した。図示したのは2点である。1は甕の底部で内外面にナデを施す。2はカマドから出土した坏の底部である。ロクロ成形で、内面に黒色処理が施される。

〔小結〕人為堆積土中に十和田a火山灰を混入することから、本住居跡が完全に埋没したのは10世紀初頭以降で、出土遺物から平安時代と考えられる。(野村)

第13号竪穴住居跡 < S I - 13 > (図27・28)

〔位置・確認〕調査区南西側、標高63.80~64.24m前後のH・I-91・92グリッドに位置する。基本層序第Ⅵ層から黒褐色土の方形プランとして検出した。

〔重複〕第54号溝状土坑と重複する。本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕平面形は北側が突出するがほぼ方形で、隅丸方形となり、長軸3.40×短軸3.06mである。検出面から床面までの深さは東壁53cm、西壁51cm、南壁36cm、北壁66cmで、壁は床面からやや外傾して立ち上がる。床面積は6.81㎡である。

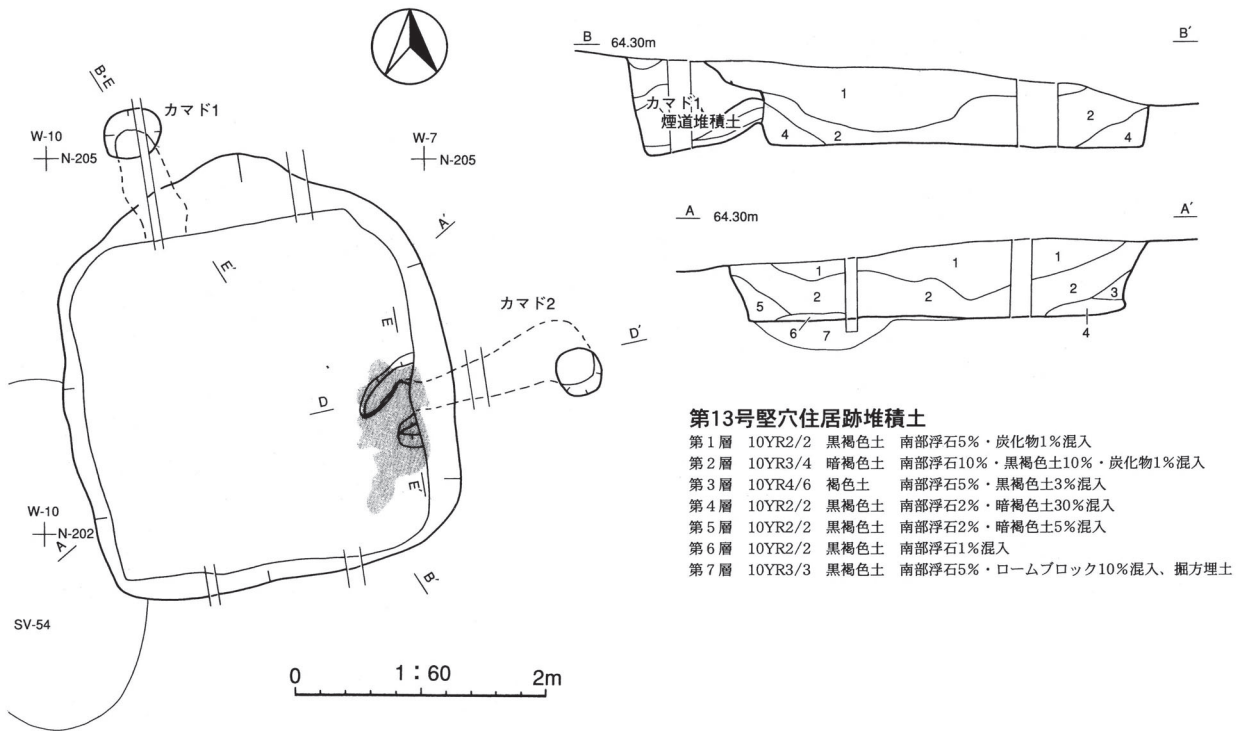
〔堆積土〕黒褐色土主体で、6層に分けられ、全体に浮石が混入する。第3・4層は自然堆積で、他は人為堆積である。

〔床〕ほぼ平坦である。西側は掘方埋土を床面とする。掘方は凹凸が多数あり、乱雑な状態である。

〔カマド〕2基設置されている。北壁の西寄りをカマド1、東壁の南寄りをカマド2とした。カマドの遺存状態からカマド1を廃棄した後、カマド2を構築・使用したものである。

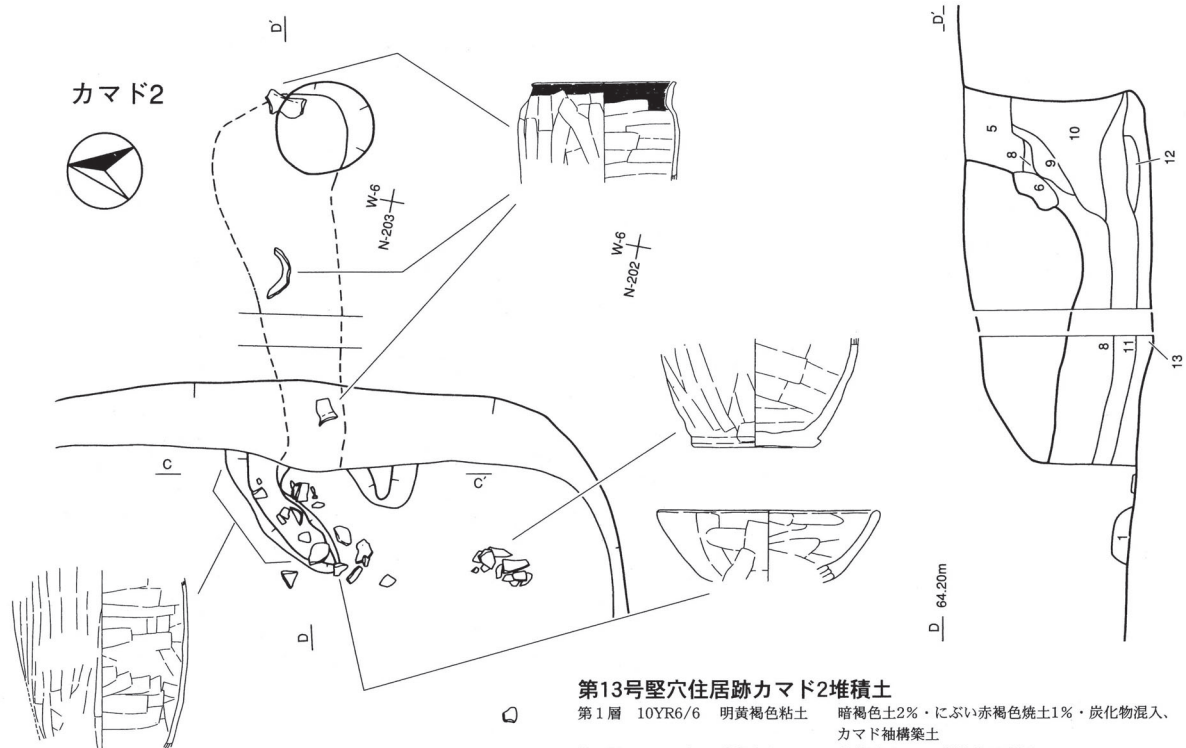
カマド1の方向は真北から20度西に傾く。遺存状態は悪く、煙道が残存するのみである。現代の耕作により一部削平されている。煙道は地下式で、壁から長さ92cm、幅40cmである。煙出しは開口部46×40cm、深さ80cmで、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。煙道底面は壁から緩やかに下降する。煙道の堆積土は褐色土を主体とし、全体に浮石が混入する。第7層は自然堆積で、それ以外は人為堆積である。

カマド2の方向は真北から74度東に傾く。遺存状態は良く、煙道、両袖が残存する。崩されたカマド構築粘土がカマドから右側に広がる。左袖は壁から右寄りに湾曲し、右袖はわずかに残る。明黄褐色粘土主体で構築される。煙道は地下式で、壁から長さ1.50m、幅42cmである。煙出しは開口部40×36cm、深さ72cmで、壁は弧状に立ち上がる。煙道底面は壁から30cm奥まで緩やかに下降し、途中からほぼ平坦となる。煙道の堆積土は褐色土を主体とし、全体に浮石が混入する。第2~4層はカマド堆積土、第5~13層は煙道堆積土である。第13層は灰層である。第13層は自然堆積で、それ以外



第13号竪穴住居跡堆積土

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石5%・炭化物1%混入
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石10%・黒褐色土10%・炭化物1%混入
- 第3層 10YR4/6 褐色土 南部浮石5%・黒褐色土3%混入
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石2%・暗褐色土30%混入
- 第5層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石2%・暗褐色土5%混入
- 第6層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石1%混入
- 第7層 10YR3/3 黒褐色土 南部浮石5%・ロームブロック10%混入、掘方埋土



第13号竪穴住居跡カマド2堆積土

- 第1層 10YR6/6 明黄褐色粘土 暗褐色土2%・にぶい赤褐色焼土1%・炭化物混入、カマド袖構築土
- 第2層 10YR5/8 黄褐色土 南部浮石10%・褐色土4%混入
- 第3層 10YR4/6 褐色土 南部浮石5%混入
- 第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 黒色土2%・炭化物2%・灰混入
- 第5層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石5%・明黄褐色土ブロック5%混入
- 第6層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石5%・褐色土層全体に混入
- 第7層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石2%混入
- 第8層 10YR5/6 黄褐色土 南部浮石2%混入
- 第9層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石5%・明黄褐色土ブロック7%混入
- 第10層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石5%・褐色土ブロック10%混入
- 第11層 10YR6/8 明黄褐色土50% 明黄褐色土50%混在・南部浮石3%・黒褐色土ブロック5%・炭化物2%混入
- 第12層 7.5YR2/2 黒褐色土 南部浮石3%混入
- 第13層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 南部浮石2%・暗褐色土20%混入

図27 第13号竪穴住居跡 (1)

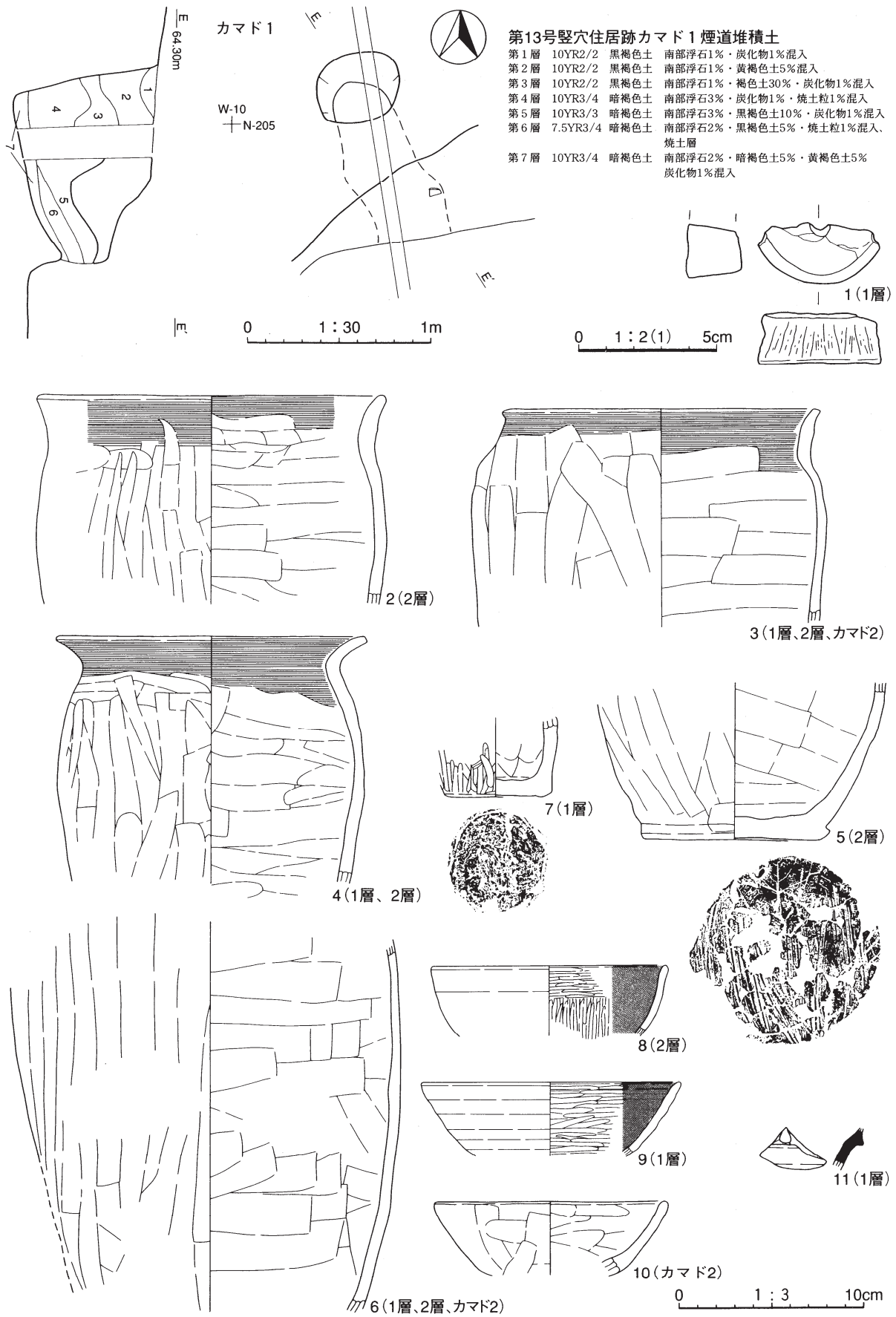


図28 第13号竪穴住居跡(2)

は人為堆積である。

〔出土遺物〕堆積土から11点、カマドから21点、煙道から3点の土器片、堆積土から須恵器片2点、土製品1点が出土した。土師器は甕と坏が出土し、図示したのは9点である。1は破損した土製紡錘車で、ヘラナデが施される。甕は内外面ともナデ主体で、胴部の張り出しが小さい長胴甕である。5の底面には擦痕がみられる。7は胴部が底面から直立し、底径が5.4cmと小型の土器である。8・9は住居跡堆積土から出土したロクロ成形の坏である。内面はミガキ調整に黒色処理が施されている。8は口縁にヨコ、胴部にタテのミガキが、9は全面にヨコのミガキ調整が施されている。10の坏はカマド2から出土した。非ロクロ成形で内外面にナデを施す。11の須恵器片は堆積土から出土したもので、形状から壺の頸部と思われる。

〔小結〕カマド1の煙道入り口が床面より約30cm高い位置にあり、火床面が検出されなかったことから、カマド2を構築する際、床を貼り替えた可能性がある。出土遺物から、本住居跡の時期は平安時代、9世紀以降と考えられる。(野村)

第14号竪穴住居跡 <SI-14> (図29)

〔位置・確認〕調査区西端、標高63.5～64mのE-92・93グリッドに位置する。西側の攪乱部分を除去後、基本層序第VI層で黒褐色土の落ち込みとして確認した。住居跡西側は調査区外に延びる。

〔平面形・規模〕検出したのは東辺3.55m・南辺1.1m・北辺30cmで、残存する床面積は2.40㎡である。南壁に比べ北壁がやや開くことから、平面形は方形のほか不整形の可能性もある。壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は東壁10cm・南壁5cm・北壁20cmである。

〔堆積土〕攪乱が床面まで達しているため、浮石混じりの黒褐色土が部分的に堆積するのみである。

〔床〕大半は掘方埋土を床面としている。掘方は基本層序第VI層まで掘り込まれ、粘土混じりの暗褐色土と褐色土で埋められている。その他は第VI層の掘方をそのまま床面としている。底面はほぼ平坦で、南側にやや傾斜する。

〔カマド〕南壁の東寄りに位置する。カマドの方向は真南から12.5度東に傾く。燃烧部が完全に崩され、崩落したカマド構築土と火床面が残存する。崩されたカマド構築土であるブロック状の粘土や焼土・炭化物混じりの暗褐色土は南壁から50×120cmの範囲に広がる。火床面は40×50cmの不整形で、深さ8cmほど被熱し赤変している。煙道はやや蛇行しながら南に延びる。火床面奥から30cmまでは床面と水平に掘られ、途中から煙出し壁面まで大きく下降する。底面はやや平坦である。壁からの長さは1.8m、火床面奥からの長さは1.9mである。幅は入り口で26cm、最大で50cm、煙出しで35cmとなる。残存する煙出しの深さは27cmで、壁は垂直に立ち上がる。煙道堆積土第1層の黄褐色ロームは煙道の中央に堆積し、ローム下面が帯状に被熱し赤変していることから崩落した煙道の天井と考えられる。第2層以下はブロック状の焼土・粘土・炭化物混じりの暗褐色土が多い。煙道の堆積状況から地下式カマドである。

〔出土遺物〕カマドから土師器片が6点、床面から礫が1点出土した。ロクロ成形の坏の口縁と内面調整がハケメで外面が剥落した小型甕(1)である。

〔小結〕出土遺物から平安時代の住居跡の可能性が高い。(杉野森)

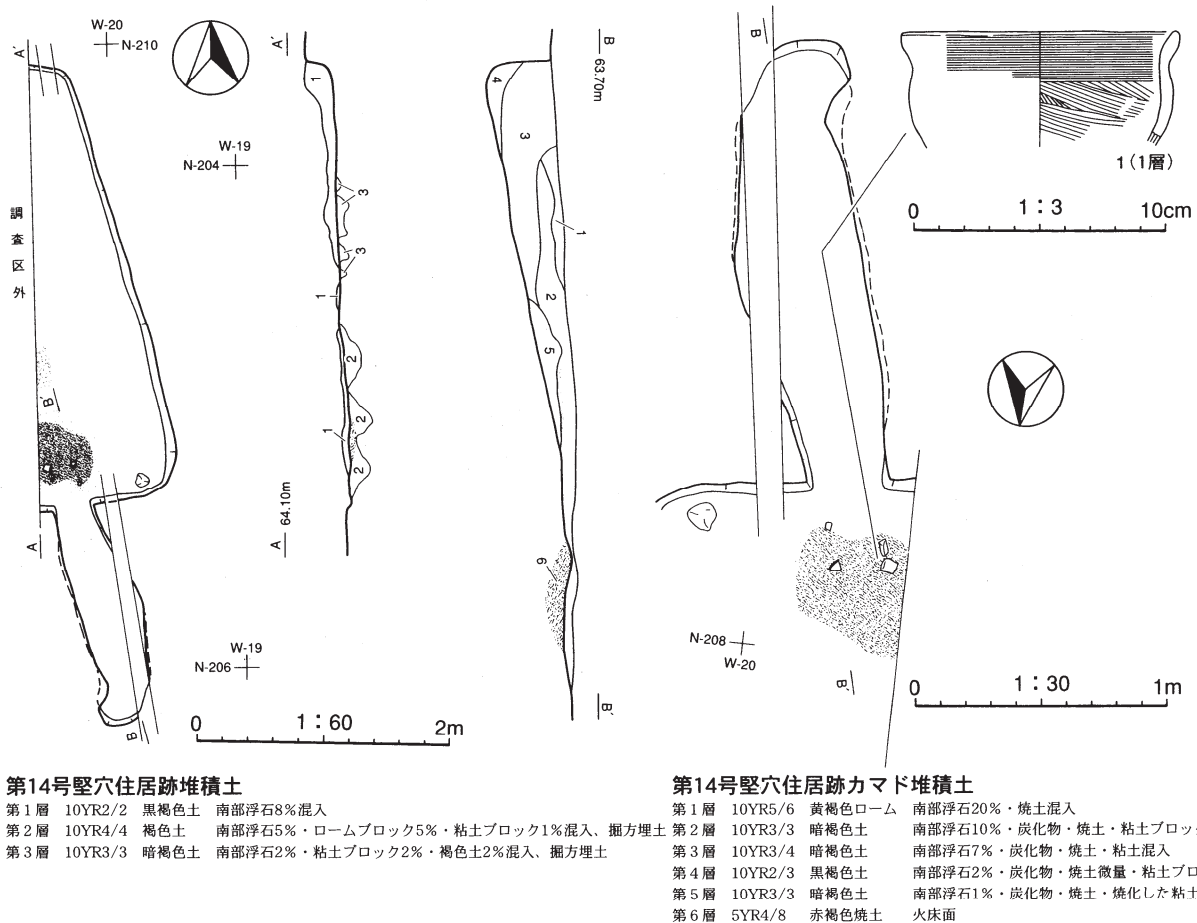


図29 第14号竪穴住居跡

第15号竪穴住居跡 < S I -15 > (図30)

[位置・確認] 西側緩斜面高位、標高65.5~66.0mのK-97グリッドに位置する。基本層序第V層で黒褐色土の方形の落ち込みとして確認した。

[重複] 第1号溝跡、第35号土坑、第8号溝状土坑と重複する。本住居跡は溝跡より古く、他の遺構より新しい。

[平面形・規模] 第1号溝跡により北東壁から南東壁にかけて床面まで削平されている。長軸3.10m・短軸2.90mのほぼ方形である。壁高は北東壁14cm・北西壁17m・南西壁10cm・南東壁7cmである。推定床面積8.16㎡である。

[堆積土] 中掬浮石混じりの黒褐色土が主体で、部分的に暗褐色土が堆積する。

[床] 基本層序第VI層の掘方をそのまま床面としている。床は堅く締まり、ほぼ平坦で北西から南東にかけてやや傾斜している。

[カマド] 北西壁中央に位置する半地下式カマドである。カマドの方向は真北から西に39度傾斜している。北西壁中央から手前1.2m・幅1.1mには壊されたカマド構築土が炭化物や焼土と混じった状態で広がっている。残存するカマド燃焼部は幅87cmで、両袖と火床面が残る。袖は暗褐色土混じりのにぶい黄橙色粘土で構築されている。規模は左袖が長さ42cm・幅30cm・高さ10cm、右袖は長さ35cm・幅21cm・高さ10cmである。火床面は30×37cmのやや楕円形で、深さ5cmほど被熱し赤変している。煙道は火床面からほぼ平行して北西方向に直線状に延びる。底面はやや起伏がある。長さは火床面奥から1m、幅はほぼ一定で30cmである。煙出しは底面から内傾し、検出面より18cm下からほ

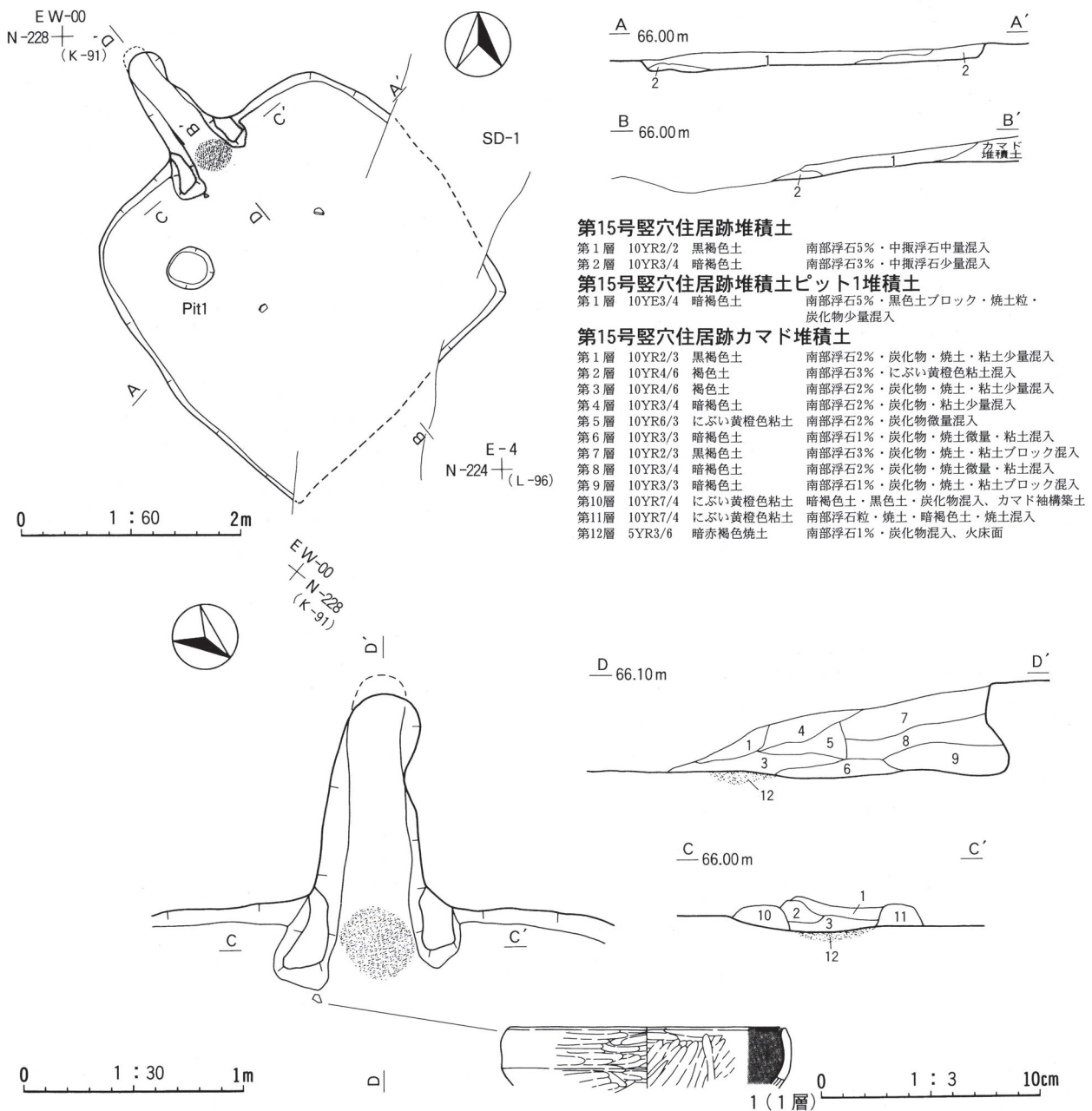


図30 第15号竪穴住居跡

ほぼ垂直に立ち上がる。深さは43cmである。煙道堆積土は暗褐色土を主体とする。全体に焼土と炭化物が散在し、部分的にブロック状の粘土が混じる。自然堆積と思われる。

〔柱穴〕カマド左袖手前にピットが検出された。28×42cmの楕円形で、深さ13cmである。焼土と炭化物が混じったやや軟質の暗褐色土が堆積している。用途は不明である。

〔出土遺物〕土師器片が堆積土から3点、カマドから1点出土した。1の坏はカマドから出土したもので、外面に稜を有し内湾するもので、内面は黒色処理を施されている。そのほかは甕の胴部片で外面がナデ調整のもの2点、ハケメ調整のもの1点である。

〔小結〕出土遺物から8世紀の住居跡と思われる。

(杉野森)

第16号竪穴住居跡 < S I - 16 > (図31・32)

[位置・確認] 調査区南西側、標高65.08~65.58m前後のE~G-95、F・G-96グリッドに位置する。基本層序第Ⅵ層面で検出したが、黒褐色土と暗褐色土が混在する攪乱が広がるため、この時点では明確なプランを捉えることは出来なかった。

[重複] 第44号土坑と重複する。本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は方形で、長軸6.02×短軸5.80mである。北東壁と南東壁は攪乱により一部削平されている。検出面から床面までの深さは北東壁24cm、北西壁50cm、南東壁10cm、南西壁32cmで、壁は床面からやや外傾して立ち上がる。床面積は32.64m²である。

[堆積土] 暗褐色土主体で、5層に分けられ、全体に浮石が混入する。第4層は自然堆積で、それ以外は人為堆積である。

[床] 東側は攪乱をうけ、床が削平されている。検出した床面はほぼ平坦で、掘方埋土を床面とする。掘方底面は起伏があるが、深さはほぼ一定である。

[カマド] 北西壁中央に位置する。カマドの方向は真北から50度西に傾く。カマドは完全に破壊され、煙道、カマド構築粘土、火床面が残存する。カマド構築粘土は前庭部に1.66×1.20mの範囲に不整形に広がる。火床面は径62cmの不整形で、深さ8cmまで被熱している。煙道は地下式で、火床面北端から長さ1.80m、幅34cmである。煙道底面は緩やかに下降する。煙出しは開口部40×28cm、深さ96cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。煙道の堆積土は黒褐色土を主体とし、全体に浮石が混入する。煙出しの第3層・7層にはブロック状の粘土が多量に含まれる。人為堆積である。

[柱穴] 8個のピットを検出した。ピット1は66×52cm・深さ54cmの不整形、ピット2は径56cm・深さ9cmの円形、ピット3は54×30cm・深さ76cmの楕円形、ピット4は60×56cm・深さ10cmの円形、ピット7は44×34cm・深さ7cmの楕円形、ピット8は52×28cm・深さ35cmの不整形である。このうち、ピット1・3・8は住居跡対角線から約1.5~1.8mに位置する。底面はほぼ同規模の楕円形で、深さが35cm以上である。堆積土はピット1・8が黒色土、ピット8が暗褐色土である。これらの3つのピットは主柱穴に相当する。東側は掘方底面まで攪乱をうけていることから、本来存在していた主柱穴が削平されたことも考えられ、4本柱主柱穴であった可能性もある。他のピットにはロームブロック混じりの暗褐色土が堆積する。深さと位置をみると柱穴の可能性が低く、用途は不明である。

[焼土] 東側角から1基検出した。60×34cm・深さ4cmの不整形である。第2層は掘方堆積土である。地床炉と考えられるが明確ではない。

[出入り口] カマドが設置されている北西壁に張り出しを持つ。カマドから約80cm西に位置する。規模は86×76cmの方形で、検出面からの深さは20cm、床面からの高さは約30cmである。張り出し手前に暗褐色土がスローブ状に盛られ、強く締まる。

[出土遺物] 堆積土から12点、床面から4点、カマドから5点、煙道から3点、掘方から1点の土師器片と堆積土から石器が2点出土した。図示した土師器は6点である。1・2はカマド煙道から出土した甕である。口縁部内外面に回転ナデを施し、胴部内外面にハケメとナデ調整を施す。そのほかは胴部内外面ともナデ調整の甕である。6は掘方埋土から出土した坏である。ロクロ成形され、内面はミガキ調整と黒色処理が施されている。石器は石鏃1点・磨石1点出土した。

[小結] 出土遺物から、本住居跡の時期は平安時代のものと考えられる。(野村)

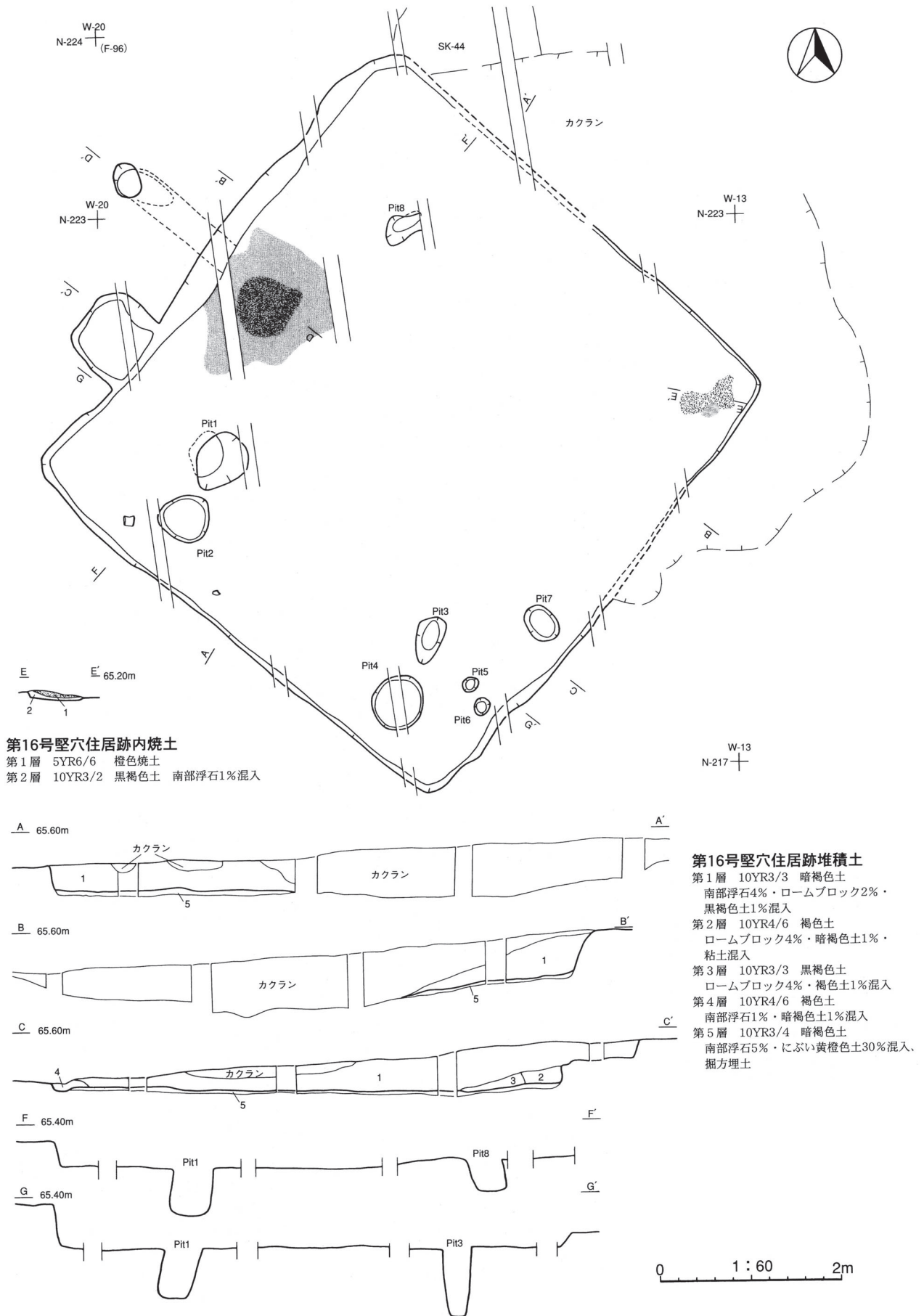


図31 第16号堅穴住居跡 (1)

第16号竪穴住居跡煙道堆積土

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石3%・炭化物2%混入
- 第2層 10YR3/2 黒褐色土 南部浮石5%・炭化物1%混入
- 第3層 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石3%・にぶい黄橙色粘土40%混入
- 第4層 10YR5/8 黄褐色土 南部浮石3%混入
- 第5層 10YR5/8 明褐色土 南部浮石2%・暗褐色土混入
- 第6層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石5%・炭化物3%混入
- 第7層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石3%・炭化物3%・にぶい黄橙色粘土30%混入
- 第8層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石3%・黒色土15%混入
- 第9層 2.5YR6/6 橙色焼土 火床面

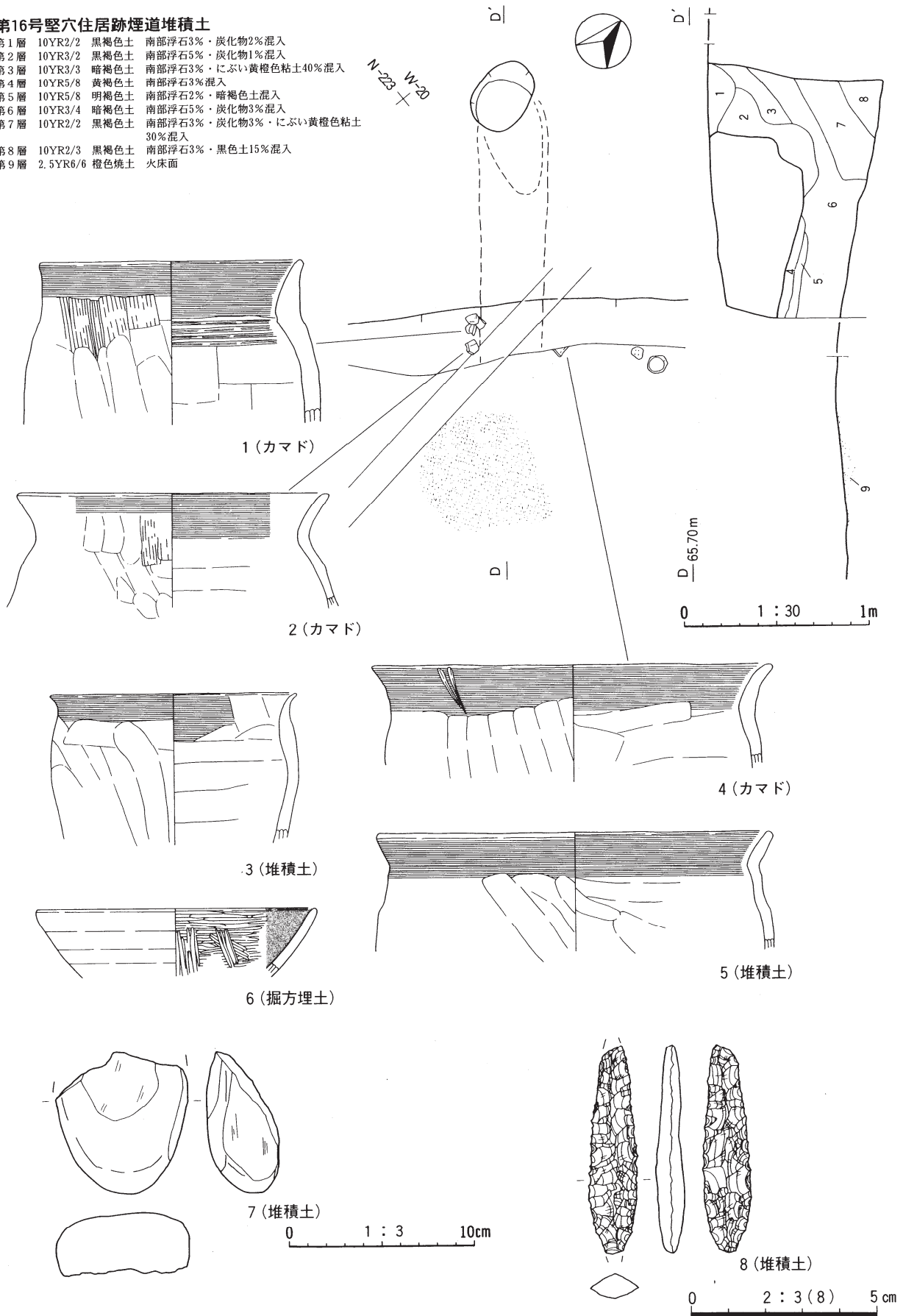


図32 第16号竪穴住居跡 (2)

第2節 方形周溝

調査区北西端から方形周溝を1基確認した。

第1号方形周溝 <SX-1> (図33・34)

[位置・確認] 調査区北西端の標高71.50~72.20mの丘陵頂部東側縁辺、F~H-107~109グリッドに位置する。第VI層で確認したが、全体に削平をうけている。

[重複] 第48号溝状土坑と重複する。本遺構が新しい。

[平面形・規模] 北西辺の北側が開口する溝が隅丸方形にめぐる。周溝の全長は21m、北東辺5.8・南東辺6.4・北西辺2.2・南西辺6.6mで、ほぼ正方形である。検出面での溝の幅は16~40cm・深さ4~12cmである。底面は若干起伏するが、ほぼ平坦である。断面は壁が底面から緩やかに立ち上がる逆台形である。周溝内は基本層序第V層が周溝検出面より高くマウンド状となる。マウンド状部分は南西側が削平されるが、ほぼ方形と考えられる。北東辺・東側隅は、マウンド状部分と接近する。周溝の外周からの全長は長軸3.72×短軸3.68mである。

[堆積土] 周溝は基本層序第VI層で確認した。周溝内北東側は基本層序第V層がマウンド状になる。第1層は耕作土、第2・3層は人為堆積土、或いは、マウンド状部分に盛土があり、そこから溝に流入した可能性も考えられる。第2層は褐色土主体、第3層は暗褐色土主体で二層とも全体に浮石が混入する。

[出土遺物] マウンド状部分から、2点の土器片が出土した。外面にLRを横位方向に施し、内面にナデを施す縄文時代後期と考えられる土器片と外面は不明だが、内面にナデが施された土師器片である。耕作土に含まれた土器片と考えられる。

[小結] 遺構に伴う出土遺物がなかったため、詳細な時期は不明であるが、他の出土遺構から奈良・平安時代と考えられる。用途に関しても詳細は不明であるが、周溝堆積土がマウンド状部分からの流入であるとすれば、墓としての機能も考えられる。(野村)

第3節 溝跡

溝跡を12条確認した。

第1号溝跡 <SD-1> (図34)

[位置・確認] 標高は65.50~69.00m前後のK~P-95~107グリッドに位置する。基本層序第V層で確認した。

[重複] 第15号竪穴住居跡・第5号溝状土坑と重複する。本遺構が新しい。

[形態・規模] 北東~南西方向にはしる。北東端部は傾斜地の段丘崖に若干延びると思われる。長さ4.74m・幅1.00~1.60m・深さ12~28cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面は逆台形である。

[堆積土] 浮石が混入する黒褐色土が主体である。自然堆積と考えられる。

[出土遺物] 堆積土から土師器片10点・須恵器片1点が出土した。5点図示した。5は須恵器の甕で

外面にタタキを施し、内面にナデを施す。

[小結] 第15号竪穴住居跡との重複から、住居廃絶後の奈良・平安時代と考えられる。

第2号溝跡 <SD-2> (図35)

[位置・確認] 南側調査区境界付近の緩斜面、標高は62.70～62.88m前後のR・S-89・90グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層で確認した。

[重複] 第9号溝状土坑と重複する。本遺構が新しい。

[形態・規模] 南西～北東方向にはしる。長さ4.74m・幅22～40cm・深さ2～14cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面は逆台形である。

[堆積土] 浮石が混入する黒色土が主体である。自然堆積と考えられる。

[小結] 奈良時代の竪穴住居跡と平行していることから、関連性が考えられる。時期は奈良時代と考えられる。

第3号溝跡 <SD-3> (図35)

[位置・確認] 標高は60.54～60.94m前後のU～W-90～92グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層で確認した。

[重複] 第11号溝状土坑と重複する。本遺構が新しい。

[形態・規模] 南西～北東方向にはしる。長さ8.62m・幅60cm・深さ3～22cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面は皿形である。

[堆積土] 浮石が混入する黒色土が主体である。自然堆積と考えられる。

[小結] 奈良時代の竪穴住居跡と平行していることから、関連性が考えられる。時期は奈良時代と考えられる。

第4号溝跡 <SD-4> (図35)

[位置・確認] 南側調査区境界付近、標高は61.90～62.48mのS・T-89・90グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層で確認した。

[形態・規模] 南西から北東方向にはしる。長さ8.70m・幅66cm・深さ3～8cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形である。

[堆積土] 浮石混じりの黒色土主体である。自然堆積と考えられる。

[出土遺物] 土師器片1点・須恵器片1点が出土した。図示したのは1点である。ロクロ成形した須恵器の甕である。

[小結] 奈良時代の竪穴住居跡と平行していることから、関連性が考えられる。時期は奈良時代と考えられる。

第5号溝跡 <SD-5> (図34)

[位置・確認] 標高は68.50～71.50m前後のE～H-102～107グリッドに位置する。基本層序第Ⅵ層で確認した。

[重複] 第6号溝跡と重複する。本遺構が新しい。

[形態・規模] 北西～南東方向にはしる。北西端は調査区外に延び、南東側は削平されるため詳細は不明である。検出部分は長さ35.60m・幅1.00～1.60m・深さ3～16cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面は皿形である。

[堆積土] 浮石が混入する黒褐色土が主体である。自然堆積と考えられる。

[小結] 第6号溝跡と重複することから、時期は10世紀後半以降と考えられる。

第6号溝跡 <SD-6> (図34)

[位置・確認] 標高は65.25～72.00m前後のE～K-95～107グリッドに位置する。基本層序第VI層で確認した。

[重複] 第5号溝跡、第30・31号土坑、第8号溝状土坑と重複する。第5号溝跡より古く、第30・31号、第8号溝状土坑より新しい。

[形態・規模] 北西～南東方向にはしる。北西端は調査区外に延び、南東先端はSD-5南西端に近接する。検出部分は長さ59.20m・幅40～80cm・深さ1～25cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面はU形である。

[堆積土] 浮石が混入する黒褐色土が主体である。自然堆積と考えられる。

[出土遺物] 堆積土から土師器片が1点出土した。

[小結] B区第1号溝跡とつながると考えられる。時期は10世紀後半以降と考えられる。

第7号溝跡 <SD-7> (図34)

[位置・確認] 標高は65～67.75m前後のC～K-94～102グリッドに位置する。基本層序第VI層で確認した。

[重複] 第9・12号溝跡と重複する。本遺構が新しい。

[形態・規模] 北西～南東方向にはしる。北西端は調査区外に延び、南東側は削平されるため詳細は不明である。検出部分は長さ43.20m・幅40～80cm・深さ1～24cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面は皿形である。

[堆積土] 黒褐色土が主体である。自然堆積と考えられる。

[小結] B区第2号溝跡とつながると考えられる。時期は10世紀後半以降と考えられる。

第8号溝跡 <SD-8> (図36)

[位置・確認] 南側調査区境界付近、標高は63.70m前後のH・I-90グリッドに位置する。基本層序第VI層で確認した。

[重複] 第15号土坑と重複する。本遺構が新しい。

[形態・規模] 北東～南西方向にはしる。長さ3.82m・幅30cm・深さ4～10cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面は椀形である。

[堆積土] 浮石が混入する黒褐色土主体である。自然堆積と考えられる。

[小結] 第9号竪穴住居跡に平行することから、関連性が考えられる。時期は住居跡と同じく奈良時

代と考えられる。

第9号溝跡 <SD-9> (図36)

[位置・確認] 標高66.18m前後のG・H-97・98グリッドに位置する。基本層序第Ⅵ層で確認した。

[重複] 第7号溝跡と重複する。本遺構が古い。

[形態・規模] 第7号溝跡により削平されるため、詳細は不明であるが、南西側が開口する「コ」の字形と考えられる。長さ推定7.56m・幅24~48cm・深さ1~12cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面は椀形である。

[堆積土] 黄褐色土主体である。人為堆積と考えられる。

[小結] 他の確認遺構から、時期は奈良・平安時代と考えられる。

第10号溝跡 <SD-10> (図36)

[位置・確認] 調査区東側境界斜面、標高は56.29m前後のⅡB-101グリッドに位置する。基本層序第Ⅴ層で確認した。

[重複] 第36号土坑と重複する。本遺構が新しい。

[形態・規模] 南西~北東方向にはしる。調査区外に延びるため、詳細は不明である。検出部分は長さ推定5.34m・幅36~48cm・深さ3~14cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面は椀形である。

[堆積土] 第Ⅲ層上面から掘り込まれる。浮石が混入する黒色土主体である。自然堆積と考えられる。

[小結] 層位的に縄文中期以降、他の溝跡確認状況から奈良・平安時代と考えられる。

第11号溝跡 <SD-11> (図36)

[位置・確認] 調査区東側境界斜面、標高は66.20m前後のⅡA~ⅡC-105グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層で確認した。

[形態・規模] 西~東方向にはしる。調査区外に延びるため、詳細は不明である。検出部分は長さ推定6.54m・幅21~30cm・深さ2~11cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面はU形である。

[堆積土] 第Ⅲ層上面から掘り込まれる。浮石が混入する黒色土主体である。自然堆積と考えられる。

[小結] 他の溝跡確認状況から奈良・平安時代と考えられる。

第12号溝跡 <SD-12> (図36)

[位置・確認] 標高は65.05m前後のJ~K-94グリッドに位置する。基本層序第Ⅵ層で確認した。

[形態・規模] 第7号溝跡に削平されるため、詳細は不明である。「J」字形か「コ」の字形になると考えられる。検出部分は長さ2.22m・幅36~54cm・深さ2~6cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面は皿形である。

[堆積土] 浮石が混入する黒褐色土主体である。人為堆積と考えられる。

[小結] 他の確認遺構から、時期は奈良・平安時代と考えられる。

(野村)

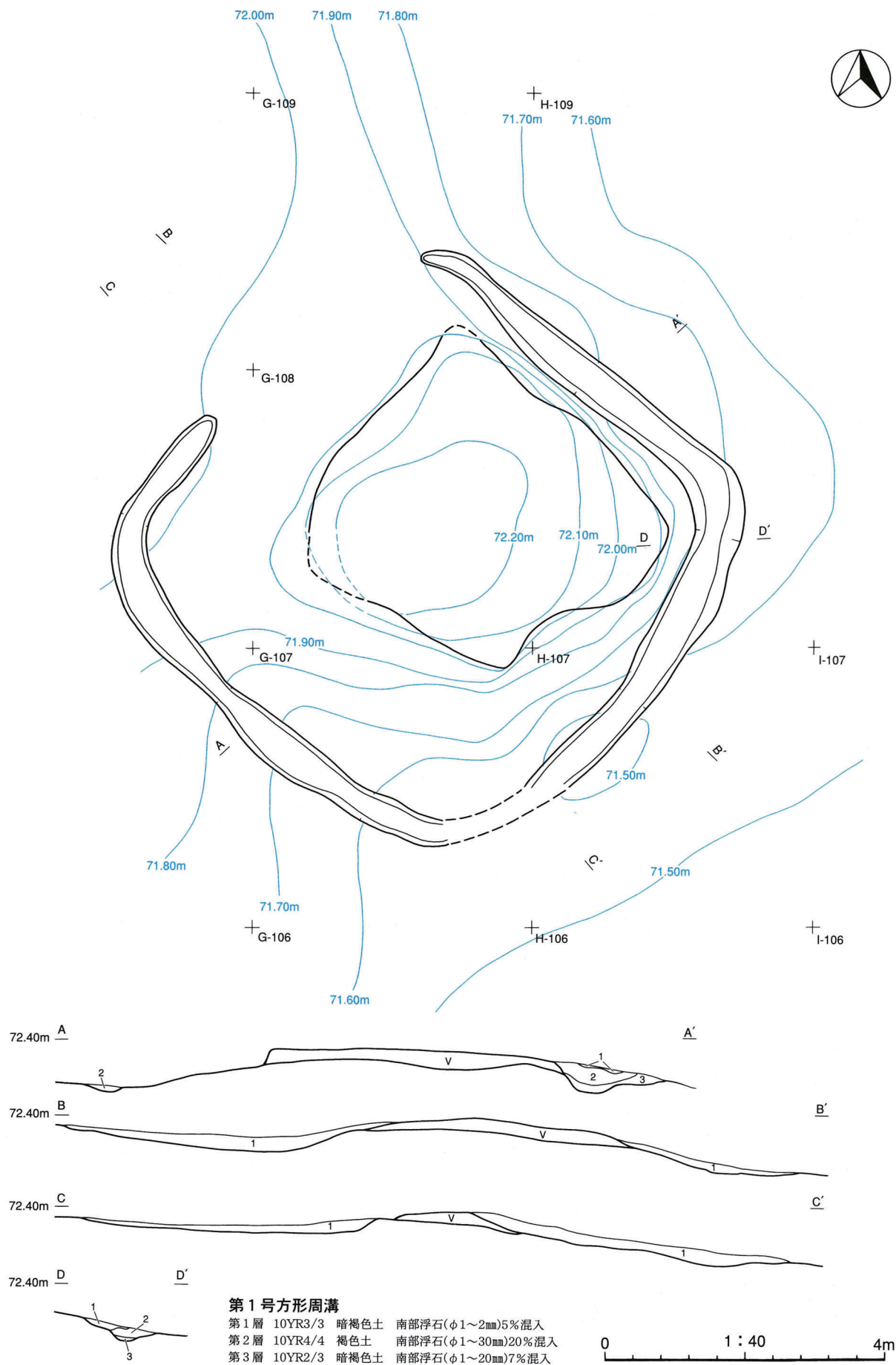
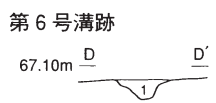
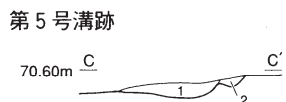
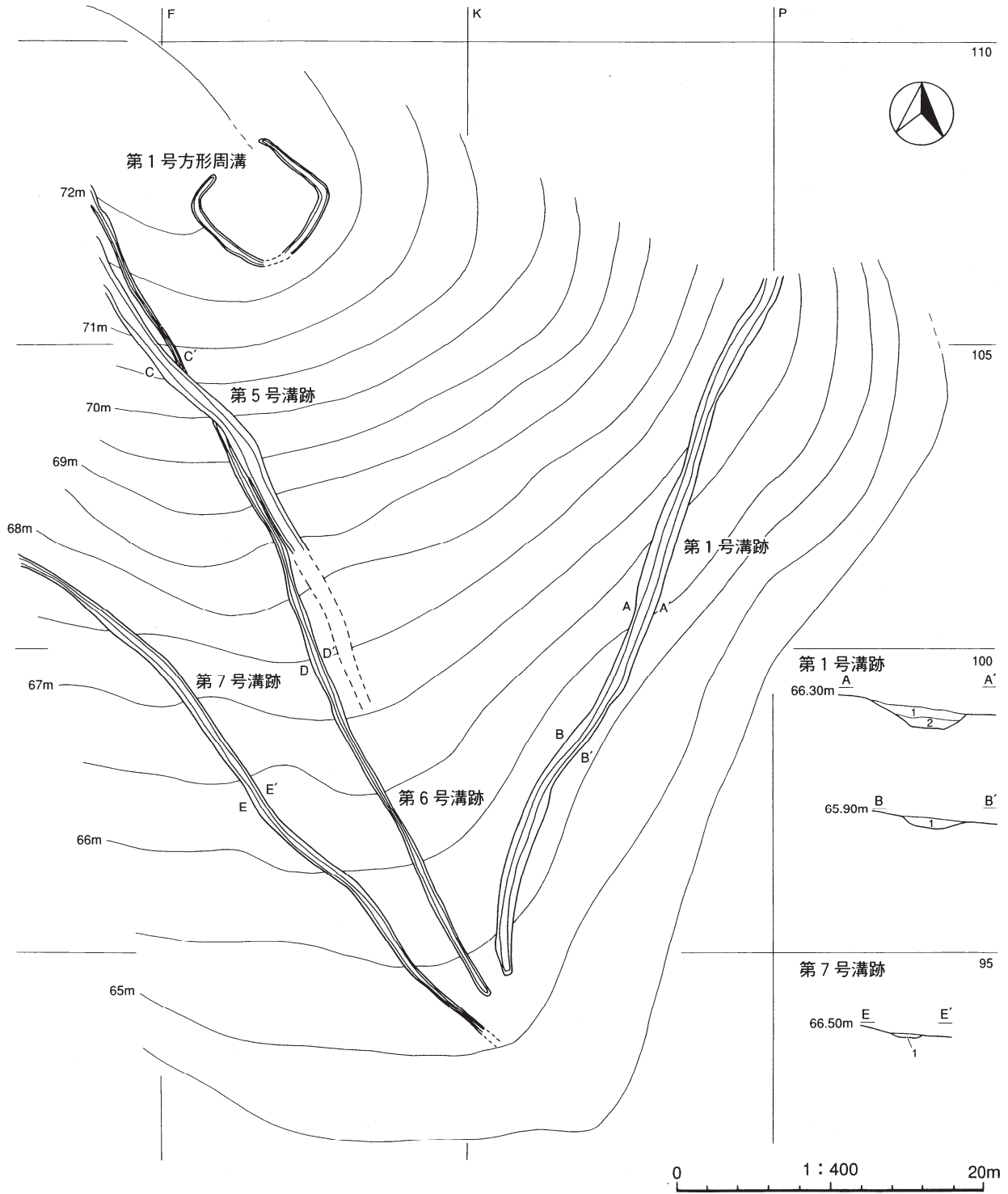


図33 第1号方形周溝



土層断面は1:80

第1号溝跡			
A-A'			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ1~3mm)2%混入
第2層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土25%・南部浮石(φ1~2mm)2%混入
B-B'			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	浮石(φ1~5mm)2%混入
第5号溝跡			
第1層	10YR2/3	黒褐色土	10YR5/6黄褐色土ブロック10%・南部浮石(φ1~3mm)5%・中振浮石中量混入
第2層 (SD6)	10YR3/3	暗褐色土	10YR5/6黄褐色土ブロック5%・南部浮石(φ1~5mm)5%・中振浮石中量混入
第6号溝跡			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR5/6黄褐色土5%・南部浮石(φ1~3mm)3%混入
第7号溝跡			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR4/6褐色土3%混入

図34 第1号方形周溝、第1・5・6・7号溝跡

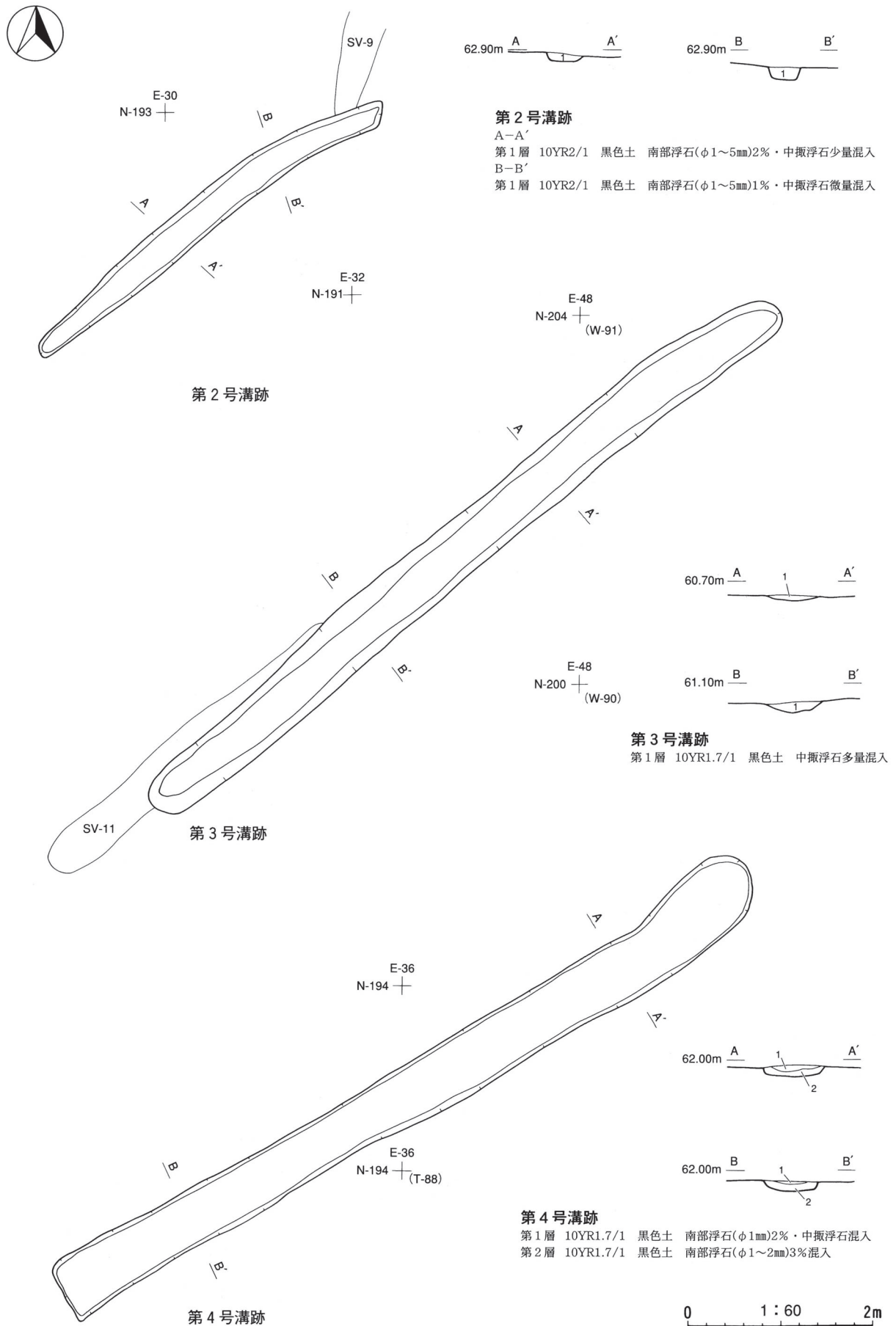
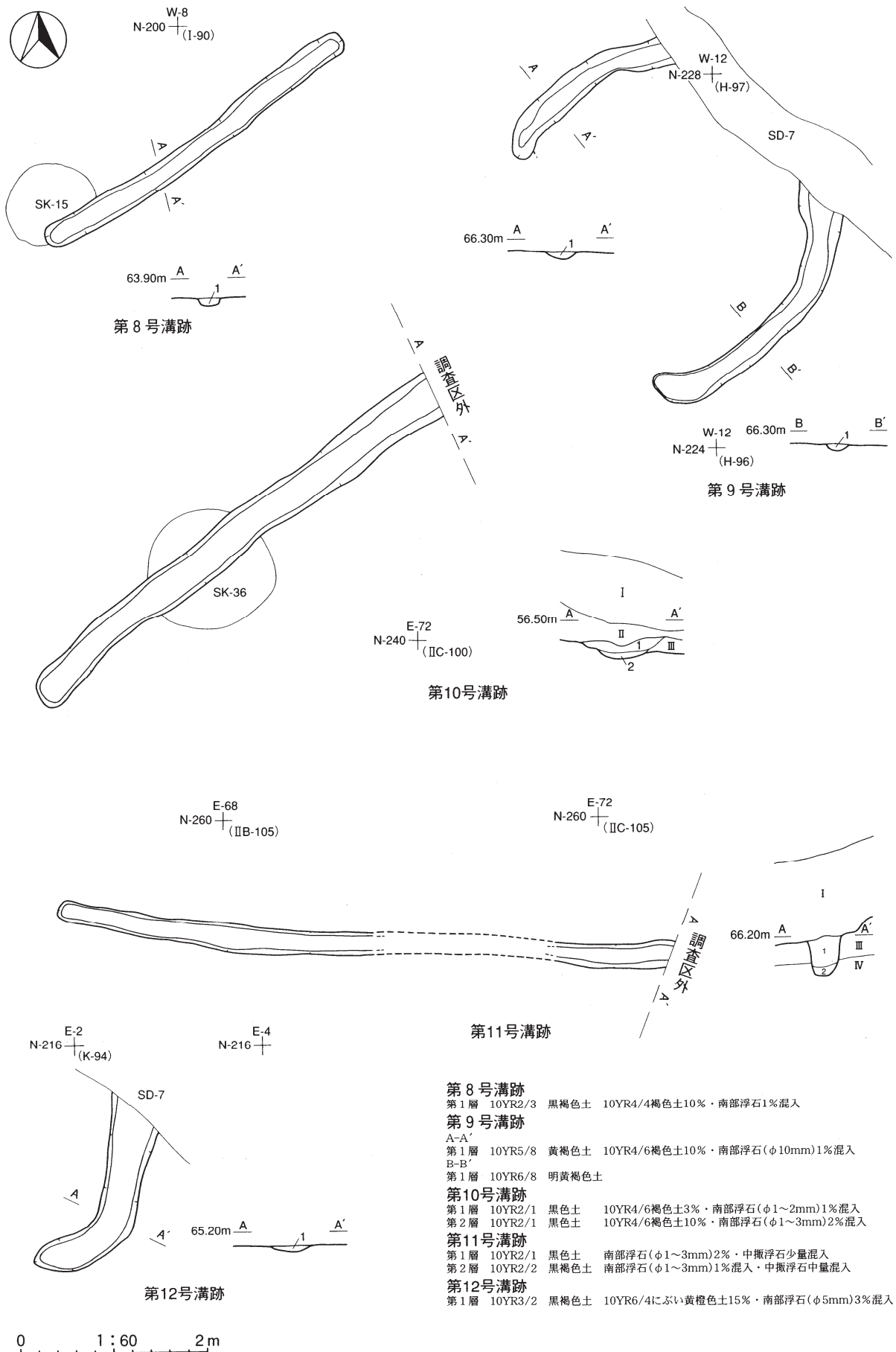


図35 溝跡 1



第8号溝跡

第1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR4/6褐色土10%・南部浮石1%混入

第9号溝跡

A-A' 第1層 10YR5/8 黄褐色土 10YR4/6褐色土10%・南部浮石(φ10mm)1%混入

B-B'

第1層 10YR6/8 明黄褐色土

第10号溝跡

第1層 10YR2/1 黒色土 10YR4/6褐色土3%・南部浮石(φ1~2mm)1%混入

第2層 10YR2/1 黒色土 10YR4/6褐色土10%・南部浮石(φ1~3mm)2%混入

第11号溝跡

第1層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~3mm)2%・中振浮石少量混入

第2層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~3mm)1%混入・中振浮石中量混入

第12号溝跡

第1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR6/4にぶい黄橙色土15%・南部浮石(φ5mm)3%混入

図36 溝跡 2

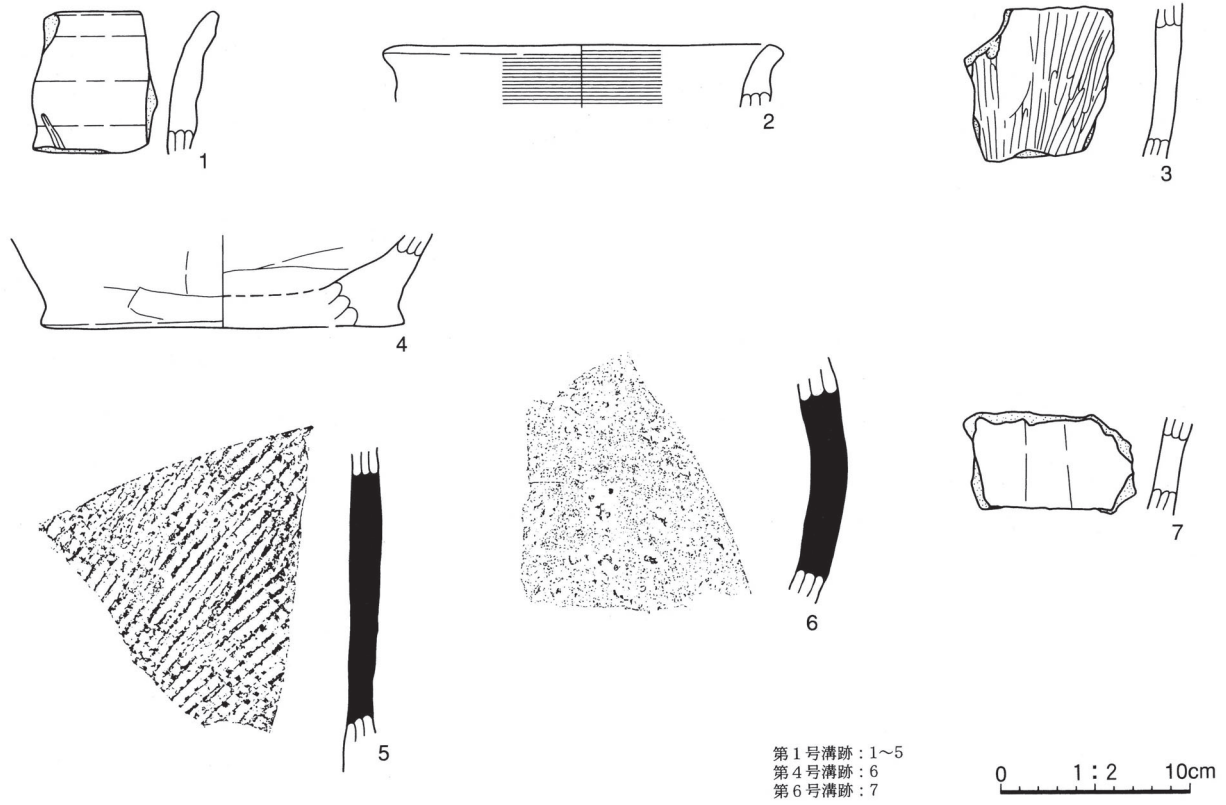


図37 溝跡出土遺物

第4節 土坑・焼土遺構

岩ノ沢平遺跡からは、計432基の土坑が確認された。平成10年度調査では、382基（A区から169基・B区から213基）、平成11年度調査では50基が確認された。平成11年度調査の土坑検出状況は、調査区北西側標高71.74m前後の丘陵頂部縁辺から2基、調査区北東側標高57.50～66.50m前後の斜面地から10基、南東側標高56.00～64.00m前後の斜面地から16基、南西側標高63.75～67.60m前後の斜面地から22基の4ブロックから確認された。特に斜面地の3ブロックから多数確認された。土坑は時期によって、第Ⅰ群～第Ⅳ群に大別される。さらに底面施設の形態によって、第Ⅰ群はA～B、第Ⅱ群はA～Dに細分される。第Ⅰ群は縄文時代早期の土坑、第Ⅱ群は縄文時代前期中葉～後期の土坑、第Ⅲ群は奈良・平安時代の土坑、第Ⅳ群はその他の土坑である。第Ⅰ・Ⅱ群の大別は、堆積土中に混入する南部浮石と中振浮石の堆積状況を分類基準とした。縄文時代前期中葉に降下したとされる南部浮石と縄文時代前期中葉に降下したとされる中振浮石の間には、約2,000年の時間幅がある。このことから、早期の土坑が中振浮石降下前までに埋まりきらないとは考えにくい。よって南部浮石のみが混入するものを縄文時代早期の土坑とした。中振浮石が混入する土坑は縄文時代前期中葉～後期とした。第Ⅲ群は、出土遺物・形状・周辺出土遺構から奈良・平安時代とした。

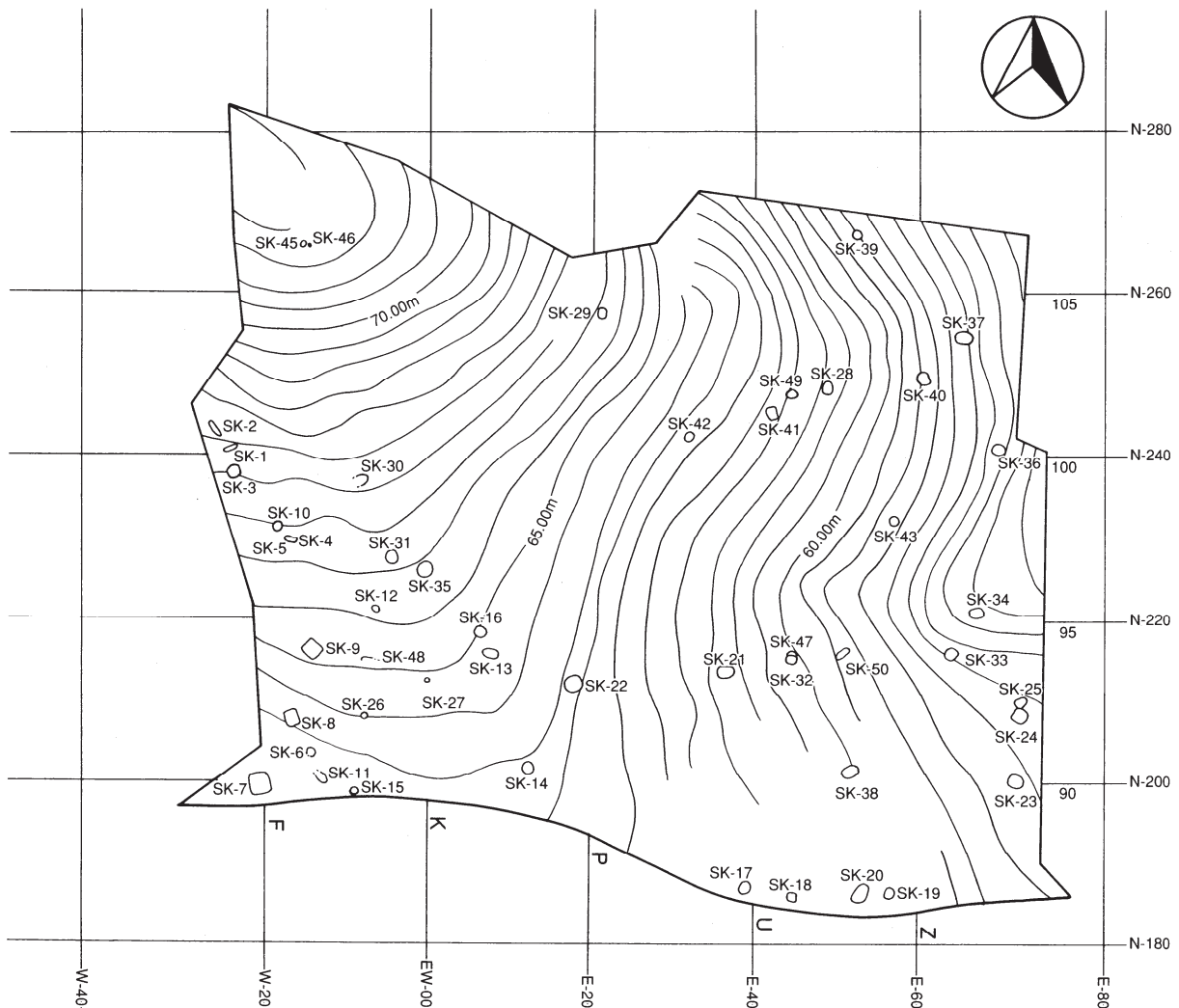


図38 土坑検出状況

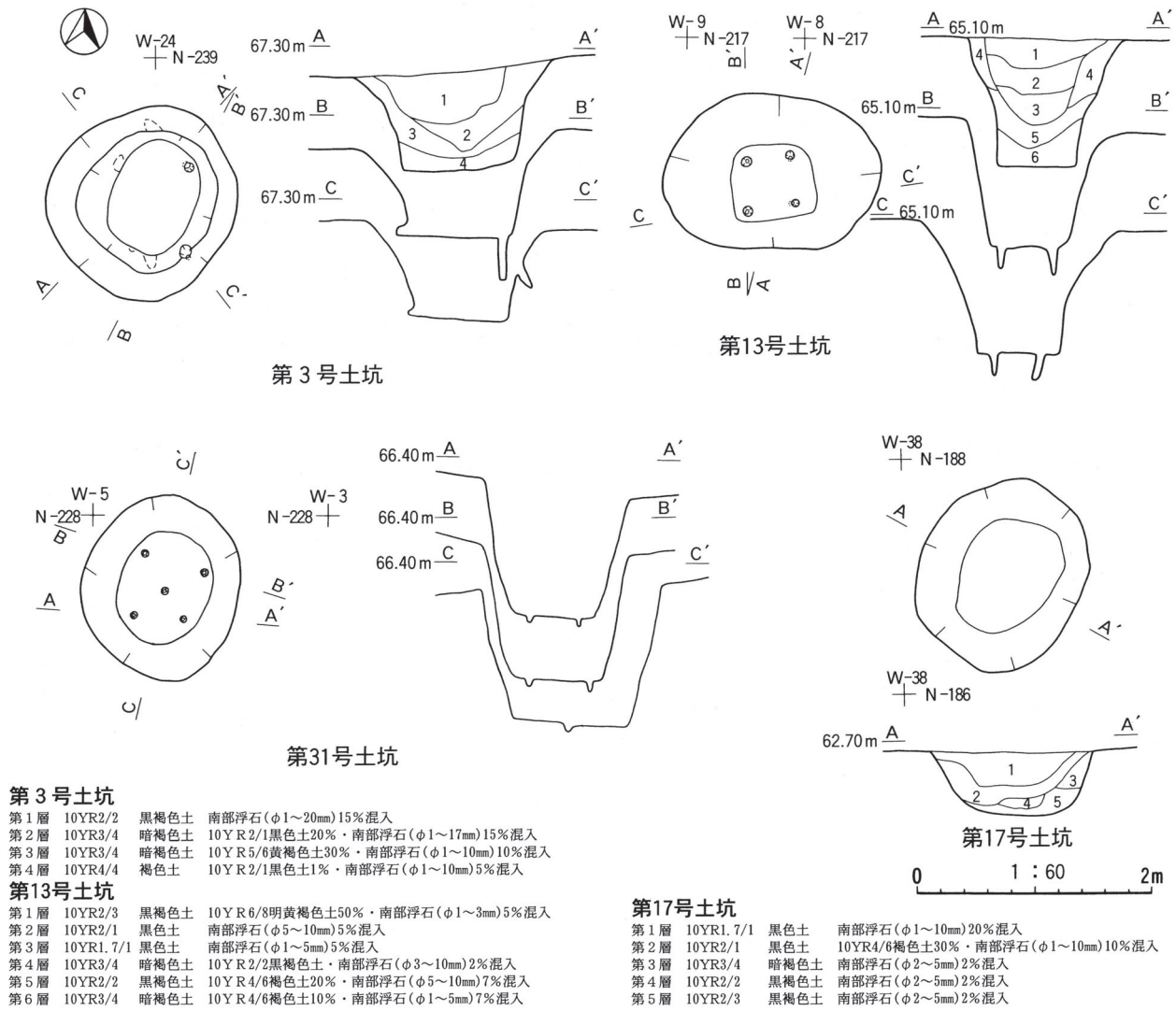


図39 土坑1 (分類I)

土坑分類

第I群 縄文時代早期の土坑

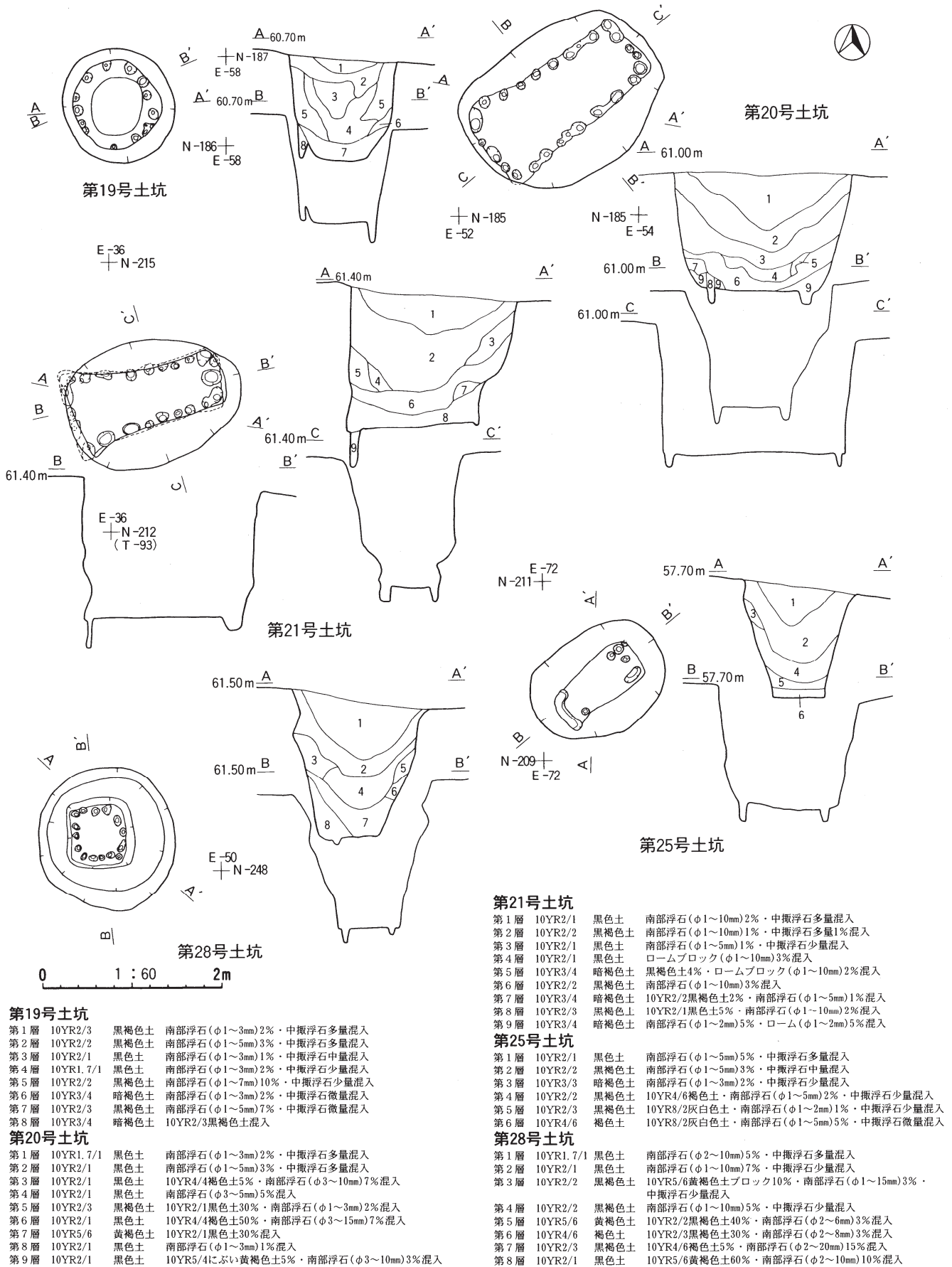
- A類 底面に杭跡を配置するもの
- B類 底面に杭跡を配置しないもの

第II群 縄文時代前期中葉~後期の土坑

- A類 底面側壁側に杭跡を配置するもの
- B類 底面側壁側に掘方をもつ杭跡を配置するもの
- C類 底面に杭跡を配置するもの
- D類 底面に杭跡を配置しないもの

第III群 奈良・平安時代の土坑

第IV群 その他の土坑



第19号土坑

- | | | | |
|-----|-----------|------|--------------------------|
| 第1層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~3mm)2%・中振浮石多量混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)3%・中振浮石多量混入 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~3mm)1%・中振浮石中量混入 |
| 第4層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~3mm)2%・中振浮石少量混入 |
| 第5層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~7mm)10%・中振浮石少量混入 |
| 第6層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石(φ1~3mm)2%・中振浮石微量混入 |
| 第7層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)7%・中振浮石微量混入 |
| 第8層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/3黒褐色土混入 |

第20号土坑

- | | | | |
|-----|-----------|------|------------------------------------|
| 第1層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~3mm)2%・中振浮石多量混入 |
| 第2層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~5mm)3%・中振浮石多量混入 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 10YR4/4褐色土5%・南部浮石(φ3~10mm)7%混入 |
| 第4層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ3~5mm)5%混入 |
| 第5層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒色土30%・南部浮石(φ1~3mm)2%混入 |
| 第6層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 10YR4/4褐色土50%・南部浮石(φ3~15mm)7%混入 |
| 第7層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 10YR2/1黒色土30%混入 |
| 第8層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~3mm)1%混入 |
| 第9層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 10YR5/4にぶい黄褐色土5%・南部浮石(φ3~10mm)3%混入 |

第21号土坑

- | | | | |
|-----|---------|------|--------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~10mm)2%・中振浮石多量混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~10mm)1%・中振浮石多量1%混入 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~5mm)1%・中振浮石少量混入 |
| 第4層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ロームブロック(φ1~10mm)3%混入 |
| 第5層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黒褐色土4%・ロームブロック(φ1~10mm)2%混入 |
| 第6層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~10mm)3%混入 |
| 第7層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/2黒褐色土2%・南部浮石(φ1~5mm)1%混入 |
| 第8層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒色土5%・南部浮石(φ1~10mm)2%混入 |
| 第9層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石(φ1~2mm)5%・ローム(φ1~2mm)5%混入 |

第25号土坑

- | | | | |
|-----|---------|------|-------------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~5mm)5%・中振浮石多量混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)3%・中振浮石中量混入 |
| 第3層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石(φ1~3mm)2%・中振浮石少量混入 |
| 第4層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR4/6褐色土・南部浮石(φ1~5mm)2%・中振浮石少量混入 |
| 第5層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR8/2灰白色土・南部浮石(φ1~2mm)1%・中振浮石少量混入 |
| 第6層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 10YR8/2灰白色土・南部浮石(φ1~5mm)5%・中振浮石微量混入 |

第28号土坑

- | | | | |
|-----|-----------|------|---------------------------------------------|
| 第1層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ2~10mm)5%・中振浮石多量混入 |
| 第2層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~10mm)7%・中振浮石少量混入 |
| 第3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR5/6黄褐色土ブロック10%・南部浮石(φ1~15mm)3%・中振浮石少量混入 |
| 第4層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~10mm)5%・中振浮石少量混入 |
| 第5層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 10YR2/2黒褐色土40%・南部浮石(φ2~6mm)3%混入 |
| 第6層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 10YR2/3黒褐色土30%・南部浮石(φ2~8mm)3%混入 |
| 第7層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR4/6褐色土5%・南部浮石(φ2~20mm)15%混入 |
| 第8層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 10YR5/6黄褐色土60%・南部浮石(φ2~10mm)10%混入 |

図40 土坑2 (分類ⅡA)

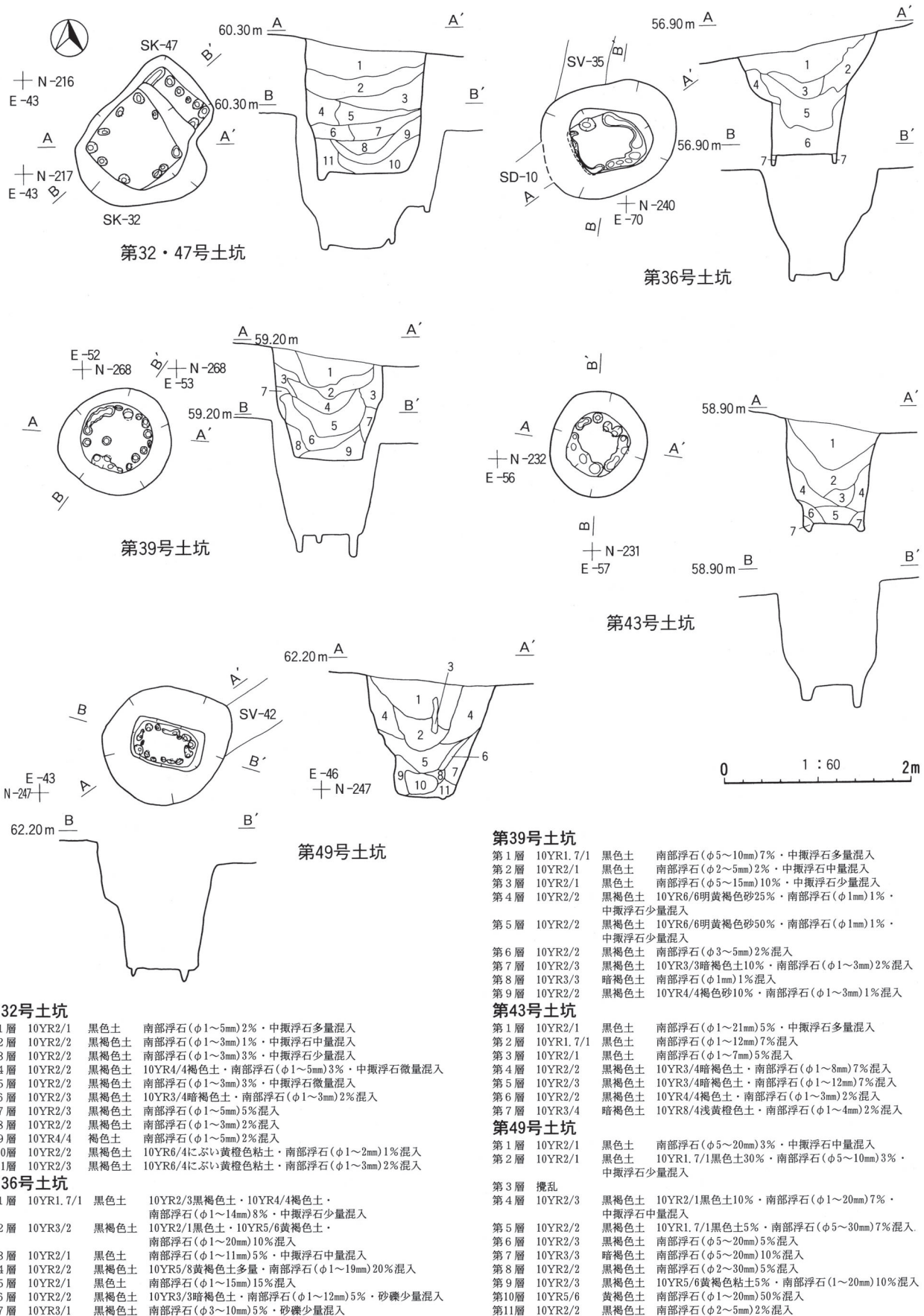
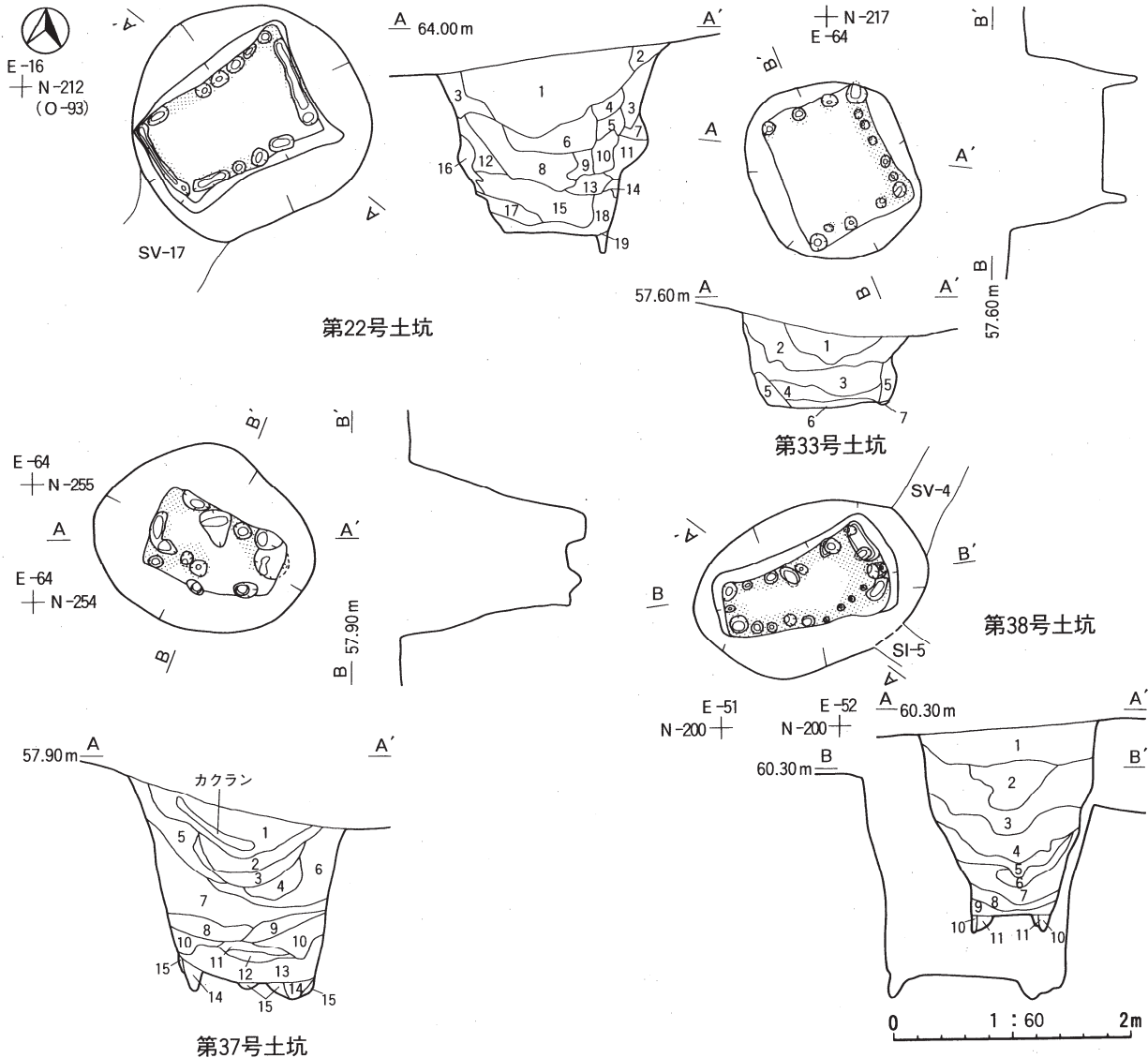


図41 土坑3(分類II A)



第22号土坑

第1層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~12mm)6%・中振浮石混入
第2層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ1~7mm)3%・中振浮石混入
第3層	10YR2/3	黒褐色土	10YR2/1黒色土・10YR4/6褐色土・南部浮石(φ1~11mm)7%混入
第4層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~7mm)5%混入
第5層	10YR2/1	黒色土	10YR2/3黒褐色土・南部浮石(φ1~10mm)1%混入
第6層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~11mm)4%・中振浮石少量混入
第7層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土・南部浮石(φ1~5mm)1%混入
第8層	10YR3/2	黒褐色土	南部浮石(φ1~12mm)4%・中振浮石中量混入
第9層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石(φ1~6mm)2%混入
第10層	10YR2/3	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土・南部浮石(φ1~6mm)5%混入
第11層	10YR2/3	黒褐色土	10YR4/4褐色土筋状・南部浮石(φ1~4mm)2%混入
第12層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ1~13mm)4%混入
第13層	10YR2/3	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土・南部浮石(φ1~12mm)6%混入
第14層	10YR4/4	褐色土	10YR2/3黒褐色土混入
第15層	10YR2/1	黒色土	10YR4/4褐色土ブロック状・南部浮石(φ1~9mm)10%混入
第16層	10YR5/6	黄褐色土	10YR2/3黒褐色土・南部浮石(φ1~5mm)1%混入
第17層	10YR2/3	黒褐色土	10YR2/1黒色土・10YR6/4にぶい黄橙色土・南部浮石(φ1~12mm)5%混入
第18層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/4にぶい黄橙色土・南部浮石(φ1~9mm)8%・白色粘土混入
第19層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/6褐色土・南部浮石(φ1~5mm)6%混入

第33号土坑

第1層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ3~5mm)2%・中振浮石多量・粘土粒(φ2mm)1%混入
第2層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ5~20mm)5%・中振浮石多量・炭化物粒(φ1~2mm)1%混入
第3層	10YR2/1	黒色土	10YR3/4暗褐色土3%・南部浮石(φ2~10mm)5%・炭化物粒(φ10mm)1%混入
第4層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ2~10mm)3%混入
第5層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土ローム土30%・南部浮石(φ2~5mm)2%混入
第6層	10YR3/4	暗褐色土	南部浮石(φ2~5mm)10%・ローム粒3%・砂礫混入
第7層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石粒3%混入

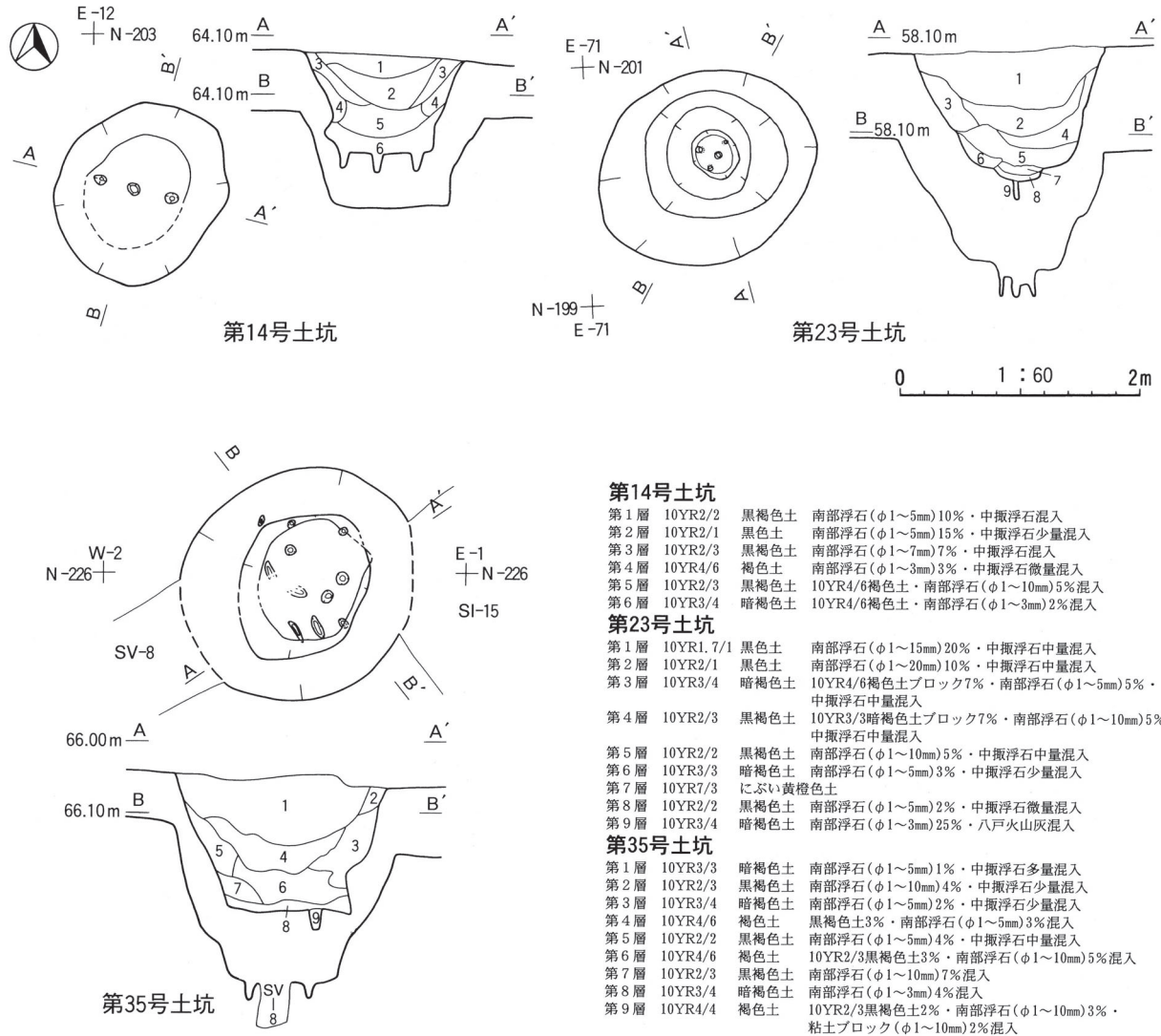
第37号土坑

第1層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石(φ1~11mm)3%・中振浮石多量混入
第2層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~3mm)1%・中振浮石多量混入
第3層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石(φ1~5mm)1%・中振浮石少量混入
第4層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~5mm)1%・中振浮石中量混入
第5層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ1~8mm)5%・中振浮石少量混入
第6層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~7mm)2%・中振浮石中量混入
第7層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~18mm)10%混入
第8層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ1~7mm)7%混入
第9層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~5mm)1%・中振浮石少量混入
第10層	10YR2/1	黒色土	10YR7/3にぶい黄橙色土・南部浮石(φ1~5mm)1%・粘土多量混入
第11層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~4mm)1%混入
第12層	10YR3/2	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土・南部浮石(φ1~3mm)1%混入
第13層	10YR2/1	黒色土	10YR6/3にぶい黄橙色土・南部浮石(φ1~6mm)1%混入
第14層	10YR2/2	黒褐色土	
第15層	10YR4/2	灰黄褐色土	南部浮石粒3%混入

第38号土坑

第1層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~5mm)5%・中振浮石多量混入
第2層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~2mm)1%・中振浮石中量混入
第3層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ1~5mm)2%・中振浮石少量混入
第4層	10YR3/4	暗褐色土	南部浮石(φ1~10mm)10%・中振浮石微量混入
第5層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/2黒褐色土少量・南部浮石(φ1~5mm)3%混入
第6層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石(φ1~10mm)2%混入
第7層	10YR2/3	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土少量・南部浮石(φ1~5mm)10%混入
第8層	10YR2/3	黒褐色土	10YR4/6褐色土少量・南部浮石(φ1~3mm)2%・中振浮石微量混入
第9層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石(φ1~2mm)1%・中振浮石微量混入
第10層	10YR2/3	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土3%・南部浮石(φ1~5mm)7%混入
第11層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR6/1褐色土25%・細粒砂礫15%混入

図42 土坑4 (分類ⅡB)



第14号土坑

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~5mm)10%・中振浮石混入
- 第2層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~5mm)15%・中振浮石少量混入
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石(φ1~7mm)7%・中振浮石混入
- 第4層 10YR4/6 褐色土 南部浮石(φ1~3mm)3%・中振浮石微量混入
- 第5層 10YR2/3 黒褐色土 10YR4/6褐色土・南部浮石(φ1~10mm)5%混入
- 第6層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/6褐色土・南部浮石(φ1~3mm)2%混入

第23号土坑

- 第1層 10YR1.7/1 黒色土 南部浮石(φ1~15mm)20%・中振浮石中量混入
- 第2層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~20mm)10%・中振浮石中量混入
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/6褐色土ブロック7%・南部浮石(φ1~5mm)5%・中振浮石中量混入
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/3暗褐色土ブロック7%・南部浮石(φ1~10mm)5%・中振浮石中量混入
- 第5層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~10mm)5%・中振浮石中量混入
- 第6層 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石(φ1~5mm)3%・中振浮石少量混入
- 第7層 10YR7/3 にぶい黄橙色土
- 第8層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~5mm)2%・中振浮石微量混入
- 第9層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石(φ1~3mm)25%・八戸火山灰混入

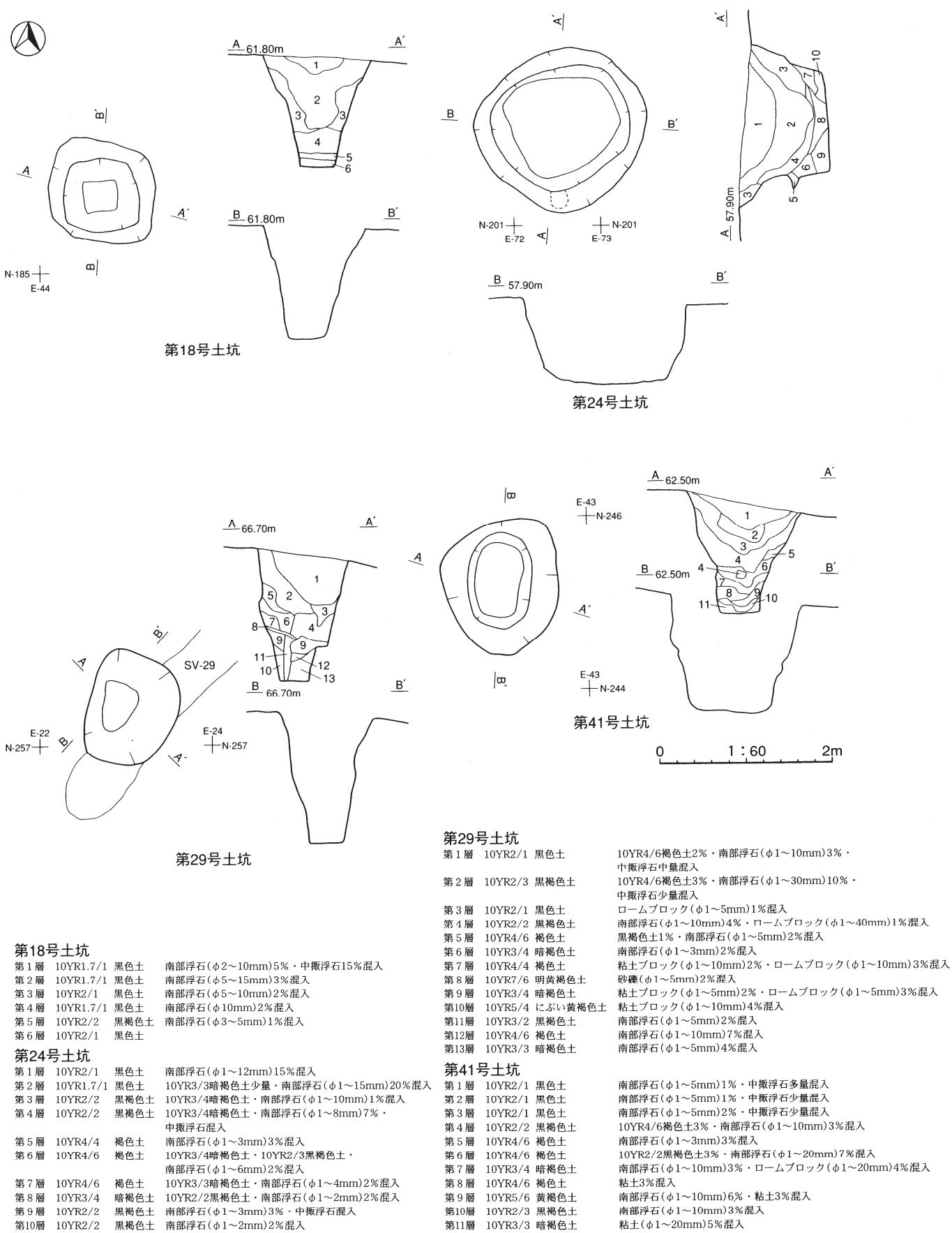
第35号土坑

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石(φ1~5mm)1%・中振浮石多量混入
- 第2層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石(φ1~10mm)4%・中振浮石少量混入
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石(φ1~5mm)2%・中振浮石少量混入
- 第4層 10YR4/6 褐色土 黒褐色土3%・南部浮石(φ1~5mm)3%混入
- 第5層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~5mm)4%・中振浮石中量混入
- 第6層 10YR4/6 褐色土 10YR2/3黒褐色土3%・南部浮石(φ1~10mm)5%混入
- 第7層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石(φ1~10mm)7%混入
- 第8層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石(φ1~3mm)4%混入
- 第9層 10YR4/4 褐色土 10YR2/3黒褐色土2%・南部浮石(φ1~10mm)3%・粘土ブロック(φ1~10mm)2%混入

図43 土坑5 (分類ⅡC)

第I群 縄文時代早期の土坑 (図39)

堆積土に南部浮石のみが混入するものを早期の土坑とした。但し、崩落土や2次堆積による混入が考えられるので、周辺遺構と関連性がある土坑は除外した。4基確認した。底面に杭跡を配置するものをA類、底面に杭跡を配置しないものをB類とした。A類は第3・13・31号土坑の3基、B類は第17号土坑の1基を確認した。A類は調査区南西側標高64.92~67.24m前後の斜面地に北西—南東方向に配置する。第3~31号の間隔は22.20m、第31~13号の間隔は17.40mである。第3号は開口部が円形、底部が楕円形で杭跡を不規則に配置する。開口部162×151cm・底面90×71cm・深さ84cmである。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。第13号は開口部が楕円形、底部が方形で杭跡を四隅に規則的に配置する。開口部184×131cm・底面71×65cm・深さ150cmである。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。第31号は開口部・底面が楕円形で、杭跡を四隅と中央に規則的に配置する。開口部157×136cm・底面95×79cm・深さ113cmである。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。B類第17号は調査区南側標高62.52cm前後の斜面地に位置する。第VI層で確認した。開口部167×137cm・底面105×78cm・深さ52cmの円形である。壁は底面からやや外傾する。確認した土坑は、全て自然堆積である。A類は底面に杭跡を配置すること、掘り込みの深さから陥し穴と考えられる。B類は掘り



第18号土坑

第24号土坑

第29号土坑

第41号土坑

0 1 : 60 2m

第18号土坑

- 第1層 10YR1.7/1 黒色土 南部浮石(φ2~10mm)5%・中振浮石15%混入
- 第2層 10YR1.7/1 黒色土 南部浮石(φ5~15mm)3%混入
- 第3層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ5~10mm)2%混入
- 第4層 10YR1.7/1 黒色土 南部浮石(φ10mm)2%混入
- 第5層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ3~5mm)1%混入
- 第6層 10YR2/1 黒色土

第24号土坑

- 第1層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~12mm)15%混入
- 第2層 10YR1.7/1 黒色土 10YR3/3暗褐色土少量・南部浮石(φ1~15mm)20%混入
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土・南部浮石(φ1~10mm)1%混入
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土・南部浮石(φ1~8mm)7%・中振浮石混入
- 第5層 10YR4/4 褐色土 南部浮石(φ1~3mm)3%混入
- 第6層 10YR4/6 褐色土 10YR3/4暗褐色土・10YR2/3黒褐色土・南部浮石(φ1~6mm)2%混入
- 第7層 10YR4/6 褐色土 10YR3/3暗褐色土・南部浮石(φ1~4mm)2%混入
- 第8層 10YR3/4 暗褐色土 10YR2/2黒褐色土・南部浮石(φ1~2mm)2%混入
- 第9層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~3mm)3%・中振浮石混入
- 第10層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~2mm)2%混入

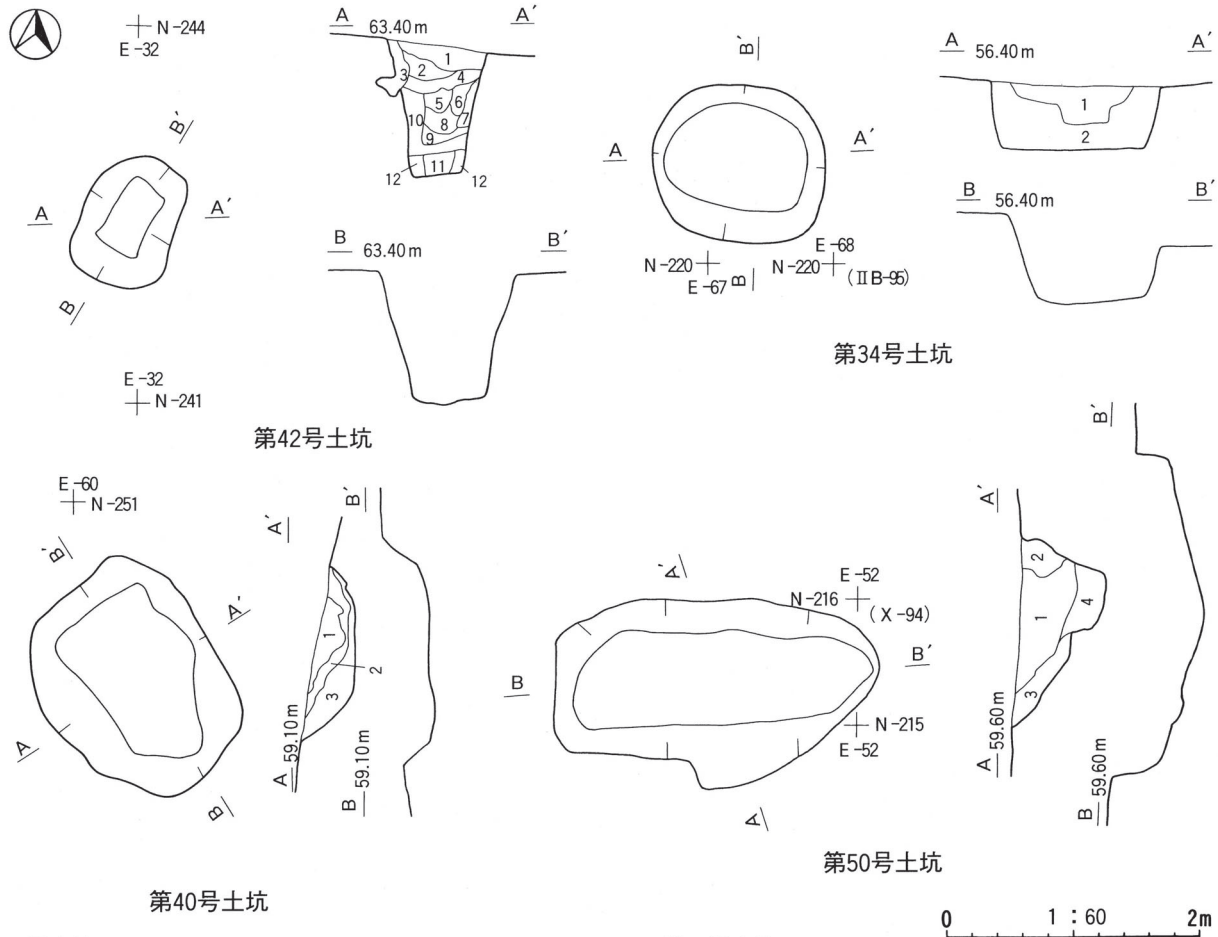
第29号土坑

- 第1層 10YR2/1 黒色土 10YR4/6褐色土2%・南部浮石(φ1~10mm)3%・中振浮石中量混入
- 第2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR4/6褐色土3%・南部浮石(φ1~30mm)10%・中振浮石少量混入
- 第3層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ1~5mm)1%混入
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~10mm)4%・ロームブロック(φ1~40mm)1%混入
- 第5層 10YR4/6 褐色土 黒褐色土1%・南部浮石(φ1~5mm)2%混入
- 第6層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石(φ1~3mm)2%混入
- 第7層 10YR4/4 褐色土 粘土ブロック(φ1~10mm)2%・ロームブロック(φ1~10mm)3%混入
- 第8層 10YR7/6 明黄褐色土 砂礫(φ1~5mm)2%混入
- 第9層 10YR3/4 暗褐色土 粘土ブロック(φ1~5mm)2%・ロームブロック(φ1~5mm)3%混入
- 第10層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘土ブロック(φ1~10mm)4%混入
- 第11層 10YR3/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~5mm)2%混入
- 第12層 10YR4/6 褐色土 南部浮石(φ1~10mm)7%混入
- 第13層 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石(φ1~5mm)4%混入

第41号土坑

- 第1層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~5mm)1%・中振浮石多量混入
- 第2層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~5mm)1%・中振浮石少量混入
- 第3層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~5mm)2%・中振浮石少量混入
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/6褐色土3%・南部浮石(φ1~10mm)3%混入
- 第5層 10YR4/6 褐色土 南部浮石(φ1~3mm)3%混入
- 第6層 10YR4/6 褐色土 10YR2/2黒褐色土3%・南部浮石(φ1~20mm)7%混入
- 第7層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石(φ1~10mm)3%・ロームブロック(φ1~20mm)4%混入
- 第8層 10YR4/6 褐色土 粘土3%混入
- 第9層 10YR5/6 黄褐色土 南部浮石(φ1~10mm)6%・粘土3%混入
- 第10層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石(φ1~10mm)3%混入
- 第11層 10YR3/3 暗褐色土 粘土(φ1~20mm)5%混入

図44 土坑6 (分類ⅡD)



第42号土坑

第1層	10YR7.1/1	黒色土	南部浮石(φ1~10mm)5%・中振浮石多量混入
第2層	10YR7.1/1	黒色土	南部浮石(φ1~5mm)3%・中振浮石中量混入
第3層	10YR2/3	黒褐色土	10YR1.7/1黒色土10%・南部浮石(φ1~10mm)7%・中振浮石中量混入
第4層	10YR2/1	黒色土	10YR4/6褐色土5%・南部浮石(φ1~5mm)5%・中振浮石中量混入
第5層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石(φ3~5mm)1%・中振浮石少量混入
第6層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~5mm)5%・中振浮石少量混入
第7層	10YR2/1	黒色土	10YR4/6褐色土5%・南部浮石(φ1~3mm)5%・中振浮石極少量混入
第8層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~10mm)3%混入
第9層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石(φ5~15mm)3%混入
第10層	10YR2/2	黒褐色土	10YR4/6褐色土5%・南部浮石(φ1~10mm)3%混入
第11層	10YR5/6	黄褐色土	南部浮石(φ3~5mm)5%混入
第12層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ2~3mm)2%混入

第34号土坑

第1層	10YR2/1	黒色土	10YR4/4褐色土・南部浮石(φ5~10mm)7%混入
第2層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ5~20mm)10%混入

第40号土坑

第1層	10YR4/4	褐色土	10YR2/3黒褐色土・南部浮石(φ1~14mm)5%混入
第2層	10YR2/1	黒色土	10YR4/4褐色土・南部浮石(φ1~7mm)・中振浮石混入
第3層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/4暗褐色土30%・南部浮石(φ1~10mm)5%混入

第50号土坑

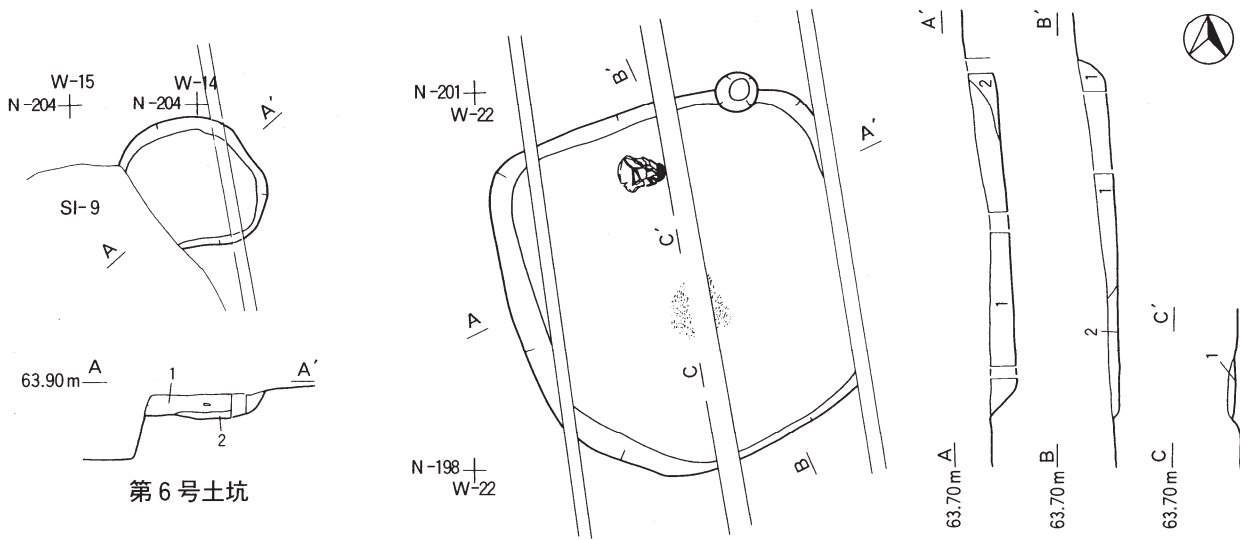
第1層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石(φ1~9mm)1%・中振浮石多量混入
第2層	10YR2/1	黒色土	10YR3/2黒褐色土・南部浮石(φ1~7mm)1%・中振浮石中量混入
第3層	10YR2/2	黒褐色土	10YR2/1黒褐色土・南部浮石(φ1~8mm)2%・中振浮石少量混入
第4層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~13mm)3%混入

図45 土坑7 (分類ⅡD)

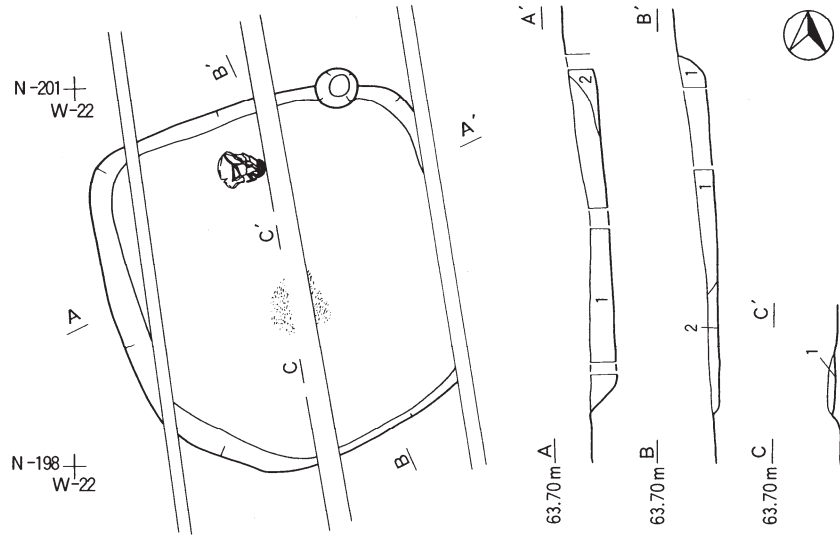
込みが浅いことから陥し穴とは考えにくい。

第Ⅱ群 縄文時代前期中葉~後期の土坑(図40~45)

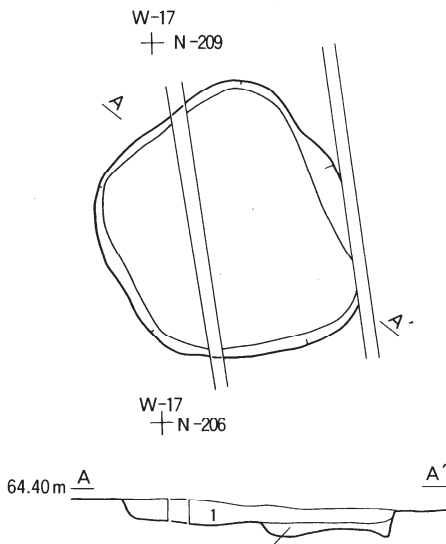
堆積土に中振浮石が混入するものを縄文時代前期中葉~後期の土坑とした。但し、崩落土や2次堆積による混入が考えられるので、周辺遺構と関連性がある土坑は除外した。調査区東側の斜面地から26基確認した。底面に配置する杭跡の形態により、A~Dの4類に細分した。底面側壁側に杭跡を配置するものをA類、底面側壁側に掘方をもつ杭跡を配置するものをB類、底面に杭跡を配置するものをC類、底面に杭跡を配置しないものをD類とした。A類は調査区東側標高56.50~62.00m前後の斜面地から11基確認した。第19・20・21・25・28・32・47・36・39・43・49号土坑である。B類は調査区東側標高57.50~63.75m前後の斜面地から4基確認した。第22・33・37・38号土坑である。C類は調査区南側標高58.25~66.00m前後の斜面地から3基確認した。第14・23・35号土坑である。D類は



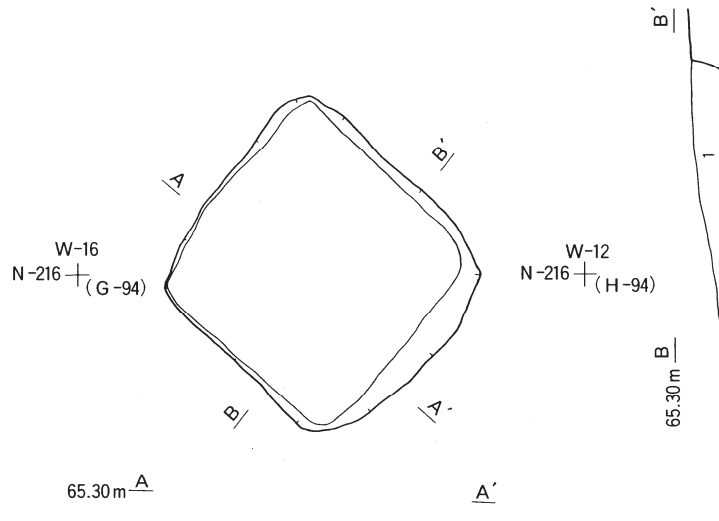
第6号土坑



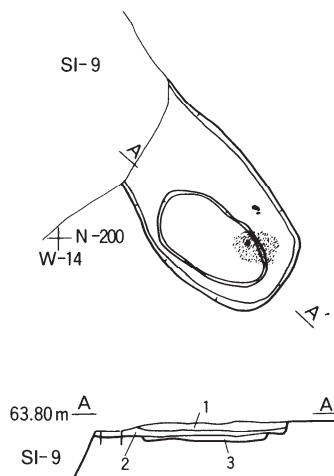
第7号土坑



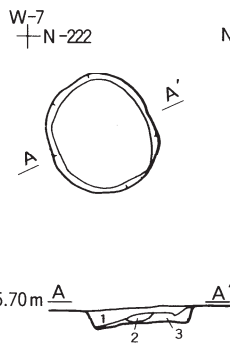
第8号土坑



第9号土坑



第11号土坑



第12号土坑

第6号土坑

第1層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ3~5mm)5%・十和田a火山灰1%混入
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土・南部浮石(φ1~2mm)1%混入

第7号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石(φ1~3mm)2%混入
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石(φ1~5mm)5%混入

C-C'

第1層 7.5YR3/4 暗褐色土 7.5YR4/6褐色土15%混入

第8号土坑

第1層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石(φ1~5mm)3%・炭化物(φ1~5mm)1%・粘土ブロック(φ1~10mm)2%・焼土ブロック(φ10~50mm)1%混入
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR2/2黒褐色土3%・南部浮石(φ1~5mm)2%混入

第9号土坑

第1層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石(φ1~7mm)5%・中礫浮石少量混入

第11号土坑

第1層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~3mm)7%・ロームブロック10%混入
 第2層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~5mm)3%混入
 第3層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石(φ1~3mm)2%混入

第12号土坑

第1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土10%・南部浮石(φ1~3mm)2%・焼土混入
 第2層 5YR4/8 赤褐色土
 第3層 7.5YR3/4 暗褐色土 5YR4/8赤褐色土2%混入

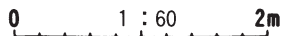


図46 土坑8 (分類Ⅲ)

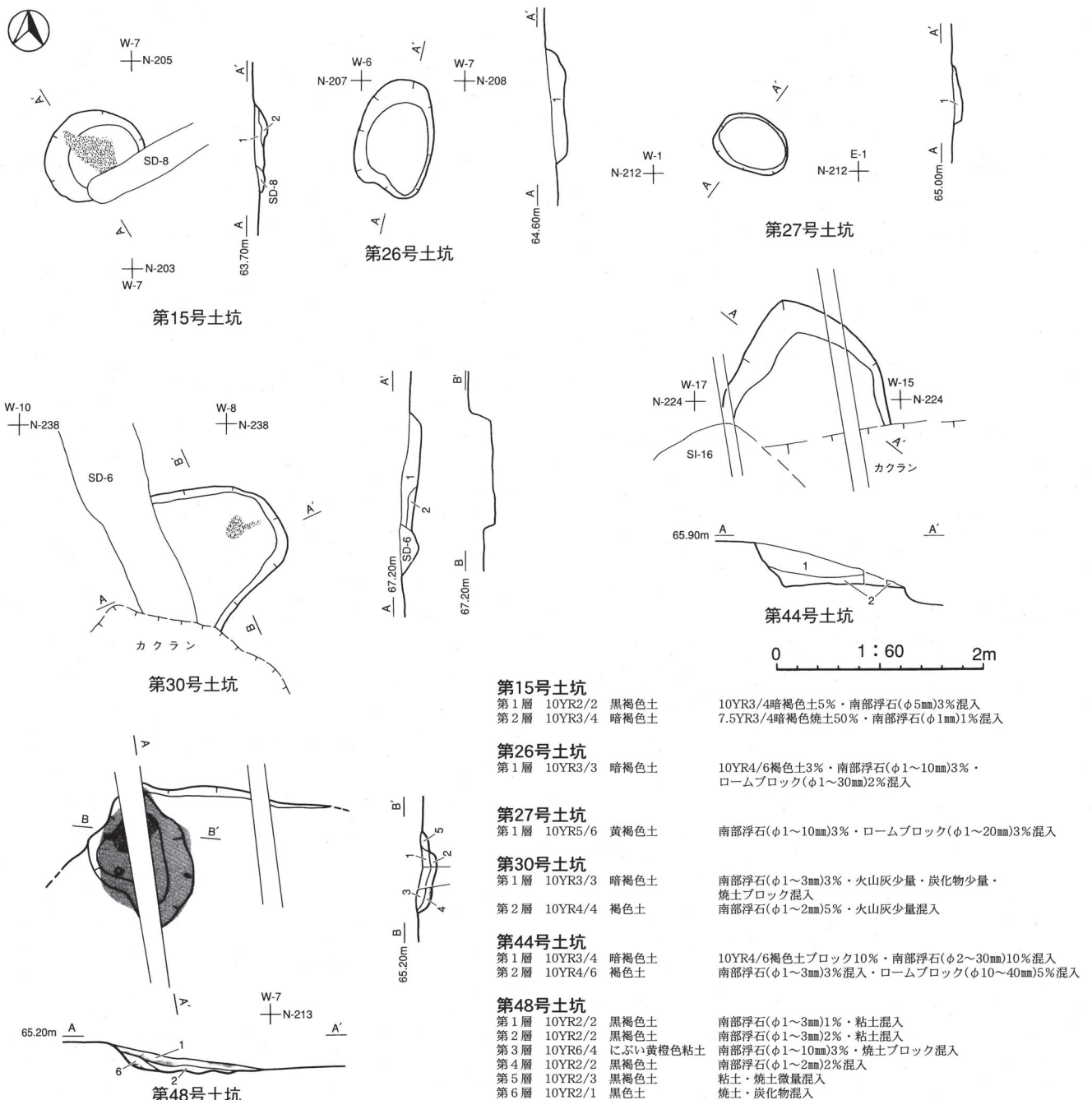


図47 土坑9 (分類Ⅲ)

調査区東側標高56.25~66.50mの斜面地から8基確認した。第24・18・29・41・42・34・40・50号土坑である。確認した土坑は、全て自然堆積である。A~C類・D類18・24・29・41・42号は、底面に杭を設置すること、掘り込みが深いことから陥し穴と考えられる。

第Ⅲ群 奈良・平安時代の土坑 (図46・47)

出土遺物や周辺の遺構から奈良・平安時代の土坑とした。調査区南西側標高63.58~67.25m前後の斜面地から、第6・7・8・9・11・12・15・26・27・30・44・48号土坑の12基を確認した。第6号は第9号竪穴住居跡と重複する。本遺構が古い。堆積土は人為堆積で十和田a火山灰が混入し、土師器片4点が出土した。十和田a火山灰の混入と重複から平安時代と考えられる。第7号は径288cm、深さ20cmの方形である。底面はほぼ平坦で、壁は底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は自然堆積

で土師器の甕と坏が出土した。甕は北壁側から横位につぶれた状態で出土した。出土土器から、時期は奈良時代と考えられる。第8号は長軸210×短軸175×深さ25cmの方形である。底面はほぼ平坦で、第2層は掘方である。壁は底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は人為堆積で土師器片3点が出土した。第9号は長軸213×短軸197×深さ25cmの方形である。底面はほぼ平坦で、壁は底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は人為堆積で土師器細片11点が出土した。第11号は第9号竪穴住居跡と重複する。本遺構が古い。底面はほぼ平坦で、第3層は掘方である。堆積土は人為堆積で土師器細片11点が出土した。重複から7世紀後半以前と考えられる。第12号は長軸95×短軸81×深さ16cmの円形である。堆積土は自然堆積で土師器片1点が出土した。第15号は第8号溝跡と重複し、本遺構が古い。底面から焼土を検出した。堆積土は自然堆積で土師器片1点が出土した。重複から、奈良時代と考えられる。第26号は長軸110×短軸70×深さ18cmの不定形である。堆積土は自然堆積である。第27号は長軸72×短軸52×深さ7cmの楕円形である。堆積土は人為堆積である。第30号は第6号溝跡と重複し、本遺構が古い。堆積土は自然堆積である。時期は重複から、7世紀後半以前と考えられる。第44号土坑は第16号住居跡と重複する。本遺構が古い。堆積土は人為堆積である。第48号は第3号竪穴住居跡と重複する。本遺構が新しい。堆積土は自然堆積である。重複から7世紀後半以後と考えられる。

第IV群 その他の土坑 (図48)

時期が不確定な土坑を第IV群とした。調査区東側標高65.00～67.65m前後の斜面地から、第1・2・4・5・10・16号土坑の6基、調査区北西側標高71.74m前後の丘陵頂部縁辺から、第45・46号土坑の2基を確認した。第1号は長軸178×短軸41×深さ15cmの楕円形で底面は起伏し、壁は底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は自然堆積である。第2号は長軸228×短軸45×深さ22cmの楕円形で、底面はほぼ平坦で、壁は底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は自然堆積である。第4・5号は重複する。第5号は長軸137×短軸78×深さ36cmの楕円形である。第4号は深さ18cmの円形と考えられる。第4号が新しい。堆積土は自然堆積である。第10号は長軸(90)×短軸78×深さ35cmの楕円形である。底面はほぼ平坦で、壁は南側に傾き立ち上がる。堆積土は自然堆積である。第16号は長軸146×短軸125×深さ40cmの円形で、壁は底面から緩やかに立ち上がる。人為堆積である。第45号は長軸74×短軸62×深さ32cmの円形である。第46号は長軸51×短軸41×深さ13cmの円形である。

出土遺物 (図49)

第I・II・IV群の土坑からは、遺物の出土はみられなかった。第III群の土坑から、土師器甕1点・土師器片31点・石鏃1点が出土し、13点を図示した。5は内外面にミガキを施す。6は口縁部に回転ナデ、体部にナデを施す。

第1号焼土 <SN-1> (図48)

[位置・確認] 標高は65.64m前後のI-96グリッドに位置する。基本層序第IV層で確認した。

[形態・規模] 南西側は削平される。推定径48cm・深さ6cmの円形で、断面は皿形である。

[堆積土] 第VI層を火床面とする。火床面は暗赤褐色土に変化する。

[小結] 第VI層を火床面とすることから、時期は縄文時代と考えられる。 (野村)

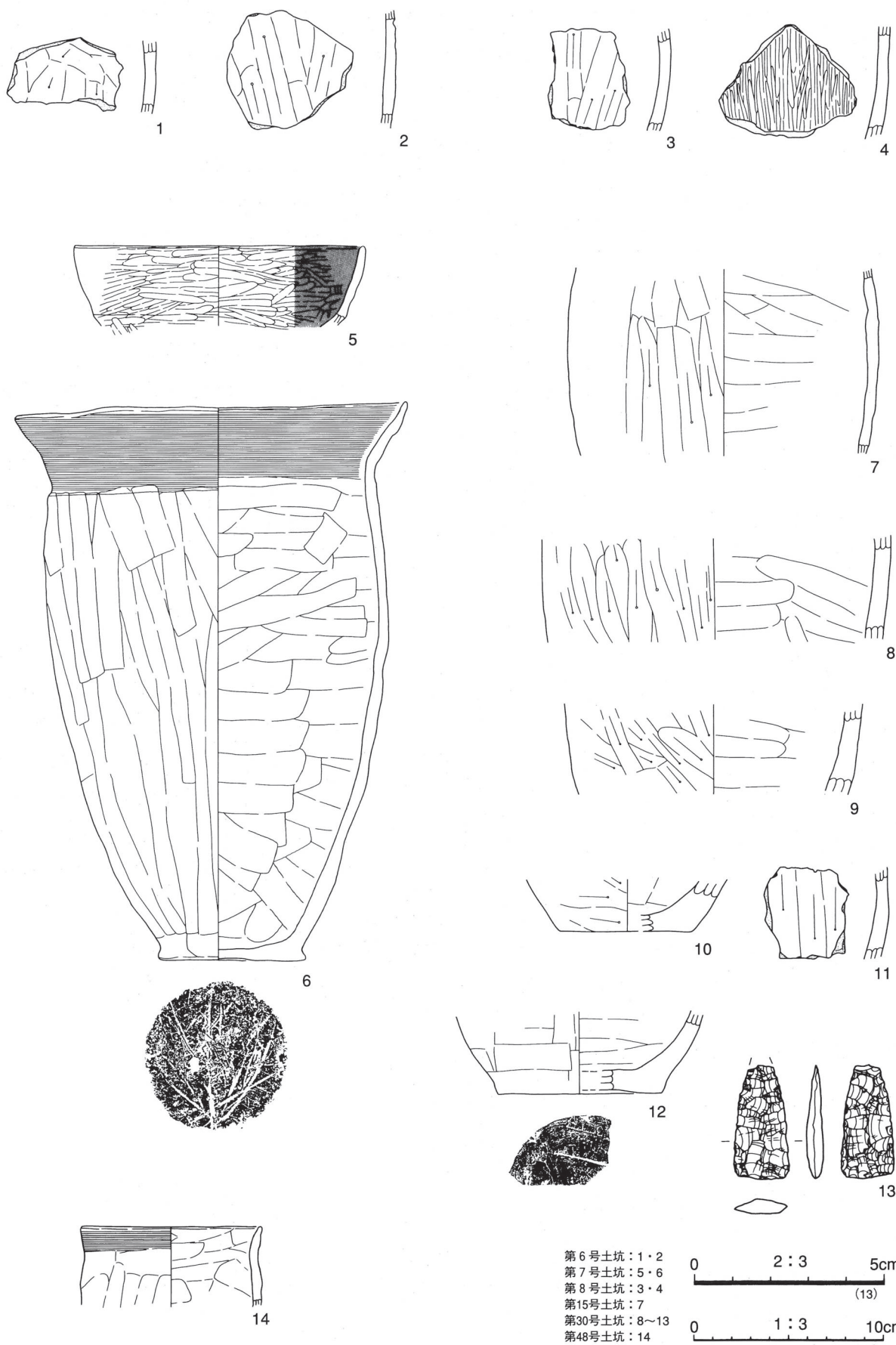


図49 土坑出土遺物

土坑観察表

土坑番号	図	グリッド	規模 (cm)			分類	重複
			開口部	底面	深さ		
1	48	D・E-100	178×41	141×28	15	IV	なし
2	48	D・E-100	228×45	213×22	22	IV	なし
3	39	D・E-99	162×151	90×71	84	IA	なし
4	48	F・G-97	—	—	18	IV	SK-5→
5	48	F・G-97	137×78	90×48	36	IV	→SK-4
6	46	G・H-90	—	—	19	III	→SI-9
7	46	F・G-89	288×(288)	265×(265)	20	III	なし
8	46	F-91・92 G-91・92	210×175	190×161	25	III	なし
9	46	G・H-93	213×197	190×186	25	III	なし
10	48	F-97	(90)×78	(72)×66	35	IV	なし
11	46	G・H-89・90	—×90	—×90	17	III	→SI-9
12	46	I-95	95×81	85×73	16	III	なし
13	39	L・M-94	184×131	71×65	150	IA	なし
14	43	N-90	153×130	100×74	98	II C	なし
15	47	H-89	97×—	78×—	12	III	→SD-8
16	48	L-94	146×125	88×35	40	IV	なし
17	39	U-87	167×137	105×78	52	IB	なし
18	44	U・V-86	124×118	40×35	129	II D	なし
19	40	Y-86	130×120	65×56	112	II A	なし
20	40	X-86	223×150	201×74	147	II A	なし
21	40	S・T-93	198×130	170×68	200	II A	なし
22	42	O-92	200×197	146×87	155	II B	→SV-17
23	43	II C-89・90	188×153	78×72	122	II C	なし
24	44	II C-92	186×174	122×69	105	II D	なし
25	40	II C-92	155×105	108×40	127	II A	なし
26	47	I-91	110×70	87×55	18	III	なし
27	47	J・K-93	72×52	67×45	7	III	なし
28	40	W-101・102	157×153	65×60	164	II A	なし
29	44	P-104	132×102	60×36	150	II D	
30	47	H・I-99	—	—	22	III	→SD-6→SK-35
31	39	I・J-96	157×136	95×79	113	IA	なし
32	41	U・V-94	132×—	84×84	140	II A	SK-47→
33	42	Z・II A-93	155×132	113×90	80	II B	なし
34	45	II A-95	135×125	113×84	67	II D	なし
35	43	J・K-96	203×185	136×100	125	II C	なし
36	41	II B-100	145×116	85×65	107	II A	SV-35→ →SD-10
37	42	Z-105	192×157	116×69	153	II B	なし
38	42	W・X-90	202×137	157×78	167	II B	SV-4→
39	41	W・X-106	120×112	76×72	120	II A	なし
40	45	D・E-60	180×88	141×85	40	II D	なし
41	44	U-101	162×139	109×73	137	II D	なし
42	45	R・S-102	107×75	58×33	108	II D	なし
43	41	Y-98・99	112×102	68×60	112	II A	なし
44	47	F・G-95・96	—	—	48	III	
45	48	G-106	74×62	69×57	32	IV	なし
46	48	G-106	51×41	30×25	13	IV	なし
47	41	U・V-94	—	—	80	II B	→SK-32
48	47	I-93	108×90	78×72	24	III	なし
49	41	U・V-101	142×124	77×47	134	II A	SV-42→
50	45	W・X-95	257×128	238×74	65	II D	なし

第5節 溝状土坑

平成11年度の調査では54基の溝状土坑を検出した。溝状土坑の出土遺物が皆無に等しく、他の遺構との重複も少ないことから時期を決定することができなかった。このほかの分布・配置や堆積土状況などから平成10年度調査（A区・B区）の溝状土坑の延長と判断した。よって、分類・計測については『第287集 岩ノ沢平遺跡』「第12節 溝状土坑」に準じ、各溝状土坑の位置・計測値・主軸方位などは観察表とした。

1. 検出層位

調査区の大部分が上部を削平され、溝状土坑の多くは基本層序第Ⅳ～Ⅵ層上面で検出された。よって、大半は掘り込み面を確認することはできなかった。しかし、調査区南東側では掘り込み面を確認できるものが数基検出された。南東側では基本層序第Ⅲ層で溝状土坑が検出されている。これらの溝状土坑周辺の竪穴住居跡は基本層序第Ⅱ層で確認されたが、第Ⅱ層では溝状土坑のプランを確認されなかった。また、溝状土坑の堆積土上部には基本層序第Ⅲ層の中礫浮石が堆積することが多いことから、本来、溝状土坑は基本層序第Ⅲ層上面から掘り込まれたものと考えられる。

2. 形態分類

分類は短軸幅を第1基準とし、これに短軸断面形・長軸断面形を組み合わせたものである。溝状土坑の端部が重複により削平され検出できなかった溝状土坑の分類は観察表の中で（ ）付けとした。深さは本来の掘り込み面が不明なため溝状土坑の使用時の深さではなく、検出面から最も深い場所とした。

分類基準

（1）開口部短軸幅（平面形）

- 第Ⅰ類 短軸幅200cm以上 （円形に近い楕円形）
- 第Ⅱ類 短軸幅199cm～110cm （楕円形）
- 第Ⅲ類 短軸幅109～70cm （やや幅広の溝状）
- 第Ⅳ類 短軸幅70cm以下 （細長い溝状）

（2）短軸断面形

- A 開口部から底面まで一様に傾斜するもの （V字形・逆台形）
- B 開口部から中位まで傾斜し、中位から底面までほぼ垂直なもの（Y字形）
- C 開口部から底面までほぼ垂直なもの （U字形）
- D 袋状を呈するもの、蛇行するもの

（3）長軸断面形

- A 開口部から底面までほぼ垂直なもの （箱形）
- B 開口部から底面に向かい内側に一様に傾斜するもの （逆台形）

- C 中位が突出し、底面が開口部より狭いもの
- D 開口部より底面が広いもの (台形)
- E 一方の壁が垂直で、一方が内側に一樣に傾斜するもの (A+B)
- F 一方の壁が垂直で、一方が中位で内側に突出するもの (A+C)
- G 一方の壁が垂直で、一方が底部に向かい外傾するもの (A+D)
- H 一方の壁が内側に一樣に傾斜し、一方が中位で内側に突出するもの (B+C)
- I 一方の壁が内側に一樣に傾斜し、一方が底部に向かい外傾するもの (B+D)
- J 一方の壁が中位で突出し、一方が底部に向かい外傾するもの (C+D)

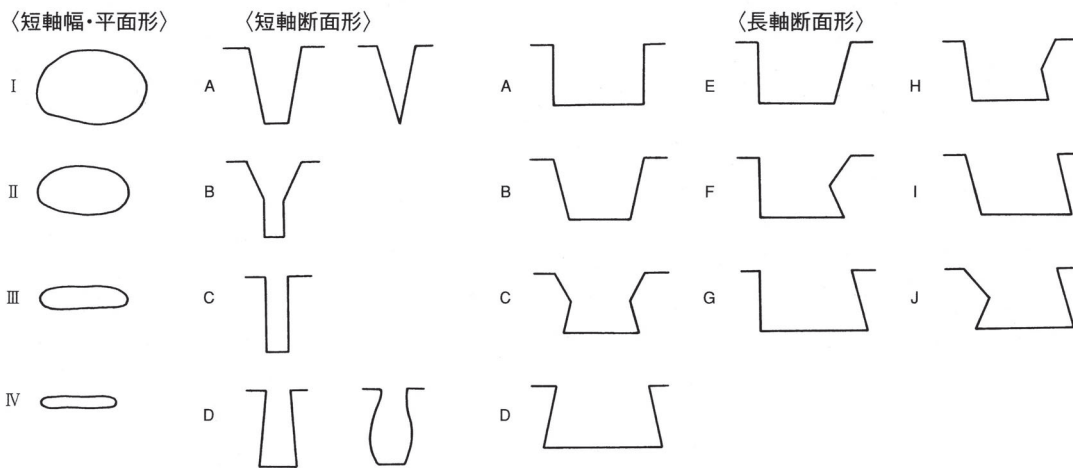


図50 溝状土坑模式図

第I類 (図52)

短軸幅が200cmを越えるものは2基ある。2基とも調査区北側の台地の端に位置する。両者間の距離は50mである。長軸方向は北から東に傾き、斜面に対し直交する。開口部長軸長は400cm、底面長軸長は500cmを越える。長短比は2.1前後である。第48号は斜面頂上部の標高72mに位置する。開口部平面形は北側が広い卵形である。底面幅はほぼ一定の溝状である。長軸断面形は非対称で、南側は開口部より奥に延び、北側では中位が内側にやや突出する。短軸断面形は幅231cmの開口部から幅33cmの底面に向かい大きく傾き、狭まるV字形である。深さは190cmに達する。第33号は斜面中位の標高62.5~63.3mに位置する。平面形は南側がやや狭いびつな楕円形である。開口部短軸幅203cmに対し底面短軸幅は53cmと広く短軸断面形は逆台形となる。長軸断面形は底面が開口部より奥に大きく張り出す台形である。斜面下位の長軸底面は幅100cmで袋状に張り出す。深さは146cmである。

IAD類：第33号 IAJ類：第48号

第II類 (図53・54)

幅110cmを越えるものは南側緩斜面に2基(第1・54号)、東斜面北側に3基(第27・38・47号)の計5基が検出された。短軸幅140cm以上のもの2基(第1・54号)、130cm以上のもの2基(第27・47号)、110cm以上のもの1基(第38号)で、長軸長は開口部277~390cm、底面300~310cmと483cmである。底面短軸幅は21~46cmである。長軸と短軸の比率は1.97~2.87である。開口部平面形は楕

円形と卵形である。短軸断面形は底面が幅広い逆台形のA類が2基あり、2基とも崩落により壁面に凹凸がみられる。途中で傾斜角度が変化しY字形となるB類が3基あるが、第Ⅲ類のB類に比べ屈曲が明瞭ではない。第47号(ⅡBD)は部分的であるが直線状に立ち上がる箇所もある。第27号(ⅡBD)は第52号(ⅣBD)と重複し、底面短軸は一部中位より奥に広がり、底面はややU字形となる。長軸断面形は底面が開口部より奥に延びる台形である。第1号(ⅡAD)・第27号(ⅡBD)・第54号(ⅡBD)は中位が内側に突出し「くの字」形となる。第27号(ⅡBD)・第47号(ⅡBD)は片側が袋状に広がり、底面からなだらかに立ち上がった箇所が最大長となる。第38号(ⅡAF)は崩落により壁面に凹凸がみられる。第Ⅱ類の底面は一方に傾斜したり、両端部がなだらかに立ち上がるものがある。5基とも斜面に対し大きく斜交する。長軸方向は南側斜面で西に傾き、東斜面北側では東に大きく傾く。深さは134~156cmである。

ⅡAD類：第1号 ⅡAF類：第38号 ⅡBD類：第27・47・54号

第Ⅲ類(図54~57)

短軸幅70cm以上のもの7基、80cm以上のもの2基、90cm以上のもの3基、100cm以上のもの3基の計15基である。斜面頂上部に1基、中央緩斜面に3基、東斜面南側に6基、東斜面北側に5基と調査区全体に分布する。開口部長軸長は300~460cm、底面長軸長は300~466cm、底面短軸幅は8~39cmである。長軸と短軸の比率は1.75~6.0とばらつく。開口部平面形は中央が狭いものや突出したりするものもある。中には第14号のように、開口部長軸長が140cmと短く平面形が小判形となるものもある。短軸断面形はA類が5基、B類が10基とY字形が増える。B類は中位から下方で傾斜角度を変えるものが多く、短軸断面形下位が直線状に底面に向かうものが目立つ。長軸断面形は底面が開口部より広がるものが圧倒的に多く両端が広がるD類が7基、片側が開口部より広がるG類が2基・I類が1基・J類が3基ある。開口部から底面に一様に広がるものが多い中、広がりが小さく開口部と底面の長軸長の差が10cm以下のものが大半を占める。このほか箱形のA類(第31号：ⅢBA)と逆台形のB類(第2号：ⅢAB)がある。底面は第Ⅱ類同様、傾斜するもの・起伏のあるもの・両端がなだらかに上昇するものがある。また、底面が平坦なものが3基(第3・7・17号)ある。深さは106~190cmに広がり、140cm前後に集中する。

ⅢAB類：第2号	ⅢBA類：第31号
ⅢAD類：第14・46号	ⅢBD類：第7・8・17・40・45号
ⅢAG類：第36号	ⅢBG類：第18号
ⅢAJ類：第3号	ⅢBI類：第49号
	ⅢBJ類：第5・26号

第Ⅳ類(図57~62)

短軸幅が60cm以上のもの10基、50cm以上のもの9基、40cm以上のもの9基、30cm以上のもの1基、20cm以下のもの3基の計32基ある。東斜面北側に14基、東斜面南側に18基分布する。平面形は第10号(ⅣBJ)・第41号(ⅣBD)・第50号(ⅣBD)を除き幅が一定な溝状を呈する。第41号・第50号は開口部と底面とも両端が袋状に膨らむ鉄アレイ形、第10号は長軸が短い小判形に近い形状で

ある。長軸と短軸の比率は3～18へと広がり、7.0～10.0に集中する。底面短軸幅は8～32cmと極端に狭くなる。短軸断面形はA類・B類のほかに、底面から直線的に立ち上がるC類、中央部が袋状のものと全体的に蛇行するD類が加わる。A類が7基、B類が14基、C類が8基、D類が3基である。B類は中位から上方で傾斜角度が変化するものが多い。小判形の第10号から底面に杭痕と思われるピットを3個検出した。長軸断面形は底面が開口部より広いものが大半でD類15基、G類4基、I類1基、J類2基である。そのほかA類7基、B類1基、E類1基、F類1基である。短軸と長軸の断面形の組み合わせではIVAD・IVBD・IVCA類が多く、IVCA類のように全体が箱形となるものが目立つ。深さは44～170cmで、100cm前後に集中する。

IVAD類：第22・24・44・51号

IVCA類：第4・6・19・34・37号

IVAG類：第42号

IVCD類：第21号・25号

IVAI類：第9・29号

IVCG類：第15号

IVBA類：第20号

IVDA類：第16号

IVBB類：第12号

IVDD類：第35号

IVBD類：第11・13・23・39・41・43・50・52号

IVDG類：第28号

IVBE類：第53号

IVBF類：第32号

IVBG類：第30号

IVBJ類：第10号

3. 重複

溝状土坑同士の重複が東斜面北側で2例（第44・45号、第27・28・52号）ある。新旧関係は堆積土から判断して第44号に対し第45号が新しく、第52号に対し第27号と第28号が新しいものと判断した。また、他の遺構と重複するものが11基ある。新旧関係が明確なものが6基、不明なもの5基である。溝状土坑の方が新しいのは縄文時代早期の第35号土坑と重複する第8号のみである。新旧が不明なのは底面壁際にピットが巡る円形または方形の土坑との重複である（第4・17・29・35・42号）。堆積土上部の中礫浮石の堆積状況から溝状土坑のほうが若干古いようであるが、時期的にどれだけの差があるかどうかは不明である。このほか古代の遺構と重複するものが5基（第5・9・11・48・54号）あり、5基とも溝状土坑のほうが古い。

4. 堆積土

堆積状況が判別できたものは51基である。自然堆積のもの33基、人為堆積のもの10基、下位が人為堆積で上位が自然堆積のもの5基、下位が自然堆積で上位が人為堆積のもの3基である。位置で見ると、東斜面南側では自然堆積が多く、東斜面北側では人為堆積または下位が人為堆積で上位が自然堆積のものがみられる。頂上部の第48号（IAJ）と第49号（III BI）は人為堆積で堆積状況が類似する。さらに長軸方向も類似することから、同時期に構築され埋め戻された可能性が考えられる。類型で見ると幅の狭い第IV類には自然堆積が多い。堆積状況が一様なことから短時間に自然堆積したもの

と思われる。第Ⅲ類以上になると人為堆積が増加する。第Ⅲ類には8基、第Ⅱ類には4基、第Ⅰ類に1基みられる。第5号(ⅢB J)は上部を暗褐色土混じりのロームで完全に埋め戻されている。これは重複する第1号溝跡を構築する際に行われたものと思われる。このほか溝状土坑の規模と堆積状況に関わらず、下位に崩落したロームが含まれる場合が多い。また、人為堆積の中に底面にしまりの弱い黒褐色土が薄く堆積する場合もある。中には上位に焼土が混入するものが4基(第11・12・13・30号)みられる。これらの焼土は土坑の周囲に奈良時代の竪穴住居跡が存在することからこれら使用時に廃棄されたものと思われる。

5. 配列

本調査区は北東から南西に傾く斜面である。北東の頂上部から調査区中央までは急傾斜し、調査区中央から東側へは傾斜角度を小さくして傾斜している。また、調査区中央から南西へはごく緩やかに傾く。東斜面中央は沢となり、この沢の北側と南側に遺構が分布する。溝状土坑は調査区全体に広がるが、特に東斜面の沢の北側と南側に集中する。東斜面北側に22基、東斜面南側に24基、南側緩斜面に6基、北東の頂上部に2基が分布する。東斜面北側と南側では溝状土坑の配列に一定の規則性がみられる。

東斜面北側には第Ⅰ類が1基、第Ⅱ類が3基、第Ⅲ類が5基、第Ⅳ類が13基と比較的大型の溝状土坑が多くみられる。特に標高62.0~66.5mに密集し、重複するものもある。北西から南東に延びる狭い尾根上に2~10m間隔で並列する。列の長さは50mに達する。等高線に対し10~30度で斜交ないし平行する。主軸方向はすべて真北から東に傾く。

東斜面南側では北東から南西に縦列する。列の長さは50mである。第Ⅲ類6基と第Ⅳ類17基と短軸幅が狭い溝状土坑が分布する。第Ⅲ類は斜面に対し20~30度で斜交するもの4基、直交するもの2基がある。第Ⅳ類は斜面に対し斜交するもの4基、直交するもの13基ある。全体的に等高線に対し直交し、主軸方向は真北から東に傾くものが多い。溝状土坑どうしの重複はないが、溝状土坑間の間隔が1m未満と狭いのが特徴である。また、近接する溝状土坑の主軸方向が近似すること(第34・51号、第13・51号、第19・20・22号、第2・7号)が多い。

このほかに「2列1単位」と捉えられる土坑が数例みられる。南西緩斜面の第1号(ⅡA D)と第54号(ⅡB D)は主軸方向が他と異なり真北から西に傾く。規模も同じである。頂上部の第48号(ⅠA J)と第49号(ⅢB I)は規模は異なるが主軸方向・堆積土が類似する。さらに中央部の第30号(ⅣB G)と第31号(ⅢB A)も該当するものと思われる。これらは2基同時に構築・使用されたことも考えられる。

6. 出土遺物

第2号溝状土坑の第1層から縄文土器片が1点出土したのみである。胴部片でR L単節縄文が施されているもので時期は不明である。(杉野森)

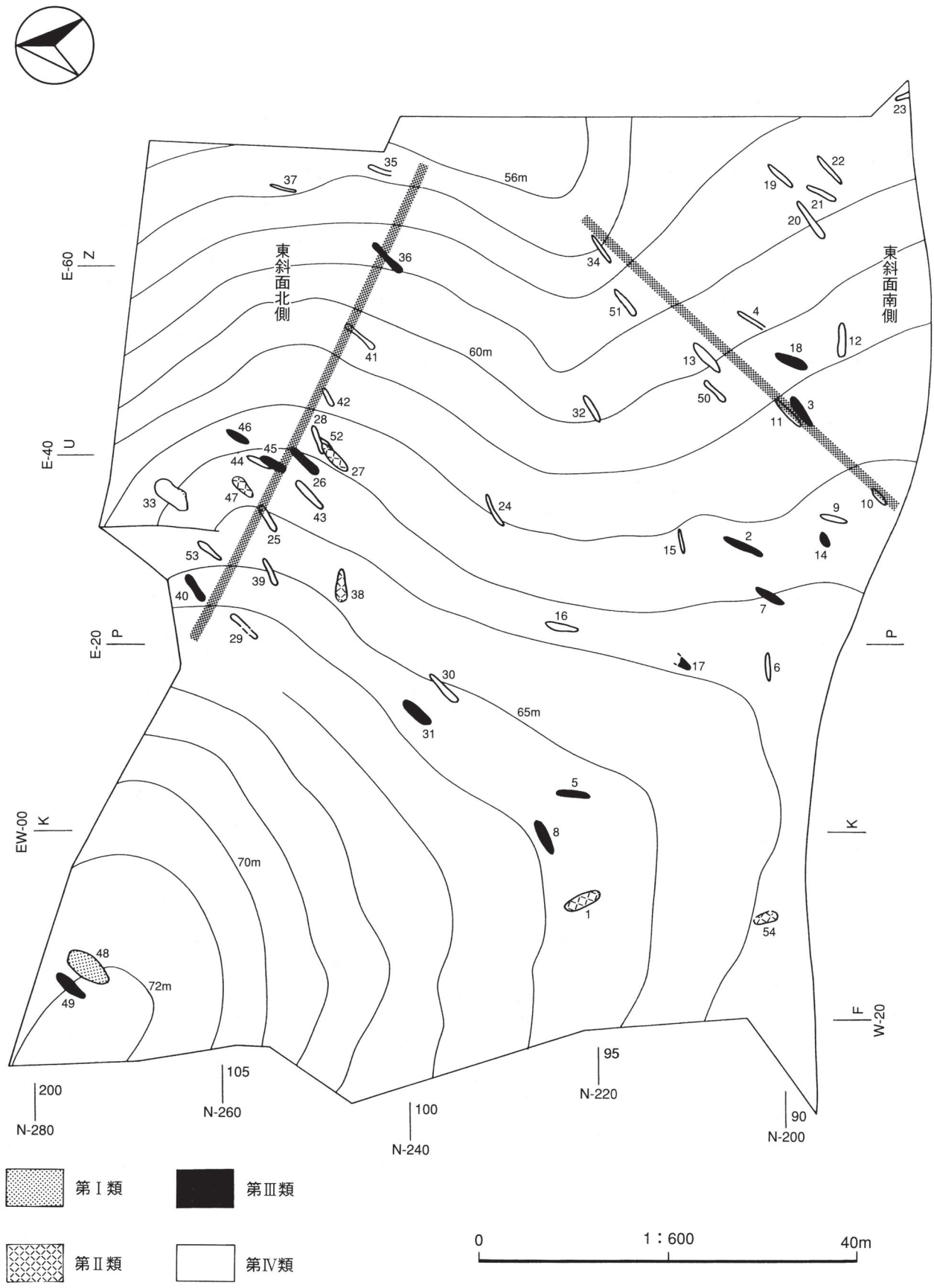
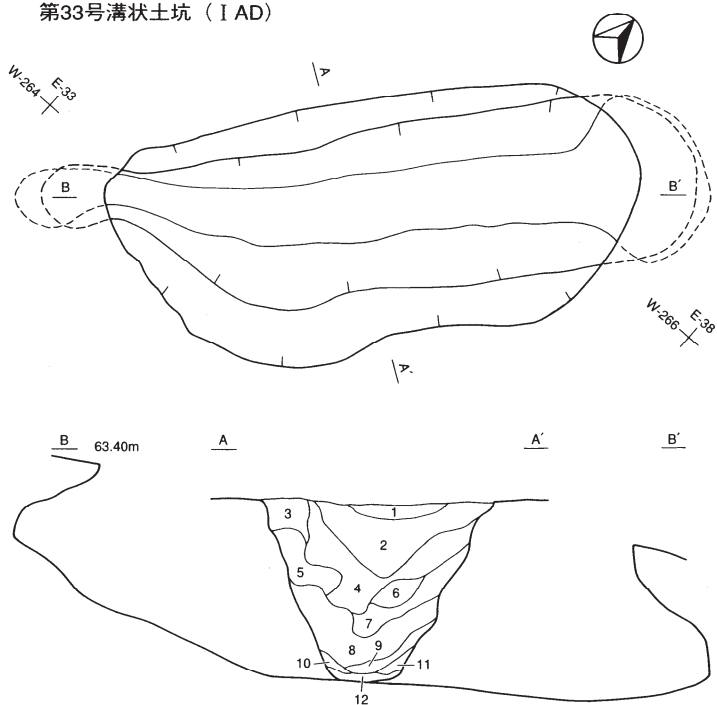


図51 溝状土坑の配置

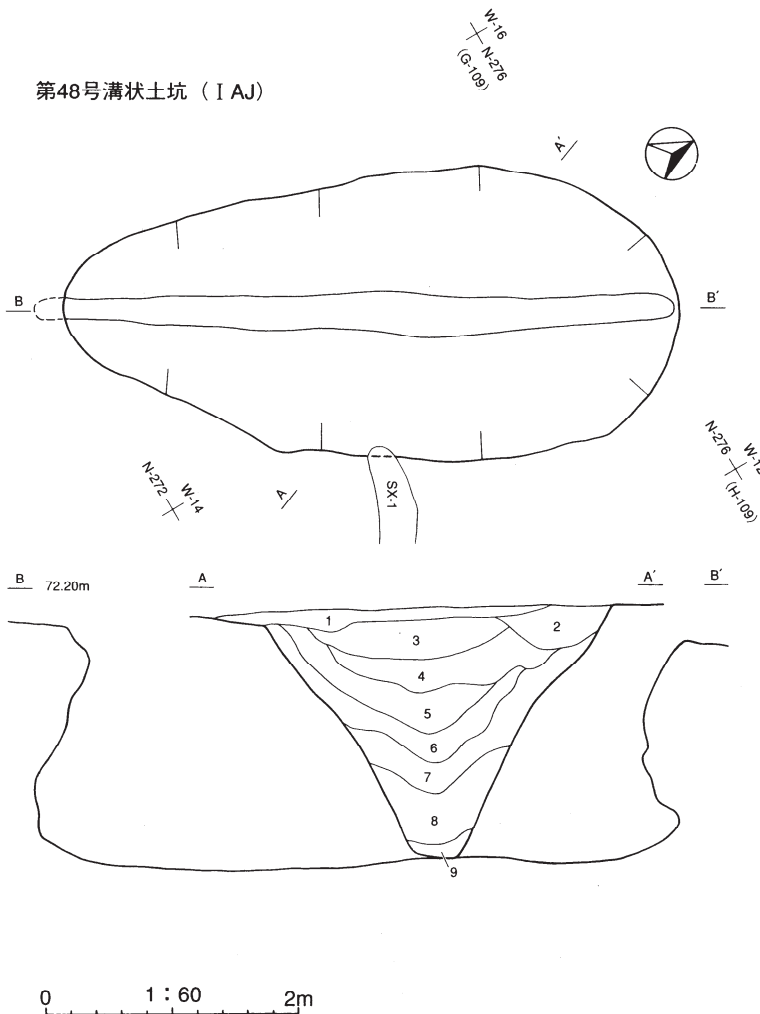
第33号溝状土坑 (I AD)



第33号溝状土坑

- 第1層 10YR1.7/1 黒色土
南部浮石(φ1~10mm)5%・中振浮石多量混入
- 第2層 10YR2/1 黒色土
南部浮石(φ1~10mm)3%・中振浮石多量混入
- 第3層 10YR2/1 黒色土
南部浮石(φ1~10mm)10%・中振浮石多量混入
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石(φ1~5mm)2%・中振浮石多量混入
- 第5層 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石(φ1~10mm)25%・中振浮石多量混入
- 第6層 10YR2/1 黒色土
南部浮石(φ1~10mm)3%混入
- 第7層 10YR2/1 黒色土
南部浮石(φ1~5mm)5%・中振浮石多量混入
- 第8層 10YR2/1 黒色土
ロームブロック3%・砂中量混入
- 第9層 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石(φ1~3mm)4%・ロームブロック2%混入
- 第10層 10YR4/4 褐色ローム
粘土ブロック2%混入、第Ⅷ層崩落土
- 第11層 10YR4/4 褐色ローム
南部浮石(φ1~5mm)1%・黒褐色土2%混入、第Ⅷ層崩落土
- 第12層 10YR2/2 黒褐色土
粘土ブロック3%・砂少量混入

第48号溝状土坑 (I AJ)

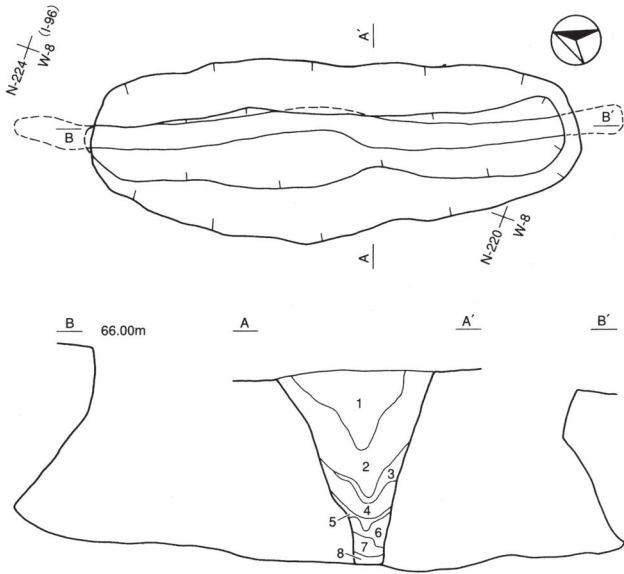


第48号溝状土坑

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土
南部浮石(φ1~2mm)5%混入
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土
南部浮石(φ5mm)1%混入
- 第3層 10YR5/6 黄褐色土
南部浮石(φ5~10mm)3%混入
- 第4層 10YR3/1 黒褐色土
南部浮石(φ5~20mm)3%・中振浮石(φ1mm)3%混入
- 第5層 10YR2/1 黒色土
南部浮石(φ5~30mm)3%・中振浮石(φ1mm)3%混入
- 第6層 10YR3/2 黒褐色土
南部浮石(φ3~30mm)5%・黒色土30%混入
- 第7層 10YR4/2 灰黄褐色土
南部浮石(φ10mm)1%・黒褐色土25%混入
- 第8層 10YR4/1 褐灰色土
- 第9層 10YR3/2 黒褐色土

図52 溝状土坑 1

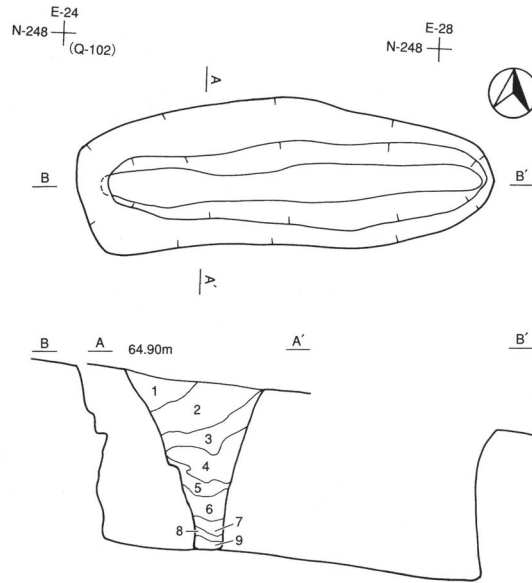
第1号溝状土坑 (II AD)



第1号溝状土坑

第1層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石 (φ1~5mm) 5%・中振浮石多量混入
第2層	10YR3/3	暗褐色土	南部浮石 (φ1~8mm) 5%・黒色土20%・中振浮石多量混入
第3層	10YR5/8	黄褐色土	南部浮石 (φ2~5mm) 3%・中振浮石中量混入
第4層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石 (φ1~3mm) 5%・中振浮石中量混入
第5層	10YR4/6	褐色土	南部浮石 (φ1~5mm) 3%・中振浮石少量混入
第6層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石 (φ1~10mm) 25%・中振浮石中量混入
第7層	10YR6/6	明黄褐色土	南部浮石 (φ1~3mm) 5%・中振浮石少量混入
第8層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石 (φ1~3mm) 2%・中振浮石少量混入

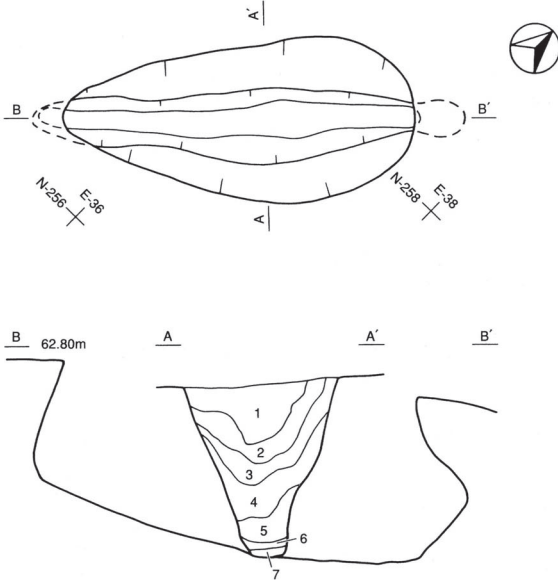
第38号溝状土坑 (II AF)



第38号溝状土坑

第1層	10YR2/1	黒色土	南部浮石 (φ1~4mm) 3%・褐色土・中振浮石少量混入
第2層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石 (φ1~5mm) 2%・中振浮石少量混入
第3層	10YR2/1	黒色土	南部浮石 (φ1~6mm) 5%・暗褐色土・中振浮石少量混入
第4層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石 (φ1~3mm) 2%・黄褐色土混入
第5層	10YR4/4	褐色土	南部浮石 (φ1~6mm) 2%・黒褐色土混入
第6層	10YR4/6	褐色ローム	南部浮石 (φ1~4mm) 1%・明黄褐色ローム・黒色土混入、第VI層ローム
第7層	10YR6/6	明黄褐色浮石	南部浮石 (φ1~22mm) 15%・暗褐色土混入、第VII層浮石
第8層	10YR4/6	褐色土	南部浮石 (φ1~13mm) 10%・明黄褐色土混入
第9層	10YR2/1	黒色土	南部浮石 (φ1mm~5mm) 7%・にぶい黄橙色土・黒褐色土混入

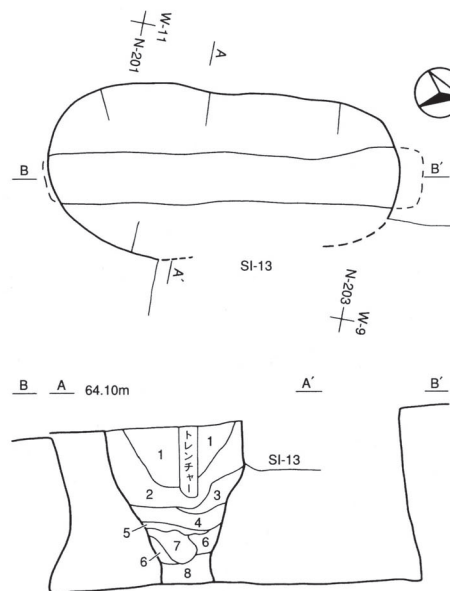
第47号溝状土坑 (II BD)



第47号溝状土坑

第1層	10YR2/1	黒色土	南部浮石 (φ1~10mm) 1%・中振浮石多量混入
第2層	10YR2/1	黒色土	南部浮石 (φ1~10mm) 2%・中振浮石多量混入
第3層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石 (φ1~10mm) 3%・中振浮石多量混入
第4層	10YR3/4	暗褐色土	南部浮石 (φ1~10mm) 2%・ロームブロック3%・褐色土7%混入
第5層	10YR2/2	黒褐色土	ロームブロック3%混入
第6層	10YR2/2	黒褐色土	ロームブロック2%混入
第7層	10YR3/3	暗褐色土	粘土7%混入

第54号溝状土坑 (II BD)



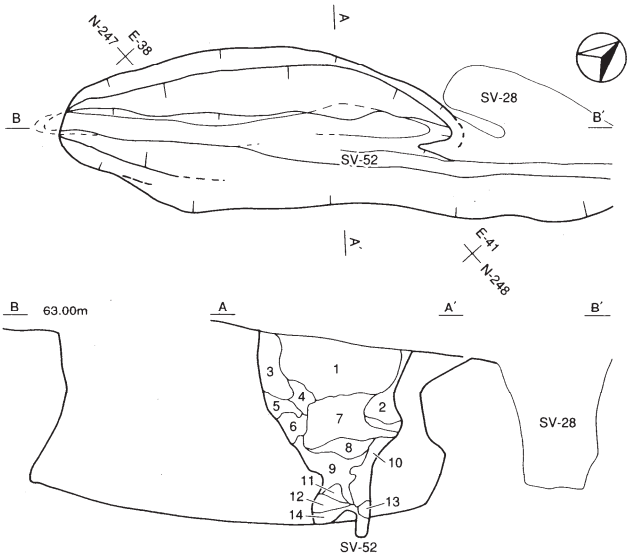
第54号溝状土坑

第1層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石 (φ1~10mm) 10%混入
第2層	10YR3/4	暗褐色土	南部浮石 (φ1~20mm) 7%・褐色土ブロック5%・黒褐色土ブロック7%混入
第3層	10YR4/4	褐色土	南部浮石 (φ1~30mm) 10%混入
第4層	10YR4/6	褐色土	南部浮石 (φ1~15mm) 15%混入
第5層	10YR5/8	黄褐色土	南部浮石 (φ1~10mm) 5%混入
第6層	10YR3/4	暗褐色土	南部浮石 (φ1~15mm) 5%混入
第7層	10YR5/6	黄褐色ローム	南部浮石 (φ1~10mm) 2%混入
第8層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石 (φ1~8mm) 3%・黒褐色土ブロック5%混入



図53 溝状土坑 2

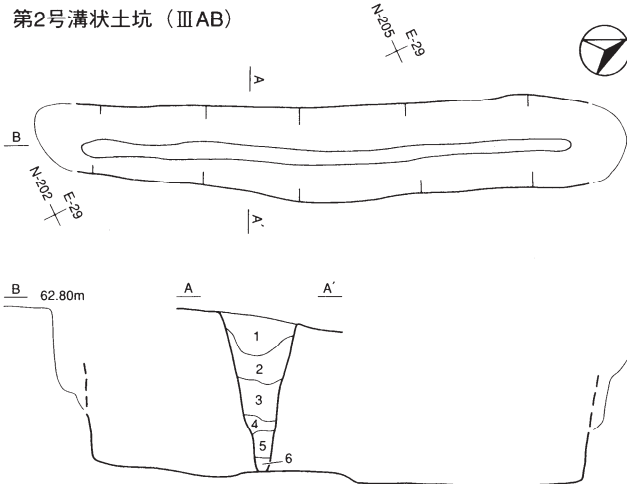
第27号溝状土坑 (ⅡBD)



第27号溝状土坑

第1層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ3~10mm)5%・中振浮石多量混入
第2層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ3~10mm)5%・褐色土10%・中振浮石少量混入
第3層	10YR4/6	褐色土	南部浮石(φ5~10mm)7%・黒褐色土5%混入
第4層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ3~10mm)5%・中振浮石中量混入
第5層	10YR5/6	黄褐色ローム	南部浮石(φ1~10mm)3%・黒色土5%混入、第Ⅶ層崩落土
第6層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~15mm)7%・中振浮石少量混入
第7層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ3~10mm)3%・中振浮石中量混入
第8層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ3~15mm)5%・中振浮石多量混入
第9層	10YR5/8	黄褐色ローム	南部浮石(φ1~20mm)5%・黒色土5%混入
第10層	10YR3/4	暗褐色土	南部浮石(φ1~10mm)5%・黒色土30%混入
第11層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~3mm)1%・黄褐色ローム・中振浮石少量混入、砂質
第12層	10YR6/6	明黄褐色浮石土	南部浮石(φ5~10mm)10%・黒色土5%混入
第13層	10YR4/6	褐色土	南部浮石(φ1~2mm)1%・黒色土10%混入、シルト質
第14層	10YR7/4	にぶい黄橙色土	南部浮石(φ1~10mm)10%・黒色土30%混入、シルト質

第2号溝状土坑 (ⅢAB)



第2号溝状土坑

第1層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石(φ2~3mm)1%・中振浮石中量混入
第2層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石(φ5~10mm)2%・中振浮石少量混入
第3層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石(φ3~10mm)2%・褐色土5%混入
第4層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石(φ1mm)1%・褐色土5%混入
第5層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ5~10mm)3%・褐色土10%混入
第6層	10YR1.7/1	黒色土	南部浮石(φ5mm)3%・褐色土20%混入

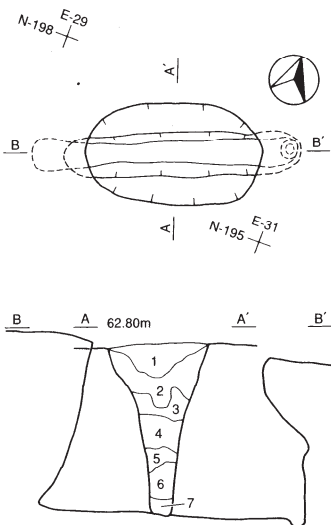
第14号溝状土坑

第1層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~2mm)1%・中振浮石多量混入
第2層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ1~5mm)3%・中振浮石少量混入
第3層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ1~7mm)7%・中振浮石微量混入
第4層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石(φ1~5mm)5%・暗褐色土・中振浮石微量混入
第5層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石(φ1~2mm)1%・中振浮石微量混入
第6層	10YR3/4	暗褐色土	南部浮石(φ1~3mm)2%・中振浮石微量混入
第7層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石(φ1~3mm)1%・中振浮石微量混入

第46号溝状土坑

第1層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~2mm)1%・中振浮石多量混入
第2層	10YR2/1	黒色土	南部浮石(φ1~10mm)2%・中振浮石多量混入
第3層	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石(φ1~10mm)4%・中振浮石少量混入
第4層	10YR3/3	暗褐色土	南部浮石(φ1~10mm)2%混入
第5層	10YR4/6	褐色土	南部浮石(φ1~5mm)2%・黒褐色土2%混入
第6層	10YR2/3	黒褐色土	南部浮石(φ1~5mm)2%・褐色土1%混入
第7層	10YR2/3	黒褐色土	ロームブロック4%混入
第8層	10YR2/2	黒褐色土	粘土ブロック2%・砂混入
第9層	10YR5/4	にぶい黄褐色粘土	砂少量混入

第14号溝状土坑 (ⅢAD)



第46号溝状土坑 (ⅢAD)

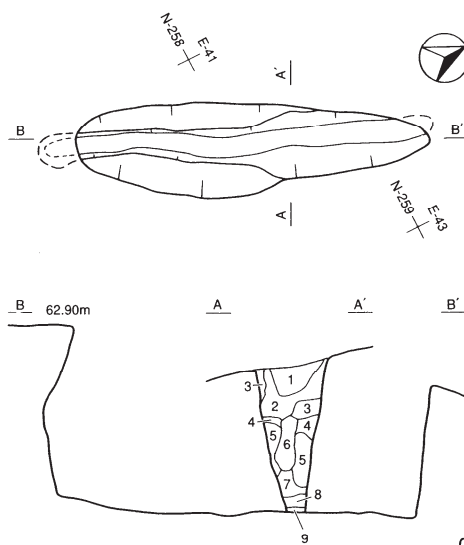
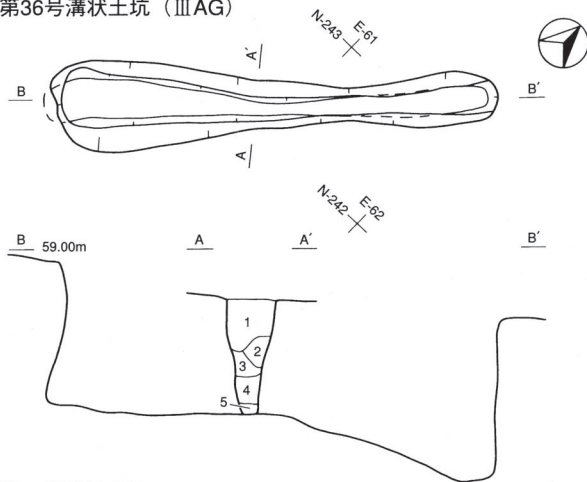


図54 溝状土坑 3

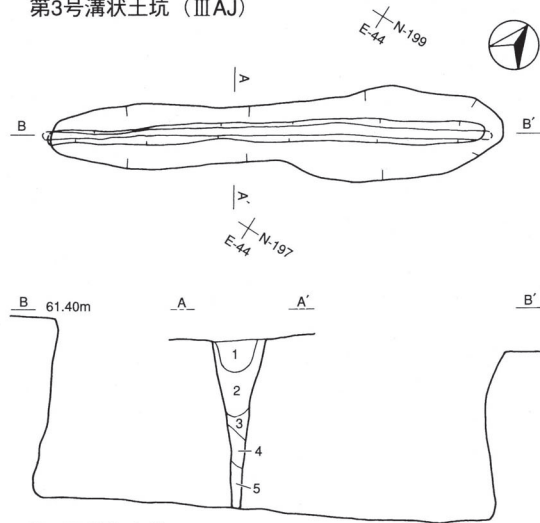
第36号溝状土坑 (ⅢAG)



第36号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|--------|-------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~12mm)7%・暗褐色土・中振浮石少量混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~3mm)5%・暗褐色土少量混入 |
| 第3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~2mm)3%・褐色土中量混入 |
| 第4層 | 10YR5/6 | 黄褐色ローム | 黒色土1%混入、第VI層ローム |
| 第5層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石(φ1~22mm)20%・砂礫多量混入 |

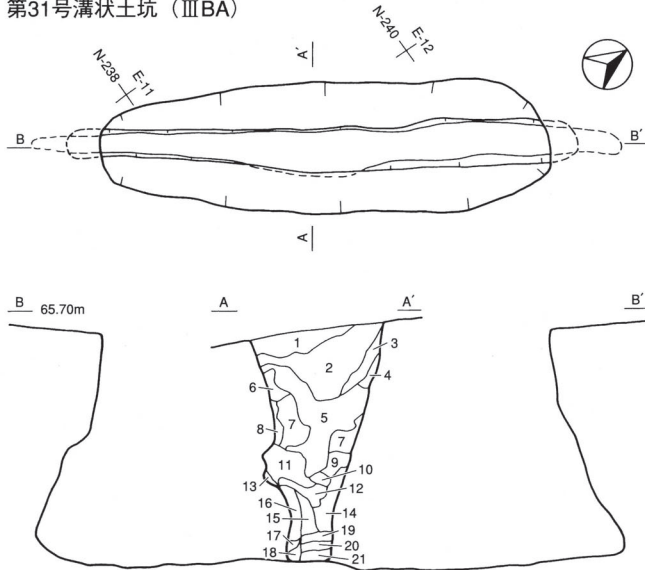
第3号溝状土坑 (ⅢAJ)



第3号溝状土坑

- | | | | |
|-----|-----------|------|--------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ3~5mm)2%・中振浮石20%混入 |
| 第2層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ3~5mm)5%・中振浮石5%混入 |
| 第3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ3mm)3%混入 |
| 第4層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | |
| 第5層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 暗褐色土ブロック20%混入 |

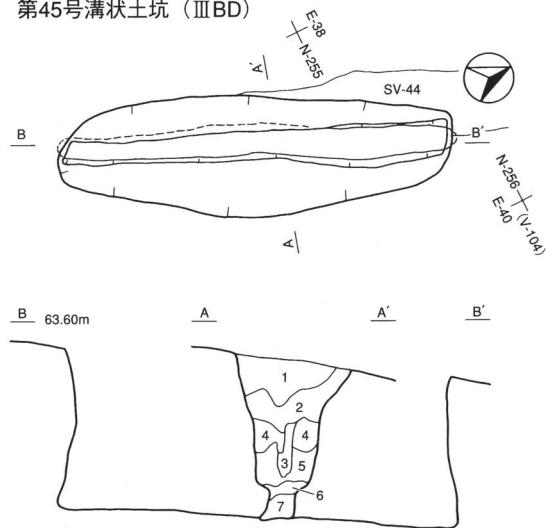
第31号溝状土坑 (ⅢBA)



第31号溝状土坑

- | | | | |
|------|-----------|----------|-----------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 黒褐色土混入 |
| 第2層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~15mm)2%・中振浮石少量混入 |
| 第3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~8mm)2%・中振浮石少量混入 |
| 第4層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~6mm)2%混入 |
| 第5層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ3~10mm)7%・ローム混入 |
| 第6層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~7mm)2%混入 |
| 第7層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 南部浮石(φ1~10mm)3%・黒褐色土混入 |
| 第8層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)3%混入 |
| 第9層 | 10YR4/6 | 褐色浮石 | 南部浮石(φ1~3mm)5%混入、第VII層崩落土 |
| 第10層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 褐色土混入 |
| 第11層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)3%・黒色土混入 |
| 第12層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石(φ1~3mm)2%・黒色土・褐色土・にぶい黄褐色粘土混入 |
| 第13層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石(φ1~6mm)3%混入 |
| 第14層 | 10YR6/6 | 明黄褐色ローム | 南部浮石(φ1~10mm)20%混入、第VI層崩落土 |
| 第15層 | 10YR6/6 | 明黄褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)2%・暗褐色土・黒色土混入 |
| 第16層 | 10YR7/6 | 明黄褐色粘土 | 南部浮石(φ1~15mm)2%・黄褐色土混入 |
| 第17層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | にぶい黄褐色土混入 |
| 第18層 | 10YR7/4 | にぶい黄褐色粘土 | 南部浮石(φ1~5mm)10%混入 |
| 第19層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~5mm)2%・暗褐色土混入 |
| 第20層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 南部浮石(φ1~7mm)1%・黒色土混入 |
| 第21層 | 10YR6/4 | にぶい黄橙粘土 | 南部浮石(φ1~5mm)1%・黒色土混入 |

第45号溝状土坑 (ⅢBD)

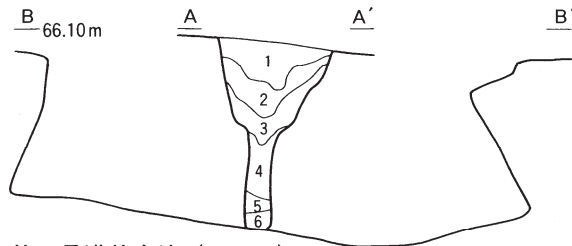
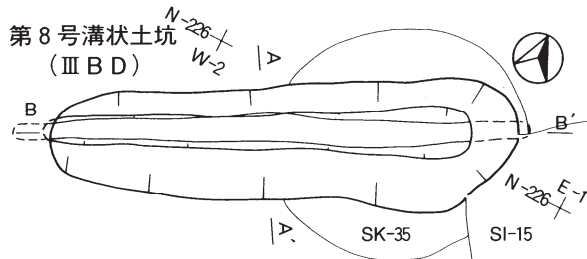


第45号溝状土坑

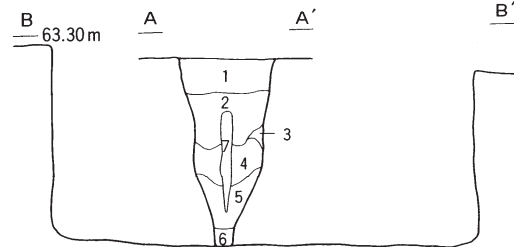
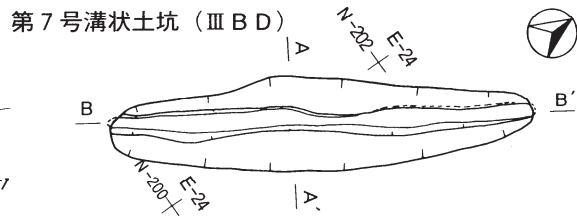
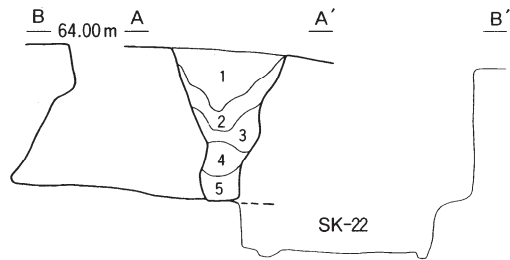
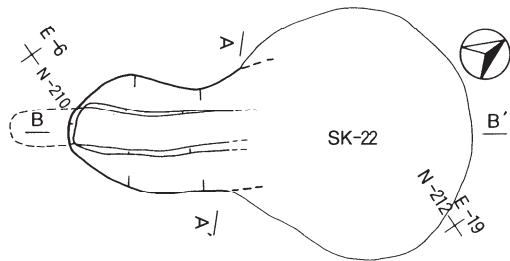
- | | | | |
|-----|---------|--------|----------------------------|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)1%・中振浮石多量混入 |
| 第2層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~10mm)3%・中振浮石少量混入 |
| 第3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~3mm)1%・ロームブロック3%混入 |
| 第4層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)4%・黒褐色土2%混入 |
| 第5層 | 10YR5/6 | 黄褐色ローム | 南部浮石(φ1~10mm)1%混入、第VI層ローム |
| 第6層 | 10YR5/6 | 黄褐色浮石 | 砂礫(φ1~10mm)9%混入、第VII層南部浮石 |
| 第7層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)2%・粘土ブロック1%混入 |

0 1:60 2m

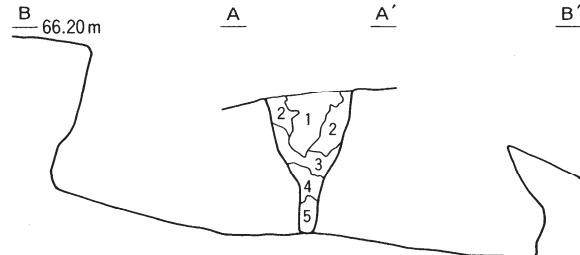
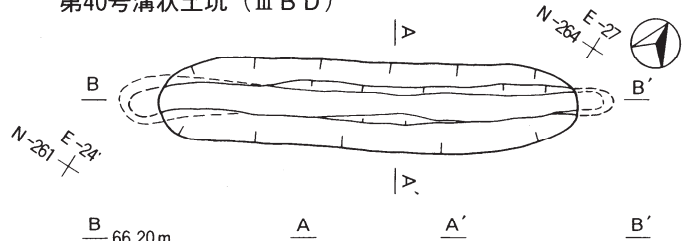
図55 溝状土坑 4



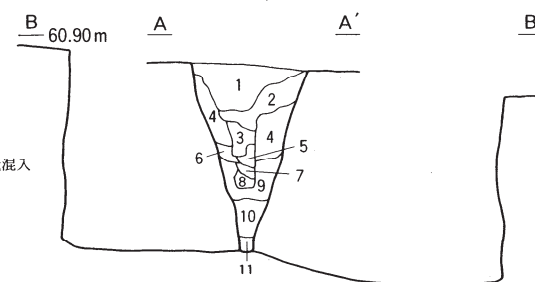
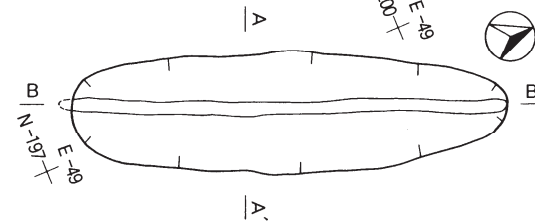
第17号溝状土坑 (ⅢBD)



第40号溝状土坑 (ⅢBD)



第18号溝状土坑 (ⅢBG)



第7号溝状土坑

- 第1層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~2mm)1%・中振浮石多量混入
- 第2層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~7mm)1%・中振浮石中量混入
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石(φ1~2mm)1%・中振浮石少量混入
- 第4層 10YR4/4 南部浮石(φ1~5mm)5%混入
- 第5層 10YR4/6 褐色土 南部浮石(φ1~3mm)3%混入
- 第6層 10YR1.7/1 黒色土 南部浮石(φ1~3mm)2%・中振浮石微量混入
- 第7層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~3mm)2%・中振浮石少量混入

第8号溝状土坑

- 第1層 10YR3/3 暗黒色土 南部浮石(φ3~5mm)3%・中振浮石多量混入
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石(φ5~10mm)3%・黒色土1%・中振浮石多量混入
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石(φ1~5mm)5%・中振浮石中量混入
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~10mm)7%・黄褐色土3%・中振浮石多量少量混入
- 第5層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~5mm)3%・黄褐色土10%混入
- 第6層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~5mm)3%・黄褐色土5%混入

第40号溝状土坑

- 第1層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~10mm)3%・中振浮石多量混入
- 第2層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石(φ1~10mm)5%・褐色土4%・中振浮石少量混入
- 第3層 10YR4/6 褐色土 南部浮石(φ1~5mm)3%・黒褐色土2%混入
- 第4層 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石(φ1~5mm)2%・褐色土4%混入
- 第5層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ1~10mm)1%・黒色土2%混入

第17号溝状土坑

- 第1層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~3mm)3%・中振浮石多量混入
- 第2層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~5mm)7%・中振浮石中量混入
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石(φ1~5mm)5%・中振浮石中量混入
- 第4層 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石(φ1~3mm)2%・黒褐色土・中振浮石中量混入
- 第5層 10YR4/4 褐色土 南部浮石(φ1~5mm)5%・灰白色ローム・中振浮石微量混入

第18号溝状土坑

- 第1層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~2mm)1%・中振浮石多量混入
- 第2層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~3mm)3%・中振浮石中量混入
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~5mm)3%・中振浮石少量混入
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~7mm)5%・中振浮石微量混入
- 第5層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石(φ1~10mm)10%・中振浮石微量混入
- 第6層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~5mm)2%・中振浮石微量混入
- 第7層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~3mm)1%・暗褐色土・中振浮石微量混入
- 第8層 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石(φ1~7mm)1%・中振浮石微量混入
- 第9層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石(φ1~5mm)5%混入
- 第10層 10YR2/1 黒色土 南部浮石(φ1~5mm)3%混入
- 第11層 10YR4/6 褐色土 南部浮石(φ1~3mm)2%混入

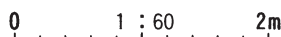
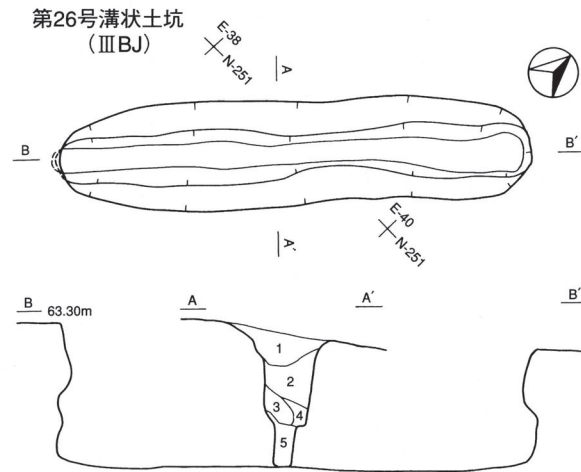
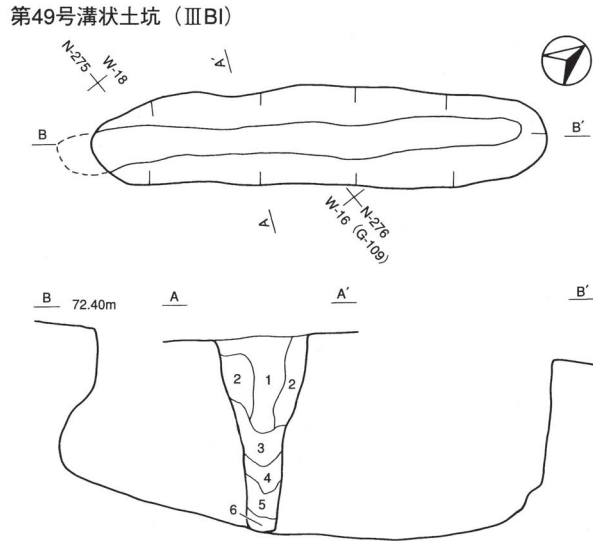
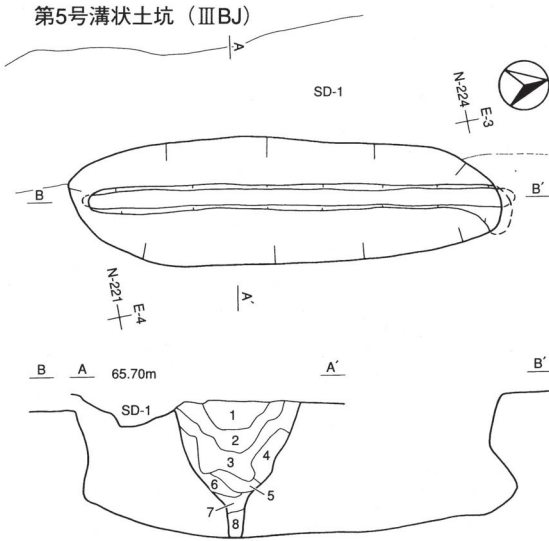


図56 溝状土坑 5



第5号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|---------|----------------------------|
| 第1層 | 10YR6/6 | 明黄褐色ローム | 南部浮石 (φ1~10mm) 4%・黒褐色土4%混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~5mm) 3%混入 |
| 第3層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~3mm) 2%・暗褐色土2%混入 |
| 第4層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石 (φ1~3mm) 3%混入 |
| 第5層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石 (φ1~3mm) 2%混入 |
| 第6層 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 南部浮石 (φ1~5mm) 2%・黒色土2%混入 |
| 第7層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 砂礫 (φ1~3mm) 3%混入 |
| 第8層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 砂礫 (φ1~2mm) 2%混入 |

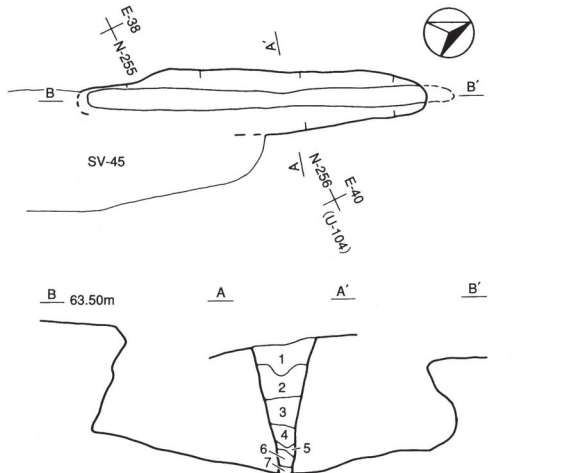
第26号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|--------|--------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~5mm) 5%・暗褐色土・中振浮石少量混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~12mm) 5%・暗褐色土混入 |
| 第3層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石 (φ1~5mm) 3%・褐色土混入 |
| 第4層 | 10YR5/6 | 黄褐色ローム | 南部浮石 (φ1~10mm) 3%・褐色土混入、第Ⅶ層崩落土 |
| 第5層 | 10YR5/6 | 黄褐色浮石 | 明黄褐色土・南部浮石混在、黒褐色土混入、第Ⅶ層崩落土 |

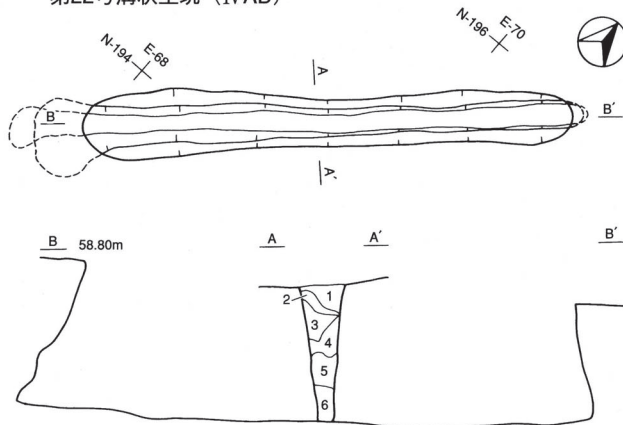
第49号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|------|---------------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ2~20mm) 7%・褐色土ブロック5%・中振浮石中量混入 |
| 第2層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 南部浮石 (φ1~10mm) 7%・黒褐色土ブロック5%・中振浮石中量混入 |
| 第3層 | 10YR4/8 | 黄褐色土 | 南部浮石 (φ1~3mm) 3%混入 |
| 第4層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 南部浮石 (φ1~3mm) 3%・明黄褐色土ブロック3%混入 |
| 第5層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 南部浮石 (φ1~3mm) 3%混入 |
| 第6層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~5mm) 3%混入 |

第44号溝状土坑 (ⅣAD)



第22号溝状土坑 (ⅣAD)



第44号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|--------|--------------------|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ロームブロック1%・中振浮石少量混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ロームブロック1%・中振浮石微量混入 |
| 第3層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ロームブロック4%混入 |
| 第4層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ロームブロック1%・中振浮石少量混入 |
| 第5層 | 10YR4/6 | 褐色ローム | 暗褐色土2%混入、第Ⅶ層ローム |
| 第6層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ロームブロック1%混入 |
| 第7層 | 10YR5/6 | 黄褐色ローム | 粘土5%混入、第Ⅶ層ローム |

第22号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|------|-------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1~3mm) 1%・中振浮石混入 |
| 第2層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~6mm) 2%混入 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1~10mm) 2%混入 |
| 第4層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1~8mm) 3%混入 |
| 第5層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~2mm) 3%・黒色土混入 |
| 第6層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 中振浮石混入 |

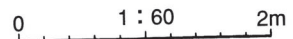
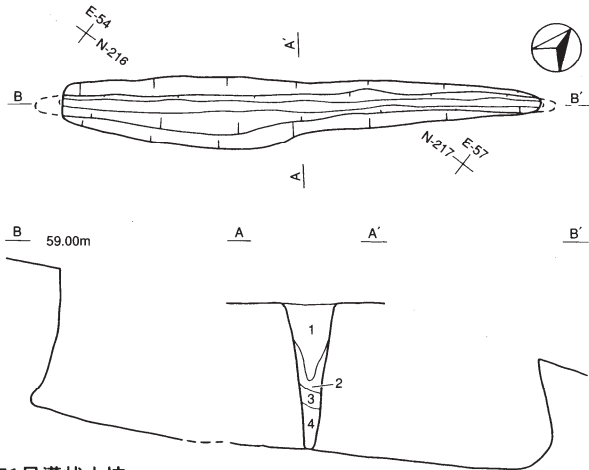


図57 溝状土坑 6

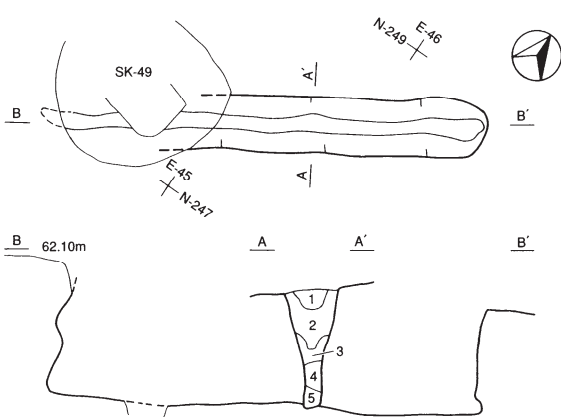
第51号溝状土坑 (IVAD)



第51号溝状土坑

- 第1層 10YR1.7/1 黑色土 中振浮石中量混入
- 第2層 10YR2/1 黑色土 南部浮石(φ1~5mm)2%混入
- 第3層 10YR2/3 黑褐色土 南部浮石粒2%・暗褐色土7%混入
- 第4層 10YR2/2 黑褐色土 南部浮石粒3%混入

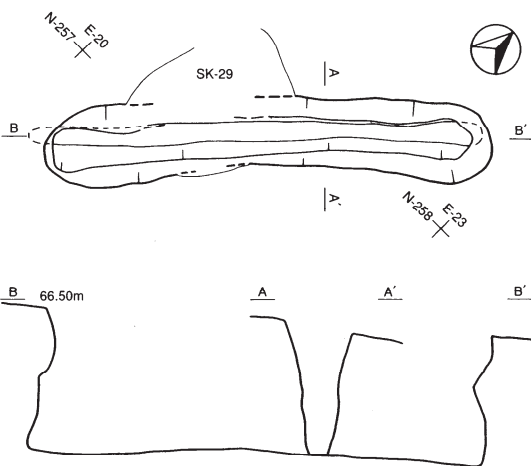
第42号溝状土坑 (IVAG)



第42号溝状土坑

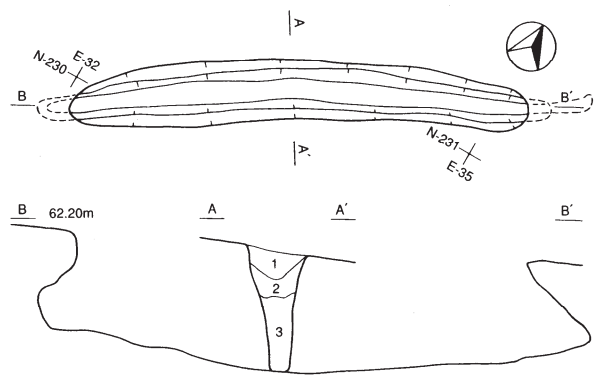
- 第1層 10YR2/1 黑色土 南部浮石(φ3~5mm)2%・中振浮石中量混入
- 第2層 10YR2/1 黑色土 南部浮石(φ3~10mm)5%・暗褐色土10%・中振浮石中量混入
- 第3層 10YR4/6 褐色土 黑色土30%混在。南部浮石(φ1~3mm)5%・中振浮石少量混入
- 第4層 10YR2/1 黑色土 南部浮石(φ1~2mm)1%・褐色土5%混入
- 第5層 10YR2/1 黑色土 南部浮石(φ1mm)1%・褐色土1%混入

第29号溝状土坑 (IVAJ)



0 1:60 2m

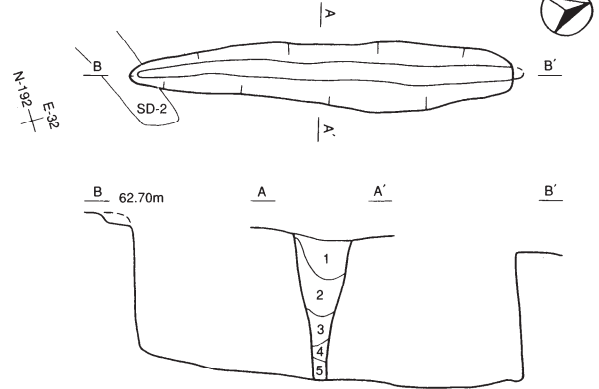
第24号溝状土坑 (IVAD)



第24号溝状土坑

- 第1層 10YR2/1 黑色土 南部浮石(φ1~5mm)5%・中振浮石多量混入
- 第2層 10YR2/2 黑褐色土 南部浮石(φ1~5mm)3%・中振浮石少量混入
- 第3層 10YR2/3 黑褐色土 南部浮石(φ1~2mm)2%・中振浮石微量混入

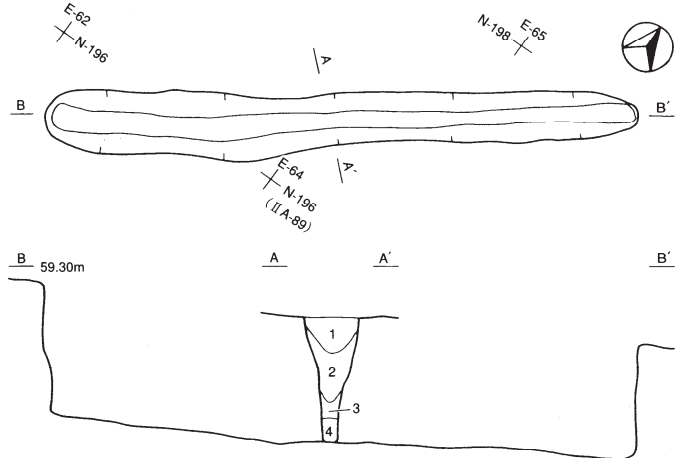
第9号溝状土坑 (IVAI)



第9号溝状土坑

- 第1層 10YR2/1 黑色土 南部浮石(φ1~2mm)1%・中振浮石少量混入
- 第2層 10YR2/1 黑色土 南部浮石(φ2~5mm)3%・褐色土5%・中振浮石少量混入
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石(φ2~5mm)3%・黑色土10%混入
- 第4層 10YR4/4 褐色土 南部浮石(φ1~2mm)1%混入
- 第5層 10YR1.7/1 黑色土 南部浮石(φ3~5mm)2%混入

第20号溝状土坑 (IVBA)

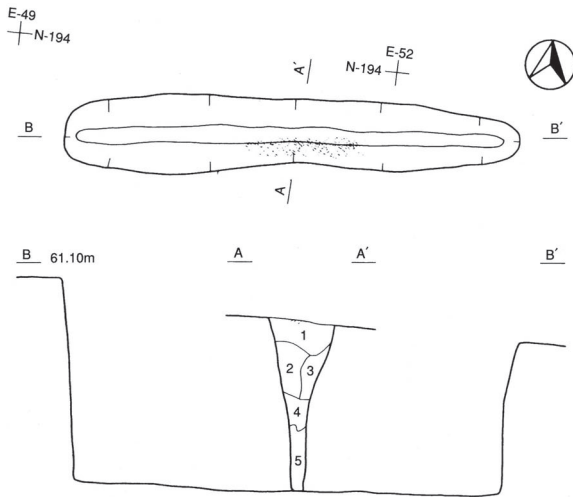


第20号溝状土坑

- 第1層 10YR2/1 黑色土 南部浮石(φ1~4mm)2%・中振浮石混入
- 第2層 10YR1.7/1 黑色土 南部浮石(φ1~10mm)3%混入
- 第3層 10YR2/3 黑褐色土 南部浮石(φ1~3mm)2%混入
- 第4層 10YR2/1 黑色土 南部浮石(φ1~2mm)2%混入

図58 溝状土坑7

第12号溝状土坑 (IVBB)



第12号溝状土坑

- 第1層 10YR2/1 黒色土 南部浮石 (φ1~3mm) 1%・中振浮石・焼土混入
- 第2層 10YR1.7/1 黒色土 南部浮石 (φ1~6mm) 2%混入
- 第3層 10YR2/1 黒色土 南部浮石 (φ1~10mm) 3%・中振浮石混入
- 第4層 10YR2/1 黒色土 南部浮石 (φ1~7mm) 5%・黒褐色土混入
- 第5層 10YR1.7/1 黒色土 中振浮石混入

第11号溝状土坑

- 第1層 10YR2/1 黒色土 南部浮石 (φ1~3mm) 1%・黄褐色土10%・中振浮石中量・焼土混入
- 第2層 10YR2/1 黒色土 南部浮石 (φ1mm) 1%・中振浮石少量混入
- 第3層 10YR2/1 黒色土 南部浮石 (φ1~5mm) 3%混入

第43号溝状土坑

- 第1層 10YR2/1 黒色土 南部浮石 (φ1~5mm) 1%・暗褐色土2%・中振浮石少量混入
- 第2層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石 (φ1~10mm) 3%・暗褐色土4%混入
- 第3層 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石 (φ0.1~0.5mm) 1%・ロームブロック1%混入
- 第4層 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石 (φ1~5mm) 3%・ロームブロック2%混入
- 第5層 10YR4/6 褐色ローム 南部浮石 (φ1~5mm) 2%・暗褐色土1%混入、第V層ローム
- 第6層 10YR5/6 黄褐色浮石 砂礫 (φ1~10mm) 8%混入、第VII層浮石
- 第7層 10YR5/6 黄褐色ローム 粘土ブロック1%混入、第VIII層ローム
- 第8層 10YR3/3 暗褐色土 粘土ブロック5%・褐色土7%・黒褐色土3%混入
- 第9層 10YR5/6 黄褐色土 南部浮石 (φ3~5mm) 15%混入、ローム層

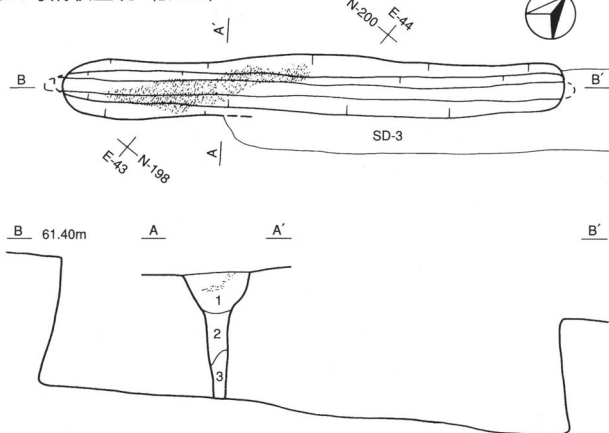
第13号溝状土坑

- 第1層 10YR1.7/1 黒色土 南部浮石 (φ1~2mm) 1%・中振浮石多量・焼土混入
- 第2層 10YR1.7/1 黒色土 南部浮石 (φ1~2mm) 2%・中振浮石少量混入
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石 (φ1~3mm) 2%・中振浮石少量混入
- 第4層 10YR1.7/1 黒色土 南部浮石 (φ1~7mm) 3%・中振浮石少量混入
- 第5層 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石 (φ1~2mm) 1%・中振浮石微量混入
- 第6層 10YR2/1 黒色土 南部浮石 (φ1~5mm) 3%・中振浮石微量混入
- 第7層 10YR2/1 黒色土 南部浮石 (φ1~2mm) 1%・褐色土・中振浮石微量混入
- 第8層 10YR5/6 黄褐色浮石 第VII層崩落土
- 第9層 10YR2/1 黒色土 南部浮石 (φ1~2mm) 1%・中振浮石微量混入

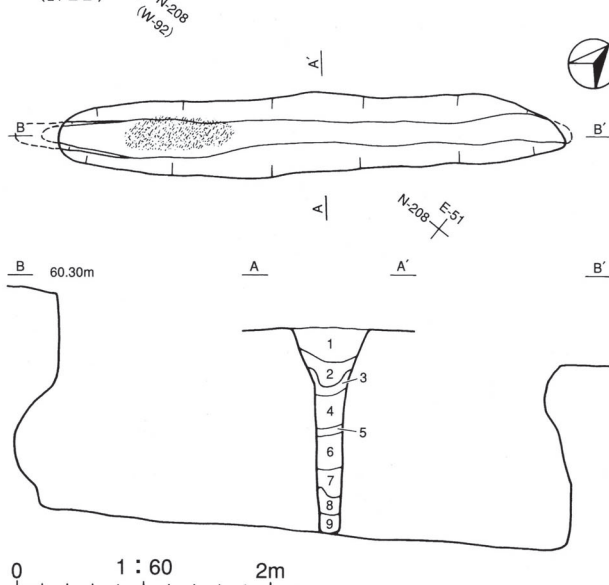
第39号溝状土坑

- 第1層 10YR2/1 黒色土 南部浮石 (φ1~5mm) 3%・黒褐色土・中振浮石少量混入
- 第2層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石 (φ1~8mm) 5%・暗褐色土混入
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石 (φ1~6mm) 4%・黄褐色ローム混入
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石 (φ1~5mm) 3%・褐色土混入
- 第5層 10YR4/6 褐色ローム 南部浮石 (φ1~6mm) 5%・明黄褐色南部浮石土混入、第VI層ローム
- 第6層 10YR5/6 黄褐色粘土 南部浮石 (φ1~20mm) 20%・明黄褐色南部浮石土混入、第VIII層粘土
- 第7層 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒3%混入

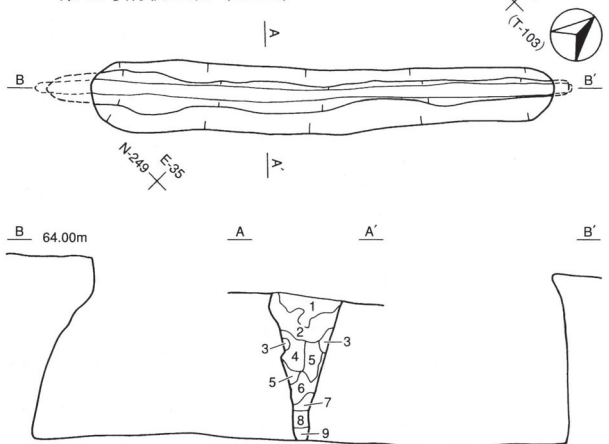
第11号溝状土坑 (IVBD)



第13号溝状土坑 (IVBD)



第43号溝状土坑 (IVBD)



第39号溝状土坑 (IVBD)

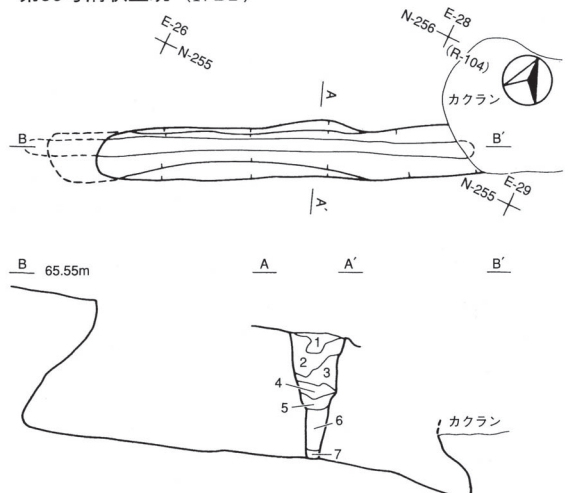
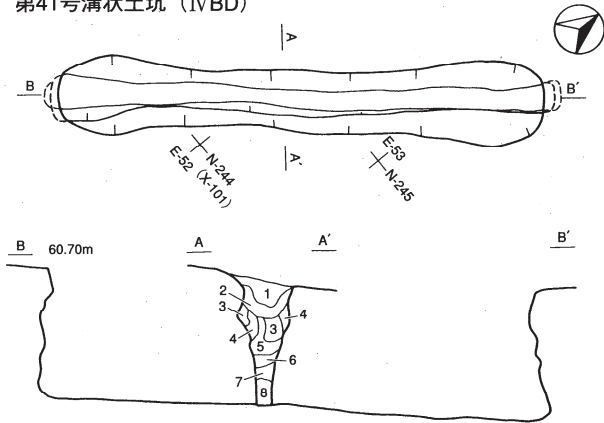
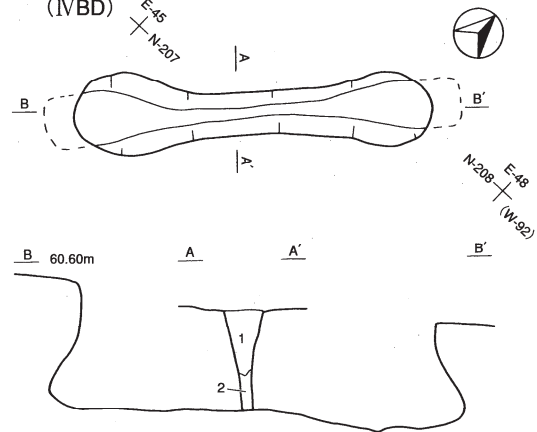


図59 溝状土坑 8

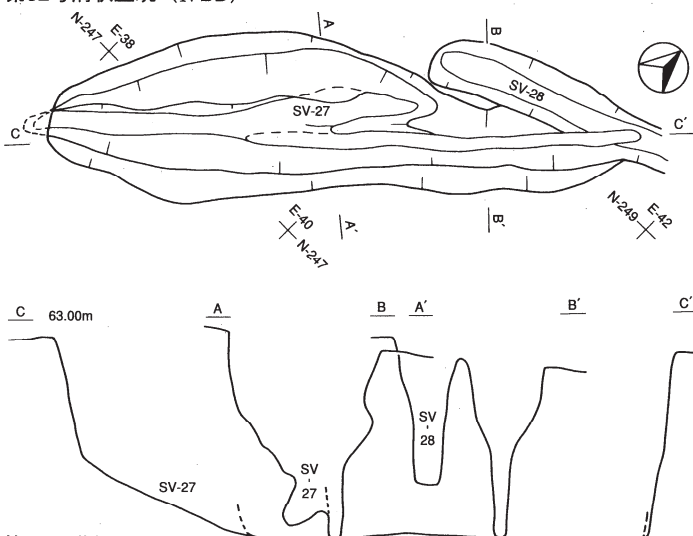
第41号溝状土坑 (IVBD)



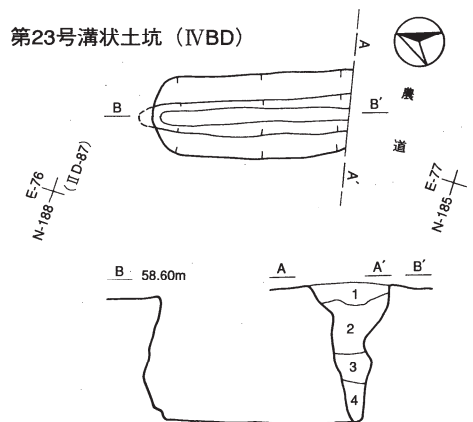
第50号溝状土坑 (IVBD)



第52号溝状土坑 (IVBD)



第23号溝状土坑 (IVBD)



第41号溝状土坑

- | | | | |
|-----|-----------|---------|-------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1~3mm) 1%・中振浮石少量混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~5mm) 1%・ロームブロック3%混入 |
| 第3層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | |
| 第4層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 南部浮石 (φ1~10mm) 3%・黒褐色土2%混入 |
| 第5層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~10mm) 2%・ロームブロック3%混入 |
| 第6層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ロームブロック4%・粘土ブロック2%混入 |
| 第7層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 暗褐色土3%・粘土ブロック2%混入 |
| 第8層 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 黒褐色土2%・ロームブロック2%・粘土ブロック8%混入 |

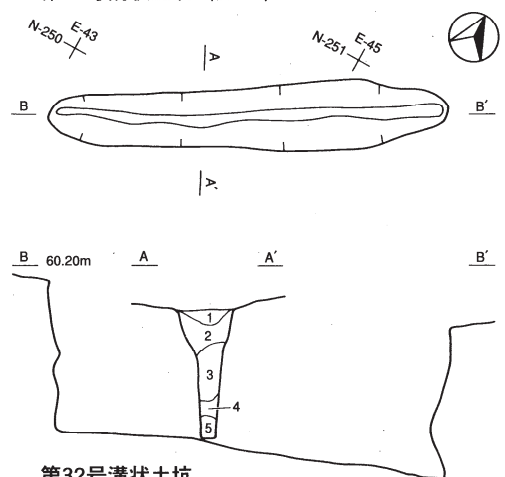
第50号溝状土坑

- | | | | |
|-----|-----------|-----|--------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1~9mm) 3%混入 |
| 第2層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1~13mm) 2%・暗褐色土混入 |

第23号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|-----|---------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1mm) 1%・中振浮石中量混入 |
| 第2層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1~5mm) 2%・中振浮石少量混入 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1mm) 1%・褐色土10%混入 |
| 第4層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1~3mm) 1%混入 |

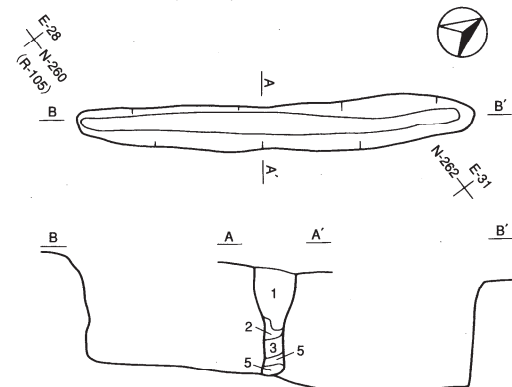
第32号溝状土坑 (IVBF)



第32号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|------|----------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1~5mm) 2%・中振浮石多量混入 |
| 第2層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1~7mm) 10%・中振浮石少量混入 |
| 第3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~2mm) 1%・中振浮石微量混入 |
| 第4層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~2mm) 2%混入 |
| 第5層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~2mm) 1%混入 |

第53号溝状土坑 (IVBE)



第53号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|------|----------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ2~10mm) 7%・中振浮石多量混入 |
| 第2層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石 (φ2~3mm) 1%・中振浮石少量混入 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石 (φ1~2mm) 1%混入 |
| 第4層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石 (φ1~2mm) 1%混入 |
| 第5層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石 (φ1~2mm) 2%・砂混入 |

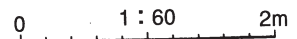


図60 溝状土坑 9

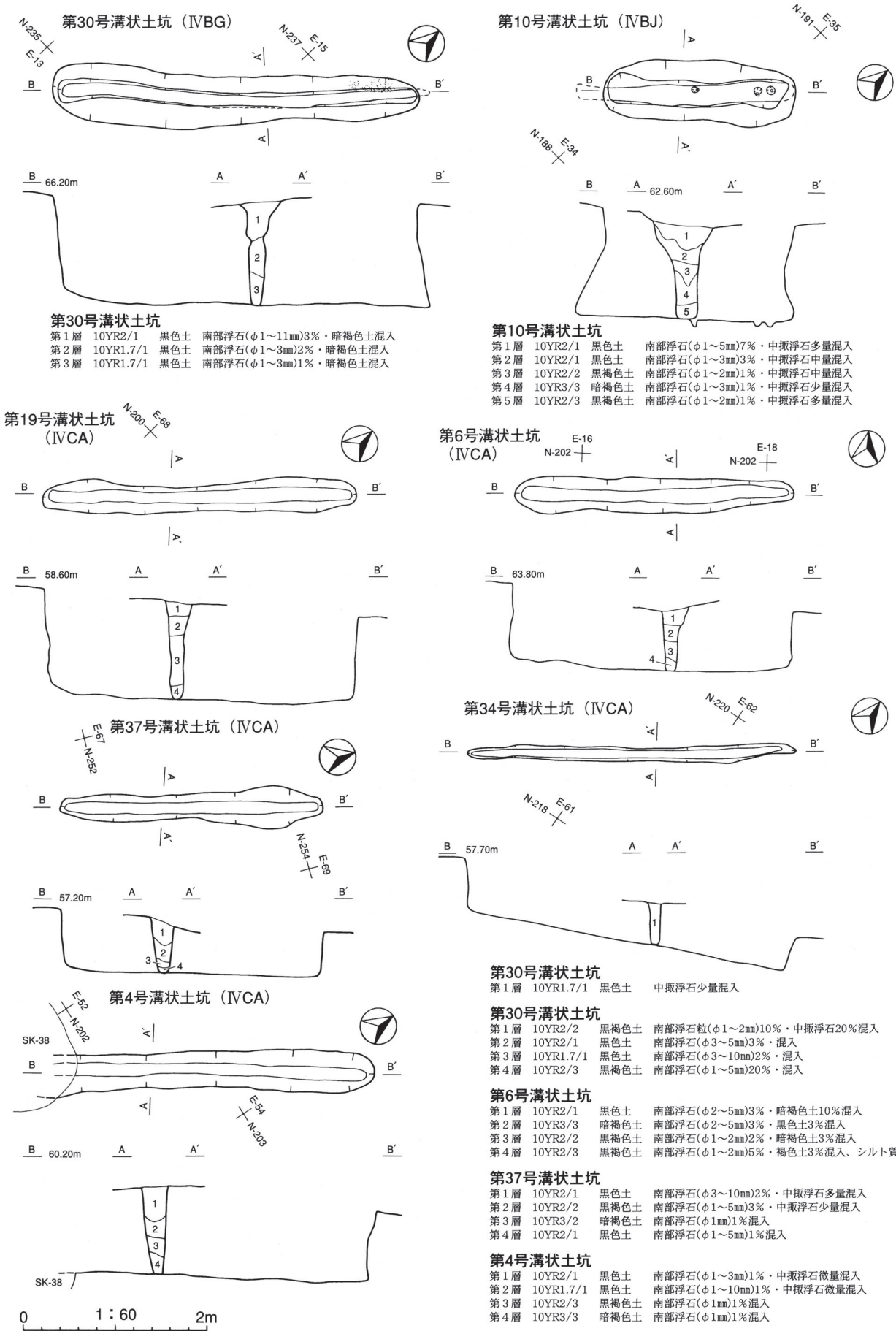
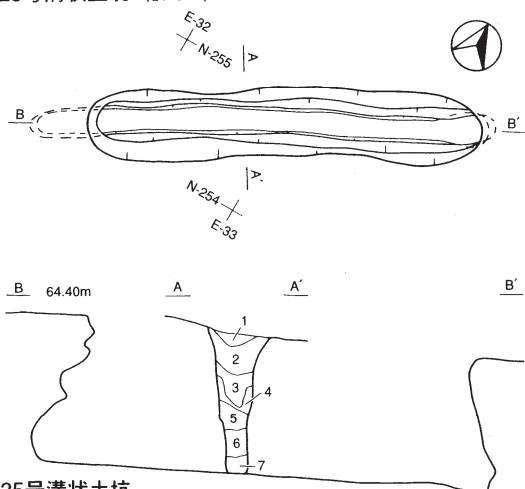


図61 溝状土坑10

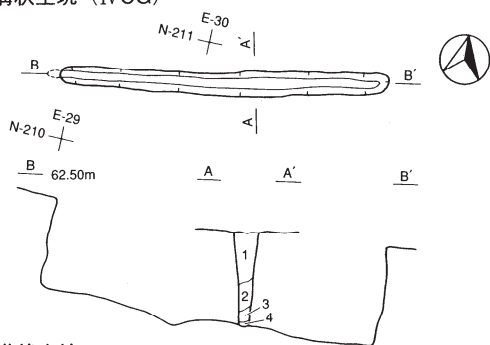
第25号溝状土坑 (IVCD)



第25号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|--------|------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~20mm)3%混入 |
| 第2層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~12mm)6%・暗褐色土混入 |
| 第3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)4%・黄褐色土混入 |
| 第4層 | 10YR5/6 | 黄褐色ローム | 南部浮石(φ1~7mm)3%・褐色土混入、第Ⅶ層崩落土 |
| 第5層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~10mm)3%・黄褐色ローム・黒色土混入 |
| 第6層 | 10YR5/6 | 黄褐色浮石 | 第Ⅶ層崩落土 |
| 第7層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石(φ1~25mm)10%混入 |

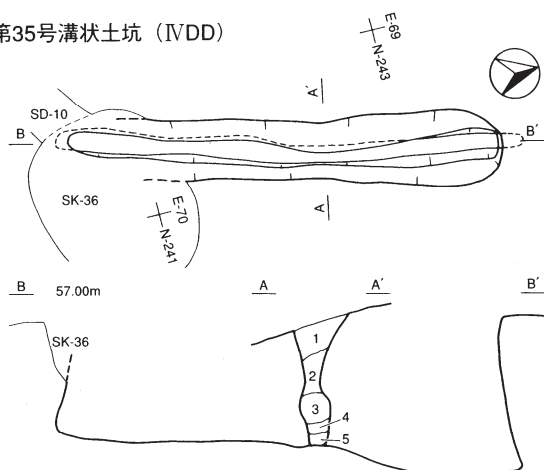
第15号溝状土坑 (IVCG)



第15号溝状土坑

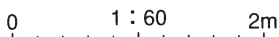
- | | | | |
|-----|---------|------|--------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~5mm)1%・中振浮石中量混入 |
| 第2層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~2mm)1%・中振浮石中量混入 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~5mm)1%・黄褐色土5%・中振浮石少量混入 |
| 第4層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黄褐色土20%混入 |

第35号溝状土坑 (IVDD)

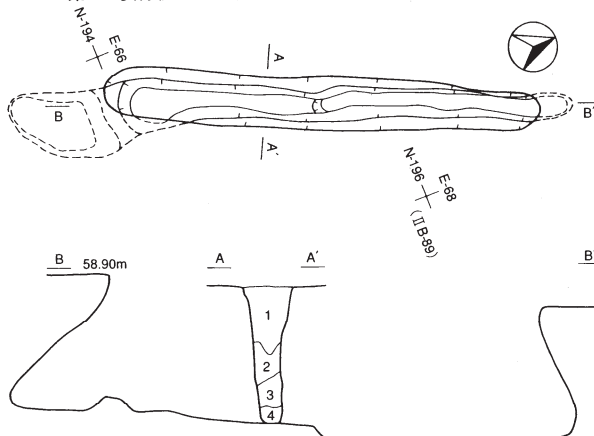


第35号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|------|--------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~10mm)3%・中振浮石少量混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)2%・褐色土3%混入 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ロームブロック1%混入 |
| 第4層 | 10YR2/2 | 暗褐色土 | 粘土ブロック5%・ロームブロック3%混入 |
| 第5層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 粘土ブロック6%・砂礫2%混入 |



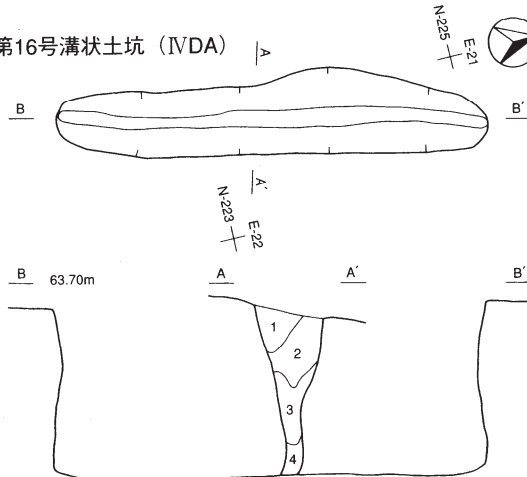
第21号溝状土坑 (IVCD)



第21号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|-----|--------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ5~10mm)5%・中振浮石多量混入 |
| 第2層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ3~5mm)3%・暗褐色土5%・中振浮石中量混入 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~5mm)3%・暗褐色土3%混入 |
| 第4層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~3mm)1%・褐色土5%混入 |

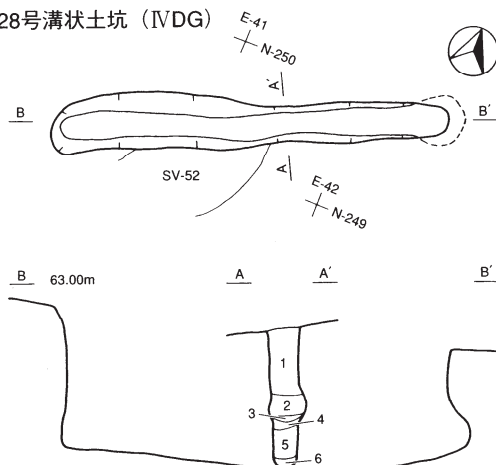
第16号溝状土坑 (IVDA)



第16号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|------|-----------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~5mm)1%・中振浮石多量混入 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)3%・暗褐色土3%・中振浮石少量混入 |
| 第3層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)1%・黒褐色土3%・粘土ブロック2%混入 |
| 第4層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~10mm)1%・ローム粒3%・粘土ブロック2%混入 |

第28号溝状土坑 (IVDG)



第28号溝状土坑

- | | | | |
|-----|---------|-------|-------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ1~3mm)1%・中振浮石中量混入 |
| 第2層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ5~10mm)1%・中振浮石少量混入 |
| 第3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石(φ1~5mm)3%・中振浮石中量混入 |
| 第4層 | 10YR4/4 | 褐色ローム | 南部浮石(φ1~5mm)3%・黒色土5%混入、第Ⅶ層崩落土 |
| 第5層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石(φ5~20mm)7%・褐色土5%・砂礫混入 |
| 第6層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石(φ5~10mm)5%・砂礫混入 |

図62 溝状土坑11

溝状土坑計測表

図	SV 番号	分類	グリッド	規模 (cm)			長軸/ 短軸比率	長軸方向	等高線に 対する位置	堆積土	備考
				開口部	中場	底面					
53	1	IIAD	H-96、I-95・96	390×146	382×64	483×26	156	W-20°-N	自然/人為		
54	2	IIIB	R-91・92	(462)×76	386×14	386×14	126	N-26.3°-E	自然	上部掘り過ぎ	
55	3	IIIAJ	U・V-90	358×75	346×20	356×8	144	N-53°-E	自然		
61	4	(IVCA)	X-91・92	(320)×45		(314)×14	112	N-34.5°-E	自然	→SK-38	
57	5	IIIBJ	K-96	343×102	334×20	342×14	106	N-10.5°-E	人為/自然	→SD-1	
61	6	IVCA	N・O-91	303×41		289×17	80	N-87°-E	人為		
56	7	IIIBD	P・Q-91	336×75	335×22	339×20	154	N-32°-E	自然		
56	8	IIIBD	J・K-97	370×106	338×42	409×24	146	N-63°-E	自然	SK-35→	
58	9	IVAI	R・S-89	(303)×56	197×33	305×15	114	N-17°-E	自然	→SD-2	
61	10	IVBJ	S-88	208×68		238×23	116	N-44°-E	自然	ピット3個有り	
59	11	IVBD	U-90、V-90・91	394×47	400×18	418×10	104	N-50.5°-E	自然	→SD-3、焼土有り	
59	12	IVBB	W・X-89	360×64		337×15	162	N-84.3°-E	自然	焼土有り	
59	13	IVBD	W-92・93	400×63	438×32	418×32	170	N-50.5°-E	自然	焼土有り	
54	14	IIIA	R-89	140×80	188×35	214×26	136	N-69°-E	自然	小判形	
62	15	IVCG	R-93	260×20		263×9	86	N-79.5°-E	自然		
62	16	IVDA	P-96・97	340×68		340×15	140	N-14°-E	自然		
56	17	(IIIBD)	O-93	(131)×90	(125)×40	(177)×30	138	N-34°-E	自然/人為	→SK-22	
56	18	IIIBG	W-90・91	342×99		352×11	148	N-22.3°-E	人為/自然		
61	19	IVCA	IIA-90、IIB-90・91	338×38		328×16	114	N-44°-E	自然		
58	20	IVBA	Z-89・90、IIA-90	467×52		458×20	106	N-54.5°-E	自然		
62	21	IVCD	IIA-89・90	344×43	448×26	446×15	118	N-21.5°-E	自然		
57	22	IVAD	IIB-89	386×54	432×32	454×14	124	N-48.5°-E	自然		
60	23	(IVBD)	IID-87	(155)×68	(165)×28	(149)×11	110	W-17.5°-N	自然	調査区外	
58	24	IVAD	S-98	361×51	406×34	427×18	100	N-60°-E	自然		
62	25	IVCD	R・S-104	310×54	335×39	360×18	120	N-60.5°-E	自然		
57	26	IIIBJ	T・U-103・104	375×86	377×43	373×18	112	N-43°-E	自然		
54	27	(IIIBD)	T-102・103、U-103	318×131	321×38	310×21	148	N-41°-E	自然	SV-52→	
62	28	IVDG	U-102・103	311×45		318×18	110	N-68°-E	—	SV-52→	
58	29	IVAJ	P-105	354×63	332×35	359×19	112	N-45°-E	—	→SK-29	
61	30	IVBG	N-99・100	397×66	338×24	398×13	116	N-43.5°-E	自然	焼土有り	
56	31	IIIBA	M-100、N-100・101	335×105	404×39	466×36	190	N-45°-E	人為		
60	32	IVBF	U・V-95・96	315×56		304×11	124	N-61°-E	自然		
52	33	IAD	S-106・107、T-107	423×203	517×138	550×53	146	N-48°-E	自然		
61	34	IVCA	Z-95	357×19		326×11	44	N-56°-E	—		

図	SV 番号	分類	グリッド	規模 (cm)			長軸/ 短軸比率	長軸方向	等高線に 対する位置	堆積土	備考	
				開口部	中場	底面						
62	35	IVDD	II B-101	(336) × 60	340 × 25	369 × 19	126	(5.60)	N-14° - E	平行	自然	→SK-36
55	36	IIIA G	Y · Z-101	350 × 73	344 × 48	352 × 39	136	4.79	N-46° - E	斜交	自然	
61	37	IVCA	II A-103 · 104, II B-104	284 × 47		273 × 15	64	6.04	N-75.5° - E	斜交	自然	
53	38	IIAF	Q-102	333 × 116	301 × 67	303 × 31	138	2.87	N-87° - E	斜交	自然/人為	
59	39	(IVBD)	Q · R-104	(293) × 44	(312) × 34	356 × 14	108	(6.65)	N-65° - E	斜交	人為	
56	40	IIIBD	Q-106	332 × 71	382 × 29	382 × 23	128	4.67	W-32° - N	斜交	人為	
60	41	IVBD	W-101 · 102, X-102	384 × 68	398 × 36	408 × 25	106	5.64	N-39° - E	斜交	人為	
58	42	IVAG	V-102 · 103	(332) × 46		349 × 16	106	(7.21)	N-56° - E	斜交	自然	→SK-49
59	43	IVBD	S · T-103	364 × 56	412 × 34	425 × 10	144	6.50	N-45.5° - E	斜交	人為	
57	44	IVAD	T-104 · 105	276 × 52		289 × 18	100	5.30	N-25° - E	斜交	自然	→SV-45
55	45	IIIBD	T-104	312 × 97	304 × 34	314 × 25	130	3.21	N-26.5° - E	斜交	自然	SV-44→
54	46	IIIA D	U-105	280 × 74	309 × 53	307 × 18	138	3.78	N-27° - E	斜交	人為	
53	47	IIBD	S · T-105	280 × 130	342 × 60	303 × 30	138	2.15	N-46° - E	斜交	自然	
52	48	IAJ	F-109, G-109 · 200	488 × 231		506 × 33	190	2.11	N-31° - E	直交	人為	→SX-1
57	49	IIIB I	F-199 · 200, G-200	361 × 79		367 × 29	150	4.56	N-38.5° - E	直交	自然	
60	50	IVBD	V-92 · 93	282 × 67		329 × 8	106	4.20	N-46° - E	直交	自然	鉄アレイ形
58	51	IVAD	X-94 · 95, Y-95	378 × 56	410 × 31	382 × 10	120	6.75	N-53° - E	直交	自然	
60	52	IVBD	T · U-102 · 103	× 24	× 24	(311) × 10	156	-	N-54° - E	斜交	人為	→SV-27 · 28
60	53	IVBE	R-105 · 106	314 × 40		299 × 17	94	7.85	N-36° - E	斜交	自然	
53	54	IIBD	H-91	277 × 140		300 × 46	134	1.97	W-11° - N	斜交	自然	→SI-13

◎堆積土・・・「自然/人為」＝上部が自然堆積で下部が人為堆積、「人為/自然」＝上部が人為堆積で下部が自然堆積を表す。

◎備考・・・「→SX-1」＝溝状土坑がSX-1より古い、「SV-52→」＝溝状土坑がSV-52より新しいことを表す。

第6節 遺構外出土遺物（図63）

遺構外から出土した遺物は約100点と極めて少なく、土師器・須恵器・縄文土器・石器が出土している。調査区西側は表土直下で暗褐色ローム土が検出され、東側は斜面であることから、出土量が少なくなっている。石器については遺構内の出土量も少なく、時期を断定できるものが少ないことから、遺構内外あわせて記述する。

土師器・須恵器（1）

土師器は小破片が多く、大半は甕で、ロクロ成形の坏や壺の破片も出土した。1は壺の口縁部である。口縁はやや直立し、口端は平坦である。内外面にナデ調整を施す。須恵器も胴部と思われる破片が出土している。外面にタタキ、内面にナデが施される。

縄文土器（2～4）

10数点の破片が出土した。2・3は同一個体で、RL斜縄文を施文されている。縄文のみの施文で時期は明確にできないが、中期または後期のものと思われる。4は深鉢の破片で、細かい単軸絡条体を施文し口唇部には刻み目がある。早期中葉のものである。

石器

石鏃（10～12、図12-20、18-4、32-8、49-13）

遺構内から4点、遺構外から3点の計7点出土した。平面形状から4つに分かれる。無茎平基鏃（10・11、図18-4、49-16）4点、無茎尖基鏃（12）、無茎凹基鏃（図12-20）、有茎凸基鏃（図32-8）である。32-8は先端と基部が欠損し、断面が菱形で厚みのある石鏃である。その他は厚さ6.5mm以下と薄いものである。石材は全て珪質頁岩である。

礫器（5）

第1号方形周溝の堆積土から1点出土している。砂岩製で、切断面縁辺と端部に数回の打撃を行っている。表面中央が磨られていることから敲磨器を転用したものである。

敲磨器（6～9、図12-18・19、21-18、32-7）

使用痕跡により3つに分けられる。使用痕跡が磨りのみのもの6点（8・9、図12-18・19、21-18、32-7）、凹み石（6）1点、磨りと敲きの複合するもの1点（7）である。磨り石は片面と側面を部分的に磨っているものが多く、その痕跡はあまり明瞭ではない。6は安山岩製で裏面が剥落している。表面に数ヶ所の浅い凹みがある。7は両端部を敲打したもので、裏面は磨られている。敲磨器の石材には輝緑岩・流紋岩・安山岩が使用されている。

砥石（図12-17）

第3号竪穴住居跡第4層から1点出土した。輝緑岩製で欠損品である。使用前に敲打成形が行われている。両面と片側面が砥石として使用され、側面には縦方向、両面には斜め方向に使用痕跡が残っている。縁辺には剥離、端部には新しい敲打痕が部分的にみられる。住居跡床面に近い位置で周囲に土師器が共伴することから、第3号竪穴住居跡に伴う奈良時代のものである。

（杉野森）



図63 遺構外出土遺物

第3章 考察

第1節 土師器

土師器（図64～67）

土師器は竪穴住居跡から出土したものが圧倒的に多く、ほかに土坑6基、溝跡からも数点出土した。竪穴住居跡の場合、カマドおよびカマド周辺の床面から出土したものが多く、住居跡堆積土からの出土は比較的少ない。土師器の種類には甕・坏・高坏・鉢・小型土器があり、甕が圧倒的に多く、坏が次ぐ。このうち図化したのは102点である。ここでは個体数の多い甕と坏について分類を行う。

分類

坏—ロクロ成形の有無で大別し、調整と形状の違いにより細分する。

A類—非ロクロ成形のもの。

1類—口縁が外傾し、外面に段を持つものである。丸底を呈する。器高に対する口径の割合が1 : 2を超える。内外面ともミガキ調整を主体とし、内面には黒色処理を施す。内面の稜の有無でさらに細分される。

a) 内面に稜をもたないもの。

b) 内面に稜を有するもの。

2類—口縁が直立し、外面に段を持つものである。調整方法は1類と共通するが、器高はやや高くなる。

3類—口縁が内湾し、平底のものである。器高に対する口径の割合が1 : 2となる。外面には段が無くなる。調整は1・2類と類似する。

4類—口縁が外傾し、平底のものである。内外面ともナデ調整が施される。

B類—ロクロ成形のもの。

1類—内面にミガキ調整と黒色処理が施されているものである。口縁形状で、さらに細分される。残存する外面は無調整である。

a) 口縁が内湾するもの。

b) 口縁が外傾するもの。

c) 底部のみ残存し、口縁形状が不明なもの。底面に回転糸切痕がみられる。

2類—底部に再調整があるもの。回転糸切り後、底辺部に部分的ではあるがヘラケズリを施す。体部外面は無調整で、内面には黒色処理を施す。

甕—非ロクロ成形のものがほとんどである。外面調整の違いでA類、B類に大別し、各形状で細分を行った。小型の甕はC類とする。

A類—ハケメ・ミガキ・ナデを主体とするもの。

1類—口縁部の割合が大きく、口縁が強く外反するもの。口径が最大径となる。底面は小さく、胴部上半部に膨らみを持つ。頸部に段が認められるものや口端が平坦となるものがある。器

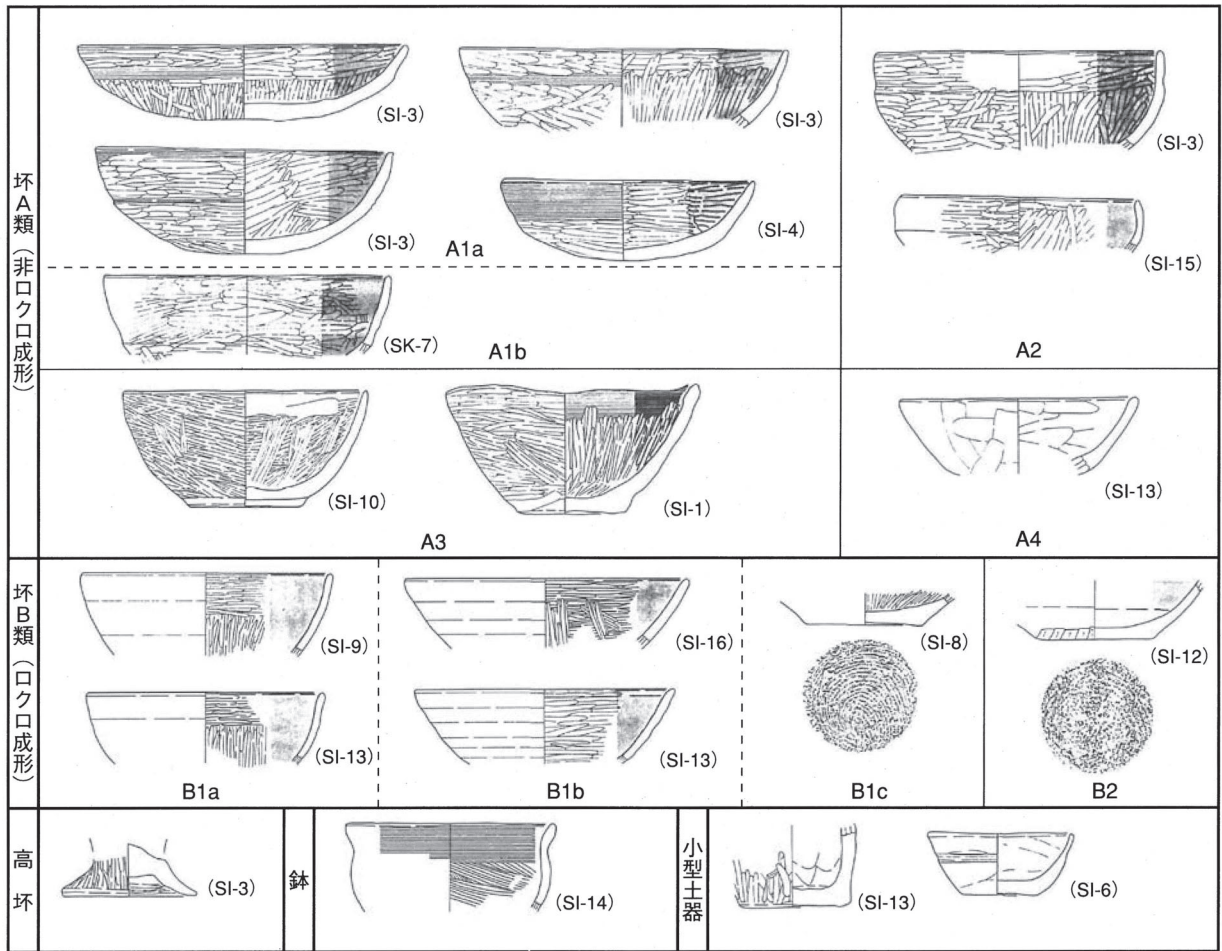


図64 土師器集成（1） 坏・高坏・鉢・小型土器

高は20~30cmと大型のものが多い。調整でさらに細分される。

a) ハケメ・ミガキ主体のもの。胴部上半部にハケメ、下半部にミガキの組み合わせが多く、内面調整にもハケメが多用される。

b) ミガキ・ナデ主体のもの。

2類—口縁部の割合が大きいのが、胴部径が最大径となるものである。口縁は頸部から直立し、口端で小さく外反する。胴部の張り出しが中位にあり、胴部形状は縦長を呈する。調整は1 a類と共通する。

3類—口縁部の割合が小さく、口縁が「く」の字に外傾し、胴部が張り出すものである。胴部上位~中位に張り出しをもつ。1類・2類に比べ口径が小さくなり、大きさもやや小ぶりとなる。調整は外面にミガキ、内面にナデが多用される。口縁部の割合と胴部の張り出し具合でさらに細分される。

a) 口縁部の割合がb類より大きく、胴部が大きく張り出し、胴部径が最大径となるもの。
(口径<胴部径)

b) 口縁部の割合がa類より小さく、口径は胴部径と同じになるか、その差が小さいもの。
(口径≤胴部径)

4類—口縁部の割合が小さく、口縁が直立するものである。胴部径が最大径となる。胴部形状でさらに細分される。

a) 胴部中位が張り出し、丸味を持つ。口径と底径の差が小さく、樽に近い形状のもの。

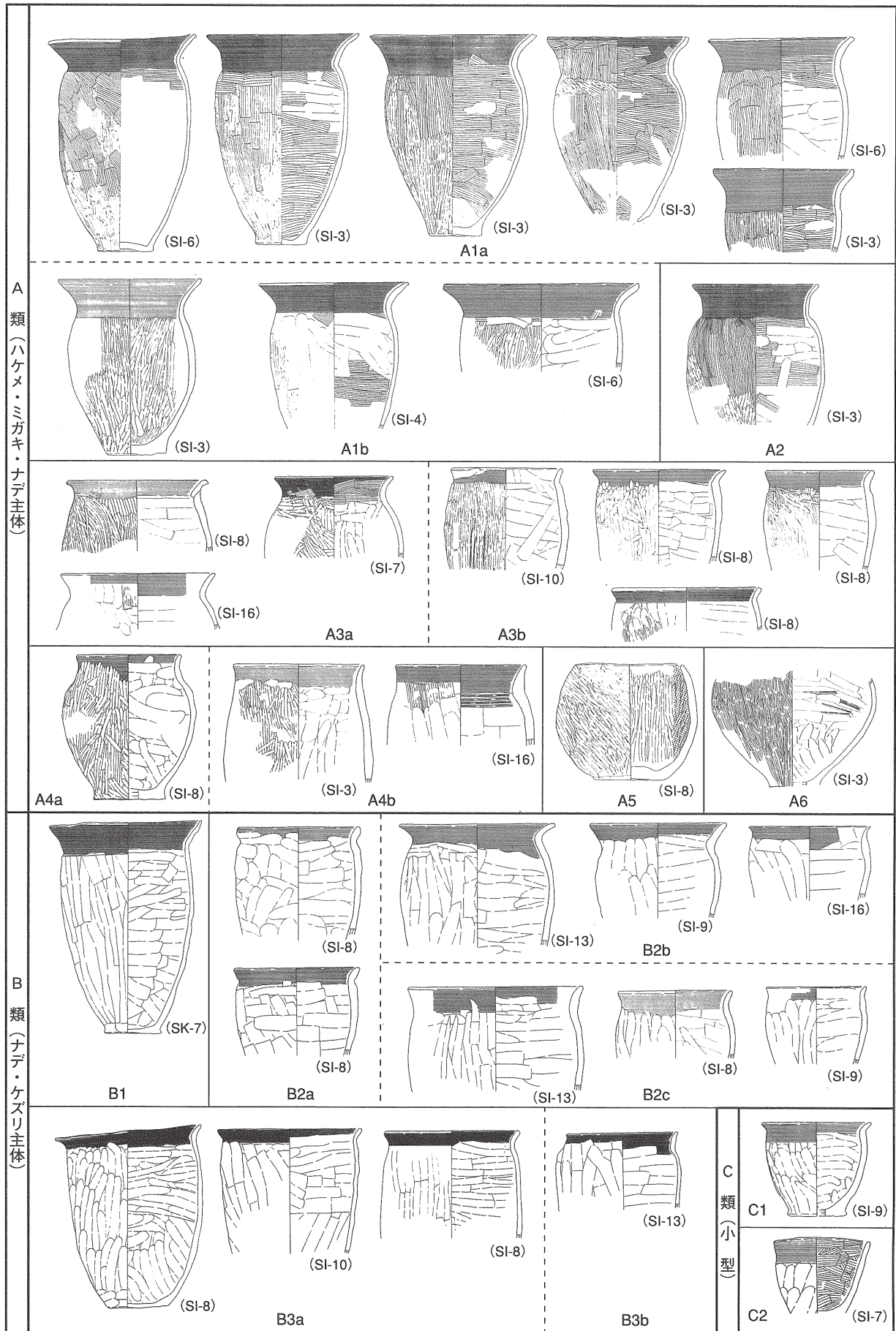


図65 土師器集成(2) 甕

- b) 胴部はやや直線気味となり、張り出しが小さいもの。口端は薄く、丸味を帯びる。
- 5 類—口縁部をもたないものである。底面から口端にむかい湾曲する球形を呈する。内外面にミガキ調整が施され、内面は黒色処理が施されている。
- 6 類—口縁部は欠落しているが、胴部形状から球胴甕と思われる。底面は極端に小さく、胴部が突出して張り出す。
- B 類—ナデ・ケズリを主体とする長胴甕である。外面調整はナデが多く、ケズリの痕跡が明確なもの少ない。内面調整はナデがほとんどである。
- 1 類—口縁部の割合が大きく、口縁が強く外反するものである。器形はA 1 類と共通点が多いが、A 1 類に比べ底部の張り出しが強い。器高は30cm弱である。
- 2 類—口縁部の割合が小さく、口縁が外傾するものである。胴部上位に張り出しを持ち、胴部径が最大径となる。中には口径と胴部径が一致するものもある。最大径は12~20cmで、大きさは小ぶりなものから大型のものへと多様である。口縁形状で細分される。
- a) 口縁が外傾し、頸部に段を持つもの。
- b) 口縁が「く」の字に外傾し、頸部に段をもたないもの。
- c) 口縁がわずかに外傾し、直立気味のもの。
- 3 類—口縁部の割合が小さく、胴部が直線的なものである。1・2 類に比べ法量が大きくなり、器高は30cm、胴部径は20cmを超える。内面に輪積み痕が残る。口縁形状で細分される。
- a) 口縁が外傾するもの。
- b) 口縁が直立するもの。
- C 類—器高が10cm以下の小型のものである。
- 1 類—胴部上位が小さく張り出し、口縁が「く」の字に外傾するものである。最大径は口径にあり、口径と器高がほぼ等しいものである。内外面にナデを施す。
- 2 類—胴部が直線的なものである。外面にナデ、内面にハケメを施す。
- 高坏—台部のみ1点出土した。内外面ともミガキ調整が施されている。
- 鉢 — 1点出土した。口径10.8cmの小型鉢である。外面にナデ、内面にハケメが施されている。胴部は張り出し丸味を帯びる。口縁は「く」の字に折れる。
- 小型土器— 2点出土した。第13号竪穴住居跡出土のものは胴部が直立する器形で、外面にミガキ、内面に丁寧なナデが施される。第6号竪穴住居跡出土のものは外面中位に沈線があり、内外面にナデ調整が施される。形状から坏を模倣したものと思われる。

組み合わせ

前記で述べたように、土師器が床面・カマドから出土した住居跡が半数をこえるが、各遺構の出土量には差がみられる。種類も甕・坏が圧倒的で、当時の器種組成から欠落しているものが多い。この中で、確実に住居跡に伴ったまとまりある資料は第3・8号竪穴住居跡である。他の遺構では、堆積土下位から出土したもので床面・カマド出土のものと接合するものや同一個体と思われるものがあり、これら堆積土中の遺物は少なからずとも住居跡に伴うものと捉えることができる。さらに、人為堆積を呈する第9・10号竪穴住居跡のカマド・床面に接する土師器は住居跡に近い時期のものと考えられ

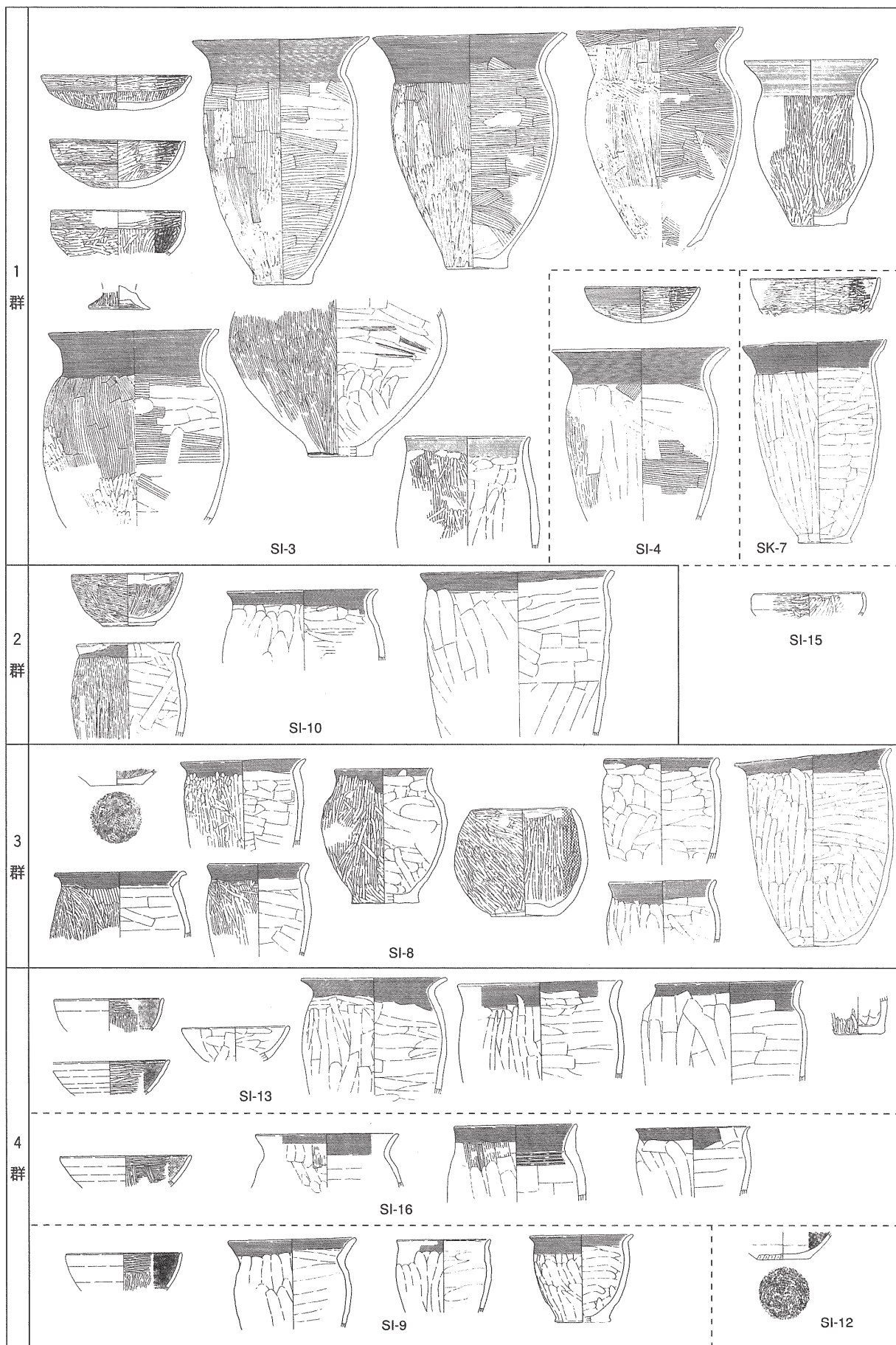


図66 土師器集成(3) 組み合わせ

る。ここでは、一部堆積土出土のものも含め、比較的出土量の多い遺構における供伴関係を捉えることとする。土師器は坏と甕の組み合わせで4つに群別される。

第1群：非ロクロ成形で外面に段を有し丸底の坏A1・A2類と、口縁部の割合いが大きい甕A1・A2・B1類を含むもの（第3・4号竪穴住居跡、第7号土坑）

坏は内外面ミガキ調整で、内面に黒色処理が施される。甕は内外面ともハケメ・ミガキ・ナデ調整が多様される。口径に比べ底径が極端に小さく、頸部に段を有し、口縁が外反するものが主体となる。器高も20cm以上と大型である。球胴甕と高坏も伴う（第3号竪穴住居跡）。第7号土坑は坏A1b類と甕B1a類が出土する。このほか、坏A2類が出土した第15号竪穴住居跡や、小型土器と甕A1類出土の第6号、甕A類出土の第7号竪穴住居跡もこの群に相当するものと思われる。

第2群：非ロクロ成形で平底の坏A2類と、甕A3・B2・B3類とを含むもの

（第10号竪穴住居跡）

坏は内外面ミガキ調整が施される。器形は第1群と異なり、器高が高く段が無くなり、底部の立ち上がりが明確となる。甕は口縁部の割合が小さくなり、頸部の段は不明瞭である。ミガキ主体（A3b類）の甕とナデ・ケズリ主体（B2・B3類）の甕が混在する。このほか、供伴する土師器はないが、第1号竪穴住居跡もこの群に相当する。

第3群：ロクロ成形の坏B1類と、甕A3～A5・B2・B3類を含むもの（第8号竪穴住居跡）

第8号竪穴住居跡が相当する。ロクロ成形の坏に、第2群と類似する特徴の甕が存在する。甕はミガキ調整主体のものとナデ・ケズリ調整主体のものが半々となる。胴部の張り出しが小さい、長胴甕が主体となる。口縁は「く」の字に外傾するもののほか、直立するものがある。ナデ主体の中に頸部に段を有するものが認められる。

第4群：ロクロ成形の坏B1・B2類と、甕B類を含むもの（第9・13・16号竪穴住居跡）

坏はロクロ成形で内面に黒色処理が施されるものを主体とするが、非ロクロの坏も供伴する。甕はナデ・ケズリ調整主体となる。ミガキ調整が無くなり、頸部の段は消滅する。口縁は「く」の字に強く外傾するものやほぼ直立するものとなる。胴部は張り出しが弱く、直線状のものが増加する。長胴甕はやや大型化し、小振りなものまでと大きさが広がる。外面にミガキ調整が施された小型土器も伴う（第9号竪穴住居跡）。このほか供伴関係は明確ではないが、第12・14号竪穴住居跡もこの群に相当する。第12号竪穴住居跡はカマドからロクロ成形後再調整の坏が出土し、第14号竪穴住居跡では鉢と共にロクロ成形坏の破片が出土している。

時期

これまでの調査で岩ノ沢平遺跡では奈良時代の住居跡2軒、平安時代の住居跡150軒以上が検出されている。今回出土した遺物の大半は奈良時代に相当する。周辺に分布する奈良時代の遺跡と比較すると以下のような時期となる。

本遺跡の第1群は櫛引遺跡第I期（7世紀後葉～8世紀前葉）と比べると、甕は胴部の張り出しが強く底部が突出して小さい。坏は口縁の外反が小さく、器高がやや高い深皿・浅鉢を呈するものが認められる点で異なる。甕の形状は八戸市田面木(1)遺跡（7世紀中葉～後葉）に、坏は八戸市根城跡岡前館遺跡（8世紀前葉～中葉）出土のものに相似点が求められる。また、本遺跡から500m離れた八戸市

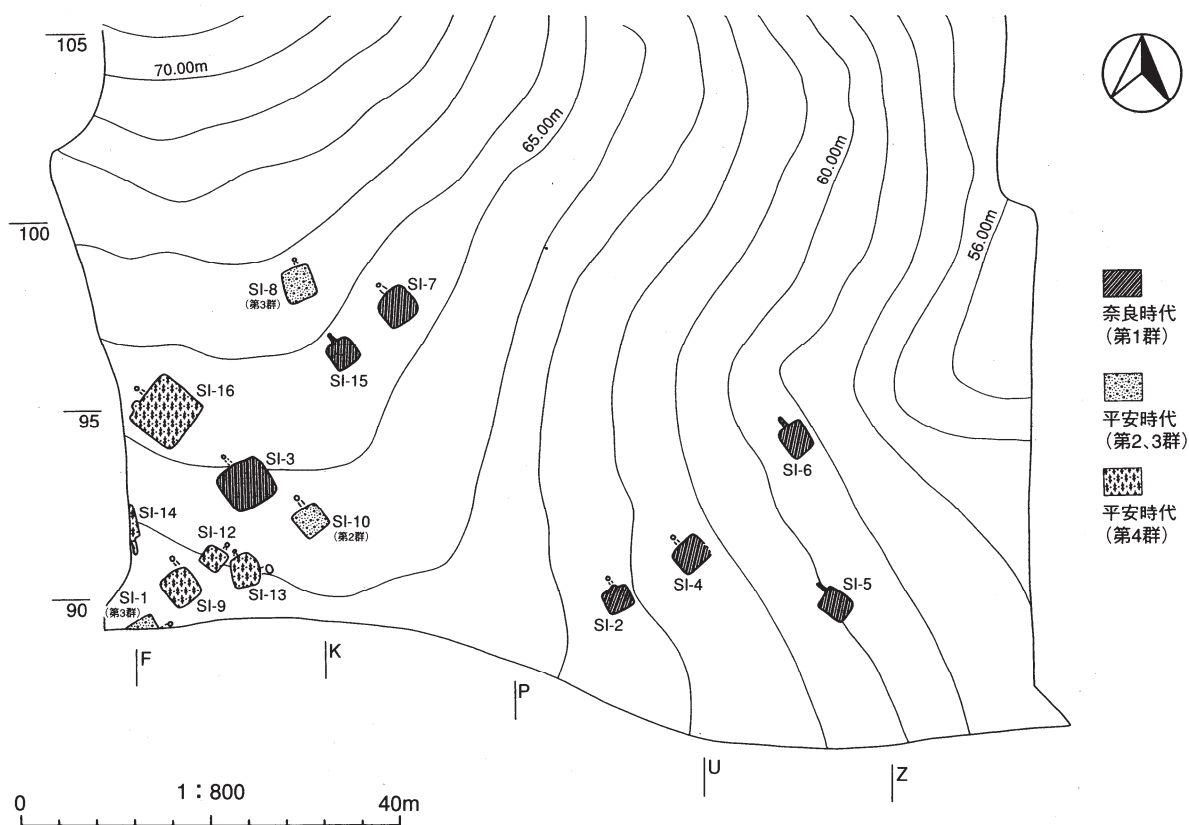


図67 住居跡の変遷

人首沢遺跡(7世紀後葉～8世紀前葉)とでは本群と形状・調整の様相が類似する。第1群は櫛引遺跡第I期を間に挟み、7世紀後葉から8世紀中葉を含む前半に位置づけるのが妥当と思われる。

第2群以降は坏の形状から平安時代に比定される。第2群のような組み合わせは八戸市教育委員会調査時の第17号竪穴住居跡に認められる。ここでは非ロクロ成形で内外面ヘラミガキの坏と頸部に段を有するケズリ主体の甕が伴う。第3群は田面木遺跡第8次調査A地点第22号竪穴住居跡に共通する。第22号竪穴住居跡では、ロクロ成形の坏に、ハケメ・ミガキ調整、ナデ・ケズリ調整、さらにロクロ成形の甕が伴う。ロクロ使用甕の有無は異なるが、組み合わせ、甕の形状・調整は共通点として挙げられる。これらの年代は9世紀中葉から後半に位置付けられている。

第4群は平成10年度調査報告分に類似が認められる。本群の坏は完形品が無いため、外面調整については追求できず、ここでは再調整の有無から坏の新旧を問うことはできない。再調整のある坏(第12号竪穴住居跡)は平成10年度調査報告分の第I群に相当するが、その他の坏は第I群(9世紀中葉～後葉)・II群(9世紀後半)の範疇にある。本群の甕は頸部に段を有するもの、口縁が「く」の字に外反するものや口縁が直立するものを基準とする点で第I群と共通点が多い。第4群は平成10年度の第I群に相当する割合が多いようである。第4群は第I群の時期を含む、9世紀中葉から後半に属するものと思われる。

類例から第2群以降は9世紀中葉から後半に相当する。この中でも、前代の調整が残る第2・3群は第4群に先行することも考えられる。また、第2群と第3群に区分はしたが前後関係は不明であり、併存することも考えられる。(杉野森)

第2節 遺構

1) 竪穴住居跡

構造

平成10年度の調査から本遺跡は平安時代（9世紀～10世紀前半）の大集落であることが判明している。平成11年度の調査区域はこの大集落の北限部分にあたる。今回の調査では15軒の竪穴住居跡が検出された。比較的傾斜が緩やかな調査区南側の斜面に立地している。標高59.5～62.5mの南東側に4軒、標高63.5～66.7mの南西側に11軒分布する。この中には、平成11年度の調査では検出されなかった奈良時代の住居跡7軒が含まれる。この住居跡の構造は時代で異なる特徴を示す。

奈良時代・・・7軒（第2・3・4・5・6・7・15号）

平安時代・・・8軒（第1・8・9・10・12・13・14・16号）

奈良時代の住居跡は調査区南東側に4軒、南西側に3軒分布する。住居跡の構築には規格性が認められる。各住居跡は6mまたは12mの間隔で位置する。主軸方向は一定で、真北から西に40～50度傾く。平面形は正方形を基調とし隅丸方形（第7・15号）を呈するものもある。規模は大型の第3号を除くと、1辺3～4mで、床面積は8～9㎡と一定の大きさにおさまる。床面は掘方面を使用するものと掘方を埋めたものとが半々である。住居跡内には柱穴・溝等の施設がみられない。カマドは北西壁中央に位置し、煙道は斜面の山側に延びる。カマドは粘土を盛り上げ突き固めたものを基本とする。中には袖を構築する際に地山を山形（第2号）・台形（第7号）に掘り残し、その上に粘土を盛り上げる作り方もある。カマドの遺存状況は良好で、袖や天井部が残り、遺物も出土している。カマド両袖の間に崩れた粘土が堆積する状況が多い。これは住居跡埋没時に燃焼部上部が自然に崩落し、下に堆積したものと捉えられる。7軒のうち、5軒（第2～6号）には炭化物と焼土が床面の壁寄りに広がる。出土した遺物の特徴には大きな差がみられない。量は第3号が突出して多く、床面に遺物が散乱する。第2・4・5・6号は床面・カマドとも遺物が少ないことから、住居跡廃絶時には遺物を整理し、カマドをそのまま残して焼却されたことが考えられる。炭素年代測定の結果、第3号は他の住居跡よりやや先行し、他の住居跡はほぼ同じ時期という結果が示されている。さらに、出土した遺物の特徴には大きな差がみられないことも考慮すると、ほぼ同時期に使用・廃絶されたことが考えられる。ただ、第3号は遺物の出土状況から住居跡使用中に焼失したことや、他より先行して廃絶されたことも想定される。近隣の人首沢遺跡・櫛引遺跡・田面木遺跡を含め八戸市周辺の奈良時代の住居跡をみると、地山を掘り残してカマド袖を構築する、カマドは破壊されず自然崩落する、焼失家屋であるという点で本遺跡と共通する。異なる点は柱穴・溝が備わった住居跡がみられないことである。他の遺跡では4本柱支柱穴や壁柱穴が巡るものが認められる。平安時代のものにも柱穴を伴わない例があり、この場合、どのようにして住居跡を構築したかを追究することが課題として残る。

平安時代の住居跡は南西側に8軒分布する。前代のように構築における規格性はみられない。主軸方向は真北から西に12～55度と一定しない。規模は一辺3m未満の小規模のものから6mの大型ものまでとばらつき、床面積は4～32㎡に広がる。平面形は正方形・長方形が多い。ピットや土坑・周溝・出入り口などの施設を持つようになる。ピットは第8号のようにカマドの脇に位置し、楕円形で浅く、

焼土を含むものはカマドに関連するものと考えられる。また、第16号のピットは住居跡の四隅から対角線上にはほぼ同間隔で配置された4本柱支柱穴である。カマドの位置は一定せず、北西壁のほかにも南壁・東壁にも構築され、壁中央から離れた位置に設置される。さらに、北壁から東壁への作り替えも行われている（第13号）。カマドの作り方は前代同様、粘土を盛り上げたものであるが、廃絶時には破壊される。破壊の状態は両袖が完全に破壊されているもの（第9・14・16号）、袖の前方部が破壊されるもの（第10・13号）、片袖が完全に破壊されるもの（第12号）とに分けられる。中には第8号のようにカマドを整理せず、埋没過程で自然に崩落したものもある。この時代の住居跡は南西側に密集する。第9号と第12号の間隔は50cmと極端に狭く、第12号と第13号は接する。上屋構造やカマドの位置も考慮すると同時期に使用されたとは考えられない。第9号は重複する土坑から10世紀初頭以降に構築されたものと考えられる。住居跡の出土遺物をみると9世紀中葉から後半が主体となることをあわせると、平安時代の住居跡は9世紀中葉から10世紀前半までの期間に連続または断続して構築されたものと思われる。

出入口

第16号竪穴住居跡の住居跡外に方形の張り出しがある。カマドが設置されている北西壁のカマドから80cm西に位置する。底面が床面より30cm高く、張り出し手前には暗褐色土が盛られていることから、出入口とも考えられる。出入口の検出例は本遺跡ではこれまで2例ある。平成10年度の調査では、住居跡カマドの反対壁にスロープ上の盛土が検出され、出入口として機能したものと考えられている。平成3年度八戸市教育委員会調査では鍛冶遺構から出入口と捉えられる硬化面が検出されている。他遺跡での検出例を挙げると、鱈ヶ沢町外馬屋前田（1）遺跡では住居跡内のカマド左側に方形で段状の張り出しが検出されている。南郷村砂子遺跡ではカマドが位置する側の住居跡外にスロープ状の掘り込みが検出されている。出入口は検出例が少ない上、形状が各々異なるため明確ではないが、他の用途の類例もないため、ここでは出入口と捉えるのが妥当と考える。（杉野森）

2) 方形周溝

ここでは、青森県内から出土した方形周溝と方形周溝に類似する遺構をとりまとめ、本遺跡から出土した方形周溝と比較検討する。7世紀後半～8世紀初頭の終末期古墳とされる遺構についても形状が類似するものは一括した。

岩ノ沢平遺跡の方形周溝

立地：標高71.50～72.20mの丘陵頂部縁辺。

空間：奈良・平安時代の住居跡群とは斜面地により空間を別とする。

平面形：北西北側が開口する隅丸方形。

規模：周溝の全長は21m、北東辺5.8・南東辺6.4・北西辺2.2・南西辺6.6mで、ほぼ正方形である。

検出面での溝の幅は16～40cm・深さ4～12cmである。周溝の外周からの全長は長軸3.72×短軸3.68mである。

周溝内施設：削平されたため不明である。周溝内は第V層が周溝検出面より高くマウンド状となる。

周溝の堆積土によって基本層序第Ⅴ層上に盛土を構築した可能性が考えられる。

県内の方形周溝

ここでは、開口部の有無に関わらず、方形になるものを取りまとめた。

青森市三内丸山（2）遺跡 平賀町鳥海山遺跡
浪岡町杉の沢遺跡 青森市三内沢部遺跡 今別町山崎遺跡 浪岡町山元（3）遺跡

県内出土方形周溝類似遺構

円形・不定形としてとらえられがちであるが、方形に近いものを取りまとめた。

下田町阿光坊遺跡 八戸市殿見遺跡 浪岡町野尻（2）遺跡 浪岡町杉の沢遺跡

但し、阿光坊遺跡は7世紀後半～8世紀初頭の終末期古墳とされている。

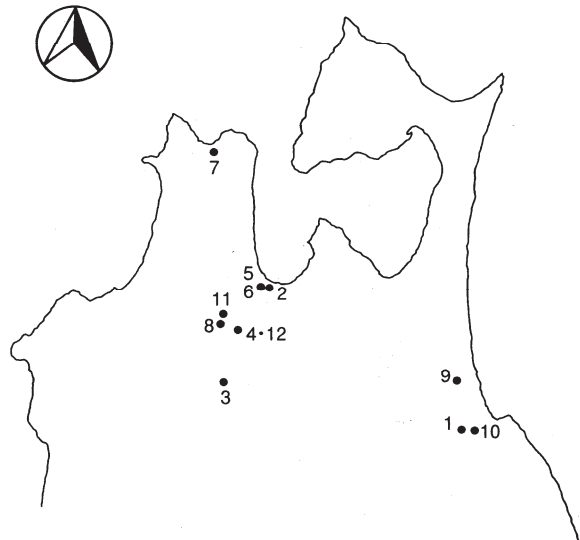


図68 方形周溝分布

比較検討

立地：全ての周溝は、丘陵・段丘上に形成される。本遺跡のように標高72mに及ぶものはなく、鳥海山・杉の沢遺跡が標高60m台である。

空間：周溝が形成された空間は、杉の沢・三内沢部遺跡は居住域縁辺、山崎遺跡は集落縁辺、三内丸山（2）・鳥海山・山元（3）遺跡は住居跡隣接、阿光坊・殿見・野尻（2）遺跡は墓域に形成される。居住域や集落縁辺に形成される点では、本遺跡と類似するが、隔離して形成されるものはない。

平面形：開口部が確認できたのは、鳥海山・山元（3）・阿光坊・殿見・野尻（2）・杉の沢遺跡である。三内丸山（2）遺跡は削平のため不明である。開口部が北西に形成されるのは、山元（3）遺跡のみである。

規模：鳥海山遺跡が4.05×3.85m、杉の沢遺跡が3.99×3.81mで類似する。

周溝内施設：本遺跡と同様にマウンドが確認されたものはなかった。殿見・野尻（2）遺跡では、マウンドが形成されたと推定されている。主体部は阿光坊遺跡で確認された。なお、三沢市平畑（3）・（5）遺跡ではマウンドをもつ円形周溝が確認されている。

まとめ

青森県内からは、本遺跡を含め8基の方形周溝が確認されている。ここでは4基の類似遺構を加えて比較検討した。立地については、標高差があるものの丘陵・段丘と標高が高い位置に形成される。居住域縁辺や集落縁辺に形成されるものもあるが、隔離されて形成されるのは本遺跡の特徴である。平面形が方形のものは県内では少数確認されるだけで、周溝の大多数は円形である。7世紀後半～8世紀初頭の終末期古墳においても方形に近い形態はあるが、円形を主体とすることから円形を意識し

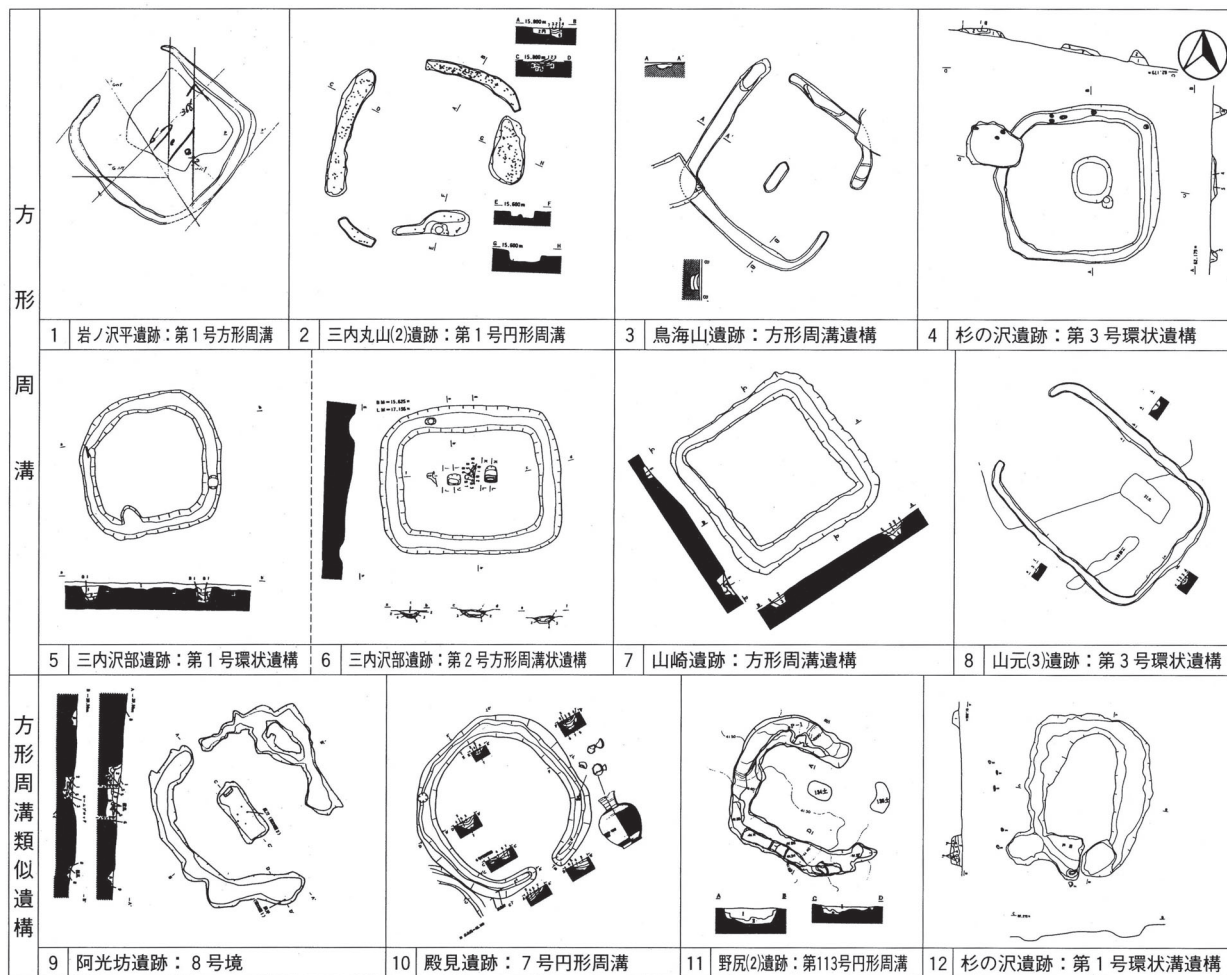


図69 青森県内方形周溝・方形周溝類似遺構

青森県内方形周溝一覧

番号	遺跡名	所在地	遺構名	立地	規模 (m)	空間	性格	時期
1	岩ノ沢平遺跡	青森県八戸市大字櫛引岩沢平、ミタラセ、仙日平、外	第1号方形周溝	標高約72mの河岸段丘上	3.72×3.68	集落緑辺	不明	奈良・平安時代
2	三内丸山(2)遺跡	青森市三内丸山250、外	第1号円形周溝	標高約15mの河岸段丘上	9.33×8.48	住居隣接	不明	9世紀後半
3	鳥海山遺跡	南津軽郡平賀町大字沖館字比山館62、外	方形周溝遺構	標高約65mの丘陵先端部	4.05×3.85	住居隣接	不明	平安時代後半
4	杉の沢遺跡	南津軽郡浪岡町字吉内字杉沢字三元323-5、外	第3号環状溝遺構	標高約50~70mの丘陵上	3.99×3.81	居住域緑辺	不明	平安時代
5	三内沢部遺跡	青森市大字三内沢部307、外	第1号環状溝遺構	標高約17mの河岸段丘上	4.46×4.23	居住域緑辺	不明	平安時代?
6	三内沢部遺跡	青森市大字三内沢部307、外	第2号方形周溝状遺構	標高約17mの河岸段丘上	11.60×9.30	居住域緑辺	不明	平安時代?
7	山崎遺跡	東津軽郡今別町山崎74-35、外	方形周溝遺構	標高約30mの丘陵先端部	4.87×4.87	集落緑辺	不明	不明
8	山元(3)遺跡	南津軽郡浪岡町字吉内字杉沢字山元323-5、外	第3号環状遺構	標高約16~35mの河岸段丘上	7.51×5.39	住居隣接	不明	不明
9	阿光坊遺跡	上北郡下田町阿光坊105、外	8号墳	標高約40mの河岸段丘上	6.78×6.12	墓域	墓	7~8世紀初
10	殿見遺跡	八戸市大字八幡字上ノ沢23	7号円形周溝	標高約45mの丘陵性段丘上	12.36×12.12	墓域	墓	8~9世紀代
11	野尻(2)遺跡	南津軽郡浪岡町大字高屋敷字野尻16-1、外	第113号円形周溝	標高約40mの河岸段丘上	7.99×6.66	墓域	墓	9世紀後半
12	杉の沢遺跡	南津軽郡浪岡町字吉内字杉沢字三元323-5、外	第1号環状溝遺構	標高約50~70mの丘陵上	5.99×4.66	居住域緑辺	不明	平安時代

て形成されていると考えるのが妥当と思われる。開口部の位置が一致するものは山元（3）遺跡のみであるが、規模は鳥海山・杉の沢遺跡がほぼ同規模である。方形周溝とした8基には周溝内に施設は確認されなかった。本遺跡の周溝堆積土は人為堆積土が流入したような様相をしており、周溝を掘りあげた土でマウンドを形成し、その土が周溝に流入し堆積したとも考えられる。マウンド状に形成された基本層序第V層をリン・カルシウム分析、脂肪酸分析を行った。リン・カルシウム分析では成果を得ることはできなかった。脂肪酸分析の成果は、人為的な活動により動物質の脂肪酸の影響を受けている可能性があるとするものであった。しかしこの結果は、住居の床面のように人為的活動がなされている場所では確認される可能性が高い結果であることから、本遺跡の方形周溝が墓として機能していたと断定することはできない。以上の比較から、本遺跡で確認された方形周溝の性格を把握するのは困難であるが、その特徴から墓として機能していた可能性も考えられる。

また方形周溝の南西辺に平行するように第1号溝跡が形成されていることから、方形周溝と第1号溝跡はセットとして機能した可能性も考えられる。

本遺跡から確認された方形周溝は、調査区境界付近の1基のみであった。しかし調査区外西側には丘陵頂部が続くことから、そのほかにも確認される可能性も考えられる。岩ノ沢平遺跡から確認された1基と県内で確認された方形周溝のみで比較検討を行うのは、資料不足の感があるが、方形周溝の1例として注目すべき資料と思われる。（野村）

3) 陥し穴

平成10年度調査では、縄文時代早期の陥し穴がA区から4基・B区から12基の計16基を確認した。平成11年度調査では、縄文時代の土坑を30基確認した。このうち陥し穴と考えられる土坑は26基である。第I群（縄文時代早期）A類の3基、第II群（縄文時代前期中葉～後期）A・B・C類の18基、D類の5基である。ここでは縄文時代の陥し穴について考察する。

平面形

開口部と底面の形状は6類に分類した。開口部は検出面での形状であるため、実際の掘り込み面の形状ではないが、土坑の深さからほぼ同じであると判断した。（1類）開口部・底面が円形である。

（2類）開口部が円形・底面が楕円形である。（3類）開口部が円形・底面が方形である。（4類）開口部が楕円形・底面が方形である。（5類）開口部が円形・底面がバチ形である。（6類）開口部が楕円形・底面がバチ形である。（7類）開口部・底面が方形である。（8類）開口部が方形・底面が楕円形である。1類は第19・39・14・23・35号、2類は第3・31・41号、3類は第28・32・43・49・24号、4類は第13・36号、5類は第22号、6類は第20・21・25・33・37・38・42号、7類は第47・18号、8類は第29号である。

断面形

断面形には若干の起伏があるが、3類に分類した。（A類）底面の直径が1m以上で、壁が底面からやや外傾して立ち上がる、幅が広い逆台形である。（B類）底面の直径が1m以下で、壁が底面からやや外傾して立ち上がる、幅が狭いV形である。（C類）壁は底面からやや外傾して立ち上がり、有段となるY形である。A類は第22・14・24号、B類は第3・31・28・32・39・49・23・18・29・42号である。A+B類は第25・37・41号、A+C類は第20・21・38・35号、B+C類は第13・19・43号

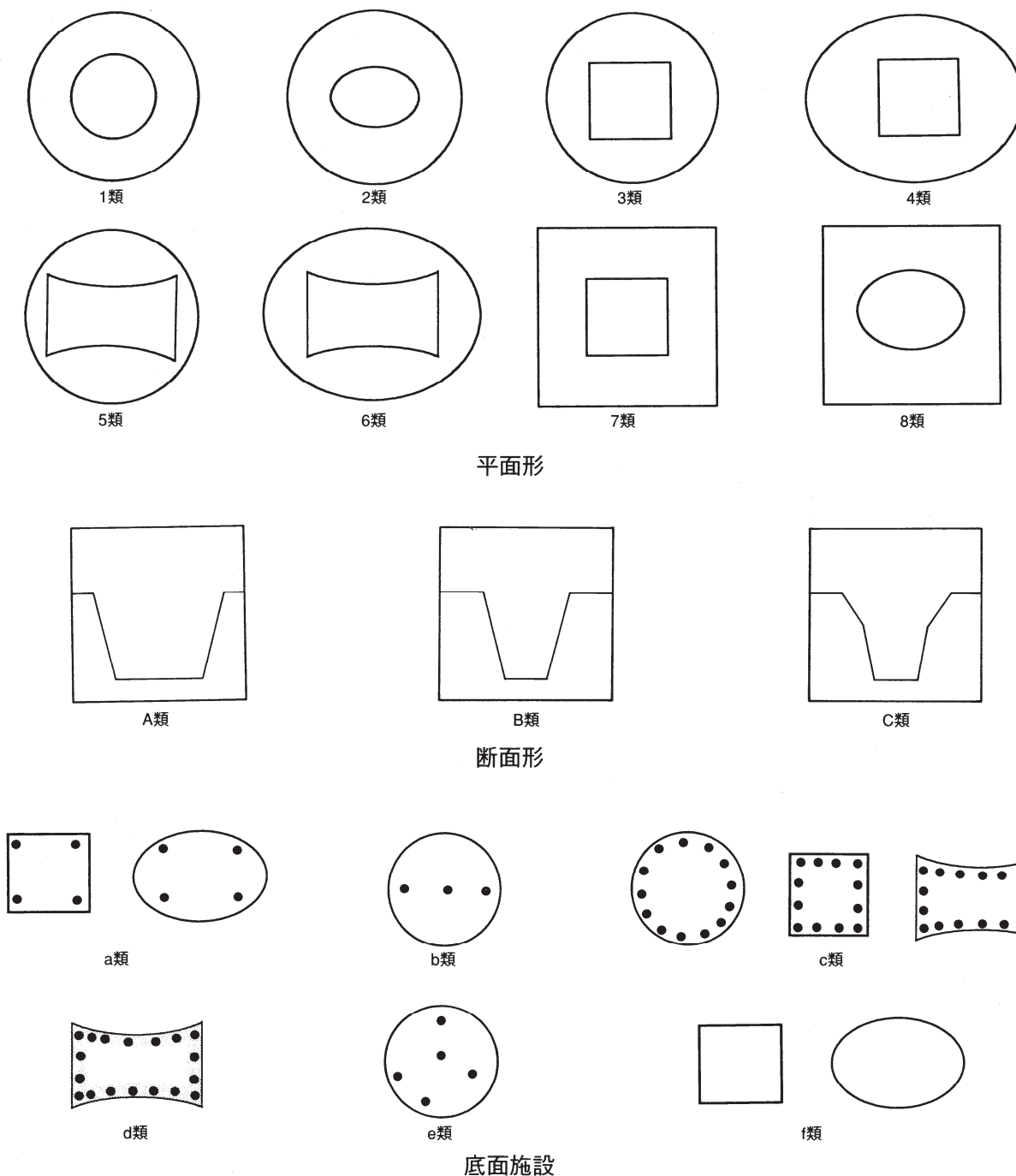


図70 陷し穴分類模式図

である。

底面施設

底面に杭跡を配置する土坑を21基、杭跡を配置しない土坑を9基確認した。ここでは、前述した分類とは別に6類に分類した。(a類)四隅に配置する。(b類)中心線に配置する。(c類)側壁側に配置する。(d類)側壁側に掘方を持ち配置する。(e類)不規則に配置する。(f類)底面に杭跡を配置しないものである。a類は第13・31号、b類は第14・23号、c類は第19・20・21・25・28・32・47・36・39・43・49号、d類は第22・33・37・38号、e類は第3・35号、f類は第18・24・29・41・42

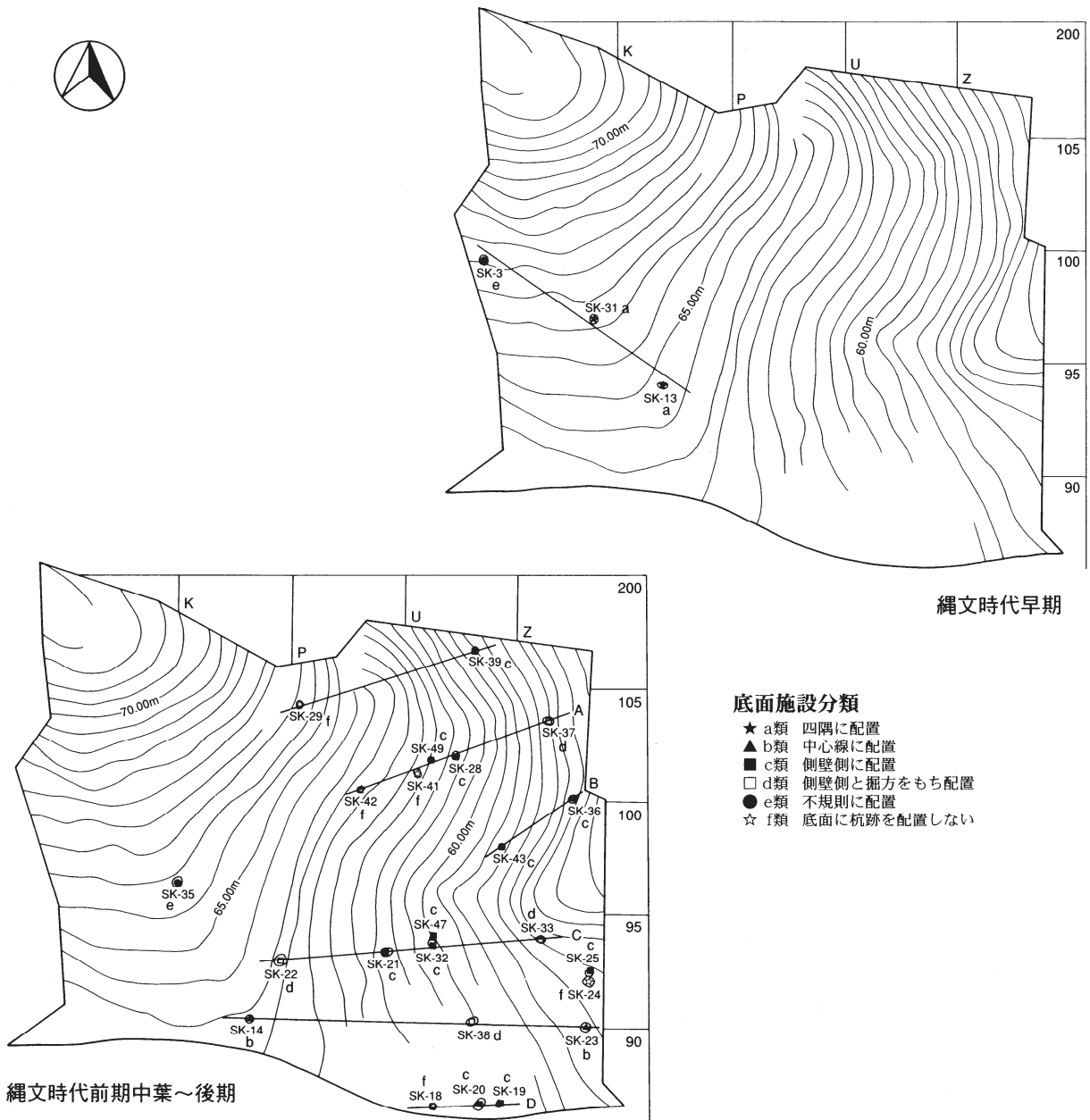


図71 陥し穴の分布・配置

号である。杭跡と底面形は、a類は方形・楕円形、b類は円形、c類は円形・方形・バチ形、d類はバチ形、e類は円形、f類は方形・楕円形である。杭跡の直径はa類が6cm前後、b類が6～12cm前後、c類が9～18cm前後、d類が6～15cm前後、e類が6～12cm前後である。d類は掘方をもつことから、杭の実径と考えられる。d類以外は掘方と杭跡の相違を確認することができなかった。杭の設置には2つの方法が推定される。杭を地中に突き刺す方法と掘方に杭を埋める方法である。これらの土坑は掘り込みが深く、底面が粘土・粘質土層となるため、杭を底面に突き刺すことが可能と考えられる。また掘方をもつ場合は、杭の直径が掘方の2分の1とすれば、杭に若干の傾斜をつけ配置することも可能と考えられる。この場合、杭の直径は3～9cm前後となるが、逆茂木として十分に機能する太さだと考えられる。これらのことからd類以外も掘方をもつ可能性が考えられる。a類

の杭跡断面は内傾する。但し13号の南東隅の杭は外傾する。a・b・e類は杭跡の配置から、陥し穴としての機能を十分に果たしたと考えられる。c・d類の杭跡断面はほぼ垂直に立ち上がる。杭がほぼ垂直に建てられたと考えても、壁が外傾することから、杭先と壁の間には空間ができる。上記2点の理由から逆茂木としての機能を十分に果たしたと考えられる。底面に杭跡を配置しない土坑も、掘り込みの深さと形状から陥し穴と考えられる。

堆積土

土坑堆積土には、南部浮石のみを混入するものと、中掬浮石と南部浮石を混入するものがある。縄文時代早期中葉に降下したとされる南部浮石と、前期中葉に降下したとされる中掬浮石の間には、約2000年の時間幅があり、中掬浮石降下前までに早期の土坑が埋まりきらなかったとは考えにくい。南部浮石のみが混入するものは、第3・13号土坑である。南部浮石を層状に堆積するものではなく、まばらに混入することから、南部浮石降下以前に土坑を構築したとは確定できない。2次堆積により堆積土に混入した可能性があることから、南部浮石降下後に構築された可能性も考えられる。中掬浮石もまばらに混入し、層状に堆積するものはなかった。堆積土には崩落や2次堆積の南部浮石が混入する。このことにより中掬浮石降下以前に土坑を構築したとは確定できない。2次堆積により堆積土に混入した可能性が考えられることから、中掬浮石降下後に土坑を構築した可能性も考えられる。第3・13号土坑の時期は縄文時代早期、以外の土坑は縄文時代の前期中葉～後期の範疇と考えられる。

配列

早期の陥し穴は、南東―北西方向に配置する。第3と31号の間は22.00m、第31と13号の間は17.40mである。第3と31号は接近しているとは言い難いが、列として機能した可能性も考えられる。

前期中葉～後期の陥し穴は、東―西方向と北東―南西方向に配置する。Aラインは北東―南西方向で、土坑間は1.80～16.20mと接近する。Bラインは北東―南西方向に配置する。土坑間は13.80mと接近する。Cラインは東―西方向に配置する。土坑間は6.30～18.00mと接近する。Dラインは東―西方向に配置する。土坑間は2.10～6.60mと接近する。このことからA・B・C・Dラインは列として機能した可能性が考えられる。他の土坑も東―西・北東―南西方向を意識して設置された可能性が考えられる。

まとめ

平成11年度調査では縄文時代の土坑が30基確認された。これらは南部浮石・中掬浮石の堆積状況により、縄文時代早期・前期中葉～後期に分類することができた。上記した形体的特徴から26基を陥し穴としてとらえた。3基は早期・23基は前期中葉～後期とした。早期・前期中葉～後期の陥し穴は、平面形・断面形は同形状であった。側壁側に杭跡が配置する陥し穴は早期には確認されず、前期中葉以後の陥し穴から確認された。上記した2点は早期の陥し穴が3基と少数の確認であったため、これが時間的変遷につながるかは不明である。前期中葉以後の陥し穴には、底面施設にバリエーションがみられるが、陥し穴がラインとして同一に機能したと考えるなら、時間的変遷による形体の変化と考えるより、前期中葉～後期にみられる陥し穴のバリエーションとして考えらる。底面施設については、杭の設置方法を陥し穴と決定する要因とした。しかし、底面施設にバリエーションがあることは逆茂木の役割に留まらず、陥し穴を使用した狩猟方法や対象動物に関連する問題である。民族事例等から言及しなければならないが、今後の課題とする。 (野村)

4) 溝状土坑

平成10年度の調査（A・B区）で228基の溝状土坑を検出し、縄文時代前期・中期の大規模な狩猟場と考えられている。今回の調査（C区）では54基が検出され、計282基となる。さらに平成3・4年度の八戸市教育委員会調査分14基を合わせると合計296基となった。ここではこれまでの分を加えて本遺跡の溝状土坑についてまとめてみたい。

前回の調査では、第Ⅰ類の大型溝状土坑の存在が本遺跡の特徴として挙げられている。短軸幅200cmを越える第Ⅰ類の溝状土坑は広範囲に点在し、土坑間の距離は30m台または80mと一定であった。今回も第Ⅰ類に該当するものが2基検出されている。2基の間隔は50mで、B区北端の第Ⅰ類から第33号との距離は100mである。第Ⅰ類は立地の場所を問わず、ある一定の距離を保って広範囲に構築されたものと考えられる。

今回の調査では杭痕と思われるピットを有する溝状土坑が1基（第10号：ⅢBJ）検出された。ピットは直径10cm・深さ5～8cmである。これまで県内でピットを有する溝状土坑は検出されていない。隣接する岩手県や北海道南部では検出例がある。函館市中野A遺跡や岩手県紫波町西田東、浄法寺町飛鳥台地Ⅰ遺跡では2mを越える細い溝状土坑の底面に1または数個の小ピットがある。また遠野市高瀬Ⅰ遺跡では2mを越える長楕円形の溝状土坑の底面にピットを有する。

前回の調査と配列を比較すると、主軸方向・規模・等高線に対する角度がほぼ一定の範囲に収まる点からC区のほうが規則性が強いようである。C区東斜面南側とB区東側斜面では以下の点で共通する。等高線に対し直交すること、斜面に対し縦列で並ぶこと、第Ⅳ類が多い点で共通し、これらが東側斜面の特徴となる。これらを含め、本遺跡の配列は大きく3パターンに分けることができる。

①B・C区東斜面のように、等高線に対し直交して縦列するものである。

②C区東斜面北側の、等高線に対し平行または斜交して並列するものである。

③A・B区のように、等高線に対し平行またはやや斜交し、等高線に沿って縦列するものである。

東斜面のような狭い尾根上に規則的な配列で長さが50mに達する配列は、これまでの遺跡では見受けられない。しいて類似するものは八戸市売場遺跡・和野前山遺跡が挙げられる。売場遺跡の南斜面では等高線に直交するが、配列に明確な規則性がみられない。和野前山遺跡では等高線に平行または斜交し、斜面に並列する。しかし、これらは列が短く長軸方向も一定していない。これまで配置に規則性がみられるのは六ヶ所村発茶沢遺跡のように、台地・緩斜面や平坦面に構築される場合に看取できた。しかし、本遺跡では狭い尾根や急斜面にも構築され、この箇所でも溝状土坑が集中し、さらに列をなす。このような地形に制約がある場所でも溝状土坑を構築し、狩猟場として機能していたことがわかる。

さらに、溝状土坑どうしの重複や密集する箇所があることから、溝状土坑は一度ではなく数回に渡り構築されたと思われる。また、対象獣の通り道を意識しながら、溝状土坑の配列を考慮し、数十基まとめて構築されたことも想定される。また分布をみると、A区南端は沢、C区北端は崖のため南北の広がりには限界があろう。調査区外東西はなだらかな斜面である。八戸市教育委員会の調査結果を合わせると溝状土坑は東西に延び、広範囲に存在する可能性が高い。面積でみると、八戸市内では長七谷地遺跡に次ぐ大規模な狩猟場である。（杉野森）

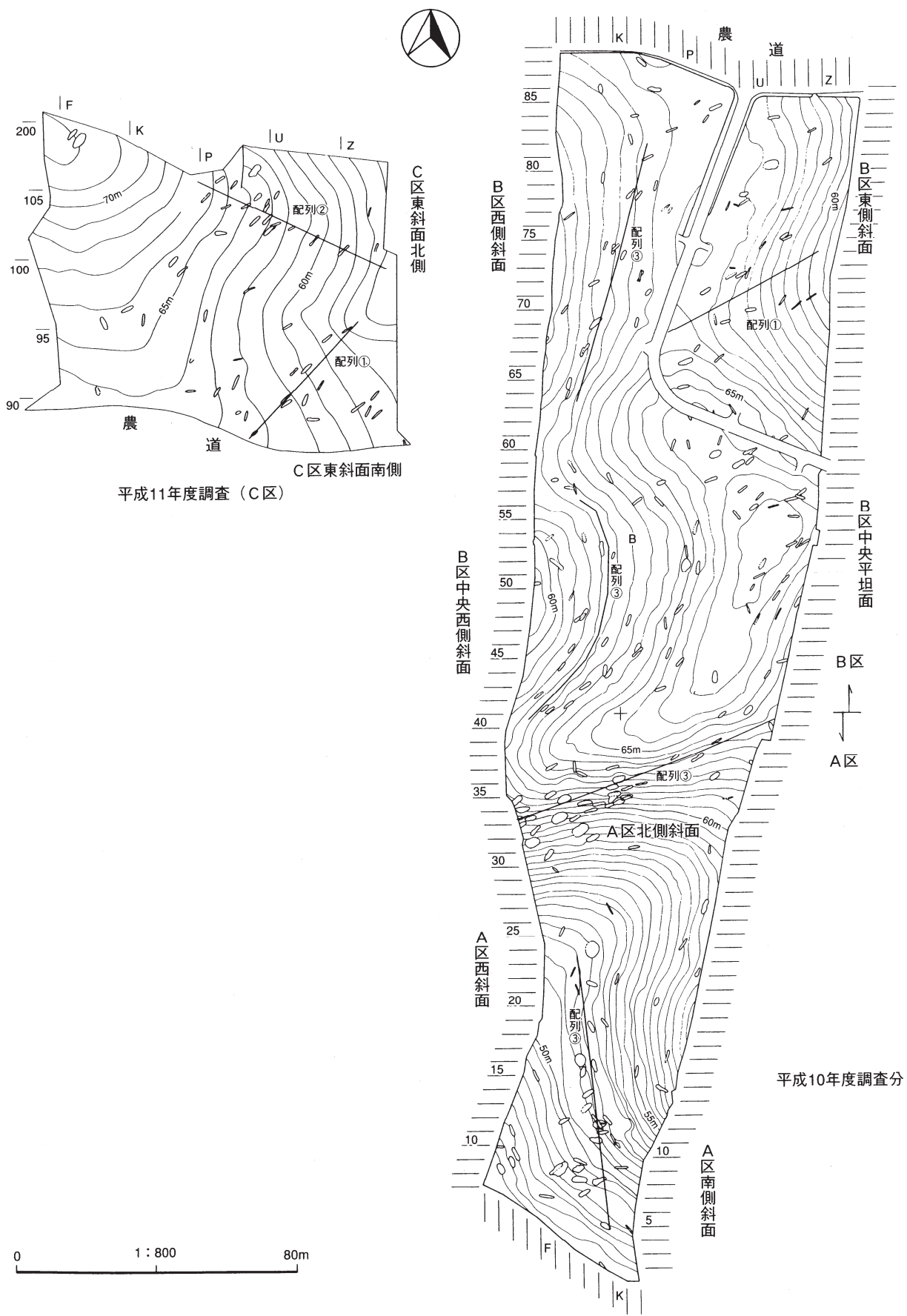


図72 溝状土坑の分布・配置

第4章 自然科学分析の調査成果

第1節 岩ノ沢平遺跡出土火山灰の蛍光X線分析

奈良教育大学 三辻 利一

1) はじめに

K、Ca、Rb、Srの4元素は全国各地の窯跡出土須恵器の分析データから地域差を有効に示す指紋元素であることが見つけられた。指紋はK-Ca、Rb-Srの両指紋図上に表示することが出来る。青森県内の平安時代の地層に堆積する白頭山火山灰と十和田a火山灰は4指紋元素で対照的な指紋をもつので、両指紋図上で容易に同定することができる。本報告では簡易同定法を使って、岩ノ沢平遺跡から出土した火山灰の蛍光X線分析の結果について報告する。

2) 分析結果

表1に分析データを示す。全分析値は同時に測定した岩石標準試料、JG-1による標準化値で表示されている。この分析データに基づいて作成したK-Ca、Rb-Srの両指紋図を図1、2に示す。両図にはこれまでに分析されている遺跡出土の白頭山火山灰、十和田a火山灰のデータに基づいて、各火山灰の平均値±2シグマ(標準偏差)をとって描いてある。両図で白頭山領域に分布するものは2点ある。また、十和田a領域に分布するものも2点あった。これらはそれぞれ、白頭山火山灰、十和田a火山灰と推定される。No1、2、6、7の4点はNa量が少なく、相当汚染された火山灰であろう。ここでは不明としておいた。

表1 岩ノ沢平遺跡出土火山灰のデータ

資料	出土遺構	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	判定
No.1	第1号竪穴住居跡	0.397	0.757	1.860	0.318	0.682	0.447	不明
No.2	第3号竪穴住居跡	0.265	1.530	2.810	0.166	1.030	0.417	不明
No.3	第6号竪穴住居跡	1.130	0.418	2.380	0.951	0.161	1.200	白頭山火山灰
No.4	第7号竪穴住居跡	0.441	1.200	1.460	0.294	1.090	0.705	十和田a火山灰
No.5	第8号竪穴住居跡	1.140	0.357	2.420	1.040	0.070	1.210	白頭山火山灰
No.6	第16号竪穴住居跡	0.449	0.843	1.720	0.254	0.839	0.557	不明
No.7	第16号竪穴住居跡	0.414	0.816	1.700	0.251	0.835	0.545	不明
No.8	第6号土坑	0.464	1.220	1.380	0.281	1.120	0.789	十和田a火山灰

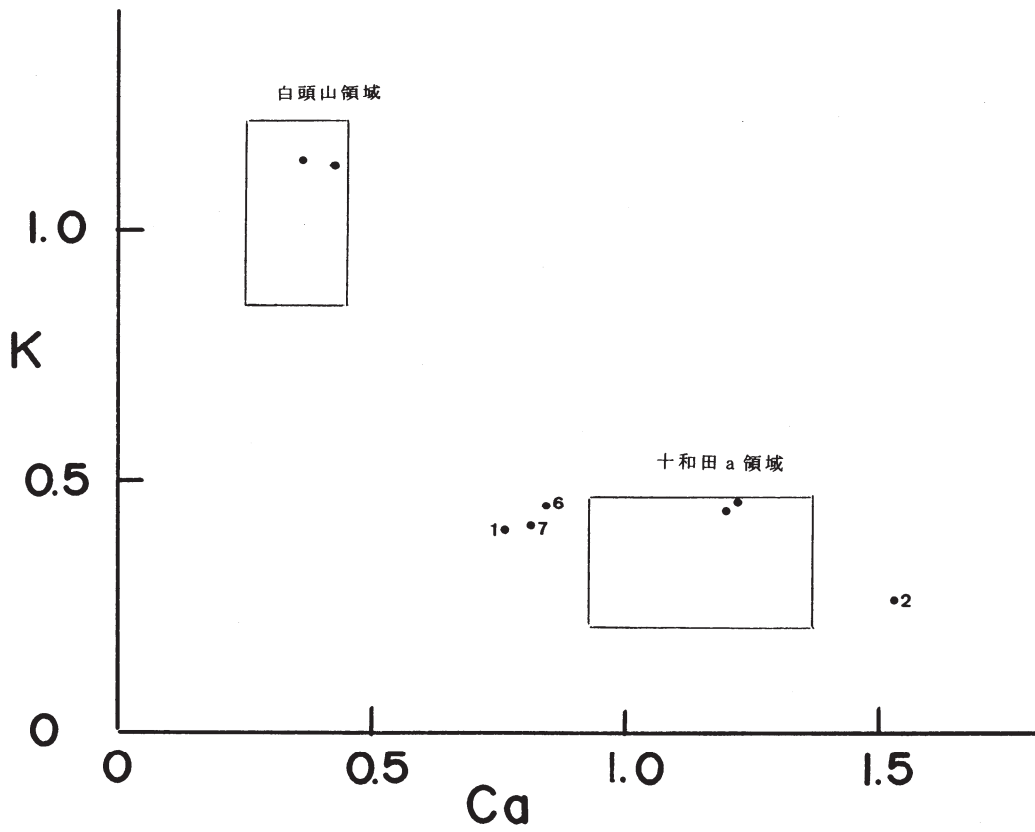


図1 岩ノ沢平遺跡出土火山灰のK-Ca分布図

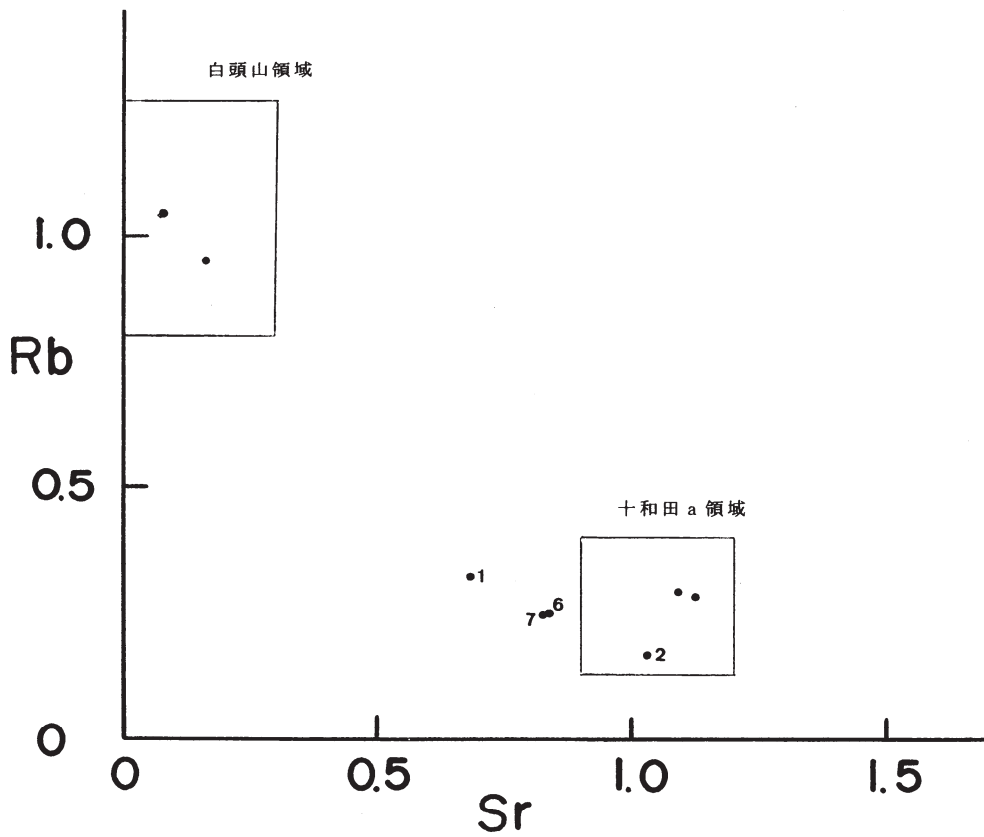


図2 岩ノ沢平遺跡出土火山灰のRb-Sr分布図

第2節 放射性炭素年代測定結果報告書

青森県埋蔵文化財調査センター様

(株)地球科学研究所

放射性炭素年代測定結果報告書

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

14C age(y BP) : 14C年代測定値
試料の14C/12C比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。
半減期として5568年を用いた。

補正14C age (y BP) : 補正14C年代値
試料の炭素安定同位体比(13C/12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り14C/12Cの測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。

δ 13C (permil) : 試料の測定 14C/12C比を補正するための 13C/12C比。
この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(%)で表現する。

$$\delta \text{ 13C}(\%) = \frac{(13\text{C}/12\text{C})[\text{試料}] - (13\text{C}/12\text{C})[\text{標準}]}{(13\text{C}/12\text{C})[\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、13C/12C [標準]=0.0112372である。

暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の14Cの測定、サンゴのU-Th年代と14C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース("INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al,1998,Radiocarbon 40 (3))により約19000年までの換算が可能となった。

*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析

Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

処理・調製・その他 : 試料の前処理、調製などの情報

前処理 acid-alkali-acid : 酸-アルカリ-酸洗浄

acid washes : 酸洗浄
acid etch : 酸によるエッチング
none : 未処理

調製、その他

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理
Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出
Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出
Extended Counting : Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関 : BETA ANALYTIC INC.
4985 SW 74 Court, Miami, FL33155, U.S.A

Radiocarbon Dating Report

Geo Science Laboratory

C14年代測定結果

青森県埋蔵文化財調査センター様 990204

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	δ 13C(permil)	補正C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta- 137321 試料名 (12896) 99IWA-1 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material acid-alkali-acid	1360±40	-24.9	1360±40
Beta- 137322 試料名 (12897) 99IWA-2 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material acid-alkali-acid	1140±40	-25.7	1130±40
Beta- 137323 試料名 (12898) 99IWA-3 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material acid-alkali-acid	1300±40	-25.6	1290±40
Beta- 137324 試料名 (12899) 99IWA-4 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material acid-alkali-acid	1290±40	-25.3	1290±40
Beta- 137325 試料名 (12900) 99IWA-5 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material acid-alkali-acid	1330±30	-26.9	1300±30
Beta- 137326 試料名 (12901) 99IWA-6 測定方法、期間 Standard-AMS 試料種、前処理など charred material acid-alkali-acid	1370±40	-27.8	1330±40

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンダードは、国際的な慣例として、NBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

(株)地球科学研究所
2000年2月3日

〒468 名古屋市天白区植田本町1-608 TEL052-802-0703

炭素年代測定試料(炭化材)一覧

試料名	採取地点	層位
99 I W A - 1	第3号竪穴住居跡	床面
99 I W A - 2	第3号竪穴住居跡	床面
99 I W A - 3	第4号竪穴住居跡	床面
99 I W A - 4	第5号竪穴住居跡	床面
99 I W A - 5	第6号竪穴住居跡	第1層
99 I W A - 6	第9号竪穴住居跡	床面

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-24.9; lab mult.=1)

Laboratory Number: Beta-137321

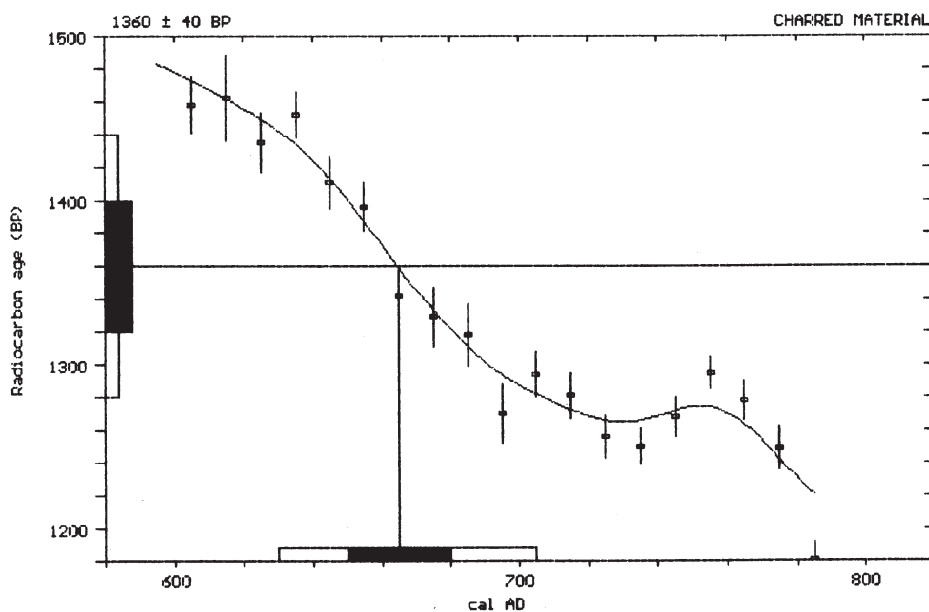
Conventional radiocarbon age: 1360 ± 40 BP

Calibrated results: cal AD 630 to 705 (Cal BP 1320 to 1245)
(2 sigma, 95% probability)

Intercept data:

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: cal AD 665 (Cal BP 1285)

1 sigma calibrated results: cal AD 650 to 680 (Cal BP 1300 to 1270)
(68% probability)



References:

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 ■ Tel: (305)667-5167 ■ Fax: (305)663-0964 ■ E-mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12 = -25.7; lab mult. = 1)

Laboratory Number: Beta-137322

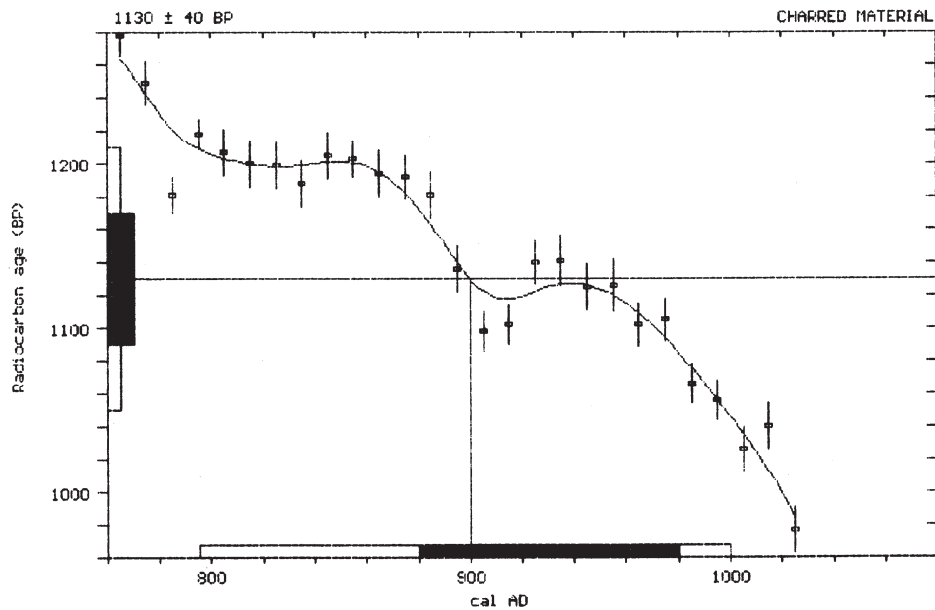
Conventional radiocarbon age: 1130 ± 40 BP

Calibrated results: cal AD 795 to 1000 (Cal BP 1155 to 950)
(2 sigma, 95% probability)

Intercept data:

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: cal AD 900 (Cal BP 1050)

1 sigma calibrated results: cal AD 880 to 980 (Cal BP 1070 to 970)
(68% probability)



References:

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p. xii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et. al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p. 1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p. 317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 ■ Tel: (305)667-5167 ■ Fax: (305)663-0964 ■ E-mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-25.6:lab mult.=1)

Laboratory Number: Beta-137323

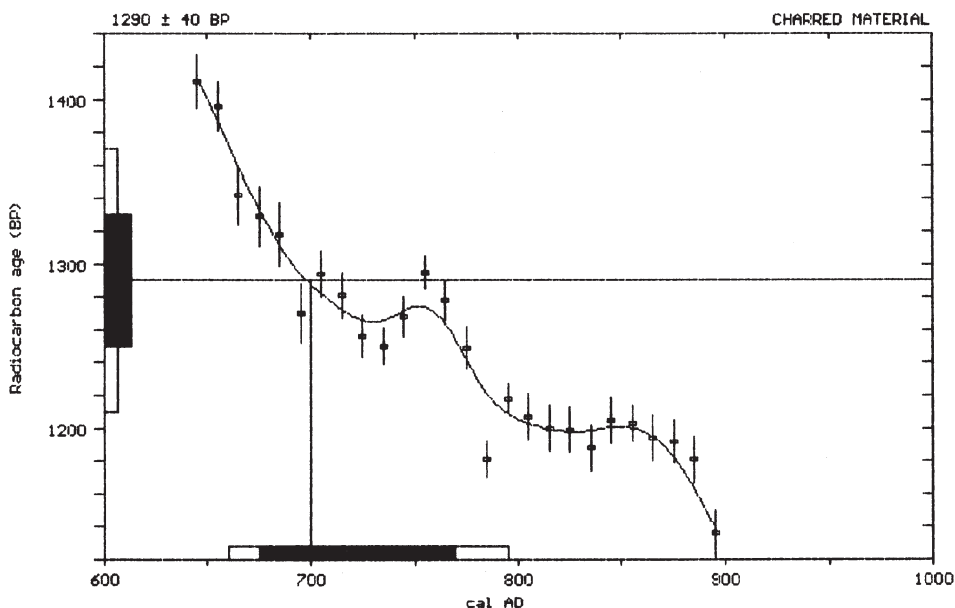
Conventional radiocarbon age: 1290 ± 40 BP

Calibrated results: cal AD 660 to 795 (Cal BP 1290 to 1155)
(2 sigma, 95% probability)

Intercept data:

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: cal AD 700 (Cal BP 1250)

1 sigma calibrated results: cal AD 675 to 770 (Cal BP 1275 to 1180)
(68% probability)



References:

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxi-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 ■ Tel: (305)667-5167 ■ Fax: (305)663-0964 ■ E-mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-25.3; lab mult.=1)

Laboratory Number: Beta-137324

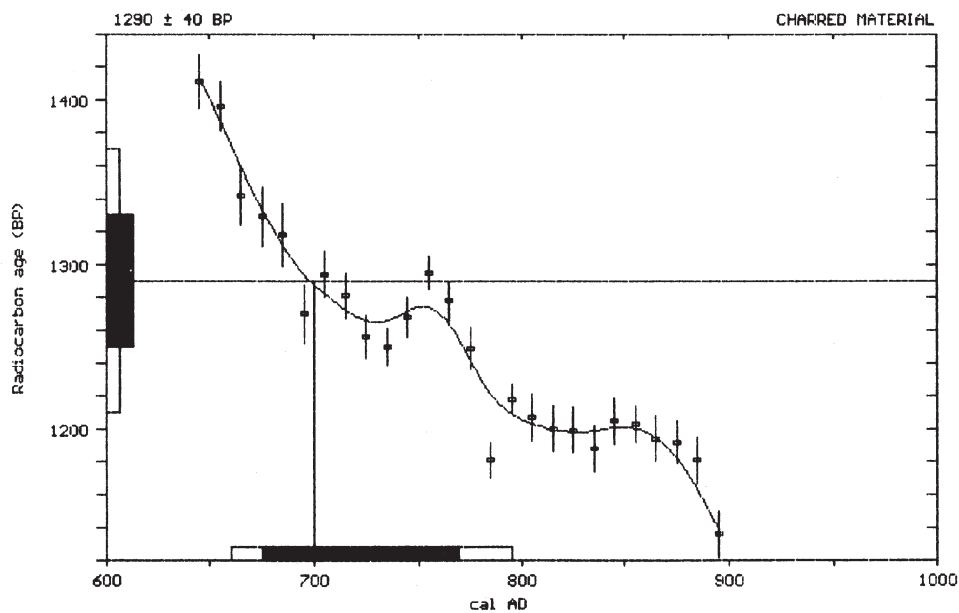
Conventional radiocarbon age: 1290 ± 40 BP

Calibrated results: cal AD 660 to 795 (Cal BP 1290 to 1155)
(2 sigma, 95% probability)

Intercept data:

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: cal AD 700 (Cal BP 1250)

1 sigma calibrated results: cal AD 675 to 770 (Cal BP 1275 to 1180)
(68% probability)



References:

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et. al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 ■ Tel: (305)667-5167 ■ Fax: (305)663-0964 ■ E-mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.9; lab mult.=1)

Laboratory Number: Beta-137325

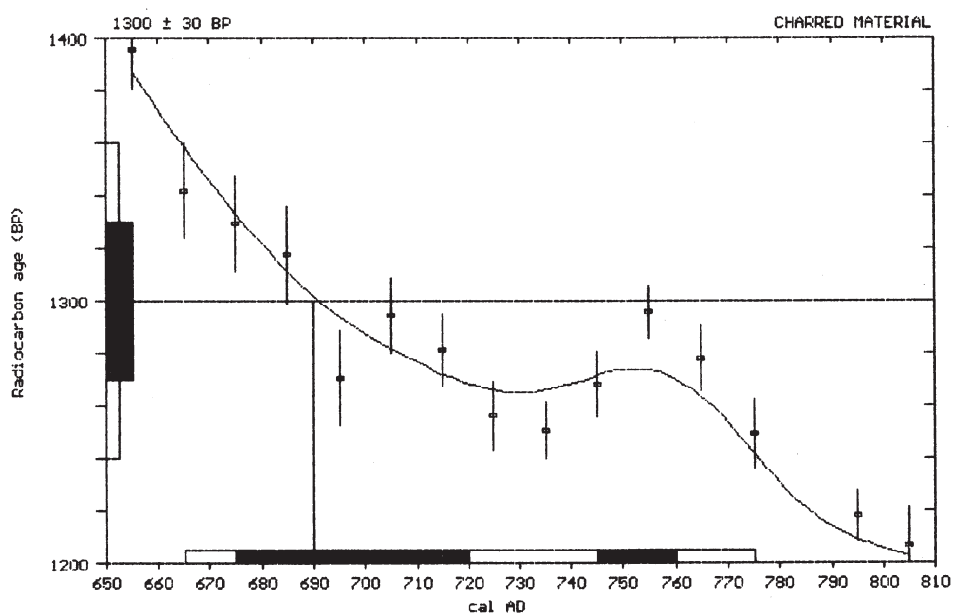
Conventional radiocarbon age: 1300 ± 30 BP

Calibrated results: cal AD 665 to 775 (Cal BP 1285 to 1175)
(2 sigma, 95% probability)

Intercept data:

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: cal AD 690 (Cal BP 1260)

1 sigma calibrated results: cal AD 675 to 720 (Cal BP 1275 to 1230) and
cal AD 745 to 760 (Cal BP 1205 to 1190)



References:

Calibration Database
Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 ■ Tel: (305)667-5167 ■ Fax: (305)663-0964 ■ E-mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-27.8; lab mult.=1)

Laboratory Number: Beta-137326

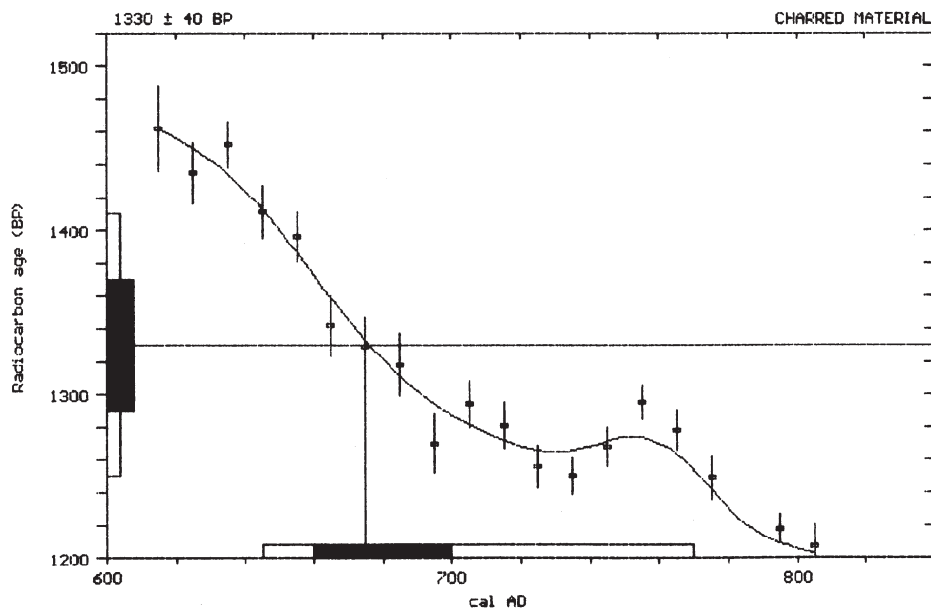
Conventional radiocarbon age: 1330 ± 40 BP

Calibrated results: cal AD 645 to 770 (Cal BP 1305 to 1180)
(2 sigma, 95% probability)

Intercept data:

Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: cal AD 675 (Cal BP 1275)

1 sigma calibrated results: cal AD 660 to 700 (Cal BP 1290 to 1250)
 (68% probability)



References:

- Calibration Database*
- Editorial Comment*
- Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxii-xiii
- INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration*
- Stuiver, M., et al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083
- Mathematics*
- A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates*
- Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 ■ Tel: (305)667-5167 ■ Fax: (305)663-0964 ■ E-mail: beta@radiocarbon.com

第3節 方形周溝に残存するリン・カルシウム、脂肪酸分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本遺跡は、馬淵川左岸の馬場段丘上に位置し、縄文時代早期から平安にかけての複合遺跡であり、住居跡・土坑・溝状土坑・焼土遺構・方形周溝・溝などが検出されている。この内、方形周溝の周溝は幅約60cmで、北西側に開口部を持つ。この周溝の内側にはマウンドを持つ主体部が存在したと考えられているが、削平されているため詳細は明らかでない。今回は、方形周溝の主体部内に人体の埋葬が行われていたか確認することを目的として、リン・カルシウム分析、脂肪酸分析を実施する。

1. 試料

試料は、方形周溝（S X 1）内側の主体部を構成していたと考えられている人為層から、平面的に9点（試料番号1～9）、また対照試料として遺構外から1点（試料番号10）、合計10点採取された（図1）。遺構内から採取された試料番号1～9の土質は試料ごとに異なり、にぶい黄褐色～黒褐色を呈する埴壤土、砂質埴壤土、軽埴土よりなる。遺構外より採取された試料番号10は、黄褐色重埴土からなる。採取された10点について、リン・カルシウム分析および脂肪酸分析を実施する。なお、両分析は、同一試料を分割して行った。

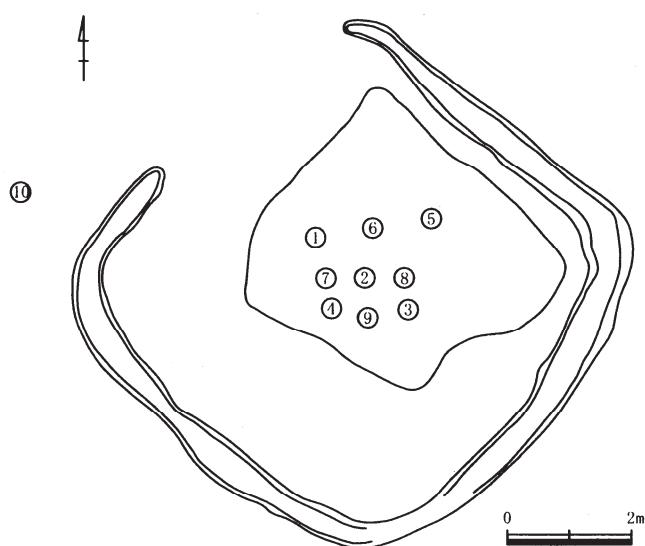


図1 S X 1 遺構平面図および試料採取位置

2. 分析方法

(1) リン・カルシウム分析

リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法でそれぞれ行った（土壤養分測定法委員会、1981）。以下に操作工程を示す。試料を風乾後、軽く粉碎して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料2.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計により、リン酸（ P_2O_5 ）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制

剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム (CaO) 濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりのリン酸含量 (P_2O_5 mg/g) とカルシウム含量 (CaOmg/g) を求める。

(2) 脂肪酸分析

試料が浸るに十分なクロロホルム：メタノール (2 : 1) を入れ、超音波によるソニケーションを行い、脂質を抽出した。ロータリーエバポレーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸-メタノールによりメチル化を行った。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップパックシリカを使用し、脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離した。脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム (ULB0N、HR-SS-10、内径0.25mm、長さ30m) を装着したガスクロマトグラフィー (GC-14A、SHIMADZU) を使用した。注入口温度は250℃、検出器は水素炎イオン検出器を使用した。ステロールの分析は、キャピラリーカラム (J & W SCIENFIC、DB-1、内径0.36mm、長さ30m) を装着した。注入口温度は320℃、カラム温度は270℃恒温で分析を行った。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用した。

3. 結果

(1) リン・カルシウム分析

結果を表1に示す。主体部から採取された試料番号1～9では、リン酸含量0.61～0.93 P_2O_5 mg/g (平均0.73 P_2O_5 mg/g)、カルシウム含量1.88～3.19CaOmg/g (平均2.36CaOmg/g) であった。一方、比較対照試料として遺構外から採取された試料番号10は、リン酸含量0.41 P_2O_5 mg/g、カルシウム含量1.59CaOmg/gであった。

表1 リン・カルシウム分析結果

採取地	試料名	土性	土色	P_2O_5 (mg/g)	CaO(mg/g)	備考
S X 1	サンプル1	SCL	10YR4/4 褐	0.64	1.88	主体部
	サンプル2	SCL	10YR3/2 黒褐	0.79	3.19	
	サンプル3	CL	10YR3/4 暗褐	0.75	2.16	
	サンプル4	CL	10YR4/4 褐	0.61	2.40	
	サンプル5	CL	10YR3/4 暗褐	0.75	2.62	
	サンプル6	CL	10YR4/6 褐	0.70	2.15	
	サンプル7	CL	10YR4/4 褐	0.78	2.41	
	サンプル8	CL	10YR3/4 暗褐	0.93	2.30	
	サンプル9	LiC	10YR4/3 にぶい黄褐	0.61	2.17	
S X 1 外	サンプル10	HC	10YR5/6 黄褐	0.41	1.59	対照試料

注1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖 (農林省農林水産技術会議監修、1967) による。

注2) 土性：土壌調査ハンドブック (ペドロジスト懇談会編、1984) の野外土性による。

CL： 埴壤土 (粘土15～25%、シルト20～45%、砂3～65%)

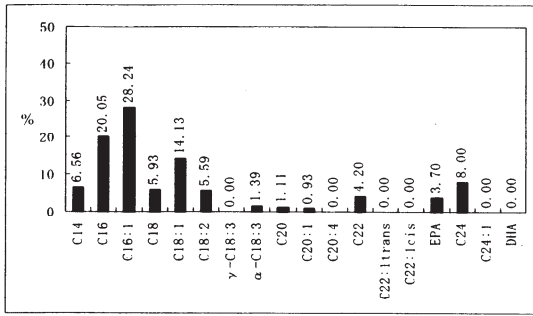
SCL： 砂質埴壤土 (粘土15～25%、シルト0～20%、砂5～85%)

LiC： 軽埴土 (粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%)

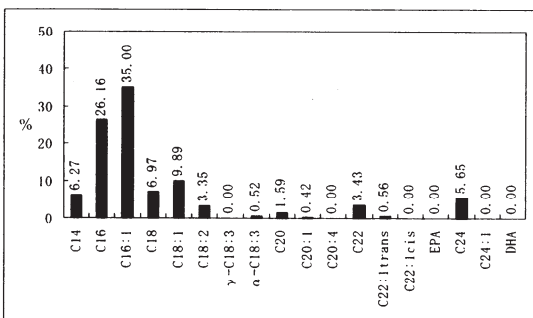
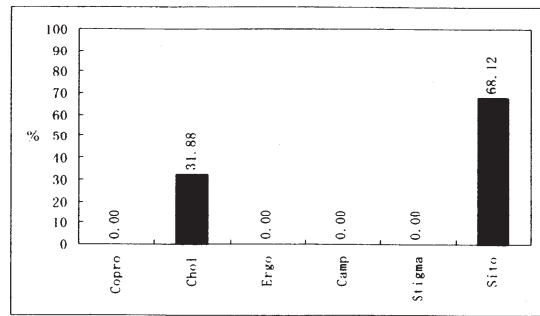
HC： 重埴土 (粘土45～100%、シルト0～55%、砂0～55%)

(2) 脂肪酸分析

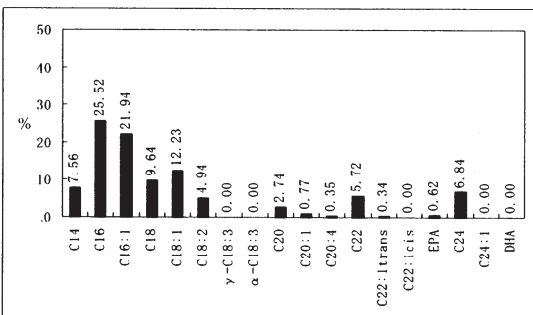
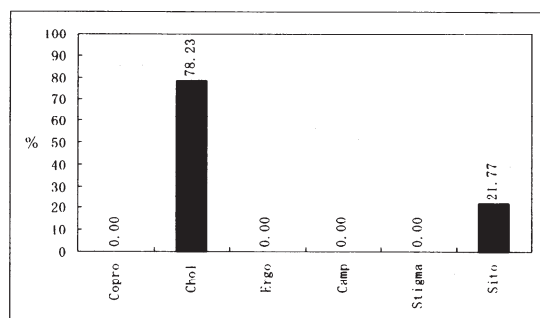
結果を図2に示す。ステロール組成は、傾向として大きく3つに分かれる。試料番号3・5～10はコ



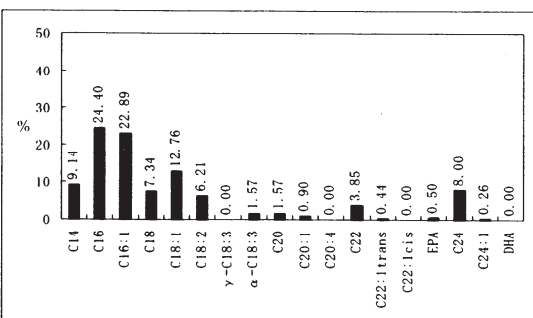
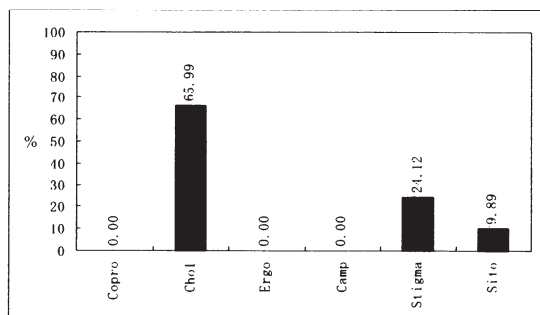
試料番号 1



試料番号 2



試料番号 3



試料番号 4

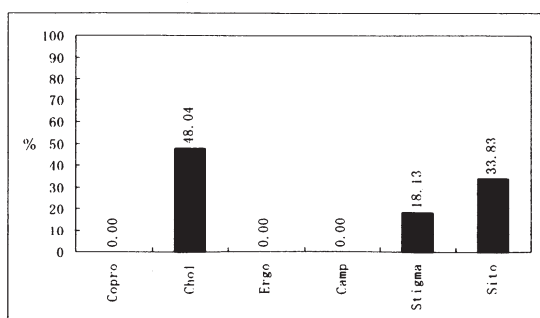
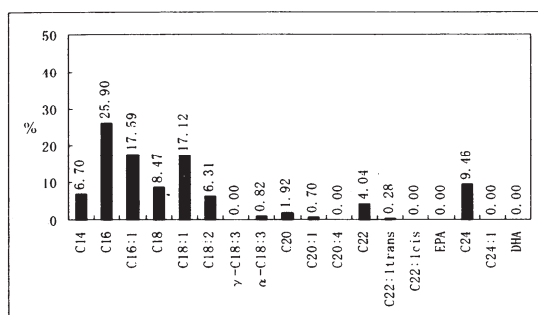
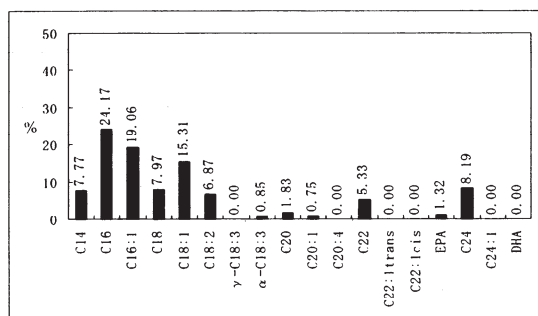
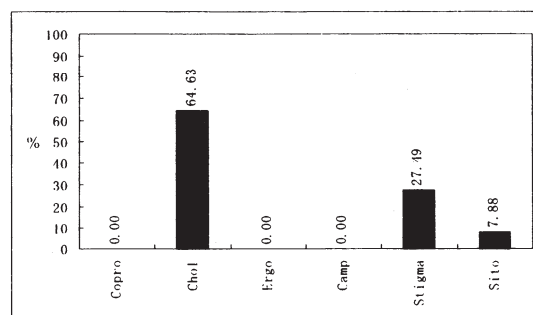


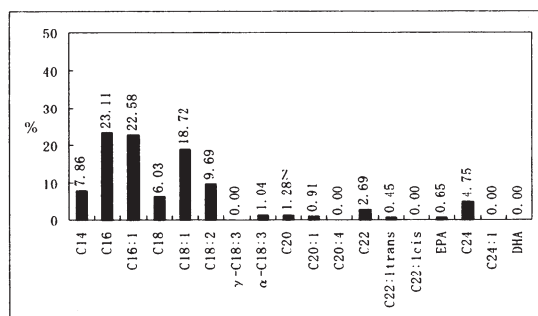
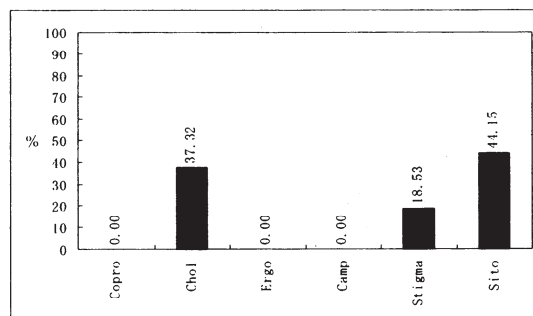
図2 脂肪酸およびステロール組成(1)



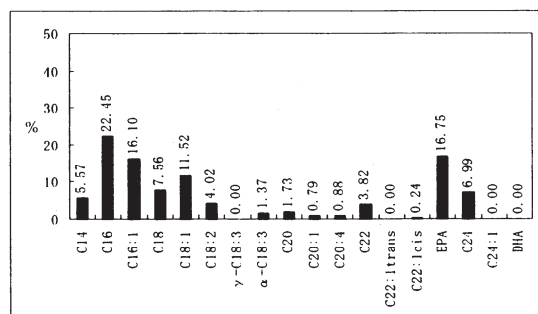
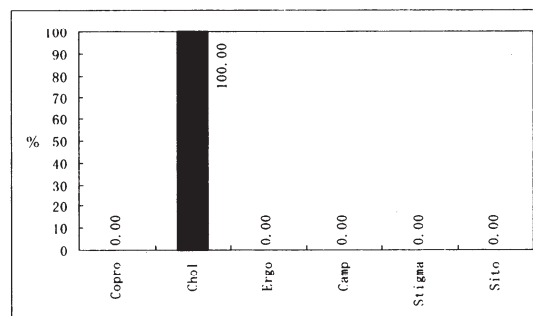
試料番号5



試料番号6



試料番号7



試料番号8

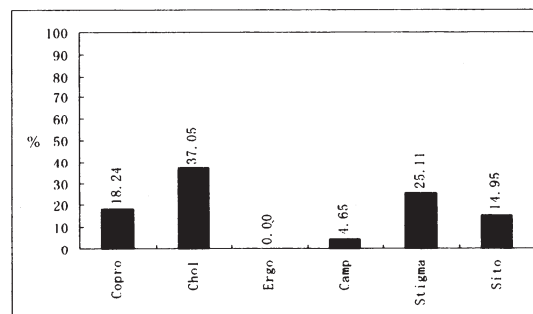
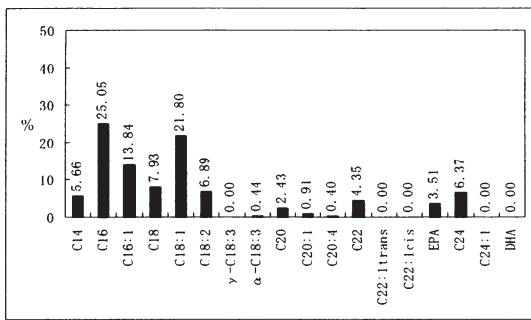
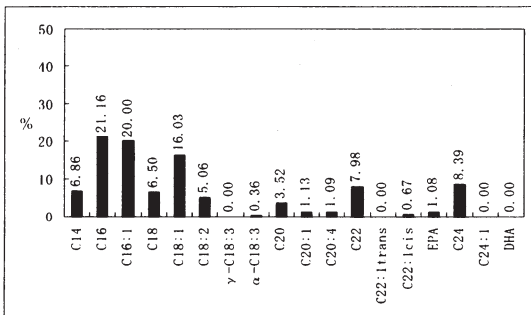
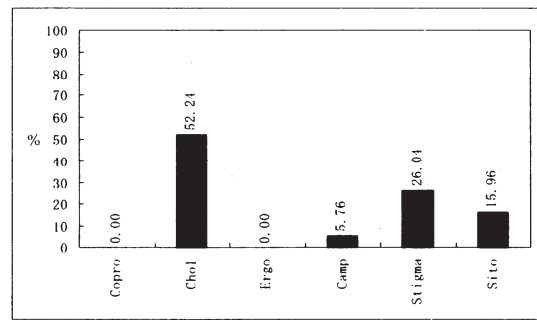


図2 脂肪酸およびステロール組成(2)



試料番号 9



試料番号10

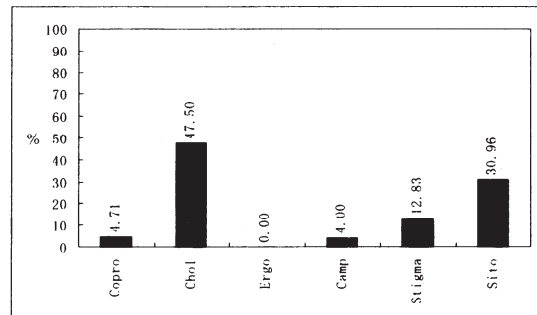


図 2 脂肪酸およびステロール組成(3)

レステロールがやや多いものの、シトステロール・ステイグマステロール・カンペステロールなども伴う。試料番号 2・4 はコレステロールのみからなる。試料番号 1 はシトステロールの割合が高く、コレステロールも検出される。一方、脂肪酸は、全体的にパルチミン酸 (C16) とパルミトレイン酸 (C16:1) の割合が高く、オレイン酸 (C18:1) がやや多く検出される。また、ミリスチン酸 (C14)、ステアリン酸 (C18)、リノール酸 (C18:2)、ベヘン酸 (C22)、リグノセリン酸 (C24) など若干検出される。なお、試料番号 8 では、イコサペンタエン酸 (20:5) が他と比べて多くなっている。

4. 考察

土壤中に普通に含まれるリン酸量(いわゆる天然賦存量)の上限については、既存の報告例(例えば、Bowen, 1983; Bolt & Bruggenwert, 1980; 川崎ほか, 1991; 天野ほか, 1991)を参考にすると、約 $3.0P_2O_5$ mg/g程度と推定される。また、化学肥料の施用など人為的な影響を受けた黒ボク土の既耕地では、 $5.5P_2O_5$ mg/g(川崎ほか, 1991)という報告例がある。当社がこれまでに蓄積した調査事例では、骨片などの痕跡が認められる土壤では $6.0P_2O_5$ mg/gを越える場合が多い。また、カルシウムの天然賦存量は含量幅がリン酸よりも大きい傾向にあるが、普通 $1\sim 50CaO$ mg/g(藤貫, 1979)とされている。これらの研究事例に基づき、今回の分析結果を評価すると方形周溝内から採取された試料のリン酸・カルシウム含量は、遺構外から採取された試料より若干高い傾向が認められるが有意差があると言えず、いずれも天然賦存量の範囲内にある。一方、脂肪酸やステロールは安定な物質で、比較的長期間にわたって変質しないで残るとされる(中野, 1993)。そこで、脂肪酸やステロールの

組成を求め、その組成を食品成分表（科学技術庁資源調査会編、2000）などにある生物の組成と比較して、埋積物の痕跡について検討する。今回のステロール組成をみると、対照試料を含む試料番号3・5～10はコレステロールがやや多いものの、シトステロール・ステイグマステロール・カンペステロールなどを伴う。コレステロールは動物由来、カンペステロール・シトステロール・スチグマステロールは植物由来のステロールである。自然状態では、土壤中の各種成分は安定化するために均質になろうとする。ところが、遺体埋納が行われた場合には、その部分のみが周辺とは違う特異的な組成になると考えられる。試料番号3・5～10は組成が近似することから、周辺土壌本来のステロール組成を示しているものと考えられる。一方、試料番号2・4はコレステロールの割合が非常に高く、周辺の組成と比べて特異であることから、この部分に動物質が埋納されている可能性がある。一方、試料番号1は、植物由来のステロールであるシトステロールが多い。土壌中に微細な植物遺体などが含まれている可能性もあるが、詳細は不明である。脂肪酸組成をみると、パルチミン酸（C16）とパルミトリン酸（C16:1）が多い。これらは動物・植物ともに含まれる脂肪酸であるが、特にパルミトリン酸（C16:1）は肉や魚に多い傾向がある。C18類の脂肪酸は動物・植物・菌類ともに多く含まれるため、今回の結果でも多産している。C18類の中でオレイン酸が多産するが、これはほ乳類や鳥類に多く含まれる脂肪酸である。これらのことから、分析を行った土壌は、全体的に動物質の脂肪酸の影響を強く受けていることが考えられる。これは全ての試料から動物由来のコレステロールが検出されていることと調和的である。おそらく、これらは人為活動などによって蓄積されたもので、遺跡周辺の土壌が普遍的に持っている性質であると思われる。脂肪酸組成で特徴的なのは試料番号8で、イコサペンタエン酸（20:5）が多産する。イコサペンタエン酸（20:5）は魚介類に多く含まれる脂肪酸であることから、試料番号8付近に魚介類が埋納されたことが想定されるが、普通魚介類にはドコサヘキサエン酸（22:6）もイコサペンタエン酸（20:5）とあわせて多く含まれるのに、この試料では全くみられない点で問題が残る。以上のような状況から考えると、遺跡内の覆土は、全体として人為的な活動により動物質の脂肪酸の影響を受けている可能性がある。その中でも特徴的なステロール組成を示す試料番号2・4では、動物質の遺体の埋納が示唆される。想像をたくましくすれば、試料番号2・4付近に遺体が埋納され、試料番号8付近に供物として魚介類が埋納されたいた可能性もあるが、上記した問題点やリン・カルシウム分析で明確な濃集傾向が見られないことなどから、断定できない。類例の調査例蓄積が望まれる。また、主体部の削剥や後代の攪乱・施肥などの影響を考慮すべきであり、今後表土層などについてもさらに分析調査することが望まれる。

引用文献

- 天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信（1991）中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量。農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p.28-36.
- Bowen,H.J.M. (1983)「環境無機化学 ー元素の循環と生化学ー」. 浅見輝男・茅野充男訳, 297p., 博友社 [Bowen,H.J.M. (1979) Environmental Chemistry of Elements].
- Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M. (1980)「土壌の化学」. 岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行 訳, 309p., 学会出版センター [Bolt,G.H. and Bruggenwert,M.G.M. (1976) SOIL CHEMISTRY], p.235-236.

土壤養分測定法委員会編（1981）「土壤養分分析法」. 440p., 養賢堂.

藤貫 正（1979）カルシウム. 地質調査所化学分析法, 52, p.57-61, 地質調査所.

科学技術庁資源調査委員会編（2000）四訂食品成分表2000 香川芳子監修, 576p., 女子栄養大学出版部.

川崎 弘・吉田 滂・井上恒久（1991）九州地裁の土壤型別蓄積リンの形態別計量. 農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p.23-27.

中野益男（1993）脂肪酸分析法 「第四紀試料研究法2 研究対象別分析法」, p.388-403, 東京大学出版会

農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）新版標準土色帖

ペドロジスト懇談会編（1984）「土壤調査ハンドブック」156p., 博友社.

坂井良輔・小林正史・藤田邦雄（1995）灯明皿の脂質分析. 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第7集「梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編） 第二分冊」, p.24-37, 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所.

第5章 まとめ

岩ノ沢平遺跡は南側を馬淵川、北側を浅水川に挟まれた標高65m前後の野場段丘北東端に位置する。調査は平成3・4年度に八戸市教育委員会、平成10・11年度に青森県埋蔵文化財調査センターが実施した。

平成3年度の調査では、縄文時代の土坑・溝状土坑、9世紀代の竪穴住居跡等が確認された。

平成4年度の調査では、縄文時代の溝状土坑、8世紀代の竪穴住居跡、9世紀～10世紀前半の竪穴住居跡等が確認された。

平成10年度の調査では、縄文時代中期後葉～後期前半の竪穴住居跡、縄文時代早期の陥し穴、縄文時代前期～中期の溝状土坑（陥し穴）、9世紀中葉～10世紀前半の竪穴住居跡群等が確認された。

平成11年度の調査では、縄文時代早期・前期中葉～後期の陥し穴、縄文時代前期～中期の溝状土坑（陥し穴）、7世紀後半～8世紀中葉の竪穴住居跡、9世紀中葉～10世紀前半の竪穴住居跡、奈良・平安時代とされる方形周溝等が確認された。

上記の調査結果から、岩ノ沢平遺跡は縄文時代早期～後期にかけて、底面に杭を配置する土坑や溝状土坑等の陥し穴が形成され、継続的に狩猟場として活用されていたことが判明した。しかし住居跡は中期後葉～後期前半のものが確認されるにとどまった。7世紀後半～8世紀中葉のものでは、平成4年度調査区中央付近から2軒、平成11年度調査区南側から7軒の住居跡が確認された。9世紀中葉～10世紀前半には、斜面地が多い尾根地形にも関わらず大規模な集落跡が形成されている。奈良時代から平安時代への変遷には、8世紀後葉～9世紀前葉と時間的空白が存在する。調査区域外に集落が広がるため、奈良時代の集落が平安時代の集落に継続・断続するかを特定するのは困難である。また平成11年度調査では、調査区北西側境界付近の丘陵頂部縁辺から方形周溝が確認された。1基のみの確認であったため、明確な時期や性格を把握することはできなかった。県内では方形周溝を含め、周溝の確認例は少なく、周溝を考えるうえで注目すべき資料と思われる。（野村）

引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1977 『三内沢部遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第41集
- 青森県教育委員会 1979 『鳥海山遺跡発掘報告書』青森県埋蔵文化財報告書第32集
- 青森県教育委員会 1979 『杉の沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第45集
- 青森県教育委員会 1982 『発茶沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第67集
- 青森県教育委員会 1982 『山崎遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第68集
- 青森県教育委員会 1984 『和野前山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第82集
- 青森県教育委員会 1985 『売場遺跡(第三次・第四次調査)・大タルミ遺跡』
青森県埋蔵文化財逃散報告書第93集
- 青森県教育委員会 1989 『発茶沢(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第120集
- 青森県教育委員会 1990 『中野平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第134集
- 青森県教育委員会 1994 『山元(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第159集
- 青森県教育委員会 1996 『野尻(2)遺跡Ⅱ・野尻(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第186集
- 青森県教育委員会 1998 『外馬屋前田(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第242集
- 青森県教育委員会 1999 『櫛引遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第263集
- 青森県教育委員会 2000 『櫛引遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第272集
- 青森県教育委員会 2000 『砂子遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第280集
- 青森県教育委員会 2000 『岩ノ沢平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第287集
- 青森市教育委員会 1994 『三内丸山(2)・小三内遺跡』青森市埋蔵文化財調査報告書第23集
- 八戸市教育委員会 1982 『長七谷地遺跡発掘調査報告書(長七谷地2・7・8号遺跡)』
八戸市埋蔵文化財調査報告書第8集
- 八戸市教育委員会 1987 『湯浅屋新田遺跡(2)他』八戸市埋蔵文化財調査報告書第19集
- 八戸市教育委員会 1988 『熊野堂遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第32集
- 八戸市教育委員会 1990 『見立山(2)遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第38集
- 八戸市教育委員会 1991 『田面木遺跡(第3次調査)他』八戸市埋蔵文化財調査報告書第41集
- 八戸市教育委員会 1991 『丹後平古墳』八戸市埋蔵文化財調査報告書第44集
- 八戸市教育委員会 1992 『岩ノ沢平遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第46集
- 八戸市教育委員会 1993 『殿見遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第49集
- 八戸市教育委員会 1993 『岩ノ沢平遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第50集
- 八戸市教育委員会 1997 『酒美平遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第73集
- 八戸市教育委員会 2000 『人首沢遺跡・大仏遺跡他』八戸市埋蔵文化財調査報告書第84集
- 下田町教育委員会 1990 『阿光坊遺跡』下田町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 三沢市教育委員会 1991 『平畑(5)遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書第8集
- 三沢市教育委員会 1992 『平畑(5)遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書第9集
- 三沢市教育委員会 1996 『平畑(3)遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書第14集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 『飛鳥台地Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第120集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1991 『高瀬Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第155集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『西田東遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第221集
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1993 『中野A遺跡(Ⅱ)』北海道埋蔵文化財調査報告書第84集

土師器・須恵器観察表

図	出土位置	層位	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	底面調整	備考
7-1	第1号竪穴住居跡	1層	坏	13.3	6.9	5.5	ミガキ	ヨコナデ、ミガキ、黒色処理	ミガキ	平底
8-1	第2号竪穴住居跡	2層	甕	—	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	—	
10-1	第3号竪穴住居跡	4層	甕	19.9	28.9	6.2	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	木葉痕	
10-2	第3号竪穴住居跡	4層	甕	21.6	27.6	6.8	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ナデ	
11-3	第3号竪穴住居跡	4層、床面、カマド	甕	19.2	—	—	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ	—	
11-4	第3号竪穴住居跡	3層	甕	15.6	19.2	6.3	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	—	
11-5	第3号竪穴住居跡	3層	甕	15.0	—	—	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ナデ	
11-6	第3号竪穴住居跡	3層	甕	14.2	—	—	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	—	
11-7	第3号竪穴住居跡	4層、床面、カマド	甕	18.8	—	—	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	—	
11-8	第3号竪穴住居跡	3層、4層	甕	—	—	7.3	ハケメ、ミガキ、ナデ	ナデ、ハケメ	ナデ	
11-9	第3号竪穴住居跡	3層、床面	甕	—	—	6.9	ケズリ	ハケメ、指ナデ	木葉痕	
11-10	第3号竪穴住居跡	4層	甕	—	—	5.8	ハケメ、ミガキ	ナデ	ナデ	
12-11	第3号竪穴住居跡	床面	坏	15.5	5.5	3.4	ミガキ	ミガキ、黒色処理	—	丸底
12-12	第3号竪穴住居跡	カマド	坏	15.0	—	—	ミガキ	ミガキ、黒色処理	—	
12-13	第3号竪穴住居跡	床面	坏	17.2	3.9	8.2	ヨコナデ、ミガキ	ミガキ、黒色処理	—	平底風
12-14	第3号竪穴住居跡	3層	坏	17.1	—	—	ヨコナデ、ミガキ	ミガキ、黒色処理	—	
12-15	第3号竪穴住居跡	床面	高坏	—	(2.9)	7.0	ミガキ	ナデ、ミガキ	—	
13-2	第4号竪穴住居跡	1層	甕	—	—	—	ヨコナデ、ミガキ	ナデ	—	
13-3	第4号竪穴住居跡	1層	甕	19.9	—	—	ヨコナデ、ナデ、ミガキ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	—	
13-4	第4号竪穴住居跡	2層	坏	13.1	4.2	3.0	ヨコナデ、ミガキ	ミガキ、黒色処理	—	丸底
13-5	第4号竪穴住居跡	カマド3層	甕	—	—	6.7	ナデ	ナデ	木葉痕	
13-6	第4号竪穴住居跡	カマド1層	甕	20.8	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
14-2	第5号竪穴住居跡	煙出し3層	甕	—	—	—	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	—	
16-1	第6号竪穴住居跡	推積土	甕	19.7	29.1	7.2	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ	木葉痕	
16-2	第6号竪穴住居跡	1層	甕	21.0	—	—	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	—	
16-3	第6号竪穴住居跡	1層	甕	15.0	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	—	
16-4	第6号竪穴住居跡	1層	小型土器	6.4	2.7	3.2	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	
18-1	第7号竪穴住居跡	5層	甕	8.4	7.7	4.0	ヨコナデ、ナデ	ハケメ、ナデ	ナデ	
18-2	第7号竪穴住居跡	4層	甕	—	—	—	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ミガキ、ハケメ	—	
18-3	第7号竪穴住居跡	カマド	甕	17.8	—	—	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	—	
20-1	第8号竪穴住居跡	カマド	甕	11.7	12.6	7.6	ミガキ	指ナデ、ミガキ、黒色処理	ナデ	
20-2	第8号竪穴住居跡	カマド	甕	11.0	15.9	7.9	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
20-3	第8号竪穴住居跡	カマド、煙道	甕	14.4	—	—	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	—	
20-4	第8号竪穴住居跡	カマド	甕	14.6	—	—	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	—	
20-5	第8号竪穴住居跡	カマド	甕	12.4	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
20-6	第8号竪穴住居跡	カマド	甕	11.4	—	—	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	—	
20-7	第8号竪穴住居跡	カマド	甕	13.4	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
20-8	第8号竪穴住居跡	カマド	甕	13.2	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
20-9	第8号竪穴住居跡	カマド	甕	12.9	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
20-10	第8号竪穴住居跡	カマド	甕	22.4	—	—	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	—	
20-11	第8号竪穴住居跡	6層	甕	21.6	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
20-12	第8号竪穴住居跡	煙出し4層	甕	20.2	—	—	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
20-13	第8号竪穴住居跡	床面	甕	22.4	27.5	9.1	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
21-14	第8号竪穴住居跡	1層、カマド	甕	—	—	7.1	ケズリ	ヘラナデ	木葉痕	
21-15	第8号竪穴住居跡	カマド	坏	—	—	6.1	ロクロ	ミガキ	回転糸切痕	
21-16	第8号竪穴住居跡	カマド	大甕	—	—	—	タタキ	ナデ	—	須恵器
23-1	第9号竪穴住居跡	煙出し	甕	11.8	10.2	5.9	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂底	
23-2	第9号竪穴住居跡	4層	甕	14.6	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
23-3	第9号竪穴住居跡	1層	甕	10.6	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	—	
23-4	第9号竪穴住居跡	1層	坏	13.0	—	—	ロクロ	ヨコナデ、ミガキ、黒色処理	—	
23-5	第9号竪穴住居跡	1層	甕	—	—	9.2	ナデ	ナデ	ナデ	
23-6	第9号竪穴住居跡	1層	甕	—	—	7.6	ナデ	ナデ	木葉痕	
24-1	第10号竪穴住居跡	推積土	坏	12.9	6.1	5.8	ミガキ	ナデ、ミガキ	ミガキ	平底
24-2	第10号竪穴住居跡	1層	甕	11.6	—	—	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ナデ	—	
24-3	第10号竪穴住居跡	煙出し5層	甕	—	—	9.4	ナデ	ナデ	木葉痕	
25-4	第10号竪穴住居跡	床面、カマド	甕	21.4	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
25-5	第10号竪穴住居跡	1層	甕	19.8	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
25-6	第10号竪穴住居跡	煙出し4層	甕	17.2	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
26-1	第12号竪穴住居跡	1層、2層、床面	甕	—	—	9.7	ナデ	ナデ	ミガキ	
26-2	第12号竪穴住居跡	カマド	坏	—	—	5.8	ロクロ、ケズリ	ロクロ、黒色処理	回転糸切痕、ナデ	平底
28-2	第13号竪穴住居跡	2層	甕	18.2	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
28-3	第13号竪穴住居跡	1層、2層、カマド2・13層	甕	16.5	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
28-4	第13号竪穴住居跡	1層、2層	甕	16.6	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	—	
28-5	第13号竪穴住居跡	2層	甕	—	—	9.5	ナデ	ナデ	木葉痕	
28-6	第13号竪穴住居跡	1層、2層、カマド2	甕	—	—	—	ナデ	ナデ	—	
28-7	第13号竪穴住居跡	1層	小型土器	—	—	5.4	ミガキ	ナデ	ミガキ	

図	出土位置	層位	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	底面調整	備考
28-8	第13号竪穴住居跡	2層	坏	12.4	-	-	ロクロ	ミガキ、黒色処理	-	
28-9	第13号竪穴住居跡	1層	坏	13.6	-	-	ロクロ	ミガキ、黒色処理	-	
28-10	第13号竪穴住居跡	カマド2	坏	12.4	-	-	ナデ	ナデ	-	
28-11	第13号竪穴住居跡	1層	壺	-	-	-	ロクロ	ロクロ	-	須恵器
29-1	第14号竪穴住居跡	1層	鉢	10.8	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	-	
30-1	第15号竪穴住居跡	1層	坏	12.6	-	-	ミガキ	ミガキ、黒色処理	-	
32-1	第16号竪穴住居跡	カマド	甕	13.6	-	-	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	-	
32-2	第16号竪穴住居跡	カマド	甕	16.3	-	-	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指ナデ	ヨコナデ、ナデ	-	
32-3	第16号竪穴住居跡	堆積土	甕	13.0	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	-	
32-4	第16号竪穴住居跡	カマド	甕	21.0	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	-	
32-5	第16号竪穴住居跡	堆積土	甕	20.8	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	-	
32-6	第16号竪穴住居跡	掘方埋土	坏	14.8	-	-	ロクロ	ミガキ、黒色処理	-	
37-1	第1号溝跡	1層、堆積土	甕	-	-	-	ロクロ	ロクロ	-	
37-2	第1号溝跡	1層、堆積土	甕	9.8	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	-	
37-3	第1号溝跡	1層	甕	-	-	-	ミガキ	ナデ	-	
37-4	第1号溝跡	1層、堆積土	甕	-	-	9.4	ナデ	ナデ	ナデ	
37-5	第1号溝跡	1層、堆積土	甕	-	-	-	タタキ	ナデ	-	須恵器
37-6	第4号溝跡	1層	甕	-	-	-	ロクロ	ロクロ	-	須恵器
37-7	第6号溝跡	1層	甕	-	-	-	ナデ	ナデ	-	
49-1	第6号土坑	1層	甕	-	-	-	ナデ	ナデ	-	
49-2	第6号土坑	1層	甕	-	-	-	ケズリ	ナデ	-	
49-3	第8号土坑	1層	甕	-	-	-	ケズリ	ナデ	-	
49-4	第8号土坑	1層	甕	-	-	-	ミガキ	ナデ	-	
49-5	第7号土坑	床面	坏	14.8	-	-	ミガキ、黒色処理	ミガキ	-	
49-6	第7号土坑	1層	甕	20.4	29.1	7.3	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	木葉痕	
49-7	第15号土坑	1層	甕	-	-	-	ケズリ	ナデ	-	
49-8	第30号土坑	1層	甕	-	-	-	ケズリ	ナデ	-	
49-9	第30号土坑	1層	甕	-	-	-	ケズリ	ナデ	-	
49-10	第30号土坑	11層	甕	-	-	6.8	ナデ	ナデ	-	
49-11	第30号土坑	1層	甕	-	-	-	ケズリ	ナデ	-	
49-12	第30号土坑	1層	甕	-	-	8.6	ナデ	ナデ	木葉痕	
49-14	第48号土坑	1層、2層	甕	9.2	-	-	ヨコナデ、ナデ	ナデ	-	
63-1	98年試掘	1層	甕	16.2	-	-	ナデ	ナデ	-	

縄文土器観察表

図	出土地点	層位	器種	部位	外面色調	内面色調	施文文様	内面調整	備考
63-2	R-91	Ⅲ層	深鉢	胴部	5YR6/6 橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	R L斜縄文	ナデ	
63-3	R-91	Ⅲ層	深鉢	胴部	5YR6/6 橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	R L斜縄文	ナデ	
63-4	U-98	V層	深鉢	口縁・胴部	5YR6/4 にぶい橙色	5YR6/4 にぶい橙色	単軸絡状体、口唇に刻み目	ナデ	口径22.4cm

鉄製品・土製品観察表

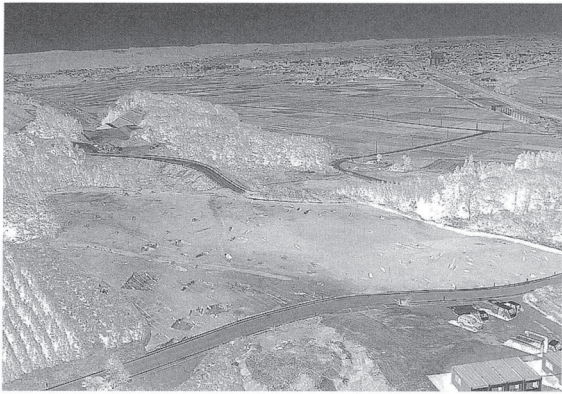
図	出土位置	層位	種類	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
12-16	第3号竪穴住居跡	床面	土製品	紡錘車	52.0	52.0	18.0	52.2	孔径7mm、ヘラミガキ、黒色処理
13-1	第4号竪穴住居跡	2層	鉄製品	不明	(70.0)	21.0	3.0		下部欠損
14-1	第5号竪穴住居跡	2層	鉄製品	棒状鉄製品	(57.0)	5.0	4.5		先端部欠損
21-17	第8号竪穴住居跡	6層	鉄製品	不明	(52.0)	24.0	4.0		欠損
23-7	第9号竪穴住居跡	1層	鉄製品	刀子	153.0	15.0	5.0		
28-1	第13号竪穴住居跡	1層	土製品	紡錘車	(44.0)		20.0	16.8	欠損、孔径7mm、ヘラナデ

石器観察表

図	出土位置	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
12-17	第3号竪穴住居跡	4層	砥石	(70.5)	66.0	28.0	173.7	珪質頁岩	欠損
12-18	第3号竪穴住居跡	2層	敲磨器	(46.0)	(41.0)	3.0	64.4	安山岩	磨り石、欠損
12-19	第3号竪穴住居跡	堆積土	敲磨器	107.0	116.5	41.0	718.6	流紋岩	磨り石
12-20	第3号竪穴住居跡	3層	石鏃	(29.0)	18.0	4.5	2.1	珪質頁岩	無茎凸基、尖部欠損
18-4	第7号竪穴住居跡	煙道	石鏃	44.5	13.0	5.0	2.4	珪質頁岩	無茎平基
21-18	第8号竪穴住居跡	床面	敲磨器	114.0	58.0	50.0	512.2	安山岩	磨り石
32-7	第16号竪穴住居跡	堆積土	敲磨器	(77.0)	71.0	(38.0)	252.5	安山岩	磨り石、欠損
32-8	第16号竪穴住居跡	堆積土	石鏃	(56.0)	13.0	7.5	5.0	珪質頁岩	有茎凸基、基部・尖部欠損
49-13	第30号土坑	1層	石鏃	(30.0)	14.0	4.0	1.7	珪質頁岩	無茎平基、尖部欠損
63-5	G-108	I層	礫器	63.0	104.0	52.0	430.8	砂岩	上部切断
63-6	V-91	Ⅲ層	敲磨器	(103.0)	(88.0)	(48.0)	386.6	安山岩	凹み石
63-7	P-100	V層	敲磨器	118.5	81.0	51.0	680.4	安山岩	敲き・磨り石
63-8	不明	不明	敲磨器	97.0	61.0	51.0	452.6	輝緑岩	磨り石
63-9	I-95	I層	敲磨器	87.0	72.0	42.0	332.0	流紋岩	磨り石
63-10	98年試掘	I層	石鏃	38.0	17.0	4.5	2.5	珪質頁岩	無茎平基
63-11	T-101	V層	石鏃	(42.0)	23.0	6.5	5.9	珪質頁岩	無茎平基、尖部欠損
63-12	R-91	Ⅲ層	石鏃	(50.0)	13.0	5.0	3.1	珪質頁岩	無茎尖基



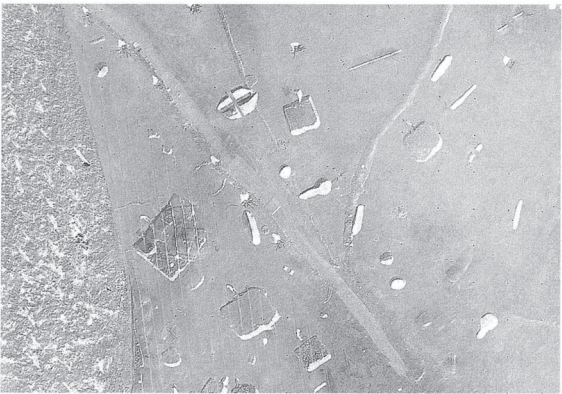
写真1 平成10・11年度調査区全景



調査区遠景 (NW→)



調査区全景 (真上)



竪穴住居跡群 (真上→)



第1号方形周溝 (NW→)



第1号方形周溝 (真上→)



作業風景



作業風景

写真2 調査状況



第1号豎穴住居跡完掘 (W→)



土層 (SW→)



煙道土層 (N→)



第2号豎穴住居跡土層 (E→)



カマド完掘 (SE→)



煙道土層 (NE→)



第3号豎穴住居跡床面検出 (SE→)

写真3 第1号・第2号・第3号豎穴住居跡 (1)



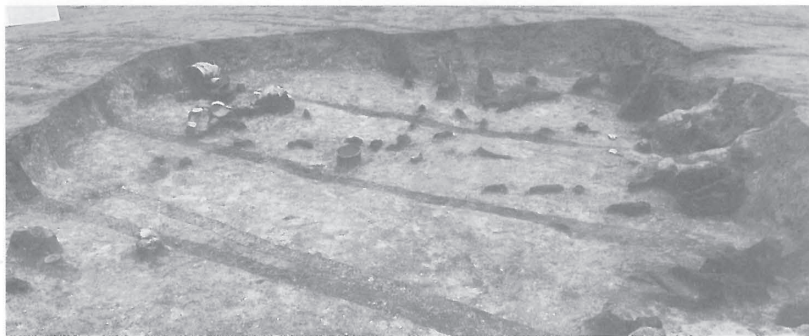
十和田 a 火山灰検出 (S E→)



土層 (S E→)



土層 (N E→)



床面検出 (N E→)



カマド完掘 (S E→)



遺物出土状況 (N W→)



煙道土層 (N E→)



遺物出土状況 (N→)



遺物出土状況 (S→)

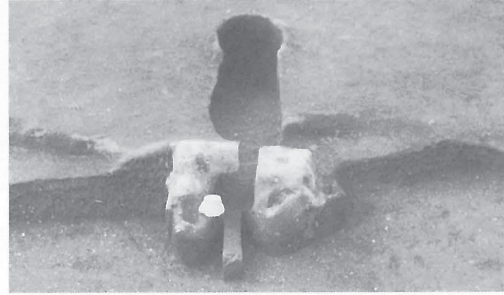
写真4 第3号竪穴住居跡(2)



第4号竪穴住居跡土層 (E→)



煙道土層 (NE→)



カマド (SE→)



第4号竪穴住居跡床面検出 (SE→)



カマド土層 (E→)



カマド袖断ち割り (SE→)

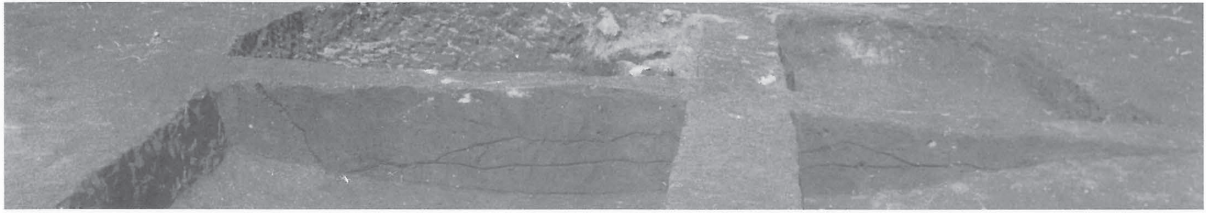


第5号竪穴住居跡床面検出 (SE→)

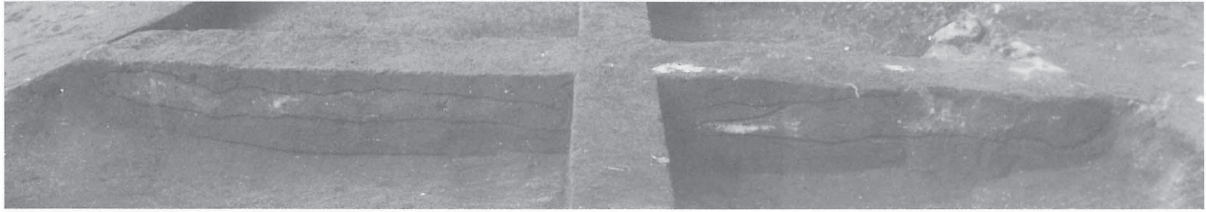


カマド完掘 (SE→)

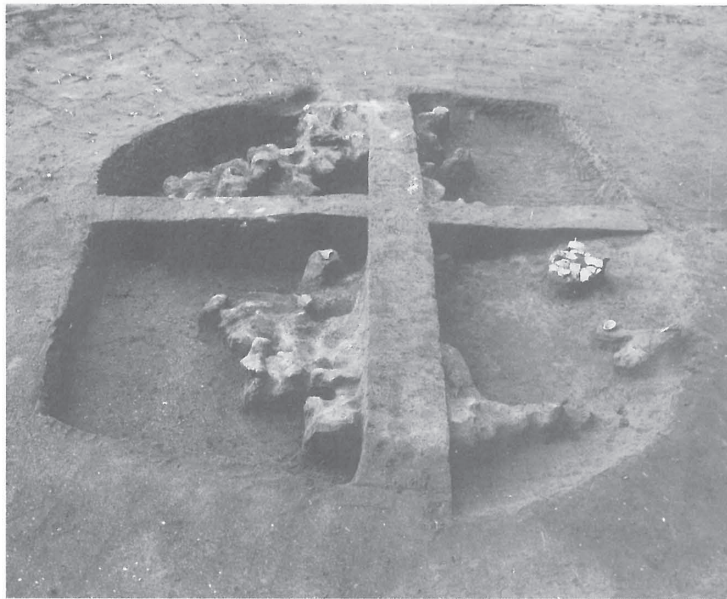
写真5 第4号・第5号竪穴住居跡



土層 (SE→)



土層 (NE→)



白頭山火山灰検出 (SE→)



カマド検出 (SE→)



床面検出 (SE→)



カマド完掘 (SE→)

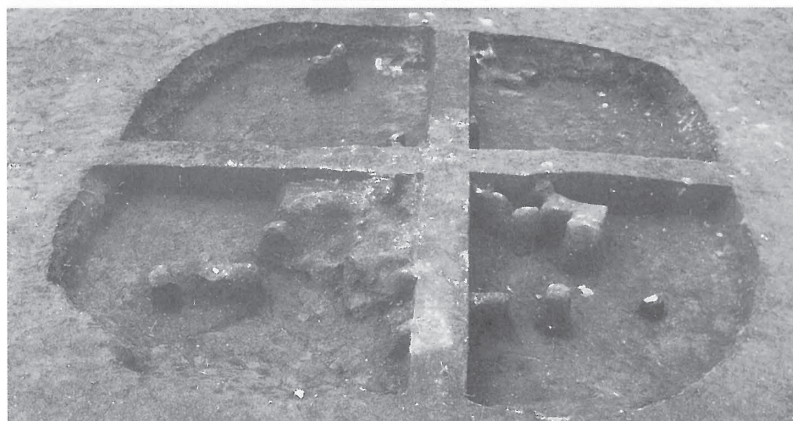
写真6 第6号竪穴住居跡



土層 (SE→)



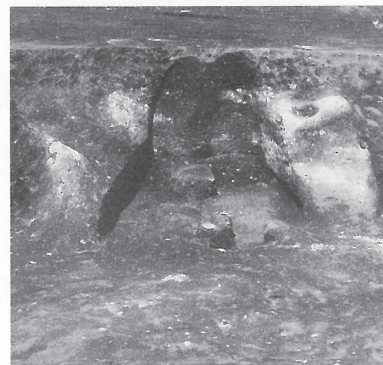
床面検出 (SE→)



十和田 a 火山灰検出 (SE→)



完掘 (SE→)



カマド (SE→)

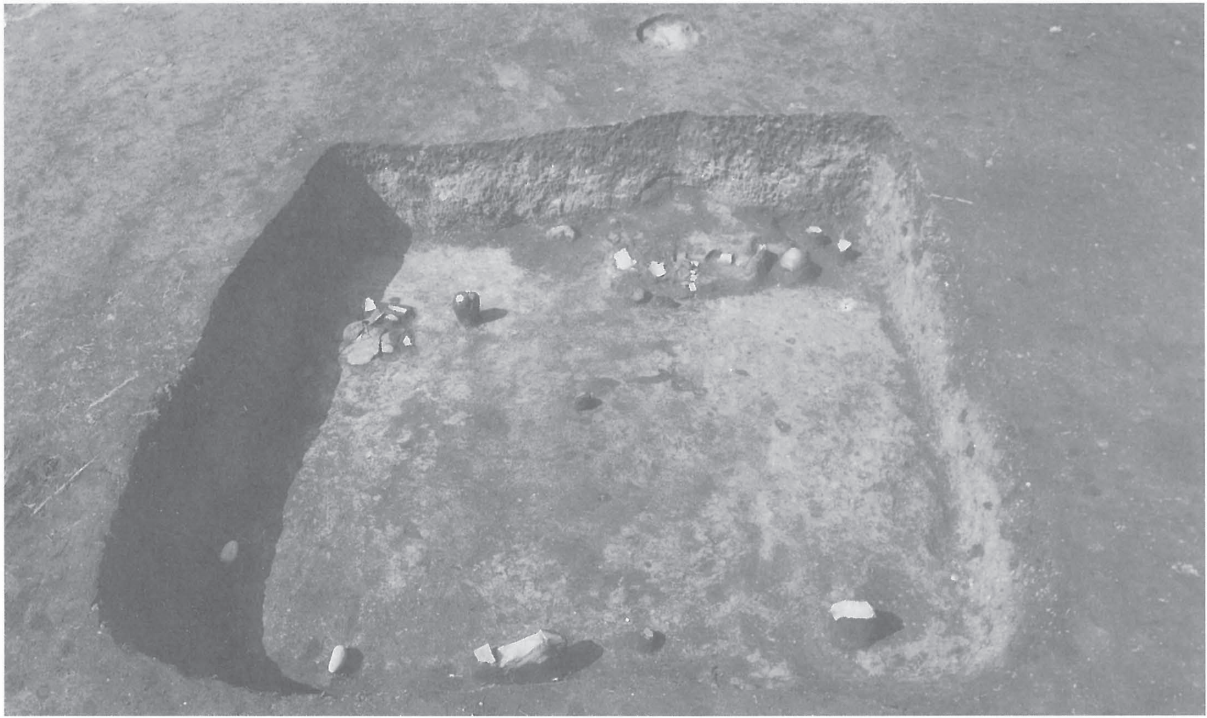


カマド煙道完掘 (SE→)

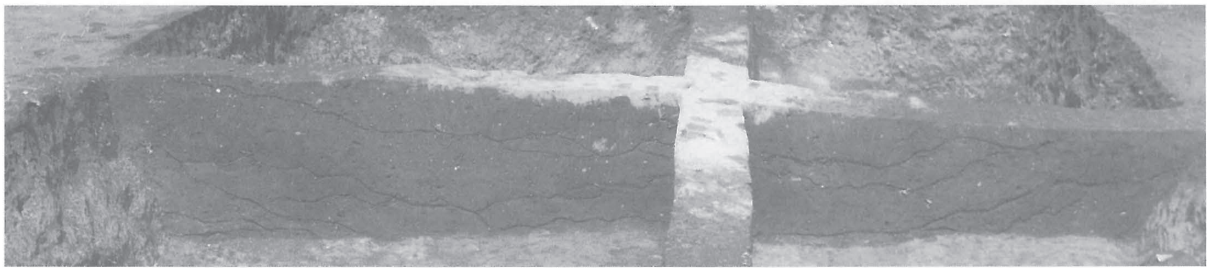


煙道土層 (N→)

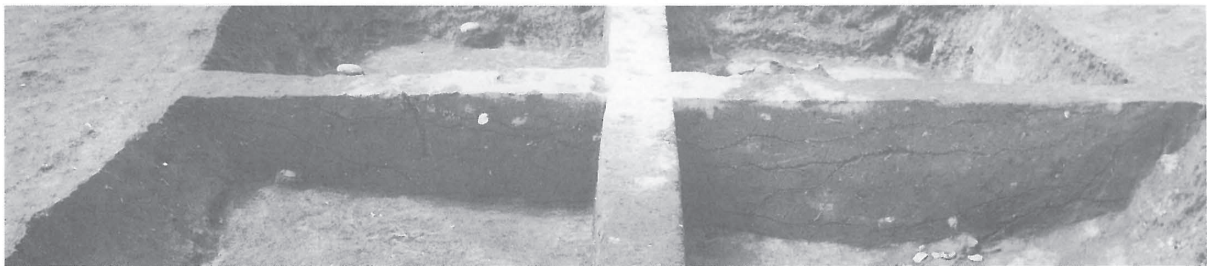
写真7 第7号竪穴住居跡



床面検出 (S→)



土層 (S→)



土層 (E→)

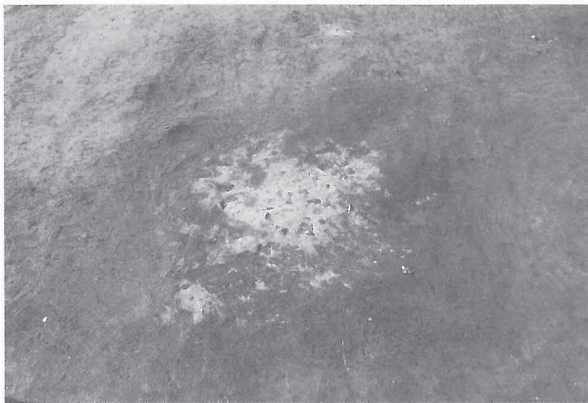


煙道土層 (E→)



煙出し遺物出土状況 (E→)

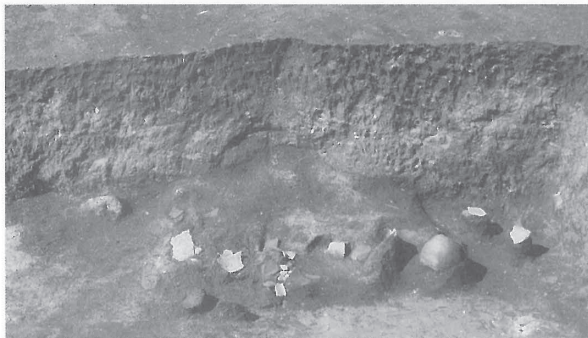
写真8 第8号竪穴住居跡(1)



第8号竖穴住居跡白頭山火山灰検出 (S→)



完掘 (S→)



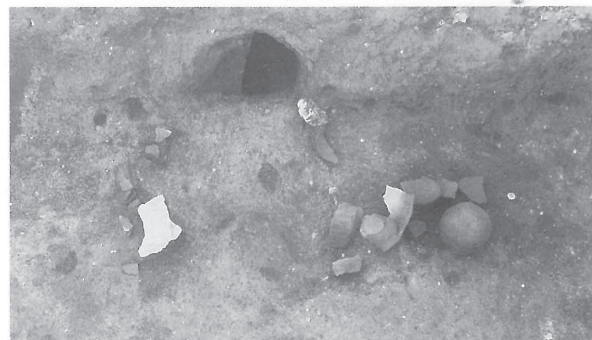
第8号竖穴住居跡カマド検出① (S→)



カマド土層 (SE→)



第8号竖穴住居跡カマド検出② (S→)



カマド遺物 (真上→)



第9号竖穴住居跡床面検出 (SE→)

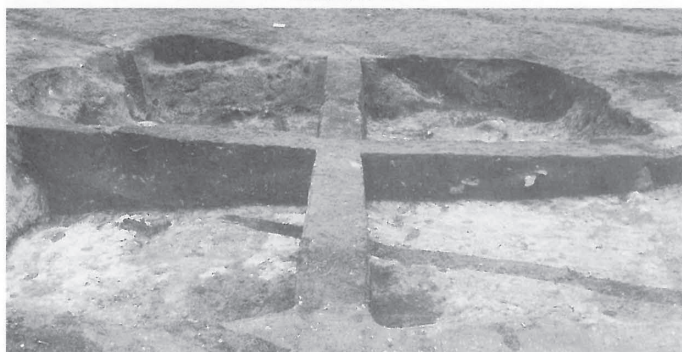
写真9 第8号(2)・第9号竖穴住居跡(1)



土層 (SE→)



第1号・2号土坑土層 (E→)



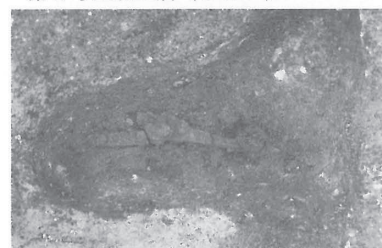
土層 (SW→)



第3号土坑土層 (SE→)



完掘 (SE→)



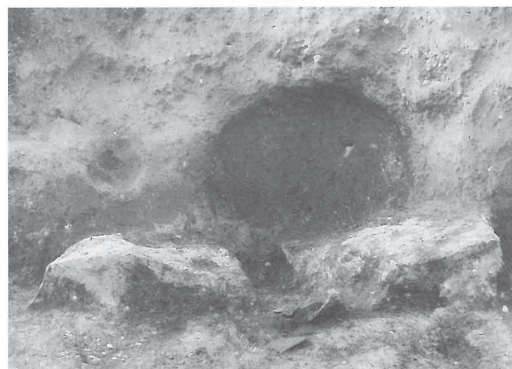
鉄製品出土状況 (W→)



煙出し遺物出土状況 (NW→)



煙道土層 (W→)



カマド土層 (SE→)

写真10 第9号豎穴住居跡 (2)



床面検出 (SE→)



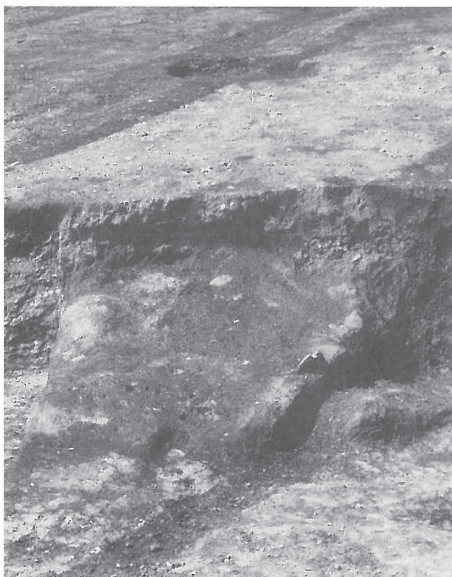
完掘 (SE→)



土層 (SW→)



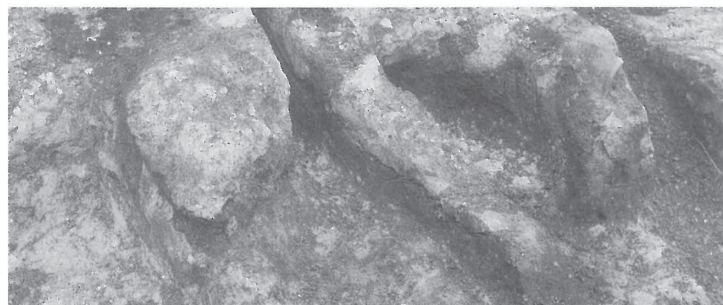
土層 (NW→)



カマド検出 (SE→)



カマド土層 (SE→)



カマド土層 (SW→)

写真11 第10号竪穴住居跡



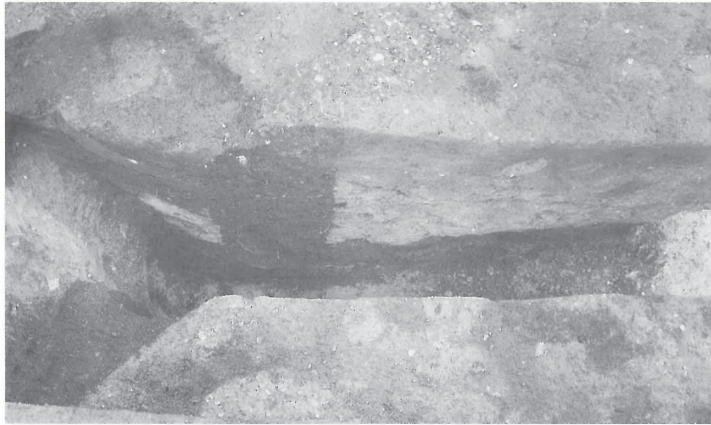
第12号竖穴住居跡 (SW→)



第12号竖穴住居跡床面検出 (SW→)



完掘 (SW→)



第12号竖穴住居跡煙道土層 (NW→)



カマド (SW→)



第13号竖穴住居跡土層 (W→)



第13号竖穴住居跡土層 (SE→)

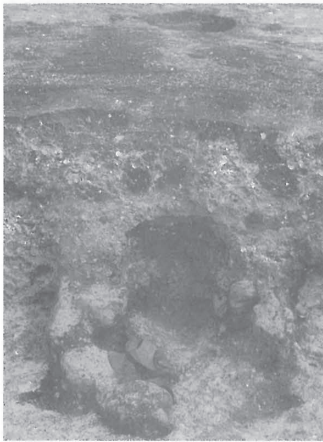
写真12 第12・第13号竖穴住居跡 (1)



完掘 (W→)



カマド 2 検出 (W→)



カマド 2 (W→)



カマド 2 煙道遺物出土状況 (W→)



カマド 2 煙道遺物出土状況 (S→)



カマド 2 煙道土層 (S→)



カマド 2 (W→)



カマド 1 完掘 (S→)



カマド 1 煙道土層 (SW→)

写真13 第13号竪穴住居跡 (2)



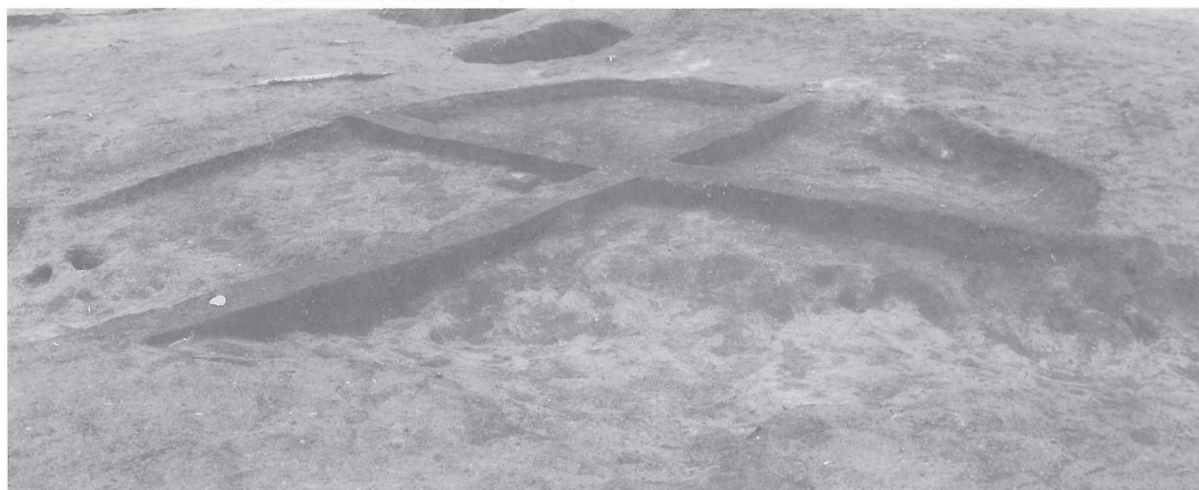
第14号竖穴住居跡床面検出 (NE→)



第14号竖穴住居跡完掘 (NE→)



煙道土層 (E→)



第15号竖穴住居跡土層 (E→)

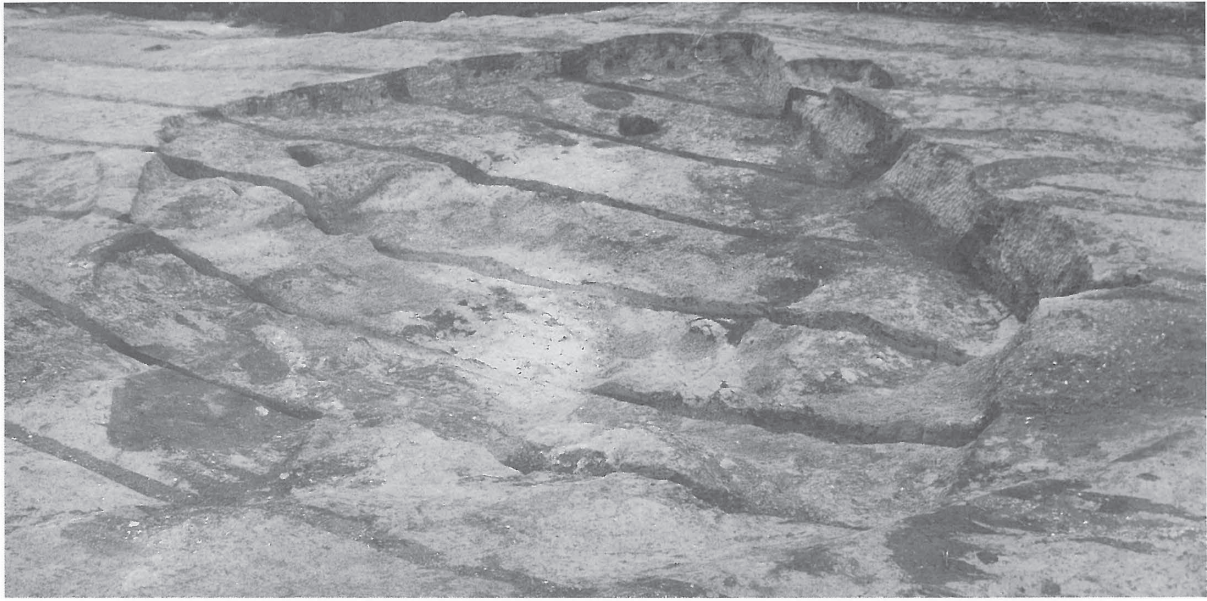


第15号竖穴住居跡完掘 (SE→)



煙道土層 (NE→)

写真14 第14・第15号竖穴住居跡



完掘 (NE→)



完掘 (SW→)

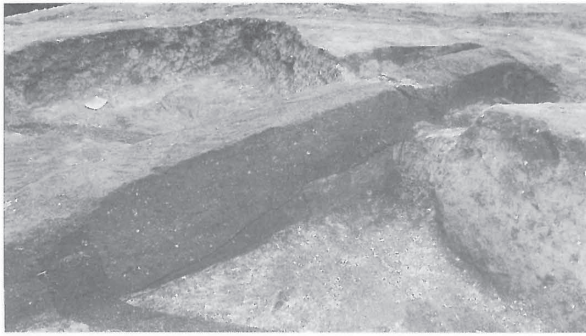


土層 (S→)



土層 (N→)

写真15 第16号竪穴住居跡 (1)



第16号竖穴住居跡出入口土層 (E→)



カマド検出 (SE→)



第16号竖穴住居跡煙道土層 (NE→)



焼土断ち割り (NE→)



方形周溝完掘 (E→)



方形周溝完掘 (SW→)

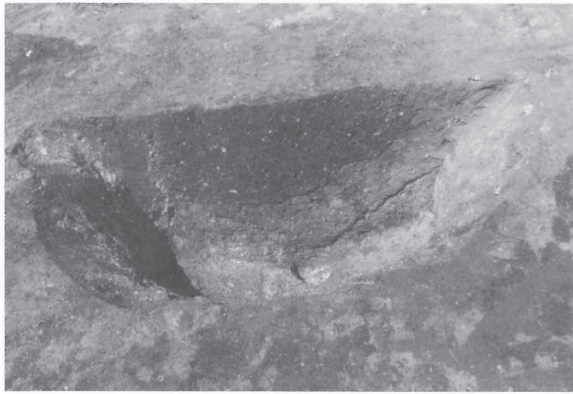


土層 (D-D') (S→)

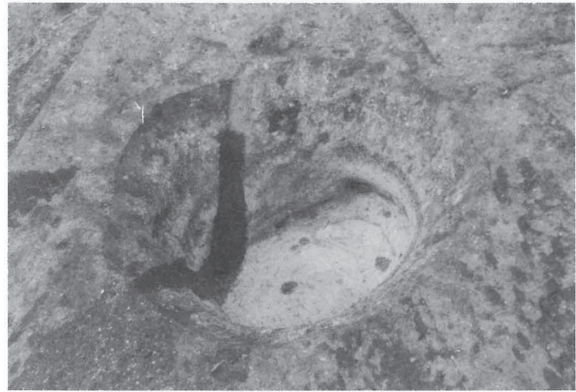


土層 (A-A') (SE→)

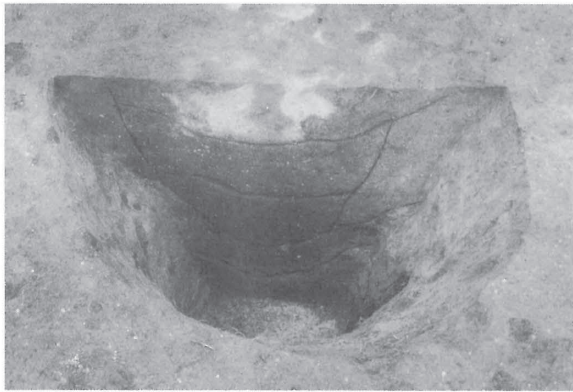
写真16 第16号竖穴住居跡 (2)、方形周溝



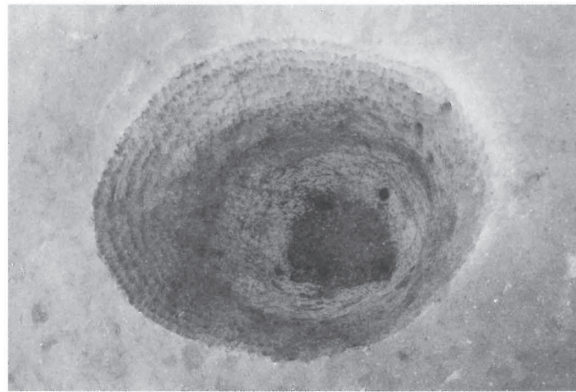
第3号土坑土层 (S E→)



第3号土坑完掘 (E→)



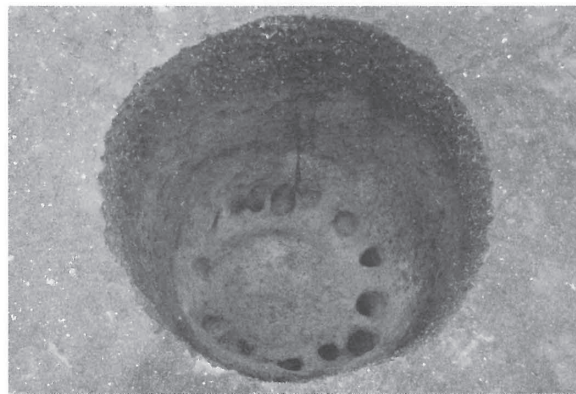
第13号土坑土层 (E→)



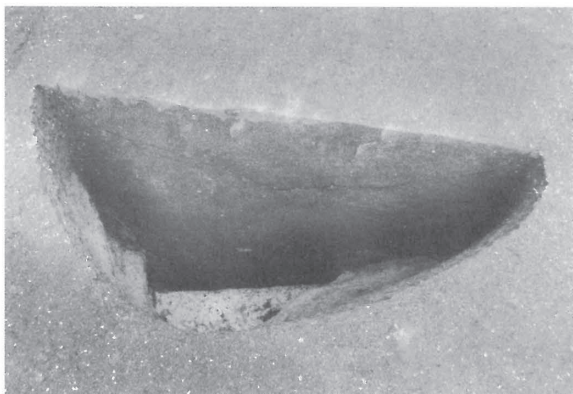
第13号土坑完掘 (S W→)



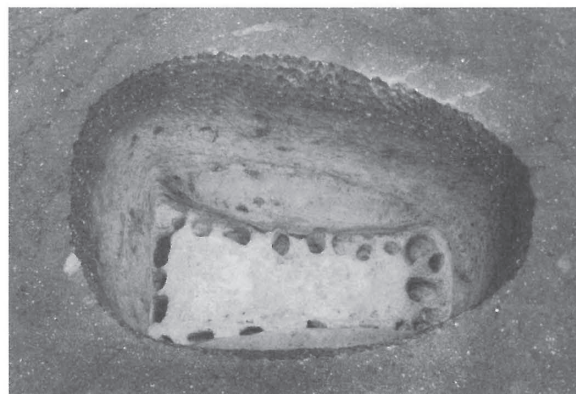
第19号土坑土层 (S→)



第19号土坑完掘 (E→)

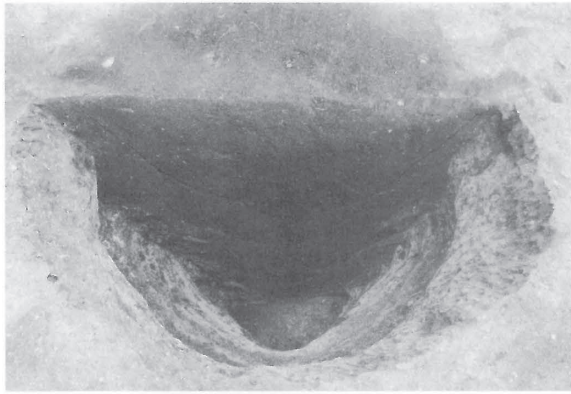


第21号土坑土层 (W→)

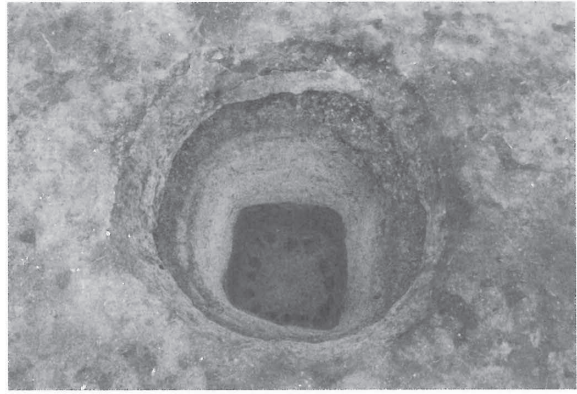


第21号土坑完掘 (S→)

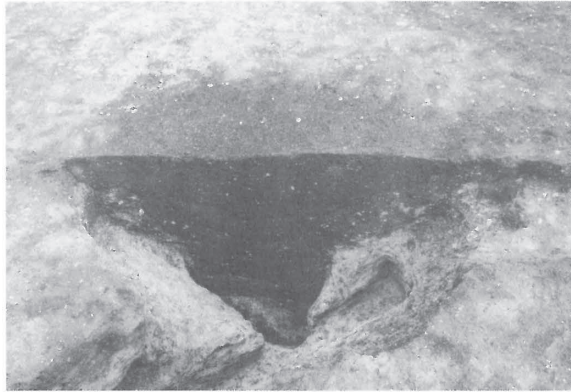
写真17 土坑 (1)



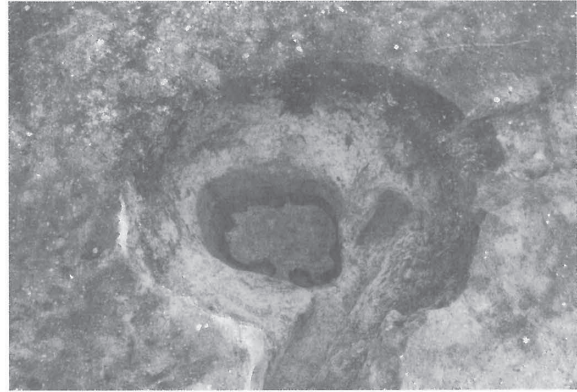
第28号土坑土层 (SW→)



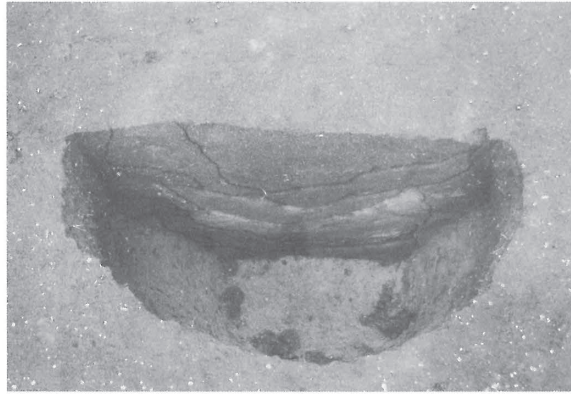
第28号土坑完掘 (S→)



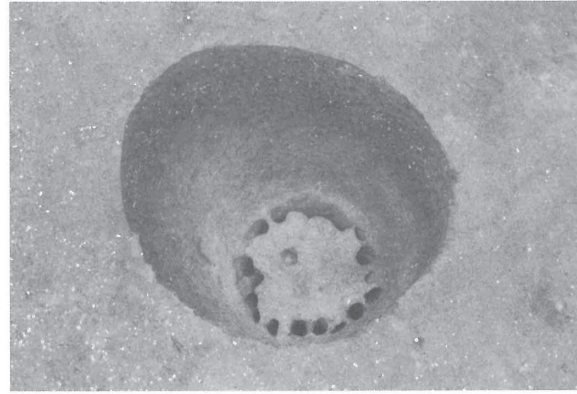
第36号土坑土层 (SE→)



第36号土坑完掘 (N→)



第39号土坑土层 (S→)



第39号土坑完掘 (SE→)



第49号土坑土层 (SE→)

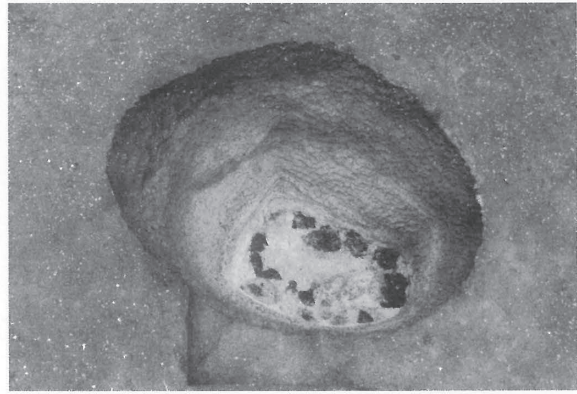


第49号土坑完掘 (SE→)

写真18 土坑 (2)



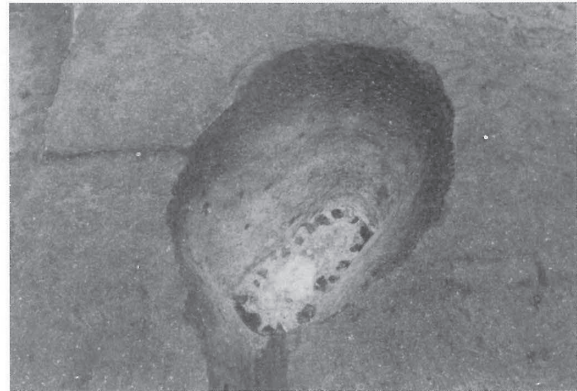
第37号土坑土層 (S→)



第37号土坑完掘 (S→)



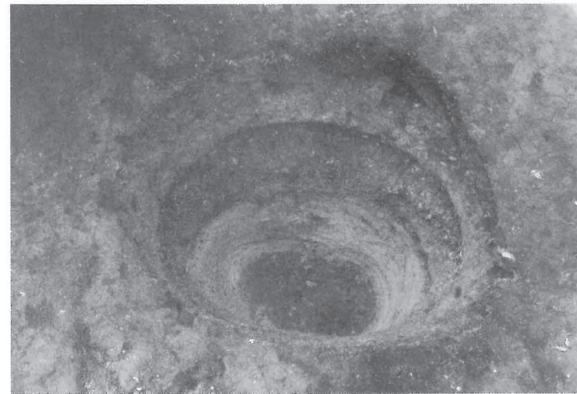
第38号土坑土層 (N→)



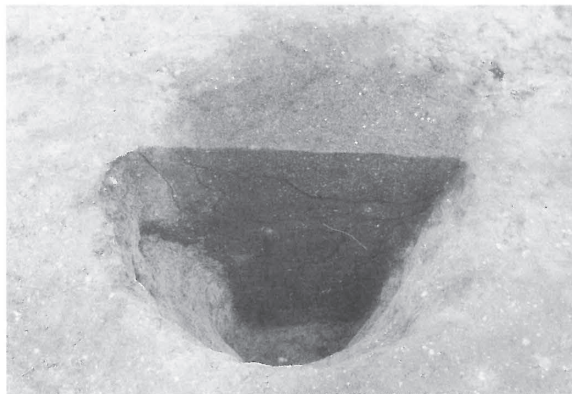
第38号土坑完掘 (N→)



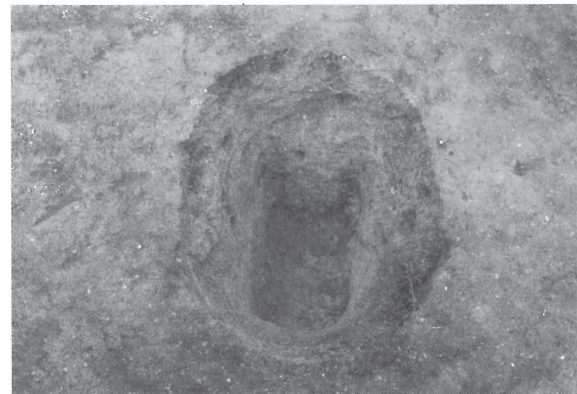
第41号土坑土層 (S→)



第41号土坑完掘 (E→)

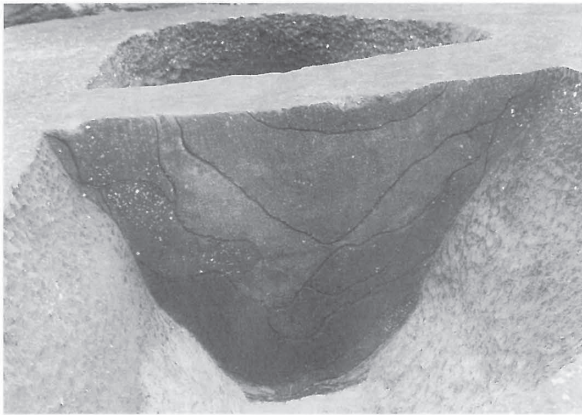


第42号土坑土層 (S→)



第42号土坑完掘 (S→)

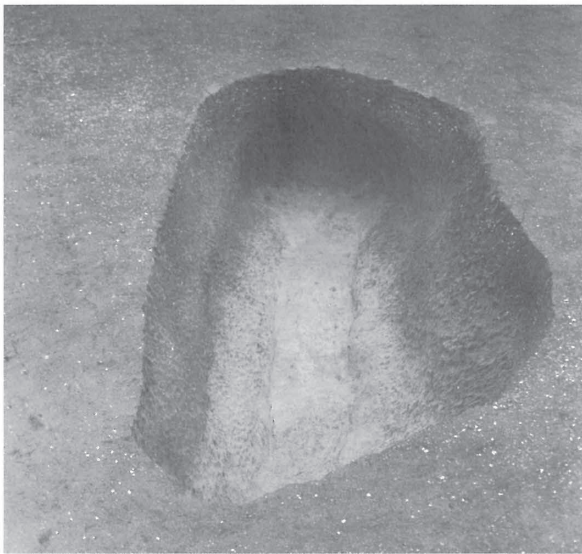
写真19 土坑 (3)



第33号沟状土坑 (SW→)



第48号沟状土坑 (E→)



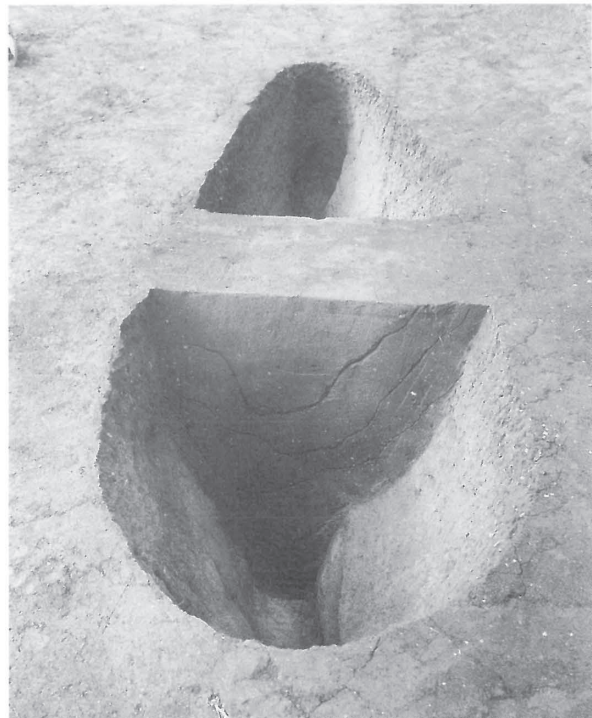
第33号沟状土坑 (SW→)



第48号沟状土坑 (NE→)



第33号沟状土坑 (NE→)



第47号沟状土坑 (NE→)

写真20 沟状土坑 (1)



第1号溝状土坑 (SE→)



第54号溝状土坑 (S→)



第27号・52号溝状土坑 (SW→)



第5号溝状土坑 (S→)



第45号溝状土坑 (SW→)



第14号溝状土坑 (NE→)



写真21 溝状土坑 (2)



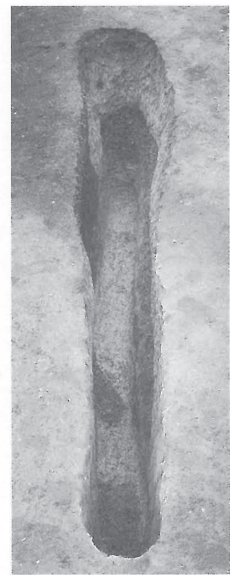
第18号沟状土坑 (SW→)



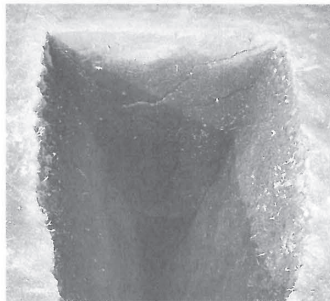
第10号沟状土坑 (SW→)



第44号沟状土坑 (N→)



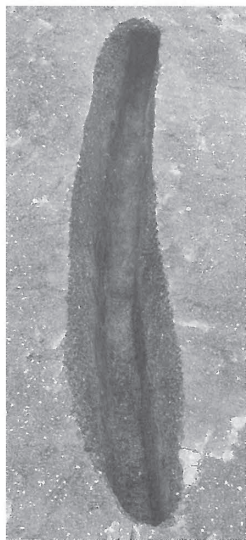
第28号沟状土坑 (SW→)



第41号沟状土坑 (SW→)



第11号沟状土坑 (NE→)



第24号沟状土坑 (SW→)



第35号沟状土坑 (S→)



第50号沟状土坑 (SW→)



第17号沟状土坑 (NE→)

写真22 沟状土坑 (3)

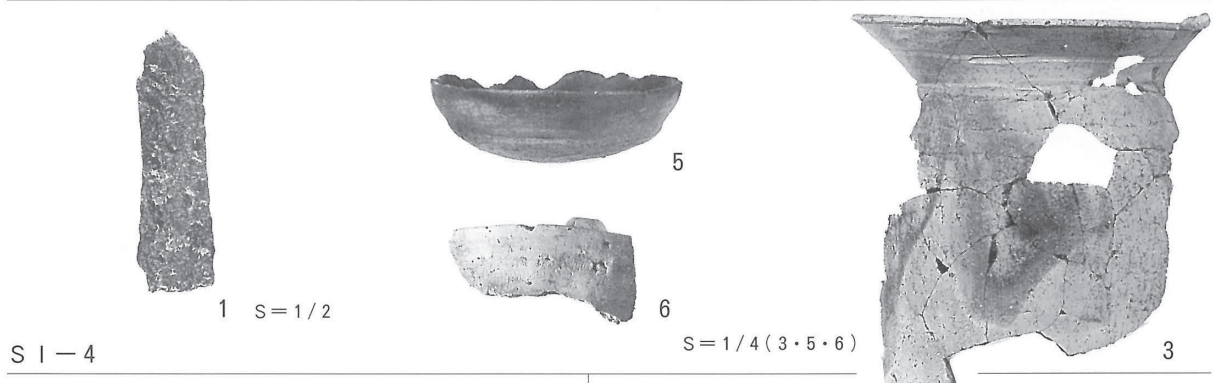
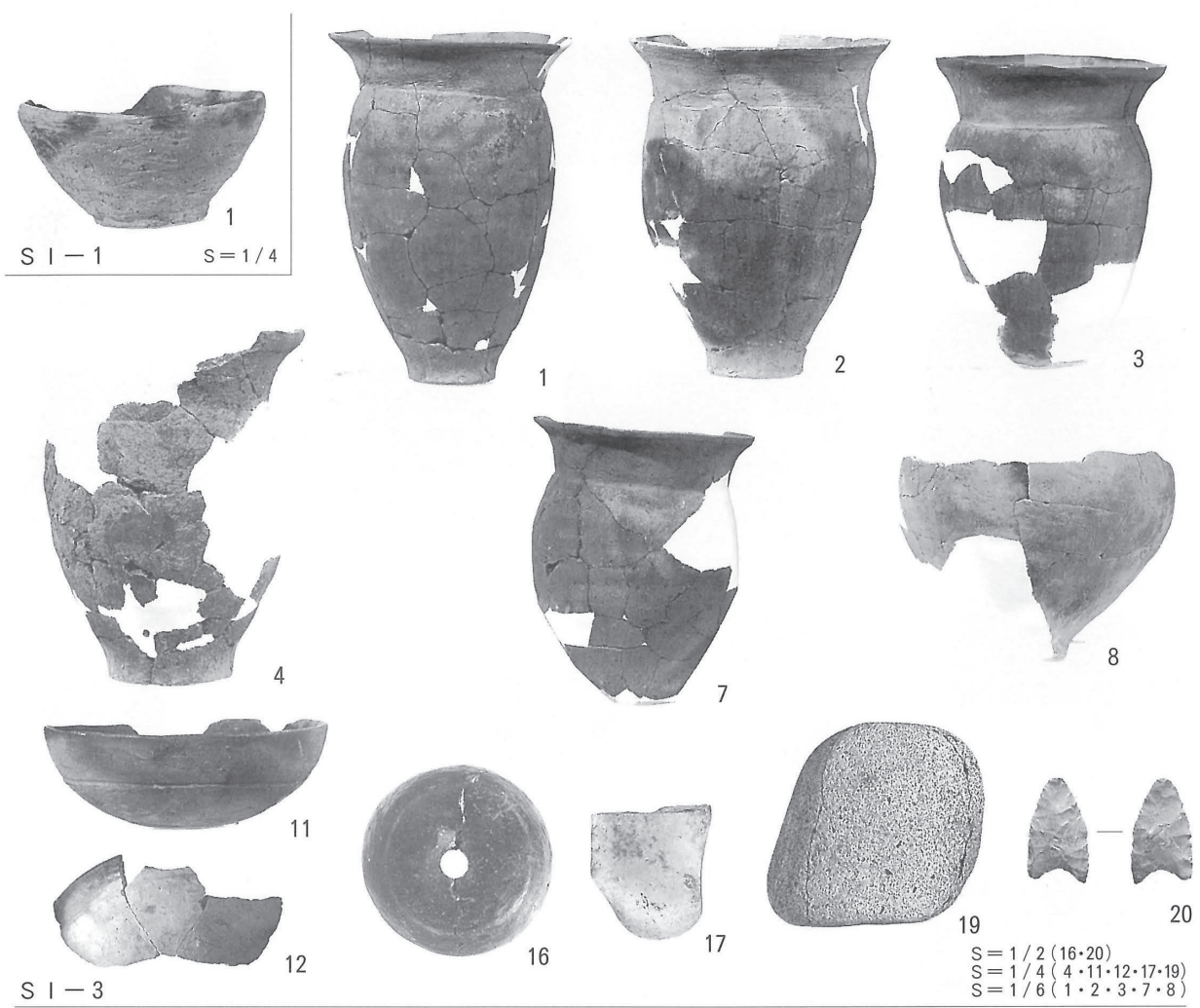


写真23 竪穴住居跡出土遺物 (1)

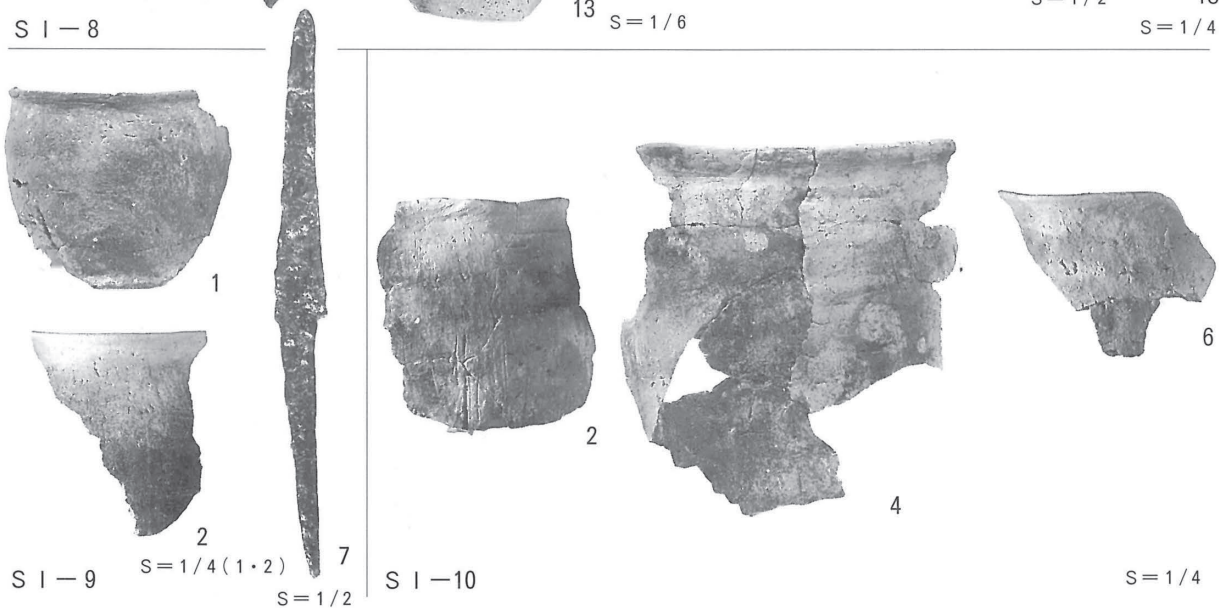
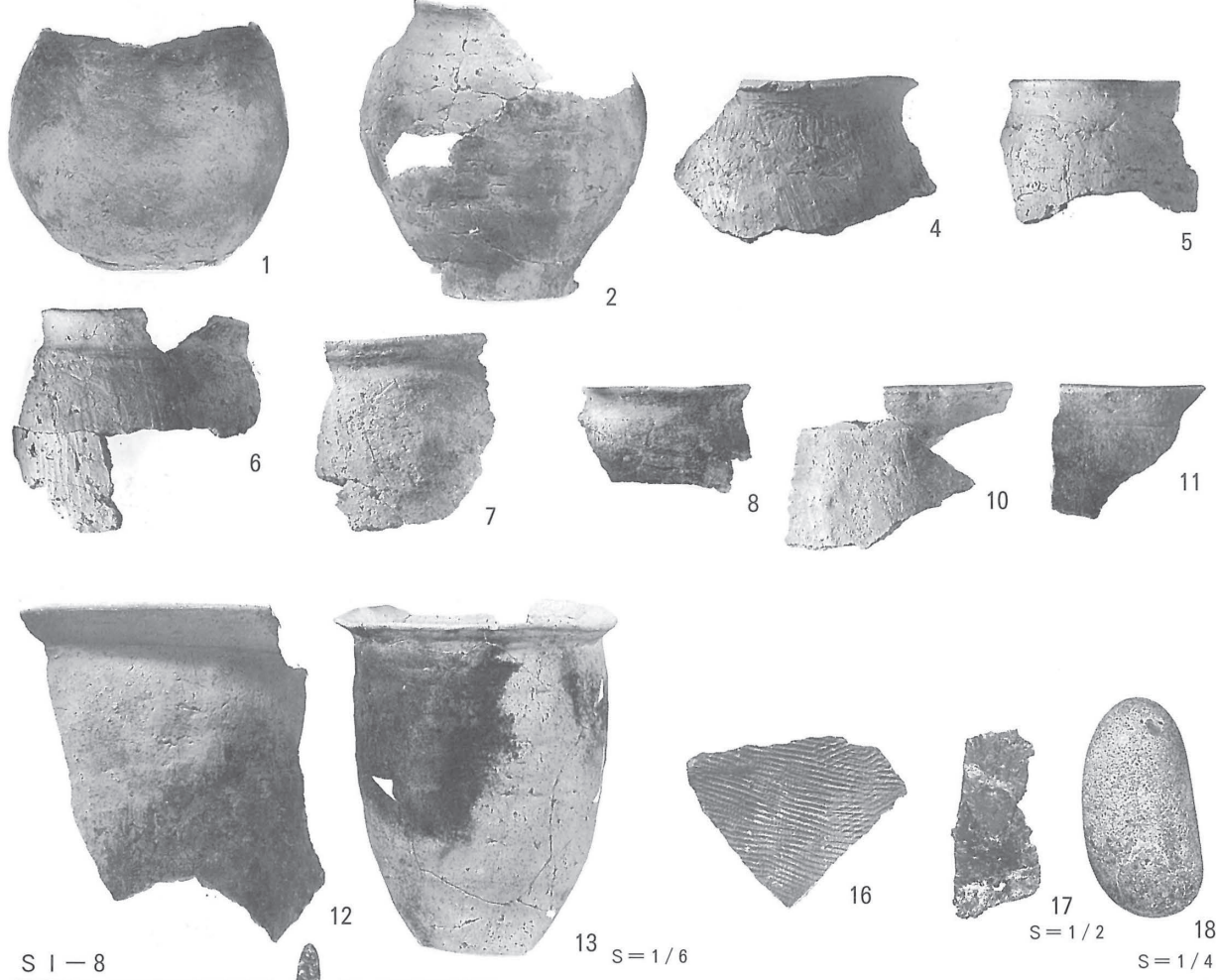
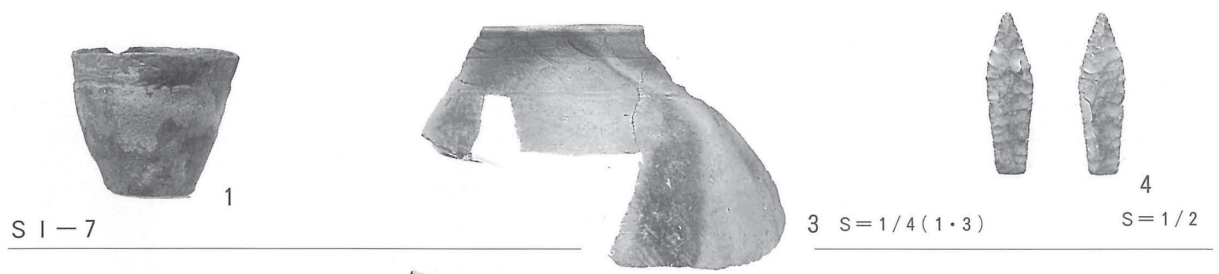


写真24 竪穴住居跡出土遺物(2)

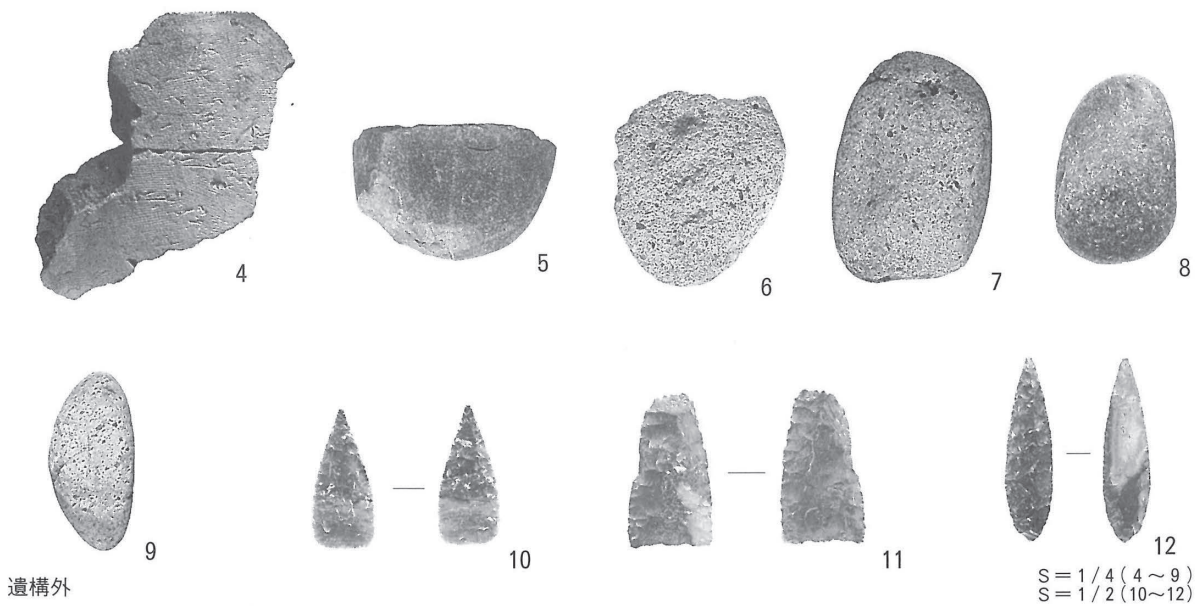
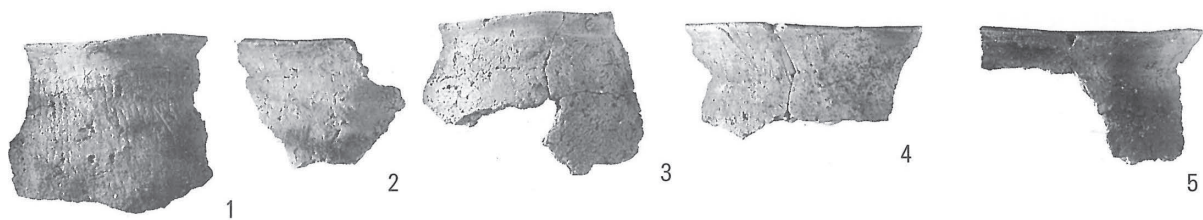


写真25 豎穴住居跡(3)・土坑・遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	いわのさわたいいせきに							
書名	岩ノ沢平遺跡Ⅱ							
副書名	東北縦貫自動車道八戸線（八戸～八戸）建設事業に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第301集							
編著者名	野村信生・杉野森淳子							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15 TEL017(788)5701 FAX017(788)5702							
発行年月日	2001年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
いわのさわたい 岩ノ沢平 いせき 遺跡	あおもりけんはちのへしおお 青森県八戸市大 あざくしびあさひのさわたい 字櫛引字岩沢平、 みたらせ せんいち ミタラセ、仙日 たい ほか 平、外	203	03053	40° 29′ 36″	141° 24′ 50″	19990803 ～ 19991029	8,800	東北縦貫 自動車道 八戸線 (八戸～ 八戸)建 設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
岩ノ沢平 遺跡	狩猟場 集落跡	縄文 奈良 平安 奈良平安 時期不明	土坑 30基 溝状土坑 54基 焼土遺構 1基 堅穴住居跡 7基 土坑 5基 溝跡 4条 堅穴住居跡 8基 土坑 1基 土坑 6基 溝跡 5基 方形周溝 1基 土坑 8基 溝跡 3条	縄文土器 石器 土師器 須恵器 鉄製品 土製品	縄文時代早期～後期 にわたる狩猟場。 奈良時代の小集落。 平安時代の大規模集 落跡の北限にあたる。			

青森県埋蔵文化財調査報告書 第301集

岩ノ沢平遺跡Ⅱ

—東北縦貫自動車道八戸線（八戸～八戸）建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 2001年3月30日

発行 青森県教育委員会

編集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15

TEL017-788-5701 FAX017-788-5702

印刷所 不二印刷工業株式会社

〒030-0902 青森市合浦1丁目10番16号

TEL017-741-5439 FAX017-741-2541



活彩あおり
—輝くあおり新時代—